

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7123363号
(P7123363)

(45)発行日 令和4年8月23日(2022.8.23)

(24)登録日 令和4年8月15日(2022.8.15)

(51)国際特許分類 F I
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全191頁)

(21)出願番号	特願2017-227567(P2017-227567)	(73)特許権者	599104196 株式会社サンセイアールアンドディ
(22)出願日	平成29年11月28日(2017.11.28)		愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番
(65)公開番号	特開2019-93062(P2019-93062A)		13号
(43)公開日	令和1年6月20日(2019.6.20)	(74)代理人	100160691 弁理士 田邊 淳也
審査請求日	令和2年11月26日(2020.11.26)	(72)発明者	土屋 良孝 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番
前置審査			13号 株式会社サンセイアールアンド ディ内
		(72)発明者	川添 智久 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番
			13号 株式会社サンセイアールアンド ディ内
		(72)発明者	中山 覚
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、
 前記複数種類の表示のうちの一つは、第1の態様で表示される場合があり、
 前記複数種類の表示のうちの一つは、第2の態様で表示される場合があり、
 前記第1の態様の表示は、第1のパネルであり、
 前記第1のパネルは、第1の指標を表す表示と第2の指標を表す表示とがパネル内で対
 応付けられており、
 前記第2の態様の表示は、第2のパネルであり、
 前記第2のパネルは、第1の指標を表す表示と第2の指標を表す表示とがパネル内で対
 応付けられており、
 前記第1の指標はキャラクタであり、
 前記第1の指標は、第1の形式で大当たり期待度を表す指標であり、
 前記第2の指標は、前記第1の形式とは異なる第2の形式で大当たり期待度を表す指標
 であり、
 前記第1のパネルの前記第1の指標は、前記第2のパネルの前記第1の指標とは大当た
 り期待度が異なるように表され、かつ、前記第1のパネルの前記第2の指標は、前記第2
 のパネルの前記第2の指標とは大当たり期待度が異なるように表され、
 前記第1のパネルの前記第1の指標は、前記第2のパネルの前記第1の指標よりも大当
 たり期待度が高く表され、

前記第 1 のパネルの前記第 2 の指標は、前記第 2 のパネルの前記第 2 の指標よりも大当たり期待度が低く表され、

前記第 1 のパネルの表示と前記第 2 のパネルの表示とを含む所定の演出が行われる場合があり、

前記所定の演出は、前記第 1 のパネルの紹介がおこなわれ、その後、前記第 2 のパネルの紹介がおこなわれ、その後、前記第 1 のパネルの表示と、前記第 2 のパネルの表示とを含む複数のパネルの表示から一つのパネルの表示を選択する選択演出がおこなわれ、

前記選択演出を行う場合には、前記第 1 のパネルが選択対象として表示されるときには当該第 1 のパネルの表示以外の前記複数のパネルは表示されず、前記第 2 のパネルが選択対象として表示されるときには当該第 2 のパネル以外の前記複数のパネルは表示されず、

前記所定の演出において、前記第 1 のパネルが紹介されるときには、当該第 1 のパネル以外の前記複数のパネルが表示されず、

前記所定の演出において、前記第 2 のパネルが紹介されるときには、当該第 2 のパネル以外の前記複数のパネルが表示されない、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機などの遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、始動口への遊技球の入賞を契機に表示装置を用いて、キャラクタ画像や図柄などを用いた表示演出を実行可能な遊技機が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

このような遊技機では、表示演出を用いてわくわく感を与えることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特開 2016-29956 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記の遊技機によっても、遊技の興趣を向上させるための技術については、なお改善の余地があった。

【0006】

本発明は、上述した課題を解決するためになされたものであり、遊技の興趣の向上を図ることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、上述の課題の少なくとも一部を解決するためになされたものであり、以下の適用例として実現することが可能である。なお、本欄における括弧内の参照符号や補足説明等は、本発明の理解を助けるために、後述する実施形態との対応関係を示したものであって、本発明を何ら限定するものではない。

【0008】

[適用例 1]

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、

前記複数種類の表示のうちの一つは、第 1 の態様で表示される場合があり、

前記複数種類の表示のうちの一つは、第 2 の態様で表示される場合があり、

前記第 1 の態様の表示は、第 1 のパネルであり、

前記第 1 のパネルは、第 1 の指標を表す表示と第 2 の指標を表す表示とがパネル内で対

10

20

30

40

50

応付けられており、

前記第２の態様の表示は、第２のパネルであり、

前記第２のパネルは、第１の指標を表す表示と第２の指標を表す表示とがパネル内で対応付けられており、

前記第１の指標はキャラクタであり、

前記第１の指標は、第１の形式で大当たり期待度を表す指標であり、

前記第２の指標は、前記第１の形式とは異なる第２の形式で大当たり期待度を表す指標であり、

前記第１のパネルの前記第１の指標は、前記第２のパネルの前記第１の指標とは大当たり期待度が異なるように表され、かつ、前記第１のパネルの前記第２の指標は、前記第２のパネルの前記第２の指標とは大当たり期待度が異なるように表され、

10

前記第１のパネルの前記第１の指標は、前記第２のパネルの前記第１の指標よりも大当たり期待度が高く表され、

前記第１のパネルの前記第２の指標は、前記第２のパネルの前記第２の指標よりも大当たり期待度が低く表され、

前記第１のパネルの表示と前記第２のパネルの表示とを含む所定の演出が行われる場合があり、

前記所定の演出は、前記第１のパネルの紹介がおこなわれ、その後、前記第２のパネルの紹介がおこなわれ、その後、前記第１のパネルの表示と、前記第２のパネルの表示とを含む複数のパネルの表示から一つのパネルの表示を選択する選択演出がおこなわれ、

20

前記選択演出を行う場合には、前記第１のパネルが選択対象として表示されるときには当該第１のパネルの表示以外の前記複数のパネルは表示されず、前記第２のパネルが選択対象として表示されるときには当該第２のパネル以外の前記複数のパネルは表示されず、

前記所定の演出において、前記第１のパネルが紹介されるときには、当該第１のパネル以外の前記複数のパネルが表示されず、

前記所定の演出において、前記第２のパネルが紹介されるときには、当該第２のパネル以外の前記複数のパネルが表示されない、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の効果】

【００１３】

30

本発明によれば、遊技の興趣を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】遊技機の正面図である。

【図２】表示器類の拡大図である。

【図３】遊技機の主制御基板側の電氣的な構成を示すブロック図である。

【図４】遊技機のサブ制御基板側の電氣的な構成を示すブロック図である。

【図５】メインＲＯＭおよびメインＲＡＭを説明するための図である。

【図６】サブＲＯＭおよびサブＲＡＭを説明するための図である。

【図７】遊技機において使用される各種の乱数を説明するための図である。

40

【図８】判定テーブルＴ１～Ｔ４を説明するための図である。

【図９】大当たり種別判定テーブルＴ５の説明図である。

【図１０】非時短状態時の変動パターン判定テーブルＴ６の説明図である。

【図１１】時短状態時の変動パターン判定テーブルＴ６の説明図である。

【図１２】電チュー開放パターン判定テーブルＴ７の説明図である。

【図１３】大入賞口開放パターン判定テーブルＴ８の説明図である。

【図１４】Ｖ開閉部材開放パターン判定テーブルＴ９の説明図である。

【図１５】主制御メイン処理のフローチャートである。

【図１６】メイン側タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図１７】始動口センサ検出処理のフローチャートである。

50

- 【図 18】 特図 2 事前判定処理のフローチャートである。
- 【図 19】 特図 1 事前判定処理のフローチャートである。
- 【図 20】 普通動作処理のフローチャートである。
- 【図 21】 特別動作処理のフローチャートである。
- 【図 22】 特別図柄待機処理のフローチャートである。
- 【図 23】 大当たり判定処理のフローチャートである。
- 【図 24】 変動パターン選択処理の第 1 のフローチャートである。
- 【図 25】 変動パターン選択処理の第 2 のフローチャートである。
- 【図 26】 特別図柄変動中処理のフローチャートである。
- 【図 27】 特別図柄確定処理のフローチャートである。 10
- 【図 28】 遊技状態管理処理のフローチャートである。
- 【図 29】 遊技状態リセット処理のフローチャートである。
- 【図 30】 特別電動役物処理のフローチャートである。
- 【図 31】 V 開閉部材動作処理のフローチャートである。
- 【図 32】 遊技状態設定処理のフローチャートである。
- 【図 33】 V 領域センサ検出処理のフローチャートである。
- 【図 34】 保留球数処理のフローチャートである。
- 【図 35】 サブ制御メイン処理を示すフローチャートである。
- 【図 36】 サブ側タイマ割り込み処理のフローチャートである。
- 【図 37】 受信コマンド解析処理のフローチャートである。 20
- 【図 38】 先読み演出決定処理のフローチャートである。
- 【図 39】 事前判定情報記憶領域の構成を説明するための図である。
- 【図 40】 先読み演出パターン決定テーブル T 5 1 の説明図である。
- 【図 41】 変動演出開始処理のフローチャートである。
- 【図 42】 基幹演出パターン決定テーブル T 5 2 の説明図である。
- 【図 43】 チャンスアップ演出パターン決定テーブル T 5 3 の説明図である。
- 【図 44】 変動演出中処理のフローチャートである。
- 【図 45】 表示制御処理のフローチャートである。
- 【図 46】 可動役物（盤可動体 1 5）による動作について説明するための図である。
- 【図 47】 タイマフリーズ演出 A を説明するための図である。 30
- 【図 48】 タイマフリーズ演出 B を説明するための図である。
- 【図 49】 タイマフリーズ演出 C を説明するための図である。
- 【図 50】 チャンスアップメータ演出 A を説明するための図である。
- 【図 51】 チャンスアップメータ演出 B を説明するための図である。
- 【図 52】 チャンスアップメータ演出 C を説明するための図である。
- 【図 53】 保留タイマ演出 A を説明するための図である。
- 【図 54】 保留タイマ演出 B を説明するための図である。
- 【図 55】 保留タイマ演出 C を説明するための図である。
- 【図 56】 タイマ出玉獲得演出 A を説明するための図である。
- 【図 57】 タイマ出玉獲得演出 B を説明するための図である。 40
- 【図 58】 タイマ出玉獲得演出 C を説明するための図である。
- 【図 59】 ハズレ演出と大当たり演出とを説明するための図である。
- 【図 60】 復活演出 A を説明するための図である。
- 【図 61】 復活演出 B を説明するための図である。
- 【図 62】 リザルト演出 A を説明するための図である。
- 【図 63】 リザルト演出 B を説明するための図である。
- 【図 64】 リザルト演出 C を説明するための図である。
- 【図 65】 複数指標演出 A を説明するための図である。
- 【図 66】 複数指標演出 B を説明するための図である。
- 【図 67】 保留トリガ演出 A を説明するための図である。 50

- 【図 6 8】 保留トリガ演出 B を説明するための図である。
 【図 6 9】 保留トリガ演出 C を説明するための図である。
 【図 7 0】 重畳成功演出 A を説明するための図である。
 【図 7 1】 重畳成功演出 B を説明するための図である。
 【図 7 2】 重畳成功演出 C を説明するための図である。
 【図 7 3】 重畳失敗演出を説明するための図である。
 【図 7 4】 大当たり図柄表示演出 A を説明するための図である。
 【図 7 5】 大当たり図柄表示演出 B を説明するための図である。
 【図 7 6】 大当たり図柄表示演出 C を説明するための図である。
 【図 7 7】 大当たり図柄表示演出 D を説明するための図である。
 【図 7 8】 役物図柄表示演出を説明するための図である。
 【図 7 9】 役物図柄表示演出を説明するための図である。
 【図 8 0】 ボタン画像内メータ演出 A を説明するための図である。
 【図 8 1】 ボタン画像内メータ演出 B を説明するための図である。
 【図 8 2】 ボタン画像内表示演出 A を説明するための図である。
 【図 8 3】 ボタン画像内表示演出 B を説明するための図である。
 【図 8 4】 複数変動演出 A を説明するための図である。
 【図 8 5】 複数変動演出 B を説明するための図である。
 【図 8 6】 複数変動演出 C を説明するための図である。
 【図 8 7】 操作チャージ演出 A（成功）を説明するための図である。
 【図 8 8】 操作チャージ演出 A（失敗）を説明するための図である。
 【図 8 9】 操作チャージ演出 B を説明するための図である。
 【図 9 0】 擬似連ポイント演出 A を説明するための図である。
 【図 9 1】 擬似連ポイント演出 B を説明するための図である。
 【図 9 2】 獲得球数表示演出を説明するための図である。
 【図 9 3】 払出表示演出 A を説明するための図である。
 【図 9 4】 払出表示演出 B を説明するための図である。
 【図 9 5】 入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A を説明するための図である。
 【図 9 6】 入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 B を説明するための図である。
 【図 9 7】 入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 C を説明するための図である。
 【図 9 8】 タイマ画像移動演出 A を説明するための図である。
 【図 9 9】 タイマ画像移動演出 B を説明するための図である。
 【図 1 0 0】 タイマ画像移動演出 C を説明するための図である。
 【図 1 0 1】 タイマ画像傾斜表示演出 A を説明するための図である。
 【図 1 0 2】 タイマ画像傾斜表示演出 B を説明するための図である。
 【図 1 0 3】 タイマ画像傾斜表示演出 C を説明するための図である。
 【図 1 0 4】 タイマボタン演出 A を説明するための図である。
 【図 1 0 5】 タイマボタン演出 B を説明するための図である。
 【図 1 0 6】 タイマ擬似連演出 A を説明するための図である。
 【図 1 0 7】 タイマ擬似連演出 B を説明するための図である。
 【図 1 0 8】 保留チェンジ演出 A を説明するための図である。
 【図 1 0 9】 保留チェンジ演出 B を説明するための図である。
 【図 1 1 0】 保留チェンジ演出 C を説明するための図である。
 【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 5 】

< 第 1 実施形態 >

1. 遊技機の構造

図 1 は、本発明の一実施形態としての遊技機 1 の正面図である。以下では、遊技機 1 の左右方向を、遊技機 1 に対面する遊技者から見た左右方向に一致させて説明する。また、遊技機 1 の前方向は、遊技機 1 から遊技者に向かう方向として説明し、遊技機 1 の後方向

10

20

30

40

50

は、遊技者から遊技機 1 に向かう方向として説明する。

【0016】

遊技機 1 は、遊技者の発射操作に基づいて遊技球を発射させ、特定の入賞装置に遊技球が入賞すると、その入賞に基づいて所定数の遊技球を遊技者に払い出すパチンコ遊技機である。遊技機 1 は、遊技機枠 50 と、遊技盤 2 とを備え、遊技機枠 50 の内側に遊技盤 2 が取り付けられている。遊技機枠 50 は、前枠（前枠部）53 のほか、遊技機の外郭部を形成する外枠（基枠部）と、外枠の内側において遊技盤 2 が取り付けられる内枠と、を備えている。前枠（前枠部）53 は、外枠および内枠の前方側に配置される縦長形状のユニットであり、ハンドル 60 と、打球供給皿（上皿）61 と、余剰球受皿（下皿）62 と、演出ボタン 63 と、剣部材 64 と、剣ボタン 65 と、枠ランプ 66 と、スピーカ 67 と、枠可動体 600 とを備えている。前枠 53 の中央には開口部が形成されており、開口部を介して、遊技盤 2 の遊技領域 3 を視認することができる。

10

【0017】

ハンドル 60 は、前枠 53 の右側の下端に配置され、回転角度に応じた発射強度で遊技球を発射させる。打球供給皿（上皿）61 は、前枠 53 の下方に設けられ、遊技球を貯留する。余剰球受皿（下皿）62 は、打球供給皿（上皿）61 の下方に配置され、打球供給皿 61 に収容しきれない遊技球を貯留する。演出ボタン 63 は、打球供給皿（上皿）61 の近傍に配置された操作部であり、遊技の進行に伴って実行される演出時などに遊技者によって操作（押圧）される。剣部材 64 は、剣の形を模した操作部であり、遊技の進行に伴って実行される演出時等に遊技者が下方に押し込むことができる。剣ボタン 65 は、剣部材 64 の上端部分、すなわち、剣の柄の端部に設けられた操作部であり、遊技の進行に伴って実行される演出時などに遊技者によって操作（押圧）される。剣部材 64 は、剣部材 64 全体を下方に押し込む第 1 の操作と、先端の剣ボタン 65 を押圧する第 2 の操作の異なる 2 つの操作を実行可能に構成されている。枠ランプ 66 は、前枠 53 の開口部周辺に配置され、遊技中などに発光演出をおこなう。スピーカ 67 は、前枠 53 の左上方と右上方に配置され、遊技中などに音演出をおこなう。枠可動体 600 は、前枠 53 の上部に設けられた可動式のいわゆるギミックである。枠可動体 600 は、前枠 53 の内部に格納されている格納状態から、前枠 53 の上方に突出する露出状態に変位可能に構成されている。

20

【0018】

遊技盤 2 は、遊技領域 3 と、レール部材 4 と、盤ランプ 5 と、画像表示装置 7 と、センター装飾体 10 と、固定入賞装置（ヘソ）19 と、普通可変入賞装置（電チュー）22 と、ゲート（スルーチャッカー）28 と、第 1 大入賞装置（第 1 アタッカー）31 と、第 2 大入賞装置（第 2 アタッカー）36 と、普通入賞口 27 と、アウト口 16 と、表示器類 40 と、を備えている。

30

【0019】

遊技領域 3 は、ハンドル 60 の操作によって発射された遊技球が流下する領域であり、遊技球を誘導する複数の遊技釘が突設されている。レール部材 4 は、遊技領域 3 の左側端部に配置され、ハンドル 60 の操作によって発射された遊技球を遊技領域 3 の上方に向けて誘導する。盤ランプ 5 は、遊技領域 3 の背面側に配置され、遊技領域 3 の背面側から光を照射する。

40

【0020】

画像表示装置 7 は、遊技領域 3 の中央付近に設けられ、表示画面 7a を備えている。画像表示装置 7 は、液晶表示装置であってもよいし、有機 EL 表示装置、プラズマディスプレイ、プロジェクター、ドットマトリクスなどの他の画像表示装置であってもよい。画像表示装置 7 の表示画面 7a は、演出図柄（装飾図柄）8L、8C、8R が可変表示（変動表示ともいう）される演出図柄表示領域と、保留画像 9A、9B が表示される保留画像表示領域と、保留消化画像 9C が表示される保留消化画像表示領域と、を有している。保留画像 9A、9B は、保留を表す画像であり、第 1 保留アイコンとも呼ぶ。保留消化画像 9C は、当該保留を表す画像であり、第 2 保留アイコンとも呼ぶ。第 1 保留アイコンと第 2

50

保留アイコンとを総称して、単に保留アイコンとも呼ぶ。

【0021】

演出図柄表示領域は、「左」「中」「右」の3つの図柄表示エリアを含んでいる。左の図柄表示エリアには左演出図柄（左装飾図柄）8Lが表示される。中の図柄表示エリアには中演出図柄（中装飾図柄）8Cが表示される。右の図柄表示エリアには右演出図柄（右装飾図柄）8Rが表示される。演出図柄8L、8C、8Rは、例えば「1」～「9」までの数字を表した複数の図柄によって構成されている。演出図柄8L、8C、8Rの変動表示は、後述する第1特別図柄および第2特別図柄の変動表示と同期している。画像表示装置7は、左、中、右の図柄表示エリアに表示する演出図柄の組み合わせによって、後述の第1特別図柄表示器41aおよび第2特別図柄表示器41bによって表示される第1特別図柄および第2特別図柄の可変表示の結果（大当たり抽選結果）を、遊技者にわかりやすく表示することができる。

10

【0022】

例えば、大当たりに当選した場合には「777」などのゾロ目で演出図柄を停止表示する。はずれであった場合には「637」などのバラケ目で演出図柄を停止表示する。これにより、遊技者による遊技の進行状況の把握が容易となる。遊技者は、大当たり抽選結果を第1特別図柄表示器41aや第2特別図柄表示器41bのほか、画像表示装置7によって把握することができる。なお、図柄表示エリアの位置は固定的でなくてもよい。また、演出図柄の変動表示の態様としては、上下方向にスクロールする態様であってもよいしそれ以外の態様であってもよい。各抽選結果に応じてどのような演出図柄の組み合わせを停止表示するかは上記に限定されず任意に設定することができる。以後、演出図柄8L、8C、8Rを表示する演出を「演出図柄の変動演出」、「装飾図柄の変動演出」または、単に「変動演出」とも呼ぶ。なお、この装飾図柄の変動演出は、特別図柄が変動開始してから停止するまでの期間（特別図柄変動期間とも呼ぶ）における演出を1回の変動演出（1サイクルの変動演出）としてカウントする。従って、特別図柄が変動開始してから停止するまでの期間に、装飾図柄を仮停止させる場合があったとしても、当該仮停止の演出は、装飾図柄の変動演出に含まれる。

20

【0023】

画像表示装置7は、演出図柄変動演出のほか、大当たり遊技（特別遊技の一例）に並行しておこなわれる大当たり演出や、客待ち用のデモ演出などを表示画面7aに表示することができる。演出図柄変動演出では、演出図柄のほか、背景画像やキャラクタ画像などの演出画像も表示されてもよい。また、画像表示装置7は、演出図柄に加え、特別図柄が変動中であることを示唆したり、特別図柄の抽選結果を示唆したりすることが可能な識別表示（第四図柄、図示省略）を、表示画面7aに表示してもよい。なお、識別表示（第四図柄）は、遊技領域3に設けられたLEDなどの発光器によって表示させてもよい。

30

【0024】

保留画像表示領域は、後述の第1特図保留の記憶数に応じて保留画像9Aを表示する第1保留表示エリアと、後述の第2特図保留の記憶数に応じて保留画像9Bを表示する第2保留表示エリアとを含んでいる。保留画像9A、9Bの表示によって、後述の第1特図保留表示器43aに表示される第1特図保留の記憶数と、第2特図保留表示器43bに表示される第2特図保留の記憶数を、遊技者にわかりやすく表示することができる。保留消化画像表示領域は、保留消化画像9Cを表示する保留消化表示エリアを含んでいる。保留消化画像9Cは、表示画面7aで現在変動中の演出図柄（演出図柄8L、8C、8R）に対応しており、保留消化画像9Cの表示によって、第1特図保留または第2特図保留が消化（後述の「特図保留の消化」）されることを、遊技者にわかりやすく表示することができる。

40

【0025】

センター装飾体10は、遊技領域3の中央付近であって、画像表示装置7の前方に配置されている。センター装飾体10には、可動式のいわゆるギミックである盤可動体15（盤可動役物15とも呼ぶ）が取り付けられている。センター装飾体10の下部には、ステ

50

ージ部 11 が形成されている。ステージ部 11 は、ステージ部 11 の上面を転動する遊技球を後述の第 1 始動口 20 へと誘導可能な形状を有している。センター装飾体 10 の左下方には、ワープ部 12 が設けられている。ワープ部 12 は、遊技球が流入する入口部と遊技球が流出する出口部とを備え、入口部から流入した遊技球を出口部からステージ部 11 に流出させる。

【0026】

固定入賞装置（ヘソ）19 は、遊技領域 3 における画像表示装置 7 の下方に配置され、遊技球の入球し易さが常に変わらない第 1 始動口（第 1 始動入賞口、第 1 入球口、固定始動口）20 を備えている。第 1 始動口 20 への遊技球の入賞は、第 1 特別図柄の抽選（大当たり抽選）の契機となっている。言い換えれば、第 1 始動口 20 への遊技球の入賞は、

10

【0027】

普通可変入賞装置（電チュー）22 は、遊技領域 3 における第 1 始動口 20 の下方に配置され、第 2 始動口（第 2 始動入賞口、第 2 入球口、可変始動口）21 を備えている。第 2 始動口 21 への遊技球の入賞は、第 2 特別図柄の抽選（大当たり抽選）の契機となっている。電チュー 22 は、第 2 始動口 21 の前方に可動部材 23 を備えており、可動部材 23 の作動によって第 2 始動口 21 を開閉する。可動部材 23 は、電チューソレノイド 24（図 3）によって駆動される。第 2 始動口 21 は、可動部材 23 が開状態のとき遊技球が入球可能である。なお、電チュー 22 は、可動部材 23 が開状態のときの方が閉状態のときよりも第 2 始動口 21 への入球が容易であればよく、閉状態のときに第 2 始動口 21 への入球が可能であってもよい。

20

【0028】

ゲート（スルーチャッカー）28 は、遊技領域 3 における第 1 大入賞装置（第 1 アタッカー）31 の上方に配置されており、遊技球が通過可能に構成されている。ゲート 28 への遊技球の通過は、電チュー 22 を開放するか否かを決定する普通図柄抽選の契機となっている。言い換えれば、ゲート 28 への遊技球の通過は、普通図柄乱数（当たり乱数）の取得および当たり判定等の契機となっている。

【0029】

ここで、「特別図柄の抽選」とは、第 1 始動口 20 または第 2 始動口 21 に遊技球が入賞したときに、特別図柄判定用の乱数を取得し、この取得した乱数を予め定められた「大当たり」に対応する値と比較することにより、大当たりか否かを判定する処理をいう。この「大当たり」の抽選結果は即座に遊技者に報知されるわけではなく、後述の第 1 特別図柄表示器 41a または第 2 特別図柄表示器 41b において特別図柄の変動表示がおこなわれ、所定の変動時間を経過したところで、抽選結果に対応する特別図柄が停止表示（確定表示）され、遊技者に抽選結果が報知される。画像表示装置 7 では、特別図柄の変動表示と同期して演出図柄を変動表示する図柄合わせゲームが行われ、この図柄合わせゲームによって、より効果的に大当たりの抽選結果が遊技者に報知される。

30

【0030】

また、「普通図柄の抽選」とは、ゲート 28 を遊技球が通過したときに、普通図柄判定用の乱数を取得し、この取得した乱数を予め定められた「当り」に対応する値と比較することにより、当りか否かを判定する処理をいう。この普通図柄の抽選結果についても、ゲート 28 を遊技球が通過して即座に抽選結果が報知されるわけではなく、後述の普通図柄表示器 42 において普通図柄の変動表示がおこなわれ、所定の変動時間を経過したところで、抽選結果に対応する普通図柄が確定表示（点灯または消灯）され、遊技者に抽選結果が報知される。

40

【0031】

第 1 大入賞装置（第 1 アタッカー、第 1 特別可変入賞装置）31 は、遊技領域 3 における第 1 始動口 20 の右上方に配置され、第 1 大入賞口（第 1 特別入賞口）30 と、V 領域 39 と、非 V 領域 70 と、V 開閉部材 71 とを備えている。第 1 大入賞口 30 は、スイング式の開閉動作により遊技球の受け入れを許容または阻害する開閉部材（第 1 特別入賞口

50

開閉部材) 32を備えている。開閉部材32は、第1大入賞口ソレノイド33(図3)によって駆動される。第1大入賞口30は、開閉部材32が開状態のとき遊技球が入球可能となる。

【0032】

第1大入賞装置31は内部に、V領域(特定領域)39と、V領域センサ39a(図3)と、非V領域(非特定領域)70と、非V領域センサ70a(図3)と、第1大入賞口センサ30a(図3)と、V開閉部材71と、V開閉部材ソレノイド73(図3)と、を備えている。V領域(特定領域)39および非V領域(非特定領域)70は、第1大入賞装置31の内部において、第1大入賞口30を通過した遊技球が通過可能な領域として構成されている。第1大入賞口センサ30aは、V領域39および非V領域70の上流に配置され、第1大入賞口30への遊技球の入賞を検知する。V領域センサ39aは、V領域39に配置され、V領域39への遊技球の通過を検知する。非V領域センサ70aは、非V領域70に配置され、非V領域70への遊技球の通過を検知する。V開閉部材71は、第1大入賞口30を通過した遊技球をV領域39または非V領域70のいずれかに振り分ける。V開閉部材ソレノイド73は、V開閉部材71を駆動する。V開閉部材71は、回転移動(遊技盤2に対して時計回りおよび反時計回り)するように構成され、V開閉部材ソレノイド73の通電時には、原点位置から反時計回りに回転して遊技球をV領域39に振り分ける第1の状態(回動状態)となり、V開閉部材ソレノイド73の非通電時には、原点に位置して遊技球を非V領域70に振り分ける第2の状態(停止状態)となる。なお、V開閉部材71は、回転移動に限らず、第1大入賞口30を通過した遊技球をV領域39または非V領域70のいずれかに振り分ける機能を有しておればよく、例えば、遊技盤2に対して左右方向に移動するように構成してもよい。すなわち、V開閉部材ソレノイド73の通電時には、遊技球をV領域39に振り分ける退避状態(第1の状態)となり、V開閉部材ソレノイド73の非通電時には、遊技球を非V領域70に振り分ける進出状態(第2の状態)となるように構成してもよい。なお、遊技機1では、V領域39への遊技球の通過が後述の高確率状態への移行の契機となっている。つまり、V領域39は、確変作動口となっている。一方、非V領域70は、確変作動口となっていない。本実施形態の第1大入賞装置31は、さらに、第1大入賞装置31から排出される遊技球数を計数する第1大入賞装置排出センサ(図示しない)を備えている。第1大入賞装置排出センサは、V領域39と非V領域70が下流で合流した地点に設けられており、V領域センサ39aまたは非V領域センサ70aを通過した遊技球数を計数する。

【0033】

第2大入賞装置(第2アタッカー、第2特別可変入賞装置)36は、遊技領域3における第1大入賞口30の右上方に配置され、第2大入賞口(第2特別入賞口)35を備えている。第2大入賞口35は、スイング式の開閉動作により遊技球の受け入れを阻害または許容する開閉部材(第2特別入賞口開閉部材、可動部材)37を備えている。開閉部材37は、第2大入賞口ソレノイド38(図3)によって駆動される。第2大入賞口35は、開閉部材37が開状態のとき遊技球が入球可能となる。

【0034】

普通入賞口27は、遊技領域3の下部に設けられている。なお、普通入賞口27の数は任意に設定することができる。アウト口16は、遊技領域3の下部に設けられており、いずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技領域3の外へ排出する。表示器類40は、遊技盤2の右側中央付近に配置されている。表示器類40の詳細については後述する。

【0035】

遊技領域3には、左右方向の中央より左側の左遊技領域3Aと、右側の右遊技領域3Bとがある。左遊技領域3Aを遊技球が流下するように遊技球を発射する打ち方を「左打ち」と呼ぶ。一方、右遊技領域3Bを遊技球が流下するように遊技球を発射する打ち方を「右打ち」と呼ぶ。遊技機1では、左打ちにて第1始動口20への入賞を狙うことができる。一方、右打ちにてゲート28への通過、第2始動口21、第1大入賞口30、および、第2大入賞口35への入賞を狙うことができるように構成されている。

【0036】

図2は、表示器類40の拡大図である。表示器類40は、第1特別図柄表示器41aと、第2特別図柄表示器41bと、普通図柄表示器42と、第1特図保留表示器43aと、第2特図保留表示器43bと、普図保留表示器44と、を含んでいる。第1特別図柄表示器41aは、第1特別図柄を可変表示する。第2特別図柄表示器41bは、第2特別図柄を可変表示する。普通図柄表示器42は、普通図柄を可変表示する。第1特図保留表示器43aは、第1特別図柄表示器41aの作動保留（第1特図保留）の記憶数を表示する。第2特図保留表示器43bは、第2特別図柄表示器41bの作動保留（第2特図保留）の記憶数を表示する。普図保留表示器44は、普通図柄表示器42の作動保留（普図保留）の記憶数を表示する。第1特別図柄の可変表示は、第1始動口20への遊技球の入賞を契機としておこなわれる。第2特別図柄の可変表示は、第2始動口21への遊技球の入賞を契機としておこなわれる。以下では、第1特別図柄および第2特別図柄を総称して「特別図柄」とも呼ぶ。また、第1特別図柄表示器41aおよび第2特別図柄表示器41bを総称して「特別図柄表示器41」とも呼ぶ。また、第1特図保留表示器43aおよび第2特図保留表示器43bを総称して「特図保留表示器43」とも呼ぶ。

10

【0037】

特別図柄表示器41は、特別図柄（識別情報）を可変表示（変動表示）した後、停止表示することによって第1始動口20または第2始動口21への入賞に基づく抽選（特別図柄当たり抽選、大当たり抽選）の結果を報知する。停止表示される特別図柄（停止図柄、可変表示の表示結果として導出表示される特別図柄）は、特別図柄抽選によって複数種類の特別図柄の中から選択された一つの特別図柄である。停止図柄が予め定めた大当たり停止態様の特別図柄（大当たり図柄）である場合には、停止表示された大当たり図柄の種類（当選した大当たりの種類）に応じた開放パターンにて第1大入賞口30または第2大入賞口35を開放させる特別遊技（大当たり遊技）がおこなわれる。なお、特別遊技における大入賞口（第1大入賞口30および第2大入賞口35）の開放パターンについては後述する。

20

【0038】

特別図柄表示器41は、横並びに配された8個のLEDから構成されており、その点灯態様によって特別図柄当たり抽選の結果に応じた特別図柄を表示する。例えば、大当たり（後述の複数種類の大当たりのうちの一つ）に当選した場合には、「○○●●○○●●」（○：点灯、●：消灯）というように左から1, 2, 5, 6番目にあるLEDが点灯した大当たり図柄を表示する。ハズレである場合には、「●●●●●●●○」というように一番右にあるLEDのみが点灯したハズレ図柄を表示する。ハズレ図柄として全てのLEDを消灯させる態様を採用してもよい。特別図柄が停止表示される前には、所定の変動時間にわたって特別図柄の変動表示（可変表示）がなされる。変動表示の態様は、例えば、左から右へ光が繰り返し流れるように各LEDが点灯してもよい。変動表示の態様は、各LEDが停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、上記態様に限定されず、任意の点灯態様とすることができる。例えば、変動表示の態様は、全LEDが一斉に点滅してもよい。

30

【0039】

遊技機1では、第1始動口20または第2始動口21への遊技球の入賞（入球）があると、その入賞に対して取得した大当たり乱数等の各種乱数の値（数値情報）は、特図保留記憶領域85（図5）に一旦記憶される。具体的には、第1始動口20への入賞であれば、第1特図保留として第1特図保留記憶領域85a（図5）に記憶され、第2始動口21への入賞であれば、第2特図保留として第2特図保留記憶領域85b（図5）に記憶される。各々の特図保留記憶領域85に記憶可能な特図保留の数には上限があり、本実施形態における上限値は、第1特図保留記憶領域85a、第2特図保留記憶領域85bともにそれぞれ4個となっている。特図保留記憶領域85に記憶された特図保留は、その特図保留に基づく特別図柄の可変表示が可能となったときに消化される。「特図保留の消化」とは、その特図保留に対応する大当たり乱数等を判定して、その判定結果を示すための特別図

40

50

柄の可変表示を実行することをいう。従って、遊技機 1 では、第 1 始動口 2 0 または第 2 始動口 2 1 への遊技球の入賞に基づく特別図柄の可変表示がその入賞後にすぐにおこなえない場合、すなわち、特別図柄の可変表示の実行中や特別遊技の実行中に入賞があった場合であっても、所定個数を上限として、その入賞に対する大当たり抽選の権利を留保することができる。特図保留の数は、特図保留表示器 4 3 に表示される。第 1 特図保留表示器 4 3 a と第 2 特図保留表示器 4 3 b は、例えばそれぞれ 4 個の L E D で構成されている。各特図保留表示器 4 3 は、特図保留の数だけ L E D を点灯させることによって特図保留の数を表示する。

【 0 0 4 0 】

普通図柄の可変表示は、ゲート 2 8 への遊技球の通過を契機としておこなわれる。普通図柄表示器 4 2 は、普通図柄を可変表示（変動表示）した後、停止表示することによってゲート 2 8 への遊技球の通過に基づく普通図柄抽選の結果を報知する。停止表示される普通図柄（普図停止図柄、可変表示の表示結果として導出表示される普通図柄）は、普通図柄抽選によって複数種類の普通図柄の中から選択された一つの普通図柄である。普図停止図柄が予め定めた特定普通図柄（所定の停止態様の普通図柄すなわち普通当たり図柄）である場合には、現在の遊技状態に応じた開放パターンに第 2 始動口 2 1 を開放させる補助遊技が行われる。なお、第 2 始動口 2 1 の開放パターンについては後述する。

【 0 0 4 1 】

普通図柄表示器 4 2 は、2 個の L E D から構成されており、その点灯態様によって普通図柄抽選の結果に応じた普通図柄を表示するものである。例えば、抽選結果が当たりである場合には、「○○」（○：点灯、●：消灯）というように両 L E D が点灯した普通当たり図柄を表示する。抽選結果がハズレである場合には、「●○」というように右の L E D のみが点灯した普通ハズレ図柄を表示する。普通ハズレ図柄として全ての L E D を消灯させる態様を採用してもよい。普通図柄が停止表示される前には、所定の変動時間にわたって普通図柄の変動表示がなされる。変動表示の態様は、例えば、両 L E D が交互に点灯してもよい。変動表示の態様は、各 L E D が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、上記態様に限定されず、任意の点灯態様とすることができる。例えば、変動表示の態様は、全 L E D が一斉に点滅してもよい。

【 0 0 4 2 】

遊技機 1 では、ゲート 2 8 への遊技球の通過があると、その通過に対して取得した普通図柄乱数（当たり乱数）の値は、普図保留記憶領域 8 6（図 5）に普図保留として一旦記憶される。普図保留記憶領域 8 6 に記憶可能な普図保留の数には上限があり、本形態における上限値は 4 個となっている。普図保留記憶領域 8 6 に記憶された普図保留は、その普図保留に基づく普通図柄の可変表示が可能となったときに消化される。普図保留の消化とは、その普図保留に対応する普通図柄乱数（当たり乱数）を判定して、その判定結果を示すための普通図柄の可変表示を実行することをいう。従って、遊技機 1 では、ゲート 2 8 への遊技球の通過に基づく普通図柄の可変表示がその通過後にすぐにおこなえない場合、すなわち、普通図柄の可変表示の実行中や補助遊技の実行中に入賞があった場合であっても、所定個数を上限として、その通過に対する普通図柄抽選の権利を留保することができる。普図保留の数は、普図保留表示器 4 4 に表示される。普図保留表示器 4 4 は、例えば、4 個の L E D で構成されており、普図保留の数だけ L E D を点灯させることによって普図保留の数を表示する。

【 0 0 4 3 】

2. 遊技機の電氣的構成

図 3、図 4 に基づいて、遊技機 1 の電氣的構成について説明する。図 3 は、遊技機 1 の主制御基板側の電氣的な構成を示すブロック図である。図 4 は、遊技機 1 のサブ制御基板側の電氣的な構成を示すブロック図である。遊技機 1 は、主制御基板 8 0（図 3）と、サブ制御基板 9 0（図 4）と、画像制御基板 1 0 0（図 4）と、ランプ制御基板 1 0 7（図 4）と、音声制御基板 1 0 6（図 4）と、払出制御基板 1 1 0（図 3）と、を備えている。主制御基板 8 0 は、大当たり抽選や遊技状態の移行などの遊技利益に関する制御をおこ

10

20

30

40

50

なう遊技制御基板であり、メイン制御部を構成する。サブ制御基板 90 は、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御をおこなう演出制御基板であり、画像制御基板 100、ランプ制御基板 107、音声制御基板 106 とともにサブ制御部を構成する。なお、サブ制御部は、少なくともサブ制御基板 90 を備えていれば構成可能である。

【0044】

主制御基板 80 は、遊技制御用マイコン 81 と、入出力回路 87 と、を備えている。遊技制御用マイコン 81 は、主制御基板 80 に実装されているワンチップマイコンであり、プログラムに従って遊技機 1 の遊技の進行を制御する。遊技制御用マイコン 81 は、遊技の進行を制御するためのプログラムなどを記憶するメイン ROM 83 と、ワークメモリとして使用されるメイン RAM 84 と、メイン ROM 83 に記憶されているプログラムを実行するメイン CPU 82 と、を含んでいる。メイン ROM 83 に記憶されているデータの詳細、および、メイン RAM 84 に設けられている記憶領域の詳細については後述する。メイン ROM 83 は外付け ROM として構成されていてもよい。遊技制御用マイコン 81 は、入出力回路 (I/O ポート部) 87 を介して他の基板等とデータの送受信をおこなう。入出力回路 87 は、遊技制御用マイコン 81 に内蔵されていてもよい。

【0045】

主制御基板 80 には、入出力回路 87 および中継基板 88 を介して各種センサやソレノイドが接続されている。主制御基板 80 は、各センサから出力された信号が入力するとともに、各ソレノイドに対して信号を出力する。中継基板 88 を介して接続されるセンサ類としては、第 1 始動口センサ 20a、第 2 始動口センサ 21a、ゲートセンサ 28a、第 1 大入賞口センサ 30a、第 2 大入賞口センサ 35a、V 領域センサ 39a、非 V 領域センサ 70a、および、普通入賞口センサ 27a、が例示される。中継基板 88 を介して接続されるソレノイド類としては、電チューソレノイド 24、第 1 大入賞口ソレノイド 33、第 2 大入賞口ソレノイド 38、および、V 開閉部材ソレノイド 73 が例示される。第 1 始動口センサ 20a は、第 1 始動口 20 の内部に設けられ、第 1 始動口 20 に入賞した遊技球を検出する。第 2 始動口センサ 21a は、第 2 始動口 21 の内部に設けられ、第 2 始動口 21 に入賞した遊技球を検出する。ゲートセンサ 28a は、ゲート 28 の内部に設けられ、ゲート 28 を通過した遊技球を検出する。第 1 大入賞口センサ 30a は、第 1 大入賞口 30 の内部に設けられ、第 1 大入賞口 30 に入賞した遊技球を検出する。第 2 大入賞口センサ 35a は、第 2 大入賞口 35 の内部に設けられ、第 2 大入賞口 35 に入賞した遊技球を検出する。V 領域センサ 39a は、第 1 大入賞口 30 の内部の V 領域 39 に設けられ、V 領域 39 を通過した遊技球を検出する。非 V 領域センサ 70a は、第 1 大入賞口 30 の内部の非 V 領域 70 に設けられ、非 V 領域 70 を通過した遊技球を検出する。普通入賞口センサ 27a は、普通入賞口 27 の内部に設けられ、普通入賞口 27 に入賞した遊技球を検出する。電チューソレノイド 24 は、電チュー 22 の可動部材 23 を駆動する。第 1 大入賞口ソレノイド 33 は、第 1 大入賞装置 31 の開閉部材 32 を駆動する。第 2 大入賞口ソレノイド 38 は、第 2 大入賞装置 36 の開閉部材 37 を駆動する。V 開閉部材ソレノイド 73 は、第 1 大入賞装置 31 の V 開閉部材 71 を駆動する。

【0046】

主制御基板 80 には、入出力回路 87 を介して表示器類 40 が接続されている。遊技制御用マイコン 81 は、第 1 特別図柄表示器 41a、第 2 特別図柄表示器 41b、普通図柄表示器 42、第 1 特図保留表示器 43a、第 2 特図保留表示器 43b、普図保留表示器 44 についての表示制御をおこなう。

【0047】

主制御基板 80 には、入出力回路 87 を介して払出制御基板 110 が接続されている。主制御基板 80 は、払出制御基板 110 に各種コマンドを送信するとともに、払い出し監視のために払出制御基板 110 から信号を受信する。払出制御基板 110 には、賞球払出装置 120 と、貸球払出装置 130 と、カードユニット 135 と、が接続され、発射制御回路 111 を介して発射装置 112 が接続されている。賞球払出装置 120 は、賞球の払い出しをおこなう。払出制御基板 110 は、遊技制御用マイコン 81 からの信号に基づい

て、賞球払出装置 120 の賞球モータ 121 を駆動して賞球の払い出しをおこなう。払い出される賞球は、計数のために賞球センサ 122 によって検知される。貸球払出装置 130 は、貸球の払い出しをおこなう。払出制御基板 110 は、遊技機 1 に接続されたカードユニット 135 からの信号に基づいて、貸球払出装置 130 の貸球モータ 131 を駆動して貸球の払い出しをおこなう。払い出される貸球は、計数のために貸球センサ 132 によって検知される。カードユニット 135 は、遊技機 1 に隣接して配置され、挿入されたプリペイドカードなどの情報に基づいて球貸に関する情報を出力する。発射装置 112 は、ハンドル 60 (図 1) と、発射モータ 113 と、タッチスイッチ 114 と、発射ボリューム 115 と、を備えている。発射装置 112 は、遊技者によるハンドル 60 の操作があった場合に、タッチスイッチ 114 によってハンドル 60 の接触を検知し、発射ボリューム 115 によってハンドル 60 の回転量を検知する。そして、発射ボリューム 115 の検知信号の大きさに応じた強さで遊技球が発射されるように発射モータ 113 を駆動する。

【0048】

主制御基板 80 には、入出力回路 87 を介してサブ制御基板 90 (図 4) が接続されている。主制御基板 80 は、サブ制御基板 90 に対して各種コマンドを送信する。主制御基板 80 とサブ制御基板 90 との接続は、主制御基板 80 からサブ制御基板 90 への信号の送信のみが可能な単方向通信接続となっている。すなわち、主制御基板 80 とサブ制御基板 90 との間には、通信方向規制手段としての図示しない単方向性回路 (例えばダイオードを用いた回路) が介在している。

【0049】

サブ制御基板 90 は、演出制御用マイコン 91 と、入出力回路 95 と、を備えている。演出制御用マイコン 91 は、サブ制御基板 90 に実装されているワンチップマイコンであり、プログラムに従って遊技機 1 の遊技の演出を制御する。演出制御用マイコン 91 は、遊技の進行に伴って演出を制御するためのプログラム等を記憶するサブ ROM 93 と、ワークメモリとして使用されるサブ RAM 94 と、サブ ROM 93 に記憶されているプログラムを実行するサブ CPU 92 と、を含んでいる。サブ ROM 93 に記憶されているデータの詳細、および、サブ RAM 94 に設けられている記憶領域の詳細については後述する。サブ ROM 93 は外付け ROM として構成されていてもよい。演出制御用マイコン 91 は、入出力回路 (I/O ポート部) 95 を介して他の基板等とデータの送受信をおこなう。入出力回路 95 は、演出制御用マイコン 91 に内蔵されていてもよい。サブ制御基板 90 には、入出力回路 95 を介して、画像制御基板 100 と、音声制御基板 106 と、ランプ制御基板 107 と、中継基板 108 と、が接続されている。

【0050】

画像制御基板 100 は、画像制御用マイコン 101 と、入力回路 105a と、出力回路 105b とを備えている。画像制御用マイコン 101 は、画像制御基板 100 に実装されているワンチップマイコンであり、プログラムに従って画像表示装置 7 の表示制御をおこなう。画像制御用マイコン 101 は、CPU 102 と、ROM 103 と、RAM 104 とを含んでいる。ROM 103 には、表示制御をおこなうためのプログラムのほか、画像表示装置 7 に表示される静止画データや動画データ、具体的には、キャラクタ、アイテム、図形、文字、数字および記号等 (演出図柄を含む) や背景画像等の画像データが格納されている。RAM 104 は、画像データを展開するためのメモリとして使用される。CPU 102 は、ROM 103 に記憶されているプログラムを実行する。演出制御用マイコン 91 は、主制御基板 80 から受信したコマンドに基づいて、画像制御用マイコン 101 に画像表示装置 7 の表示制御をおこなわせる。画像制御用マイコン 101 は、演出制御用マイコン 91 からの指令に基づいて ROM 103 から画像データを読み出し、読み出した画像データに基づいて表示制御をおこなう。

【0051】

音声制御基板 106 には、スピーカ 67 が接続されており、演出制御用マイコン 91 は、主制御基板 80 から受信したコマンドに基づいて、音声制御基板 106 を介してスピーカ 67 から音声、楽曲、効果音等を出力させる。スピーカ 67 から出力する音声等の音響

10

20

30

40

50

データは、サブ制御基板 90 のサブ ROM 93 に格納されている。なお、音声制御基板 106 は、CPU を実装していてもよく、その CPU にコマンドに基づく音声制御を実行させてもよい。さらに、音声制御基板 106 は、ROM を実装していてもよく、その ROM に音響データを格納してもよい。また、スピーカ 67 を画像制御基板 100 に接続し、画像制御基板 100 の CPU 102 に音声制御を実行させてもよい。さらに、画像制御基板 100 の ROM 103 に音響データを格納してもよい。

【0052】

ランプ制御基板 107 には、枠ランプ 66 と、盤ランプ 5 と、盤可動体 15 と、が接続されており、これらを制御する。演出制御用マイコン 91 は、主制御基板 80 から受信したコマンドに基づいて、ランプ制御基板 107 を介して枠ランプ 66 や盤ランプ 5 等のランプの点灯制御をおこなう。つまり、演出制御用マイコン 91 は、枠ランプ 66 や盤ランプ 5 等のランプの発光態様を決める発光パターンデータ（点灯/消灯や発光色等を決めるデータ、ランプデータともいう）を作成し、発光パターンデータに従って枠ランプ 66 や盤ランプ 5 などのランプの発光を制御する。発光パターンデータの作成にはサブ制御基板 90 のサブ ROM 93 に格納されているデータが用いられる。演出制御用マイコン 91 は、主制御基板 80 から受信したコマンドに基づいて、盤可動体 15 を動作させる。盤可動体 15 は、センター装飾体 10 に設けられた可動式のいわゆるギミックである。演出制御用マイコン 91 は、盤可動体 15 の動作態様を決める動作パターンデータ（駆動データ）を作成し、動作パターンデータに従って盤可動体 15 の動作を制御する。動作パターンデータの作成にはサブ ROM 93 に格納されているデータを用いる。なお、ランプ制御基板 107 は、CPU を実装していてもよく、その CPU にコマンドに基づくランプの点灯制御や盤可動体 15 の動作制御を実行させてもよい。この場合、ランプ制御基板 107 は ROM を実装していてもよく、その ROM に発光パターンや動作パターンに関するデータを格納してもよい。

【0053】

中継基板 108 には、演出ボタン検出スイッチ 63a と、枠可動体 600 と、が接続されている。演出ボタン検出スイッチ 63a は、演出ボタン 63（図 1）が押下操作されたことを検出する。演出ボタン 63 が押下されると、演出ボタン検出スイッチ 63a から、中継基板 108 を介してサブ制御基板 90 にスイッチ信号が出力される。演出制御用マイコン 91 は、主制御基板 80 から受信したコマンドに基づいて、枠可動体 600 を動作させる。枠可動体 600 は、前枠 53（図 1）の上部に設けられた可動式のいわゆるギミックである。演出制御用マイコン 91 は、枠可動体 600 の動作態様を決める動作パターンデータ（駆動データ）を作成し、動作パターンデータに従って枠可動体 600 の動作を制御する。動作パターンデータの作成にはサブ ROM 93 に格納されているデータを用いる。なお、中継基板 108 には、セレクトボタン 68（図 1）が押下操作されたことを検出するセレクトボタン検出スイッチや、前枠 53 に設けられ、人体が接触すると検出信号を出力するタッチセンサなどが接続されていてもよい。

【0054】

3. 遊技機の詳細構成

図 5、図 6 に基づいて、遊技機 1 のデータ構成について説明する。図 5（A）は、メイン ROM 83 に記憶されているテーブルを説明するための図である。図 5（B）は、メイン RAM 84 に設けられている記憶領域を説明するための図である。図 6（A）は、サブ ROM 93 に記憶されているテーブルを説明するための図である。図 6（B）は、サブ RAM 94 に設けられている記憶領域を説明するための図である。

【0055】

メイン ROM 83（図 5（A））には、大当たり判定テーブル T1 と、リーチ判定テーブル T2 と、普通図柄当たり判定テーブル T3 と、普通図柄変動パターン判定テーブル T4 と、大当たり種別判定テーブル T5 と、変動パターン判定テーブル T6 と、電チュー開放パターン判定テーブル T7 と、大入賞口開放パターン判定テーブル T8 と、V 開閉部材開放パターン判定テーブル T9 と、が格納されている。これらの判定テーブルは、遊技制

御用マイコン 8 1 が実行する主制御メイン処理（後述）において、遊技制御用マイコン 8 1 によって参照される。各判定テーブルの具体的な内容については後述する。

【 0 0 5 6 】

メイン RAM 8 4（図 5（B））には、コマンドセット領域 8 4 a と、フラグセット領域 8 4 b と、カウンタセット領域 8 4 c と、特別動作ステータスセット領域 8 4 d と、特図保留記憶領域 8 5 と、普図保留記憶領域 8 6 とが設けられている。コマンドセット領域 8 4 a は、主制御メイン処理（後述）において、メイン制御部側からサブ制御部側に出力されるコマンドがセットされる領域（出力バッファ）であり、事前判定コマンド、保留球数コマンド、変動開始コマンド、変動停止コマンド、オープニングコマンド、ラウンド指定コマンド、エンディングコマンド、遊技状態指定コマンド、V 通過コマンド、客待ち待機コマンドなどがセットされる。フラグセット領域 8 4 b は、主制御メイン処理（後述）において、遊技機の状態や遊技状態を示すフラグがセットされる領域であり、大当たりフラグ、大当たり終了フラグ、第 1 入賞フラグ、第 2 入賞フラグ、V フラグ、確変フラグ、時短フラグなどがセットされる。カウンタセット領域 8 4 c は、主制御メイン処理（後述）において使用されるカウンタがセットされる領域であり、乱数カウンタ、ラウンドカウンタ、確変カウンタ、時短カウンタなどがセットされる。特別動作ステータスセット領域 8 4 d は、後述する特別動作処理におけるステータスがセットされる領域である。特図保留記憶領域 8 5 は、第 1 特図保留が記憶される第 1 特図保留記憶領域 8 5 a と、第 2 特図保留が記憶される第 2 特図保留記憶領域 8 5 b とを含んでいる。第 1 特図保留記憶領域 8 5 a には、第 1 特図保留の 1 個目、2 個目、3 個目、4 個目にそれぞれ対応する特別図柄当たり乱数等の乱数値群（保留情報）を記憶するための第 1 記憶領域、第 2 記憶領域、第 3 記憶領域、第 4 記憶領域が設けられている。第 2 特図保留記憶領域 8 5 b には、第 2 特図保留の 1 個目、2 個目、3 個目、4 個目にそれぞれ対応する乱数値群（保留情報）を記憶するための第 1 記憶領域、第 2 記憶領域、第 3 記憶領域、第 4 記憶領域が設けられている。普図保留記憶領域 8 6 は、普図保留の 1 個目、2 個目、3 個目、4 個目にそれぞれ対応する普通図柄乱数（あたり乱数）等の乱数値群（保留情報）を記憶するための第 1 記憶領域、第 2 記憶領域、第 3 記憶領域、第 4 記憶領域が設けられている。なお、メイン RAM 8 4 には、上記の領域の他に、特図停止図柄データがセットされる当たり種別セットバッファや、盤可動体 1 5 や枠可動体 6 0 0 を駆動させるための駆動データがセットされる駆動データバッファ等が設けられている。

【 0 0 5 7 】

サブ ROM 9 3（図 6（A））には、先読み演出パターン決定テーブル T 5 1 と、基幹演出パターン決定テーブル T 5 2 と、チャンスアップ演出パターン決定テーブル T 5 3 と、停止図柄パターン決定テーブル T 5 4 と、が格納されている。これらの決定テーブルは、演出制御用マイコン 9 1 が実行するサブ制御メイン処理（後述）において、演出制御用マイコン 9 1 によって参照される。各決定テーブルの具体的な内容については後述する。

【 0 0 5 8 】

サブ RAM 9 4（図 6（B））には、コマンド記憶領域 9 4 a と、演出コマンドセット領域 9 4 b と、事前判定情報記憶領域 9 4 c と、カウンタセット領域 9 4 d と、が設けられている。コマンド記憶領域 9 4 a は、サブ制御メイン処理（後述）において、メイン制御部側から入力されたコマンドが記憶される領域（入力バッファ）であり、事前判定コマンド、保留球数コマンド、変動開始コマンド、変動停止コマンド、オープニングコマンド、ラウンド指定コマンド、エンディングコマンド、遊技状態指定コマンド、V 通過コマンド、客待ち待機コマンドなどが格納される。演出コマンドセット領域 9 4 b は、サブ制御メイン処理（後述）において、サブ制御基板 9 0 から画像制御基板 1 0 0、音声制御基板 1 0 6、ランプ制御基板 1 0 7、中継基板 1 0 8 に出力されるコマンドがセットされる領域（出力バッファ）であり、変動演出開始コマンド、変動終了前コマンド、変動演出終了コマンド、オープニング演出開始コマンド、ラウンド演出開始コマンド、エンディング演出開始コマンドなどがセットされる。事前判定情報記憶領域 9 4 c は、サブ制御メイン処理（後述）において、事前判定情報が記憶される。カウンタセット領域 9 4 d は、サブ制

御メイン処理（後述）において使用されるカウンタがセットされる領域であり、乱数カウンタ、第1特図保留演出カウンタ、第2特図保留演出カウンタ、普図保留演出カウンタ、確変演出カウンタ、時短演出カウンタなどがセットされる。

【0059】

図7は、遊技機1において使用される各種の乱数を説明するための図である。図7（A）は、メイン制御部側の遊技制御用マイコン81が取得する乱数を示しており、図7（B）は、サブ制御部側の演出制御用マイコン91が取得する乱数を示している。遊技制御用マイコン81は、「大当たり乱数」と、「大当たり種別乱数」と、「リーチ乱数」と、「変動パターン乱数」と、「普通図柄乱数（当たり乱数）」とを後述するタイミングにおいて取得するように構成されている。「大当たり乱数」は、大当たりか否かの抽選（大当たり判定）に用いられる乱数であり、0～65535までの範囲の値をとる。「大当たり種別乱数」は、当選した大当たりの種別の抽選（大当たり種別判定）に用いられる乱数であり、0～127までの範囲の値をとる。「リーチ乱数」は、大当たり判定がハズレである場合に、その結果を示す演出図柄変動演出においてリーチを発生させるか否かを決定するために用いられる乱数であり、0～127までの範囲の値をとる。リーチとは、複数の演出図柄（装飾図柄）のうち変動表示されている演出図柄が残り1つとなっている状態であって、変動表示されている演出図柄がどの図柄で停止表示されるか次第で大当たり当選を示す演出図柄の組み合わせとなる状態（例えば、「7↓7」の状態）のことである。なお、リーチ状態において停止表示されている演出図柄は、表示画面7a内で揺れているように表示されてもよい。「変動パターン乱数」は、変動時間を含む変動パターンを決定するために用いられる乱数であり、0～127までの範囲の値をとる。「普通図柄乱数（当たり乱数）」は、電チュー22を開放させる補助遊技をおこなうか否かの抽選（普通図柄抽選）に用いられる。普通図柄乱数は、0～255までの範囲の値をとる。「大当たり乱数」、「大当たり種別乱数」、「リーチ乱数」、「変動パターン乱数」は、始動口（第1始動口20または第2始動口21）への入球に基づいて取得される。第1始動口20への入球に基づいて取得された乱数値群は第1特図保留記憶領域85aに記憶され、第2始動口21への入球に基づいて取得された乱数値群は第2特図保留記憶領域85bに記憶される。「普通図柄乱数（当たり乱数）」は、ゲート28の通過に基づいて取得される。取得された普通図柄乱数値は、普図保留記憶領域86に記憶される。

【0060】

演出制御用マイコン91は、「先読み演出乱数」と、「チャンスアップ乱数」と、を後述するタイミングにおいて取得するように構成されている。「先読み演出乱数」は、変動演出時の先読み演出を決定するために用いられる乱数であり、0～127までの範囲の値をとる。「チャンスアップ乱数」は、変動演出時のチャンスアップ演出を決定するために用いられる乱数であり、0～127までの範囲の値をとる。「先読み演出乱数」は、メイン制御部側からサブ制御部側に事前判定コマンドが出力されたことに基づいて取得される。取得された乱数値群はサブRAM94に記憶される。「チャンスアップ乱数」は、メイン制御部側からサブ制御部側に変動開始コマンドが出力されたことに基づいて取得される。取得された乱数値はサブRAM94に記憶される。

【0061】

図8は、判定テーブルT1～T4を説明するための図である。図8（A）には、大当たり判定テーブルT1を説明するための図が示され、図8（B）には、リーチ判定テーブルT2を説明するための図が示され、図8（C）には、普通図柄当たり判定テーブルT3を説明するための図が示され、図8（D）には、普通図柄変動パターン判定テーブルT4を説明するための図が示されている。

【0062】

大当たり判定テーブルT1は、遊技制御用マイコン81が主制御メイン処理（後述）において、取得した大当たり乱数値（0～65535のいずれか）が「大当たり」に該当するか「ハズレ」に該当するかを判定するために参照されるテーブルである。図8（A）では、「通常確率状態」において、大当たり乱数値が「0～164」の場合には、「大当た

り」と判定され、大当たり乱数値が「0～164以外の数値（165～65535）」の場合には、「ハズレ」と判定されることが示されている。また、「高確率状態」において、大当たり乱数値が「0～649」の場合には、「大当たり」と判定され、大当たり乱数値が「0～649以外の数値（650～65535）」の場合には、「ハズレ」と判定されることが示されている。「通常確率状態」および「高確率状態」の内容については後述する。

【0063】

リーチ判定テーブルT2は、遊技制御用マイコン81が主制御メイン処理（後述）において、取得したリーチ乱数値（0～127のいずれか）が「リーチ有り」に該当するか「リーチ無し」に該当するかを判定するために参照されるテーブルである。図8（B）では、「非時短状態」において、リーチ乱数値が「0～13」の場合には、「リーチ有り」と判定され、リーチ乱数値が「0～13以外の数値（14～127）」の場合には、「リーチ無し」と判定されることが示されている。また、「時短状態」において、リーチ乱数値が「0～5」の場合には、「リーチ有り」と判定され、リーチ乱数値が「0～5以外の数値（6～127）」の場合には、「リーチ無し」と判定されることが示されている。「時短状態」および「非時短状態」の内容については後述する。リーチ判定テーブルT2では、時短状態の方が非時短状態よりもハズレ時のリーチがかかりにくくなっている。これは、時短状態において変動時間の短いリーチ無しハズレがより多く選択されることで、特図保留の消化スピードを速めるためである。

【0064】

普通図柄当たり判定テーブルT3は、遊技制御用マイコン81が主制御メイン処理（後述）において、取得した普通図柄乱数値（0～255のいずれか）が「当たり」に該当するか「ハズレ」に該当するかを判定するために参照されるテーブルである。図8（C）では、「非時短状態」において、普通図柄乱数値が「0～2」の場合には、「当たり」と判定され、普通図柄乱数値が「0～2以外の数値（3～255）」の場合には、「ハズレ」と判定されることが示されている。また、「時短状態」において、普通図柄乱数値が「0～254」の場合には、「当たり」と判定され、普通図柄乱数値が「0～254以外の数値（255）」の場合には、「ハズレ」と判定されることが示されている。

【0065】

普通図柄変動パターン判定テーブルT4は、遊技制御用マイコン81が主制御メイン処理（後述）において、遊技状態（非時短状態か時短状態か）に応じて、普通図柄の変動時間が何秒かを判定するために参照されるテーブルである。図8（D）では、「非時短状態」のとき、普通図柄の変動時間は「30秒」と判定され、「時短状態」のとき、普通図柄の変動時間が「1秒」と判定されることが示されている。

【0066】

図9は、大当たり種別判定テーブルT5を説明するための図である。大当たり種別判定テーブルT5は、遊技制御用マイコン81が主制御メイン処理（後述）において、取得した大当たり種別乱数値（0～127のいずれか）に応じて、「大当たりの種別」と「特別図柄の種類」を判定するために参照されるテーブルである。図9では、第1特別図柄（特図1）の抽選において当選したとき、大当たり種別乱数値が「0～24」の場合には、大当たり種別が「16RV通過予定大当たり」と判定され、特図1の停止図柄（特図停止図柄）が「大当たり図柄1」と判定される。大当たり種別乱数値が「25～49」の場合には、大当たり種別が「16RV通過予定大当たり」と判定され、特図停止図柄が「大当たり図柄2」と判定される。大当たり種別乱数値が「50～55」の場合には、大当たり種別が「16R（実質15R）V通過予定大当たり」と判定され、特図停止図柄が「大当たり図柄3」と判定される。大当たり種別乱数値が「56～67」の場合には、大当たり種別が「16R（実質13R）V通過予定大当たり」と判定され、特図停止図柄が「大当たり図柄4」と判定される。大当たり種別乱数値が「68～127」の場合には、大当たり種別が「16R（実質13R）V非通過予定大当たり」と判定され、特図停止図柄が「大当たり図柄5」と判定される。一方、第2特別図柄（特図2）の抽選において当選した場

合、大当たり種別乱数値によらず（０～１２７のいずれであっても）、大当たり種別が「１６ＲＶ通過予定大当たり」と判定され、特図２の停止図柄（特図停止図柄）が「大当たり図柄１」と判定されることが示されている。なお、大当たり種別判定テーブルＴ５を参照することによって、特図停止図柄に対応する「特図停止図柄データ」、特別遊技の「オープニング（ＯＰ）コマンド」、「ラウンド指定コマンド」、「エンディング（ＥＤ）コマンド」も特定することができる。「１６ＲＶ通過予定大当たり」、「１６Ｒ（実質１５Ｒ）Ｖ通過予定大当たり」、「１６Ｒ（実質１３Ｒ）Ｖ通過予定大当たり」および「１６Ｒ（実質１３Ｒ）Ｖ非通過予定大当たり」の具体的な内容については後述する。

【００６７】

図１０は、非時短状態時の変動パターン判定テーブルＴ６を説明するための図である。図１１は、時短状態時の変動パターン判定テーブルＴ６を説明するための図である。変動パターン判定テーブルＴ６は、遊技制御用マイコン８１が主制御メイン処理（後述）において、取得した変動パターン乱数値（０～１２７）に応じて、変動パターンを判定するために参照されるテーブルである。図１０では、例えば、非時短状態において第１始動口２０に入賞し、大当たり判定テーブルＴ１において「ハズレ」と判定され、リーチ判定テーブルＴ２において「リーチ有り」と判定され、保留球数が「１～２」であり、変動パターン乱数値が「０～６０」の場合には、変動パターンが「Ｐ７」と判定されることが示されている。図１１では、例えば、時短状態において第２始動口２１に入賞し、大当たり判定テーブルＴ１において「大当たり」と判定され、大当たり種別判定テーブルＴ５において「１６ＲＶ通過予定大当たり」と判定され、変動パターン乱数値が「０～１０」の場合には、変動パターンが「Ｐ６１」と判定されることが示されている。図１０，１１に示されるように、変動パターンが決定されれば、変動時間も決定される。また、リーチになる場合に、そのリーチがノーマルリーチとなるのかスーパーリーチ（ＳＰリーチ）となるのかも決定される。スーパーリーチとは、ノーマルリーチよりもリーチ後の変動時間が長いリーチ演出である。ここでは、変動時間の異なる３種類のスーパーリーチ（ＳＰ１、ＳＰ２、ＳＰ３）が設定されている。変動時間の長さはＳＰ３＞ＳＰ２＞ＳＰ１となっている。ＳＰ１～３では、ノーマルリーチを経て発展的に実行される。ＳＰ１～３の違いは、例えば、疑似連の有無であってもよい。

【００６８】

図１２は、電チュー開放パターン判定テーブルＴ７を説明するための図である。電チュー開放パターン判定テーブルＴ７は、遊技制御用マイコン８１が主制御メイン処理（後述）において、遊技状態（非時短状態か時短状態か）に応じて、電チュー２２の開放パターンを判定するために参照されるテーブルである。図１２（Ａ）では、「非時短状態」のとき、電チュー２２の開放パターンは「開放パターン１１」と判定され、「時短状態」のとき、開放パターンは「開放パターン１２」と判定されることが示されている。図１２（Ｂ）には、開放パターン１１と開放パターン１２の内容が示されている。開放パターン１１では、開放回数１回、開放時間０．２秒の電チュー２２の開放をおこなう。開放パターン１２では、開放回数が３回、１回あたりの開放時間２．０秒、インターバル（開放間隔）１．０秒の電チュー２２の開放をおこなう。ただし、この電チュー２２の開放は、予め定められた数の遊技球の入賞（規定入賞数、最大１０個）があった場合、開放時間が残っていても閉鎖される。

【００６９】

図１３は、大入賞口開放パターン判定テーブルＴ８を説明するための図である。大入賞口開放パターン判定テーブルＴ８は、遊技制御用マイコン８１が主制御メイン処理（後述）において、特図停止図柄データ（図９）に応じて、第１大入賞口３０および第２大入賞口３５の開放パターンを判定するために参照されるテーブルである。図１３（Ａ）では、特図停止図柄データが「１１Ｈ」、「１２Ｈ」、または、「２１Ｈ」のとき、第１大入賞口３０および第２大入賞口３５の開放パターンは「開放パターン２１」と判定され、特図停止図柄データが「１４Ｈ」または「１５Ｈ」のとき、開放パターンは「開放パターン２２」と判定され、特図停止図柄データが「１３Ｈ」のとき、開放パターンは「開放パター

ン 2 3」と判定されることが示されている。図 1 3 (B) には、開放パターン 2 1、開放パターン 2 2 および開放パターン 2 3 の内容が示されている。開放パターン 2 1 では 1 ~ 1 3、1 5 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 2 9 . 5 秒の第 1 大入賞口 3 0 の開放（ロング開放）をおこない、1 4、1 6 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 2 9 . 5 秒の第 2 大入賞口 3 5 の開放（ロング開放）をおこなう。開放パターン 2 2 では 1 ~ 1 3 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 2 9 . 5 秒の第 1 大入賞口 3 0 の開放（ロング開放）をおこない、1 4、1 6 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 0 . 1 秒の第 2 大入賞口 3 5 の開放（ショート開放）をおこない、1 5 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 0 . 1 秒の第 1 大入賞口 3 0 の開放（ショート開放）をおこなう。開放パターン 2 3 では 1 ~ 1 3、1 5 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 2 9 . 5 秒の第 1 大入賞口 3 0 の開放（ロング開放）をおこない、1 4 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 0 . 1 秒の第 2 大入賞口 3 5 の開放（ショート開放）をおこない、1 6 R 目において、開放回数 1 回、開放時間 2 9 . 5 秒の第 2 大入賞口 3 5 の開放（ロング開放）をおこなう。ただし、第 1 大入賞口 3 0 および第 2 大入賞口 3 5 の開放は、予め定められた数の遊技球の入賞（規定入賞数、最大 9 個）があった場合、開放時間が残っていても閉鎖される。

【 0 0 7 0 】

図 1 4 は、V 開閉部材開放パターン判定テーブル T 9 を説明するための図である。V 開閉部材開放パターン判定テーブル T 9 は、遊技制御用マイコン 8 1 が主制御メイン処理（後述）において、特図停止図柄データ（図 9）に応じて、V 開閉部材 7 1 の開放パターンを判定するために参照されるテーブルである。図 1 4 (A) では、特図停止図柄データが「1 1 H」、「1 2 H」、または、「2 1 H」のとき、V 開閉部材 7 1 の開放パターンは「開放パターン 3 1」と判定され、特図停止図柄データが「1 3 H」のとき、開放パターンは「開放パターン 3 2」と判定され、特図停止図柄データが「1 4 H」のとき、開放パターンは「開放パターン 3 3」と判定され、特図停止図柄データが「1 5 H」のとき、開放パターンは「開放パターン 3 4」と判定されることが示されている。図 1 4 (B) には、開放パターン 3 1、開放パターン 3 2、開放パターン 3 3、および、開放パターン 3 4 の内容が示されている。開放パターン 3 1 では 2、4、6、8 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこなう。1 0、1 2 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこない、2 個目の入賞があったとき開放時間最大 3 1 . 5 秒の V 開閉部材 7 1 のロング開放をおこなう。開放パターン 3 2 では 2、4、6、1 2 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこなう。8、1 0 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこない、2 個目の入賞があったとき開放時間最大 3 1 . 5 秒の V 開閉部材 7 1 のロング開放をおこなう。開放パターン 3 3 では 2、6 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこない、2 個目の入賞があったとき開放時間最大 3 1 . 5 秒の V 開閉部材 7 1 のロング開放をおこなう。4、8、1 0、1 2 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこなう。開放パターン 3 4 では 2、4、6、8、1 0、1 2 R 目において、第 1 大入賞口 3 0 に 1 個目の入賞があったとき開放時間 0 . 1 秒の V 開閉部材 7 1 のショート開放をおこなう。

【 0 0 7 1 】

4. 大当たり等の説明

遊技機 1 では、大当たり抽選（特別図柄抽選）の結果としての「大当たり」と「ハズレ」がある。「大当たり」の場合には、特別図柄表示器 4 1 に「大当たり図柄」が停止表示される。「ハズレ」のときには、特別図柄表示器 4 1 に「ハズレ図柄」が停止表示される。大当たりに当選すると、停止表示された特別図柄の種類（大当たりの種類）に応じた開放パターンにて、大入賞口（第 1 大入賞口 3 0 および第 2 大入賞口 3 5）を開放させる「大当たり遊技」が実行される。大当たり遊技は、特別遊技の一例である。大当たり遊技は

、複数回のラウンド遊技（単位開放遊技）と、初回のラウンド遊技が開始される前のオープニング（OP）と、最終回のラウンド遊技が終了した後のエンディング（ED）とを含んでいる。各ラウンド遊技は、オープニングの終了、または、前のラウンド遊技の終了によって開始し、次のラウンド遊技の開始によって終了する。ラウンド遊技間の大入賞口の閉鎖の時間（インターバル時間）は、その閉鎖前の開放ラウンド遊技に含まれる。

【0072】

大当たりには複数の種別がある。大当たりの種別については、図9に示すとおりである。ここでは、大当たりの種別としては、大きく分けて「V通過予定大当たり」と「V非通過予定大当たり」の2つある。「V通過予定大当たり」は、その大当たり遊技中にV領域39への遊技球の通過が可能な開放パターン（V通過予定開放パターン）で開閉部材32、開閉部材37およびV開閉部材71を作動させる大当たりである。ここでは、特図停止図柄データが11H～14H、21Hの大当たりが「V通過予定大当たり」に該当する。図13に示す開閉部材32および開閉部材37の開放パターンと、図14に示すV開閉部材71の開放パターンとの組み合わせが、（開放パターン21：開放パターン31）、（開放パターン22：開放パターン33）、または（開放パターン23：開放パターン32）のとき、その大当たり遊技中にV領域39への遊技球の通過が可能となる。「V非通過予定大当たり」は、その大当たり遊技中にV領域39への遊技球の通過が不可能な開放パターン（V非通過予定開放パターン）で開閉部材32、開閉部材37およびV開閉部材71を作動させる大当たりである。ここでは、特図停止図柄データが17Hの大当たりが「V非通過予定大当たり」に該当する。図13に示す開閉部材32および開閉部材37の開放パターンと、図14に示すV開閉部材71の開放パターンとの組み合わせが（開放パターン22：開放パターン34）のとき、その大当たり遊技中にV領域39への遊技球の通過が不可能となる。上記のように、開閉部材32および開閉部材37の開放パターン22は、V通過予定開放パターンとV非通過予定開放パターンとを兼ねている。

【0073】

「V通過予定大当たり」は、「16RV通過予定大当たり」と、「16R（実質13R）V通過予定大当たり」と、「16R（実質15R）V通過予定大当たり」と、を含んでいる。「16RV通過予定大当たり」は、実質的な総ラウンド数が16Rである。1Rから13Rまでと15Rは第1大入賞口30を1R当たり最大29.5秒にわたって開放する。14Rと16Rは第2大入賞口35を1R当たり最大29.5秒にわたって開放する（図13：開放パターン21）。10Rおよび12Rでは、V開閉部材71がロング開放され（図14：開放パターン31）、第1大入賞口30内のV領域39への通過が容易に可能である。

【0074】

「16R（実質13R）V通過予定大当たり」は、総ラウンド数は16Rであるものの、実質的な総ラウンド数は13Rである。つまり、1Rから13Rまでは第1大入賞口30を1R当たり最大29.5秒にわたって開放するが、15Rでは第1大入賞口30を1R当たり0.1秒しか開放せず、また、14Rと16Rでも第2大入賞口35を1R当たり0.1秒しか開放しない（図13：開放パターン22）。従って、この「16R（実質13R）V通過予定大当たり」では14Rから16Rまでは、大入賞口の開放時間が極めて短く、賞球の見込めないラウンドとなっている。つまり、「16R（実質13R）V通過予定大当たり」は、実質13Rの大当たりとなっている。2Rおよび6Rでは、V開閉部材71がロング開放され（図14：開放パターン33）、第1大入賞口30内のV領域39への通過が容易に可能である。

【0075】

「16R（実質15R）V通過予定大当たり」は、総ラウンド数は16Rであるものの、実質的な総ラウンド数は15Rである。つまり、1Rから13Rまでと15Rは第1大入賞口30を1R当たり最大29.5秒にわたって開放し、16Rでは第2大入賞口35を1R当たり最大29.5秒にわたって開放するが、14Rでは第2大入賞口35を1R当たり0.1秒しか開放しない（図13：開放パターン23）。従って、この「16R（

実質15R) V通過予定大当たり」では14Rは、大入賞口の開放時間が極めて短く、賞球の見込めないラウンドとなっている。つまり、「16R(実質15R) V通過予定大当たり」は、実質15Rの大当たりとなっている。8Rおよび10Rでは、V開閉部材71がロング開放され(図14:開放パターン32)、第1大入賞口30内のV領域39への通過が容易に可能である。

【0076】

「V非通過予定大当たり」は、総ラウンド数は16Rであるものの、実質的な総ラウンド数は13となる開放パターン22の「16R(実質13R) V非通過予定大当たり」である。つまり、1Rから13Rまでは第1大入賞口30を1R当たり最大29.5秒にわたって開放するが、15Rでは第1大入賞口30を1R当たり0.1秒しか開放せず、また、14Rと16Rでも第2大入賞口35を1R当たり0.1秒しか開放しない(図13:開放パターン22)。従って、この「16R(実質13R) V非通過予定大当たり」では14Rから16Rまでは、大入賞口の開放時間が極めて短く、賞球の見込めないラウンドとなっている。つまり、「16R(実質13R) V非通過予定大当たり」は実質13Rの大当たりとなっている。2R, 4R, 6R, 8R, 10Rおよび12Rでは、V開閉部材71は開放されるもののその開放はショート開放であり(図14:開放パターン34)、第1大入賞口30内のV領域39に遊技球が通過することはほぼ不可能となっている。

【0077】

上記の説明から明らかなように、「16R(実質13R) V非通過予定大当たり」と「16R(実質13R) V通過予定大当たり」とは、第1大入賞口30と第2大入賞口35(開閉部材32と開閉部材37)との開放パターンが同一(開放パターン22)であり、V開閉部材71の開放パターンのみが異なっている(開放パターン34と開放パターン33)。すなわち、「16R(実質13R) V非通過予定大当たり」は、第1大入賞口30内のV領域39に遊技球が通過することはほぼ不可能になっており、当該大当たり後の遊技状態は低確時短状態(低確高ベース状態)となる。一方、「16R(実質13R) V通過予定大当たり」は、第1大入賞口30内のV領域39への遊技球の通過が容易に可能になっており、当該大当たり後の遊技状態は高確時短状態(高確高ベース状態)となる。このことから、遊技者は、「16R(実質13R) V非通過予定大当たり」と「16R(実質13R) V通過予定大当たり」とを見分けることが困難になり、当該大当たり後の遊技状態が低確時短状態(低確高ベース状態)になるか高確時短状態(高確高ベース状態)になるかが判別し難くなる。すなわち、「16R(実質13R) V通過予定大当たり」後の遊技状態は、第1大入賞口30内のV領域39に遊技球が通過した場合には、高確時短状態(高確高ベース状態)でありながら高確率になっていることが潜伏した状態(潜伏確変状態)となる。

【0078】

また、図9に示すように、第1特別図柄(特図1)の抽選における大当たりの振分率は、V通過予定大当たりが $68/128$ (約53%)、V非通過予定大当たりが $60/128$ (約47%)となっている。これに対して、第2特別図柄(特図2)の抽選において当選した大当たりは、全てV通過予定大当たりとなっている。すなわち、後述の電サポ制御の実行により入賞可能となる第2始動口21への入賞に基づく抽選により大当たりに当選した場合には、必ずV通過予定大当たりとなる。このように遊技機1では、第1始動口20に遊技球が入賞して行われる大当たり抽選(第1特別図柄の抽選)よりも、第2始動口21に遊技球が入賞して行われる大当たり抽選(第2特別図柄の抽選)の方が、遊技者にとって有利となるように設定されている。

【0079】

5. 遊技状態の説明

遊技機1の遊技状態について説明する。遊技制御用マイコン81は、特別図柄表示器41に表示する特別図柄および普通図柄表示器42に表示する普通図柄に対して、それぞれ、「確率変動制御」と「変動時間短縮制御」とを実行可能である。ここでは、遊技制御用マイコン81が特別図柄表示器41の特別図柄に対して確率変動制御している状態を「高

10

20

30

40

50

確率状態」と呼び、確率変動制御していない状態を単に「通常確率状態（非高確率状態、低確率状態）」と呼ぶ。遊技制御用マイコン81は、特別図柄の確率変動制御として、大当たりと判定される大当たり乱数値の数が通常確率状態よりも高確率状態の方が多く大当たり判定テーブル（図8（A））を用いた大当たり判定をおこなうことにより、高確率状態を実現する。従って、高確率状態は、通常確率状態よりも大当たりの確率が高くなる。つまり、遊技制御用マイコン81が特別図柄表示器41の特別図柄に対して確率変動制御を実行している場合には、確率変動制御を実行していない場合と比べて、特別図柄表示器41による特別図柄の可変表示の表示結果（停止図柄）が大当たり図柄となる確率が高くなる。

【0080】

また、遊技制御用マイコン81が特別図柄表示器41の特別図柄に対して変動時間短縮制御している状態を「時短状態」といい、変動時間短縮制御していない状態を単に「非時短状態」という。時短状態は、特別図柄の変動時間（変動表示開始時から表示結果の導出表示時までの時間）が、非時短状態よりも短くなっている。遊技制御用マイコン81は、時短状態のときに、変動時間の短い変動パターンが選択されることが非時短状態よりも多くなるように定められた変動パターン判定テーブルT6（図10、図11）を用いた変動パターンの判定をおこなう。つまり、遊技制御用マイコン81が特別図柄表示器41の特別図柄に対して変動時間短縮制御を実行している場合には、変動時間短縮制御を実行していない場合と比べて、特別図柄の可変表示の変動時間として短い変動時間が選択されやすくなる。その結果、時短状態では、特図保留の消化のペースが速くなり、始動口への有効な入賞（特図保留として記憶され得る入賞）が発生しやすくなる。これにより、スムーズな遊技の進行のもとで大当たりを狙うことができる。なお、遊技制御用マイコン81は、特別図柄表示器41の特別図柄に対して、確率変動制御と変動時間短縮制御とを同時に実行することもあるし、片方のみ実行することもある。

【0081】

遊技制御用マイコン81は、普通図柄表示器42の普通図柄に対する確率変動制御および変動時間短縮制御を、特別図柄表示器41の特別図柄に対する変動時間短縮制御に同期して実行する。すなわち、遊技制御用マイコン81は、普通図柄に対する確率変動制御および変動時間短縮制御を、時短状態の場合は実行し、非時短状態の場合には実行しない。遊技制御用マイコン81は、普通図柄の確率変動制御として、当たりと判定される普通図柄乱数値（当たり乱数値）の数が非時短状態よりも時短状態の方が多く普通図柄当たり判定テーブルT3（図8（C））を用いて、当たり判定（普通図柄の判定）をおこなう。従って、時短状態では、普通図柄通常確率状態よりも当たり確率が高くなる。つまり、遊技制御用マイコン81が普通図柄表示器42の普通図柄に対して確率変動制御を実行している場合には、確率変動制御を実行していない場合と比べて、普通図柄表示器42による普通図柄の可変表示の表示結果（停止図柄）が当たり図柄となる確率が高くなる。時短状態では、普通図柄の変動時間が非時短状態よりも短くなっている。ここでは、普通図柄の変動時間は非時短状態では30秒であるが、時短状態では1秒である（図8（D））。さらに時短状態では、補助遊技における電チュー22の開放時間が、非時短状態よりも長くなっている（図12）。すなわち、遊技制御用マイコン81は、電チュー22に対して開放時間延長制御を実行している。加えて、時短状態では、補助遊技における電チュー22の開放回数が非時短状態よりも多くなっている（図12）。すなわち、遊技制御用マイコン81は、電チュー22に対して開放回数増加制御を実行している。遊技制御用マイコン81が、普通図柄表示器42の普通図柄に対する確率変動制御と変動時間短縮制御、および、電チュー22に対する開放時間延長制御と開放回数増加制御とを実行している状況下では、これらの制御を実行していない場合と比べて、電チュー22が頻繁に開放され、第2始動口21へ遊技球が頻繁に入賞することとなる。その結果、発射球数に対する賞球数の割合であるペースが高くなる。従って、これらの制御が実行されている状態を「高ペース状態」といい、実行されていない状態を「低ペース状態」という。高ペース状態では、手持ちの遊技球を大きく減らすことなく大当たりを狙うことができる。なお、高ペース状態

10

20

30

40

50

とは、いわゆる電サポ制御（電チュー２２により第２始動口２１への入賞をサポートする制御）が実行されている状態である。高ベース状態（電サポ制御状態）は、上記の全ての制御を実行するものでなくてもよい。すなわち、普通図柄表示器４２の普通図柄に対する確率変動制御、普通図柄表示器４２の普通図柄に対する変動時間短縮制御、電チュー２２に対する開放時間延長制御、および、電チュー２２に対する開放回数増加制御のうち一つ以上の制御を実行することによって、その制御が実行されていないときよりも電チュー２２が開放され易くなっていればよい。また、高ベース状態（電サポ制御状態）は、時短状態に付随せずに独立して制御されるようにしてもよい。

【００８２】

遊技機１では、Ｖ通過予定大当たりへの当選による大当たり遊技後の遊技状態は、その大当たり遊技中にＶ領域３９への通過がなされていれば、高確率状態かつ時短状態かつ高ベース状態である。この遊技状態を特に、「高確高ベース状態」、または、「高確時短状態」という。高確高ベース状態は、所定回数（ここでは１６０回）の特別図柄の可変表示が実行されるか、または、大当たりに当選してその大当たり遊技が実行されることにより終了する。また、Ｖ非通過予定大当たりへの当選による大当たり遊技後の遊技状態は、その大当たり遊技中にＶ領域３９の通過がなされていなければ（なされることはほぼない）、通常確率状態（非高確率状態すなわち低確率の状態）かつ時短状態かつ高ベース状態である。この遊技状態を特に、「低確高ベース状態」、「低確時短状態」という。低確高ベース状態は、所定回数（ここでは１００回）の特別図柄の可変表示が実行されるか、または、大当たりに当選してその大当たり遊技が実行されることにより終了する。遊技機１を初めて遊技する場合において電源投入後の遊技状態は、通常確率状態かつ非時短状態かつ低ベース状態（非電サポ制御状態）である。この遊技状態を特に、「低確低ベース状態」という。低確低ベース状態を「通常遊技状態」、または、「低確非時短状態（単に、非時短状態とも呼ぶ）」、と称することもある。また、特別遊技（大当たり遊技）の実行中の状態を「特別遊技状態（大当たり遊技状態）」と称することとする。さらに、高確率状態および高ベース状態のうち少なくとも一方の状態に制御されている状態を、「特定遊技状態」という。

【００８３】

高確高ベース状態や低確高ベース状態といった高ベース状態では、右打ちによって右遊技領域３Ｂ（図１）へ遊技球を進入させた方が有利に遊技を進行させることができる。電サポ制御によって、低ベース状態と比べて電チュー２２が開放されやすくなっており、第１始動口２０への入賞よりも第２始動口２１への入賞の方が容易となっているためである。このことから、高ベース状態では、普通図柄抽選の契機となるゲート２８へ遊技球を通過させつつ、第２始動口２１へ遊技球を入賞させるべく右打ちをおこなう。これにより左打ちをするよりも、多数の始動入賞（始動口への入賞）を得ることができる。なお、遊技機１では、大当たり遊技中も右打ちにて遊技をおこなう。一方、低ベース状態では、左打ちによって左遊技領域３Ａ（図１）へ遊技球を進入させた方が有利に遊技を進行させることができる。電サポ制御が実行されていないため、高ベース状態と比べて電チュー２２が開放されにくくなっており、第２始動口２１への入賞よりも第１始動口２０への入賞の方が容易となっているためである。このことから、低ベース状態では、第１始動口２０へ遊技球を入賞させるべく左打ちをおこなう。これにより右打ちするよりも、多数の始動入賞を得ることができる。

【００８４】

６．遊技制御用マイコン８１の動作

図１５～図３４に基づいて主制御基板８０（図３）に設けられた遊技制御用マイコン８１の動作について説明する。遊技制御用マイコン８１の動作説明にて登場するカウンタ、フラグ、ステータス、バッファ等はメインＲＡＭ８４に設けられている。遊技制御用マイコン８１は、当否判定手段（図２３）、当否事前判定手段（図１８、図１９）に該当する。

【００８５】

〔主制御メイン処理〕

図15は、主制御メイン処理のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、遊技機1の電源がオンされると、メインROM83から主制御メイン処理を実行するためのプログラムを読み出す。主制御メイン処理では、遊技制御用マイコン81は、まず、初期設定をおこなう(ステップS001)。初期設定では、例えば、メインCPU82の設定、各種のフラグ、ステータスおよびカウンタなどのリセット等をおこなう。フラグの初期値は「0」つまり「OFF」であり、ステータスの初期値は「1」であり、カウンタの初期値は「0」である。なお、初期設定は、電源投入後に一度だけ実行され、それ以降は実行されない。

【0086】

初期設定の後、遊技制御用マイコン81は、割り込み処理の割り込みを禁止し(ステップS002)、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(ステップS003)をおこなう。この普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理では、遊技制御用マイコン81は、図7(A)で示した種々の乱数カウンタ値(大当たり乱数値、大当たり種別乱数値、リーチ乱数値、変動パターン乱数値、普通図柄乱数値)を1加算して更新する。各乱数カウンタ値は設定された上限値に達すると「0」に戻って再び加算される。なお、各乱数カウンタの初期値は「0」以外の値であってもよく、ランダムに変更されるものであってもよい。また、各乱数は、カウンタIC等からなる公知の乱数生成回路を利用して生成されるいわゆるハードウェア乱数であってもよい。

【0087】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理の後、遊技制御用マイコン81は、割り込み処理の割り込みを許可する(ステップS004)。割り込み許可中は、メイン側タイマ割り込み処理(ステップS005)の実行が可能となる。メイン側タイマ割り込み処理は、所定の周期(例えば、4msec周期)でメインCPU82に繰り返し入力される割り込みパルスに基づいて実行される。すなわち、メイン側タイマ割り込み処理は、所定周期(例えば4msec周期)ごとに実行される。そして、メイン側タイマ割り込み処理が終了してから、次にメイン側タイマ割り込み処理が開始されるまでの間に、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理による各種カウンタ値の更新処理が繰り返し実行される。なお、割り込み禁止状態のときに、メインCPU82に割り込みパルスが入力された場合は、メイン側タイマ割り込み処理はすぐには開始されず、割り込み許可がされてから開始される。

【0088】

[メイン側タイマ割り込み処理]

図16は、メイン側タイマ割り込み処理(図15:ステップS005)のフローチャートである。メイン側タイマ割り込み処理では、遊技制御用マイコン81は、まず、乱数更新処理をおこなう(ステップS101)。具体的には、遊技制御用マイコン81は、図7(A)で示した種々の乱数カウンタ値を更新する。この乱数更新処理は、上述した主制御メイン処理(図15)でおこなう普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理と同じである。すなわち、各種乱数カウンタ値の更新処理は、メイン側タイマ割り込み処理の実行期間と、それ以外の期間(メイン側タイマ割り込み処理の終了後、次のメイン側タイマ割り込み処理が開始されるまでの期間)との両方でおこなわれる。

【0089】

乱数更新処理の後、遊技制御用マイコン81は、入力処理をおこなう(ステップS102)。入力処理では、遊技制御用マイコン81は、遊技機1に取り付けられている各種センサが検出した検出信号を読み込み、入賞口の種類に応じた賞球を払い出すための払い出しデータをメインRAM84の出力バッファにセットする。各種センサとは、例えば、第1始動口センサ20a、第2始動口センサ21a、第1大入賞口センサ30a、第2大入賞口センサ35a、普通入賞口センサ27a(図3)である。

【0090】

入力処理の後、遊技制御用マイコン81は、始動口センサ検出処理(ステップS103)、普通動作処理(ステップS104)、特別動作処理(ステップS105)、V領域センサ検出処理(ステップS106)、保留球数処理(ステップS107)を順に実行する

10

20

30

40

50

。これらの処理の詳細については後述する。保留球数処理の後、遊技制御用マイコン 8 1 は、出力処理をおこなう（ステップ S 1 0 8）。出力処理では、遊技制御用マイコン 8 1 は、上述の各処理においてメイン R A M 8 4 のコマンドセット領域 8 4 a にセットしたコマンド等をサブ制御基板 9 0 に出力する。出力処理の後、遊技制御用マイコン 8 1 は、その他の処理をおこなう（ステップ S 1 0 9）。その他の処理では、例えば、後述の特図 2 保留球数に基づいて第 2 特図保留表示器 4 3 b をその数を示す表示態様に制御し、特図 1 保留球数に基づいて第 1 特図保留表示器 4 3 a をその数を示す表示態様に制御する。

【 0 0 9 1 】

〔始動口センサ検出処理〕

図 1 7 は、始動口センサ検出処理（図 1 6：ステップ S 1 0 3）のフローチャートである。遊技制御用マイコン 8 1 は、まず、ゲート 2 8 に遊技球が通過したか否かの判定をおこなう（ステップ S 2 0 1）。この判定は、ゲートセンサ 2 8 a によって遊技球が検出されたか否かによっておこなわれる。ゲート 2 8 に遊技球が通過していない場合（ステップ S 2 0 1：N O）、処理はステップ S 2 0 5 にスキップする。ゲート 2 8 に遊技球が通過した場合（ステップ S 2 0 1：Y E S）、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄保留球数が「4（上限値）」であるか否かの判定をおこなう（ステップ S 2 0 2）。普通図柄保留球数とは、普図保留の数であり、より具体的には、メイン R A M 8 4 に設けられた普図保留の数をカウントするカウンタの値である。普通図柄保留球数が「4」であれば（ステップ S 2 0 2：Y E S）、処理はステップ S 2 0 5 にスキップする。普通図柄保留球数が「3」以下の場合（ステップ S 2 0 2：N O）、普通図柄保留球数に「1」を加算した後（ステップ S 2 0 3）、普通図柄乱数取得処理をおこなう（ステップ S 2 0 4）。ここでは、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄乱数カウンタの値（図 7：ラベル—T R N D—H の値）を取得し、取得した乱数値をメイン R A M 8 4 の普図保留記憶領域 8 6 の第 1～第 4 記憶領域うち、現在の普通図柄保留球数に応じた記憶領域に格納する。

【 0 0 9 2 】

ステップ S 2 0 5 では、遊技制御用マイコン 8 1 は、第 2 始動口 2 1 に遊技球が入賞したか否かの判定をおこなう。この判定は、第 2 始動口センサ 2 1 a によって遊技球が検出されたか否かによっておこなわれる。第 2 始動口 2 1 に遊技球が入賞していない場合（ステップ S 2 0 5：N O）、処理はステップ S 2 1 0 にスキップする。遊技球が入賞した場合（ステップ S 2 0 5：Y E S）、遊技制御用マイコン 8 1 は、特図 2 保留球数が「4（上限値）」であるか否かの判定をおこなう（ステップ S 2 0 6）。特図 2 保留球数とは、第 2 特図保留の数であり、より具体的には、メイン R A M 8 4 に設けられた第 2 特図保留の数をカウントするカウンタの値である。特図 2 保留球数が「4」であれば（ステップ S 2 0 6：Y E S）、処理はステップ S 2 1 0 にスキップする。特図 2 保留球数が「3」以下の場合（ステップ S 2 0 6：N O）、特図 2 保留球数に「1」を加算した後（ステップ S 2 0 7）、特図 2 関係乱数取得処理をおこなう（ステップ S 2 0 8）。ここでは、大当たり乱数カウンタの値（図 7：ラベル—T R N D—A の値）、大当たり種別乱数カウンタの値（図 7：ラベル—T R N D—A S の値）、リーチ乱数カウンタの値（図 7：ラベル—T R N D—R C の値）、変動パターン乱数カウンタの値（図 7：ラベル—T R N D—T 1 の値）を取得する。遊技制御用マイコン 8 1 は、取得した乱数値群を第 2 特図保留記憶領域 8 5 b の第 1～第 4 記憶領域うち、現在の特図 2 保留球数に応じた記憶領域に格納する。遊技制御用マイコン 8 1 は、後述の特図 2 事前判定処理（図 1 8）のために、取得した乱数値群を第 2 特図保留記憶領域 8 5 b とは異なるバッファ（事前判定用バッファ）にも一時的に記憶（保持）させる。特図 2 関係乱数取得処理の後、遊技制御用マイコン 8 1 は、特図 2 事前判定処理をおこなう（ステップ S 2 0 9）。特図 2 事前判定処理の詳細については後述する。

【 0 0 9 3 】

ステップ S 2 1 0 では、遊技制御用マイコン 8 1 は、第 1 始動口 2 0 に遊技球が入賞したか否かの判定をおこなう。この判定は、第 1 始動口センサ 2 0 a によって遊技球が検出されたか否かによっておこなわれる。第 1 始動口 2 0 に遊技球が入賞していない場合（ス

10

20

30

40

50

テップS210:NO)、本処理を終了する。第1始動口20に遊技球が入賞した場合(ステップS210:YES)、遊技制御用マイコン81は、特図1保留球数が「4(上限値)」であるか否かの判定をおこなう(ステップS211)。特図1保留球数とは、第1特図保留の数であり、より具体的には、メインRAM84に設けられた第1特図保留の数をカウントするカウンタの値である。特図1保留球数が「4」であれば(ステップS211:YES)、本処理を終了する。特図1保留球数が「3」以下の場合(ステップS211:NO)、特図1保留球数に「1」を加算した後(ステップS212)、特図1関係乱数取得処理をおこなう(ステップS213)。ここでは、上述の特図2関係乱数取得処理(ステップS208)と同様に、大当たり乱数カウンタの値、大当たり種別乱数カウンタの値、リーチ乱数カウンタの値、変動パターン乱数カウンタの値を取得する。遊技制御用マイコン81は、取得した乱数値群を第1特図保留記憶領域85aの第1~第4記憶領域うち、現在の特図1保留球数に応じた記憶領域に格納する。遊技制御用マイコン81は、後述の特図1事前判定処理(図19)のために、取得した乱数値群を第1特図保留記憶領域85aとは異なるバッファ(事前判定用バッファ)にも一時的に記憶(保持)させる。特図1関係乱数取得処理の後、遊技制御用マイコン81は、特図1事前判定処理をおこなう(ステップS214)。特図1事前判定処理の詳細については後述する。

【0094】

〔特図2事前判定処理〕

図18は、特図2事前判定処理(図17:ステップS209)のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、確変フラグがONであるか否かの判定をおこなう(ステップS301)。確変フラグがOFFの場合(ステップS301:NO)、本処理を終える。すなわち、確変フラグがOFFの場合には、事前判定はおこなわれない。一方、確変フラグがONの場合、遊技制御用マイコン81は、大当たり判定テーブルT1(図8)のうちの高確率状態用テーブルを参照して大当たり事前判定をおこなう(ステップS302)。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、特図2関係乱数取得処理(図17:ステップS208)によって事前判定用バッファに一時的に記憶されている判定値としての大当たり乱数値を取得する。次に、遊技制御用マイコン81は、参照する大当たり判定テーブルT1(図8)と大当たり乱数値とを用いて大当たりか否かの事前判定をおこなう。ここでは、高確率状態(確変フラグがON)であるため、遊技制御用マイコン81は、大当たり判定テーブルT1のうち、高確率状態用のテーブル(大当たり判定値が「0」~「649」)を参照して大当たりか否かを事前判定する。すなわち、大当たり乱数値が「0」~「649」のとき「大当たり」と事前判定し、それ以外の値のとき「ハズレ」と事前判定する。なお、本実施形態では、後述する大当たり判定処理(図23)で用いられる大当たり判定テーブルT1を用いて事前判定をおこなっているが、他の実施形態として、大当たり判定テーブルT1とは異なる事前判定用の大当たり判定テーブルを用いて事前判定をおこなってもよい。

【0095】

大当たり事前判定の結果が「ハズレ」の場合(ステップS304:NO)、処理はステップS306にスキップする。一方、大当たり事前判定の結果が「大当たり」の場合(ステップS304:YES)、遊技制御用マイコン81は、大当たり種別事前判定をおこなう(ステップS305)。大当たり種別事前判定では、遊技制御用マイコン81は、まず、特図2関係乱数取得処理(図17:ステップS208)によって事前判定用バッファに一時的に記憶されている判定値としての大当たり種別乱数値を取得する。次に、遊技制御用マイコン81は、取得した大当たり種別乱数値と大当たり種別判定テーブルT5(図9)に基づいて、大当たり種別の事前判定をおこなう。ここでは、大当たり種別乱数値が「0」~「127」のいずれであっても「16RV通過予定大当たり」と事前判定する。なお、本実施形態では、後述する大当たり判定処理(図23)で用いられる大当たり種別判定テーブルT5を用いて事前判定をおこなっているが、他の実施形態として、大当たり種別判定テーブルT5とは異なる事前判定用の大当たり種別判定テーブルを用いて事前判定をおこなってもよい。

【0096】

ステップS306では、遊技制御用マイコン81は、変動パターン事前判定をおこなう。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、特図2関係乱数取得処理（図17：ステップS208）によって事前判定用バッファに一時的に記憶されている判定値としての変動パターン乱数値、および、リーチ乱数値を取得する。次に、ここでは、時短状態（時短フラグがON）であるため、遊技制御用マイコン81は、時短状態用の変動パターン判定テーブルT6（図11）を参照し、ステップS304の大当たり事前判定結果、リーチ乱数値から得られるリーチの有無事前判定結果、および、変動パターン乱数値から変動パターンを特定する。なお、図11の変動パターン判定テーブルT6では、保留球数の違いによって選択される変動パターンが異なる場合がある。ここでは、保留球数の違いによって選択される可能性のあるすべての変動パターンが選択されるものとする。例えば、大当たり事前判定結果、および、リーチ有無事前判定結果から、リーチ有りハズレが事前判定され、変動パターン乱数値が「60」の場合、遊技制御用マイコン81は、保留球数が「1～2」であれば選択される変動パターン「P64」と、保留球数が「3～4」であれば選択される変動パターン「P68」の2つを選択する。なお、本実施形態では、後述する変動パターン選択処理（図24、図25）で用いられる変動パターン判定テーブルT6を用いて事前判定をおこなっているが、他の実施形態として、変動パターン判定テーブルT6とは異なる事前判定用の変動パターン判定テーブルを用いて事前判定をおこなってもよい。

10

【0097】

ステップS307では、遊技制御用マイコン81は、事前判定コマンドの作成をおこなう。事前判定コマンドには、大当たり事前判定結果、（当たりの場合には大当たり種別事前判定結果）、および、変動パターン事前判定結果が含まれる。遊技制御用マイコン81は、作成した事前判定コマンドをメインRAM84のコマンドセット領域84aにセットして（ステップS308）、本処理を終える。

20

【0098】

〔特図1事前判定処理〕

図19は、特図1事前判定処理（図17：ステップS214）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、確変フラグがONであるか否かの判定をおこなう（ステップS401）。上述の特図2事前判定処理とは反対に、確変フラグがONの場合（ステップS401：YES）、本処理を終える。すなわち、確変フラグがONの場合には、事前判定はおこなわれない。一方、確変フラグがOFFの場合（ステップS401：NO）、遊技制御用マイコン81は、大当たり判定テーブルT1（図8）のうちの通常確率状態用のテーブルを参照して大当たり事前判定をおこなう（ステップS402）。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、特図1関係乱数取得処理（図17：ステップS213）によって事前判定用バッファに一時的に記憶されている判定値としての大当たり乱数値を取得する。次に、ここでは、通常確率状態（確変フラグがOFF）であるため、遊技制御用マイコン81は、大当たり判定テーブルT1のうちの通常確率状態用のテーブル（大当たり判定値が「0」～「164」）に基づいて大当たりか否かを事前判定する。すなわち、大当たり乱数値が「0」～「164」のとき「大当たり」と事前判定し、それ以外の値のとき「ハズレ」と事前判定する。なお、大当たり事前判定は、大当たり判定テーブルT1とは異なる事前判定用の大当たり判定テーブルを用いてもよい。以降、ステップS404～S408の処理は、上述の特図2事前判定処理（図18）のステップS304～S308と同様であるため説明を省略する。

30

40

【0099】

〔普通動作処理〕

図20は、普通動作処理（図16：ステップS104）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、電チュー22が作動中か否かの判定をおこなう（ステップS501）。電チュー22が作動中の場合（ステップS501：YES）、処理はステップS520に移行する。電チュー22が作動中ではない場合（ステップS501：NO）

50

、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄の変動中か否かの判定をおこなう（ステップ S 5 0 2）。普通図柄の変動中の場合（ステップ S 5 0 2：Y E S）、処理はステップ S 5 0 8 にスキップする。普通図柄の変動中ではない場合（ステップ S 5 0 2：N O）、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄の保留球数が「0」か否かの判定をおこなう（ステップ S 5 0 3）。保留球数が「0」の場合（ステップ S 5 0 3：Y E S）、本処理を終了する。保留球数が 1 以上ある場合（ステップ S 5 0 3：N O）、普通図柄保留球数を 1 ディクリメントする（ステップ S 5 0 4）。従って、普通図柄の保留球数が「0」の状態ゲート 2 8 を遊技球が通過した場合、始動口センサ検出処理（図 1 7）のステップ S 2 0 3 において、一旦、普通図柄の保留球数が「1」になり、その後、本ステップ S 5 0 4 において保留が消化され即座に普通図柄の保留球数が「0」になる。これは、特別図柄の保留球数についても同様である。すなわち、始動口センサ検出処理（図 1 7）のステップ S 2 0 7 およびステップ S 2 1 2 において、一旦、特別図柄の保留数が「1」になり、その後、後述の特別図柄待機処理（図 2 2）におけるステップ S 1 4 0 4 およびステップ S 1 4 1 0 において保留が消化され特別図柄の保留球数が「0」になる。次に、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄当たり判定テーブル T 3（図 8（C））を参照して当たり判定をおこなう（ステップ S 5 0 5）。具体的には、遊技制御用マイコン 8 1 は、まず、普図保留記憶領域 8 6 の第 1 記憶領域（普図保留の 1 個目に対応）に記憶されている判定値としての普通図柄乱数値（当たり乱数値）を読み出す。そして、普通図柄乱数値と、遊技状態（時短状態か否か）と、普通図柄当たり判定テーブル T 3 とを用いて当たりか否かを判定する。例えば、非時短状態において、普通図柄乱数値が「0」～「2」の場合には、「当たり」と判定され、普通図柄乱数値がそれ以外の場合には、「ハズレ」と判定される（図 8（C）参照）。

【0100】

次に、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄変動パターン判定テーブル T 4（図 8（D））を参照して変動パターンの選択をおこなう（ステップ S 5 0 6）。具体的には、遊技制御用マイコン 8 1 は、まず、遊技状態（時短状態か否か）の判定をおこない、遊技状態の判定結果と、普通図柄変動パターン判定テーブル T 4 とを用いて、普通図柄変動パターンとしての普通図柄の変動時間を選択する。ここでは、非時短状態のとき、普通図柄の変動時間は「30 秒」と判定され、時短状態のとき、普通図柄の変動時間が「1 秒」と判定される（図 8（D）参照）。遊技制御用マイコン 8 1 は、選択した普通図柄変動パターンをセットすることで、普通図柄の変動表示を開始させる（ステップ S 5 0 7）。

【0101】

ステップ S 5 0 8 では、遊技制御用マイコン 8 1 は、普通図柄の変動時間が経過して終了したか否かの判定をおこなう。普通図柄の変動時間とは、ステップ S 5 0 6 で選択された変動時間である（図 8（D）参照）。変動時間が終了していない場合（ステップ S 5 0 8：N O）、遊技制御用マイコン 8 1 は、本処理を終える。すなわち、普通図柄の変動表示が継続される。一方、変動時間が終了している場合（ステップ S 5 0 8：Y E S）、遊技制御用マイコン 8 1 は、変動表示を停止させ（ステップ S 5 0 9）、上述の当たり判定（ステップ S 5 0 5）において「ハズレ」の場合には（ステップ S 5 1 0：N O）、本処理を終える。一方、上述の当たり判定で「当たり」の場合には（ステップ S 5 1 0：Y E S）、遊技制御用マイコン 8 1 は、電チュー開放パターンのセットをおこなう（ステップ S 5 1 1）。電チュー 2 2 の開放パターンは、電チュー開放パターン判定テーブル T 7（図 1 2（A））を参照して選択される。具体的には、遊技制御用マイコン 8 1 は、遊技状態（時短状態か否か）の判定をおこない、遊技状態の判定結果と、電チュー開放パターン判定テーブル T 7 とを用いて電チュー 2 2 の開放パターンを選択する。ここでは、非時短状態のとき、「開放パターン 1 1」が選択され、時短状態のとき、「開放パターン 1 2」が選択される。開放パターンの選択後、遊技制御用マイコン 8 1 は、選択した開放パターンに従うように電チュー作動を開始させ（ステップ S 5 1 2）、本処理を終える。

【0102】

上述のステップ S 5 0 1 において、電チュー 2 2 が作動中の場合（ステップ S 5 0 1：

YES)、遊技制御用マイコン81は、電チュー22の閉鎖条件が成立しているか否かの判定をおこなう(ステップS520)。ここでの閉鎖条件は、電チュー22への入賞個数が規定の最大入賞個数(例えば6個)に達したこと、または、電チュー22の作動時間が経過して電チュー22を閉鎖させる時間に至ったことのいずれかが満たされていることである。電チュー22の作動時間とは、ステップS511で選択された開放パターンに対応する作動時間である。電チュー22の閉鎖条件が成立していない場合(ステップS520:NO)、遊技制御用マイコン81は、本処理を終える。一方、電チュー22の閉鎖条件が成立している場合(ステップS520:YES)、遊技制御用マイコン81は、電チュー22を閉鎖(閉塞)してその作動を停止し(ステップS521)、本処理を終える。

【0103】

〔特別動作処理〕

図21は、特別動作処理(図16:ステップS105)のフローチャートである。ここでは、特別図柄表示器41および大入賞装置(第1大入賞装置31および第2大入賞装置36)に関する処理を4つの段階に分け、各段階をそれぞれ「特別動作ステータス」の「1」、「2」、「3」、「4」と呼ぶ。遊技制御用マイコン81は、「特別動作ステータス」が「1」のとき(ステップS1301:YES)、特別図柄待機処理をおこなう(ステップS1302)。特別図柄待機処理では、大当たり判定や変動パターン選択等が実行される。「特別動作ステータス」が「2」のときには(ステップS1301:NO、ステップS1303:YES)、特別図柄変動中処理をおこなう(ステップS1304)。特別図柄変動中処理では、変動時間経過後に変動停止コマンドの出力等が実行される。「特別動作ステータス」が「3」のときには(ステップS1301、S1303:NO、ステップS1305:YES)、特別図柄確定処理をおこなう(ステップS1306)。特別図柄確定処理では、大当たり時にオープニングコマンドの出力等が実行される。「特別動作ステータス」が「4」のときには(ステップS1301、S1303、S1305:NO)、特別電動役物処理をおこなう(ステップS1308)。特別電動役物処理では、大当たり遊技が実行される。上記の各処理の詳細については後述する。なお、特別動作ステータスは、初期設定では「1」である。

【0104】

〔特別図柄待機処理〕

図22は、特別図柄待機処理(図21:ステップS1302)のフローチャートである。特別図柄待機処理では、遊技制御用マイコン81は、まず、特図2保留球数が「0」であるか否かの判定をおこなう(ステップS1401)。特図2保留球数が「0」である場合(ステップS1401:YES)、すなわち、第2特図保留記憶領域85bに、第2始動口21への入賞に起因して取得した乱数値群の記憶がない場合には、処理はステップS1407に移行する。特図2保留球数が「1」以上である場合(ステップS1401:NO)、遊技制御用マイコン81は、大当たり判定処理(ステップS1402)、および、変動パターン選択処理(ステップS1403)を実行する。これらの処理の詳細については後述する。変動パターン選択処理の後、特図2保留球数を1つディクリメントする(ステップS1404)。次に、遊技制御用マイコン81は、第2特図保留記憶領域85bの第1～第4記憶領域に格納されている保留情報(各種乱数値)の格納場所を現在の位置から読み出される側に1つシフトするとともに、第2特図保留記憶領域85bにおいて読み出される側から最も遠い場所に格納されている保留情報をクリアする(ステップS1405)。例えば、第1～第3記憶領域に保留情報が格納されている場合には、第3記憶領域に格納されている保留情報をクリアし、第1～第4記憶領域に保留情報が格納されている場合には、第4記憶領域に格納されている保留情報をクリアする。上記ステップによって、第2特図保留が保留された順に消化される。この場合、画像表示装置7の表示画面7aでは、第2特図保留記憶領域85bの第1記憶領域に対応する保留画像9B(4つの保留画像9Bのうち、一番左端の保留画像9B)が保留消化画像表示領域側にシフトし、保留消化画像9Cとして表示される。また、第2特図保留記憶領域85bの第2～第4記憶領域に対応する保留画像9B(4つの保留画像9Bのうち、左から2、3、4番目の保留画

10

20

30

40

50

像 9 B) がそれぞれ左側に 1 つシフトする (図 1)。これにより、遊技者は、第 2 特図保留が 1 つ消化されたことを認識することができる。次に、遊技制御用マイコン 8 1 は、特図 2 変動開始処理をおこなう (ステップ S 1 4 0 6)。特図 2 変動開始処理では、変動開始コマンドをメイン RAM 8 4 のコマンドセット領域 8 4 a にセットし、第 2 特別図柄の変動表示を開始させるとともに、変動時間タイマのセットをおこなう。変動時間タイマには、変動パターン選択処理で選択された変動パターンに応じて決定される変動時間がセットされる。また、遊技制御用マイコン 8 1 は、特別動作ステータスを「2」にセットする。なお、特図 2 変動開始処理でセットされる変動開始コマンド (特図 2 変動開始コマンド) には、大当たり判定処理 (ステップ S 1 4 0 2) でセットされた特図停止図柄データに関する情報や変動パターン選択処理 (ステップ S 1 4 0 3) でセットされた変動パターンに関する情報 (変動時間に関する情報を含む) が含まれている。

10

【0105】

ステップ S 1 4 0 1 において、特図 2 保留球数が「0」の場合 (ステップ S 1 4 0 1 : YES)、遊技制御用マイコン 8 1 は、特図 1 保留球数が「0」であるか否かの判定をおこなう (ステップ S 1 4 0 7)。特図 1 保留球数が「0」である場合 (ステップ S 1 4 0 7 : YES)、すなわち、第 1 特図保留記憶領域 8 5 a に、第 1 始動口 2 0 への入賞に起因して取得した乱数値群の記憶がない場合には、処理はステップ S 1 4 1 3 に移行する。特図 1 保留球数が「1」以上である場合 (ステップ S 1 4 0 7 : NO)、遊技制御用マイコン 8 1 は、大当たり判定処理 (ステップ S 1 4 0 8)、および、変動パターン選択処理 (ステップ S 1 4 0 9) を実行する。これらの処理の詳細については後述する。変動パターン選択処理の後、特図 1 保留球数を 1 つデクリメントする (ステップ S 1 4 1 0)。次に、遊技制御用マイコン 8 1 は、第 1 特図保留記憶領域 8 5 a の第 1 ~ 第 4 記憶領域に格納されている各種乱数値の格納場所を現在の位置から読み出される側に 1 つシフトするとともに、第 1 特図保留記憶領域 8 5 a において読み出される側から最も遠い場所に格納されている保留情報をクリアする (ステップ S 1 4 1 1)。上記ステップによって、第 1 特図保留が保留された順に消化される。この場合、画像表示装置 7 の表示画面 7 a では、第 1 特図保留記憶領域 8 5 a の第 1 記憶領域に対応する保留画像 9 A (4 つの保留画像 9 A のうち、一番右端の保留画像 9 A) が保留消化画像表示領域側にシフトし、保留消化画像 9 C として表示される。また、第 1 特図保留記憶領域 8 5 a の第 2 ~ 第 4 記憶領域に対応する保留画像 9 A (4 つの保留画像 9 A のうち、左から 2、3、4 番目の保留画像 9 A) がそれぞれ右側に 1 つシフトする (図 1)。これにより、遊技者は、第 1 特図保留が 1 つ消化されたことを認識することができる。次に、遊技制御用マイコン 8 1 は、特図 1 変動開始処理をおこなう (ステップ S 1 4 1 2)。特図 1 変動開始処理では、変動開始コマンドをメイン RAM 8 4 のコマンドセット領域 8 4 a にセットし、第 1 特別図柄の変動表示を開始させるとともに、変動時間タイマのセットをおこなう。変動時間タイマには、変動パターン選択処理で選択された変動パターンに応じて決定される変動時間がセットされる。また、遊技制御用マイコン 8 1 は、特別動作ステータスを「2」にセットする (ステップ S 1 4 0 6)。なお、特図 1 変動開始処理でセットされる変動開始コマンド (特図 1 変動開始コマンド) には、大当たり判定処理 (ステップ S 1 4 0 8) でセットされた特図停止図柄データに関する情報や変動パターン選択処理 (ステップ S 1 4 0 9) でセットされた変動パターンに関する情報 (変動時間に関する情報を含む) が含まれている。

20

30

40

【0106】

ステップ S 1 4 0 7 において、特図 1 保留球数が「0」の場合 (ステップ S 1 4 0 7 : YES)、遊技制御用マイコン 8 1 は、画像表示装置 7 の表示画面 7 a が待機画面か否かの判定をおこなう (ステップ S 1 4 1 3)。待機画面とは、客待ち用のデモ画面のことである。遊技制御用マイコン 8 1 は、例えば、客待ち用のデモ画面表示フラグの ON / OFF によって判定してもよい。待機画面である場合 (ステップ S 1 4 1 3 : YES)、本処理を終了する。待機画面でない場合 (ステップ S 1 4 1 3 : NO)、遊技制御用マイコン 8 1 は、所定の待機時間の経過をまって、待機場面を表示させるための客待ち待機コマンドをメイン RAM 8 4 のコマンドセット領域 8 4 a にセットし (ステップ S 1 4 1 4)、

50

本処理を終える。上記のように、本実施形態の特別図柄待機処理によれば、第1特図保留に基づく特別図柄の変動表示は、第2特図保留が「0」の場合に限って実行される。すなわち、第2特図保留の消化は、第1特図保留の消化に優先して実行される。また、本実施形態の大当たり種別判定テーブルT5によれば、第2特図保留に基づく抽選の方が、第1特図保留に基づく抽選よりも遊技者にとって利益の大きい大当たり（V通過予定大当たり）に当選しやすくなっている。

【0107】

〔大当たり判定処理〕

図23は、大当たり判定処理（図22：ステップS1402、S1408）のフローチャートである。特図2の大当たり判定処理（ステップS1402）と特図1の大当たり判定処理（ステップS1408）は処理の流れが同様であるため、まとめて説明する。大当たり判定処理では、まず、遊技制御用マイコン81は、確変フラグがONであるか否かの判定をおこなう（ステップS1501）。確変フラグがONの場合（ステップS1501：YES）、大当たり判定テーブルT1（図8）のうちの高確率状態用テーブルを参照して大当たり判定をおこなう（ステップS1502）。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、判定値としての大当たり乱数値の読み出しをおこなう。例えば、特図2の大当たり判定処理では、第2特図保留記憶領域85bの第1記憶領域（第2特図保留の1個目に対応）に記憶されている大当たり乱数値を読み出す。特図1の大当たり判定処理では、第1特図保留記憶領域85aの第1記憶領域（第1特図保留の1個目に対応）に記憶されている大当たり乱数値を読み出す。次に、遊技制御用マイコン81は、参照する大当たり判定テーブルT1と大当たり乱数値とを用いて大当たりか否かを判定する。ここでは、高確率状態（確変フラグがON）であるため、大当たり判定テーブルT1のうち、高確率状態用のテーブル（大当たり判定値が「0」～「649」）に基づいて大当たりか否かを判定する。

【0108】

ステップS1501において、確変フラグがOFFの場合（ステップS1501：NO）、遊技制御用マイコン81は、大当たり判定テーブルT1（図8）のうちの通常確率状態用のテーブルを参照して大当たり判定をおこなう（ステップS1504）。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、ステップS1502と同様の方法によって大当たり乱数値の読み出しをおこなう。次に、ここでは、通常確率状態（確変フラグがOFF）であるため、大当たり判定テーブルT1のうち、通常確率状態用のテーブル（大当たり判定値が「0」～「164」）に基づいて大当たりか否かを判定する。

【0109】

大当たり判定の結果が「大当たり」の場合（ステップS1503、S1505：YES）、遊技制御用マイコン81は、大当たりフラグをONにするとともに（ステップS1506）、大当たり種別の判定をおこなう（ステップS1507）。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、判定値としての大当たり種別乱数値の読み出しをおこなう。例えば、特図2の大当たり判定処理では、第2特図保留記憶領域85bの第1記憶領域に記憶されている大当たり種別乱数値を読み出す。特図1の大当たり判定処理では、第1特図保留記憶領域85aの第1記憶領域に記憶されている大当たり種別乱数値を読み出す。次に、遊技制御用マイコン81は、読み出した大当たり種別乱数値と大当たり種別判定テーブルT5（図9）に基づいて、大当たり種別の判定をおこなう。大当たり種別の判定後、特定された大当たり種別に応じた特図停止図柄データ（図9）をメインRAM84に設けた大当たり種別バッファにセットして（ステップS1520）、本処理を終了する。一方、ステップS1503またはステップS1505において、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合、ハズレ図柄に応じた特図停止図柄データ（01H）をメインRAM84に設けた大当たり種別バッファにセットして（ステップS1520）、本処理を終了する。

【0110】

〔変動パターン選択処理〕

図24および図25は、変動パターン選択処理（図22：ステップS1403、S14

10

20

30

40

50

09) のフローチャートである。特図2の変動パターン選択処理(ステップS1403)と特図1の変動パターン選択処理(ステップS1409)は処理の流れが同様であるため、まとめて説明する。変動パターン選択処理では、まず、遊技制御用マイコン81は、遊技状態が時短状態であるか否かの判定をおこなう(ステップS1600)。時短状態であるか否かの判定は、時短フラグがONか否かによっておこなわれる。時短状態である場合(ステップS1600: YES)、処理はステップS1612に移行する。時短状態でない場合(ステップS1600: NO)、遊技制御用マイコン81は、大当たりフラグがONか否かの判定をおこなう(ステップS1602)。大当たりフラグがOFFの場合(ステップS1602: NO)、処理はステップS1607に移行する。大当たりフラグがONの場合(ステップS1602: YES)、遊技制御用マイコン81は、大当たりが特図2か否かの判定をおこなう(ステップS1603)。大当たりが特図2の場合(ステップS1603: YES)、大当たり種別が必ずV通過予定大当たりとなるため、処理はステップS1605にスキップする。大当たりが特図1の場合(ステップS1603: NO)、遊技制御用マイコン81は、大当たり種別がV通過予定大当たりか否かの判定をおこなう(ステップS1604)、大当たり種別の判定は、メインRAM84にセットされている特図停止図柄データに基づいておこなわれる。

【0111】

大当たり種別がV通過予定大当たりの場合(ステップS1604: YES)、遊技制御用マイコン81は、変動パターン判定テーブルT6(図10)のうち、非時短状態V通過予定大当たり用のテーブルを参照して変動パターンの選択をおこなう(ステップS1605)。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、判定値としての変動パターン乱数値の読み出しをおこなう。例えば、特図2の変動パターン選択処理では、第2特図保留記憶領域85bの第1記憶領域(第2特図保留の1個目に対応)に記憶されている変動パターン乱数値を読み出す。特図1の変動パターン選択処理では、第1特図保留記憶領域85aの第1記憶領域(第1特図保留の1個目に対応)に記憶されている変動パターン乱数値を読み出す。次に、遊技制御用マイコン81は、変動パターン判定テーブルT6と変動パターン乱数値とを用いて変動パターンを選択する。ここでは、非時短状態V通過予定大当たり用のテーブルとして、図10に示す非時短状態用の変動パターン判定テーブルT6のうち、V通過予定大当たりに該当する部分(特図1では変動パターンが「P1」～「P3」の部分、特図2では変動パターンが「P21」～「P23」の部分)が参照される(アドレスがセットされる)。読み出した変動パターン乱数値から、特図1では変動パターンとして「P1」～「P3」のいずれか、特図2では「P21」～「P23」のいずれかが選択される。

【0112】

大当たり種別がV非通過予定大当たりの場合(ステップS1604: NO)、遊技制御用マイコン81は、変動パターン判定テーブルT6(図10)のうち、非時短状態V非通過予定大当たり用のテーブルを参照して変動パターンの選択をおこなう(ステップS1606)。ここでは、非時短状態V非通過予定大当たり用のテーブルとして、図10に示す非時短状態用の変動パターン判定テーブルT6のうち、V非通過予定大当たりに該当する部分(「P4」～「P6」の部分)が参照される。読み出した変動パターン乱数値から、変動パターンとして「P4」～「P6」のいずれかが選択される。

【0113】

ステップS1602において、大当たりフラグがOFFの場合(ステップS1602: NO)、遊技制御用マイコン81は、リーチ乱数値がリーチ成立乱数値か否かの判定をおこなう(ステップS1607)。具体的には、遊技制御用マイコン81は、まず、判定値としてのリーチ乱数値の読み出しをおこなう。特図2の変動パターン選択処理では、第2特図保留記憶領域85bの第1記憶領域(第2特図保留の1個目に対応)に記憶されているリーチ乱数値を読み出す。特図1の変動パターン選択処理では、第1特図保留記憶領域85aの第1記憶領域(第1特図保留の1個目に対応)に記憶されているリーチ乱数値を読み出す。次に、遊技制御用マイコン81は、リーチ判定テーブルT2(図8(B))と

、リーチ乱数値とを用いてリーチの有無を判定する。ここでは、非時短状態であるため、リーチ判定テーブルT2のうち、非時短状態用のテーブル（リーチ有り判定値（リーチ成立乱数値）が「0」～「13」の部分）に基づいてリーチの有無を判定する。

【0114】

リーチ乱数値がリーチ成立乱数値である場合（ステップS1607：YES）、すなわち、リーチ有りハズレの場合には、遊技制御用マイコン81は、変動パターン判定テーブルT6（図10）のうち、非時短状態リーチ有りハズレ用のテーブルを参照して変動パターンの選択をおこなう（ステップS1608）。ここでは、非時短状態リーチ有りハズレ用のテーブルとして、図10に示す非時短状態用の変動パターン判定テーブルT6のうち、リーチ有りハズレに該当する部分（特図1では変動パターンが「P7」～「P14」の部分、特図2では変動パターンが「P24」～「P31」の部分）が参照される。特図1では、読み出した変動パターン乱数値と、現在の特図1保留球数（1～4）から、変動パターンとして「P7」～「P14」のいずれかが選択される。特図2では、読み出した変動パターン乱数値と、現在の特図2保留球数（1～4）から、変動パターンとして「P24」～「P31」のいずれかが選択される。保留球数によって選択される変動パターンが変わるため、保留球数に応じた短縮変動の機能が働くようになっている。すなわち、特図1および特図2のいずれにおいても、保留球数が「3」～「4」であるときは、保留球数が「1」～「2」であるときに比べて変動時間の短い変動パターンがより多く選択されるようになっている。これにより、保留球数が多いときに特図保留の消化スピードを速めることができる。

【0115】

リーチ乱数値がリーチ成立乱数値ではない場合（ステップS1607：NO）、すなわち、リーチ無しハズレの場合には、遊技制御用マイコン81は、変動パターン判定テーブルT6（図10）のうち、非時短状態リーチ無しハズレ用のテーブルを参照して変動パターンの選択をおこなう（ステップS1609）。ここでは、非時短状態リーチ無しハズレ用のテーブルとして、図10に示す非時短状態用の変動パターン判定テーブルT6のうち、リーチ無しハズレに該当する部分（特図1では変動パターンが「P15」～「P16」の部分、特図2では変動パターンが「P32」～「P33」の部分）が参照される。特図1では、読み出した変動パターン乱数値と、現在の特図1保留球数（1～4）から、変動パターンとして「P15」、「P16」のいずれかが選択される。特図2では、読み出した変動パターン乱数値と、現在の特図2保留球数（1～4）から、変動パターンとして「P32」、「P33」のいずれかが選択される。ここでも、保留球数によって選択される変動パターンが変わるため、保留球数に応じた短縮変動の機能が働くようになっている。

【0116】

ステップS1600において、遊技状態が時短状態であると判定した場合には、遊技制御用マイコン81は、大当たりフラグがONか否かの判定をおこなう（図25：ステップS1612）。以後、ステップS1613～S1619の処理は、以下の点を除いては上述のステップS1603～S1609の処理と同様であるため説明を省略する。ステップS1613～S1619の処理とステップS1603～S1609の処理との違いは、ステップS1615、S1616、S1618、S1619において、参照される変動パターン判定テーブルT6の部分が既述のステップS1605、S1606、S1608、S1609と異なる。具体的には、S1605、S1606、S1608、S1609では、非時短状態用の変動パターン判定テーブルT6（図10）が参照されるのに対して、ステップS1615、S1616、S1618、S1619では、時短状態用の変動パターン判定テーブルT6（図11）が参照される。例えば、ステップS1615の場合、すなわち、大当たり種別がV通過予定大当たりの場合、図11に示す時短状態用の変動パターン判定テーブルT6のうち、V通過予定大当たりに該当する部分（特図1では変動パターンが「P41」～「P43」の部分、特図2では変動パターンが「P61」～「P63」の部分）が参照される。読み出した変動パターン乱数値から、特図1では変動パターンとして「P41」～「P43」のいずれか、特図2では「P61」～「P63」のいずれか

が選択される。また、例えば、ステップ S 1 6 1 6 の場合、すなわち、大当たり種別が V 非通過予定大当たりの場合、図 1 1 に示す時短状態用の変動パターン判定テーブル T 6 のうち、V 非通過予定大当たりに該当する部分（「P 4 4」～「P 4 6」の部分）が参照される。読み出した変動パターン乱数値から、変動パターンとして「P 4 4」～「P 4 6」のいずれかが選択される。

【0 1 1 7】

上記のように変動パターンの選択をおこなった後、遊技制御用マイコン 8 1 は、選択した変動パターンをセットして（ステップ S 1 6 3 0）本処理を終える。セットされた変動パターンの情報は変動開始コマンドに含められて、出力処理（図 1 6：ステップ S 1 0 8）においてサブ制御基板 9 0 に送信される。これにより特別図柄の変動表示が開始される。

【0 1 1 8】

〔特別図柄変動中処理〕

図 2 6 は、特別図柄変動中処理（図 2 1：ステップ S 1 3 0 4）のフローチャートである。遊技制御用マイコン 8 1 は、まず、特別図柄の変動時間が経過して終了したか否かの判定をおこなう（ステップ S 1 7 0 1）。特別図柄の変動時間とは、上述の変動パターン選択処理（図 2 4、図 2 5）で選択された変動パターンに応じて決定される変動時間である。変動時間が終了していない場合（ステップ S 1 7 0 1：NO）、本処理を終える。すなわち、特別図柄待機処理（図 2 2）のステップ S 1 4 0 6 または S 1 4 1 2 において開始された特別図柄の変動表示が継続される。一方、変動時間が終了している場合（ステップ S 1 7 0 1：YES）、変動停止コマンドをセットし（ステップ S 1 7 0 2）、特別動作ステータスを「3」にセットする（ステップ S 1 7 0 3）。また、遊技制御用マイコン 8 1 は、変動停止にともなうその他の処理をおこなう（ステップ S 1 7 0 4）。例えば、遊技制御用マイコン 8 1 は、特別図柄の変動表示を、セットされている特図停止図柄データに応じた図柄で停止させる処理等をおこなう。その後、遊技制御用マイコン 8 1 は、本処理を終える。

【0 1 1 9】

〔特別図柄確定処理〕

図 2 7 は、特別図柄確定処理（図 2 1：ステップ S 1 3 0 6）のフローチャートである。遊技制御用マイコン 8 1 は、まず、遊技状態管理処理をおこなう（ステップ S 1 8 0 1）。遊技状態管理処理とは、ST 回数や時短回数を管理するための処理であり内容について後述する。遊技状態管理処理の後、大当たりフラグが ON であるか否かの判定をおこなう（ステップ S 1 8 0 2）。大当たりフラグが OFF である場合（ステップ S 1 8 0 2：NO）、遊技制御用マイコン 8 1 は、特別動作ステータスを「1」にセットして（ステップ S 1 8 0 8）、本処理を終了する。これにより、大当たり遊技は開始されず、再度、特別図柄待機処理（図 2 2）に移行し、次の保留に対する大当たり判定等が実行される。

【0 1 2 0】

大当たりフラグが ON の場合（ステップ S 1 8 0 2：YES）、遊技制御用マイコン 8 1 は、当選した大当たりの種別に応じた大入賞口および V 開閉部材の開放パターンのセットをおこなう（ステップ S 1 8 0 3）。具体的には、遊技制御用マイコン 8 1 は、大入賞口開放パターン判定テーブル T 8（図 1 3）を参照して、特図停止図柄データから大入賞口の開放パターンを決定し、決定した開放パターンをセットする。例えば、特図停止図柄データが「1 1 H」の場合には、大入賞口の開放パターンとして「開放パターン 2 1」がセットされる。また、遊技制御用マイコン 8 1 は、V 開閉部材開放パターン判定テーブル T 9（図 1 4）を参照して、特図停止図柄データから V 開閉部材 7 1 の開放パターンを決定し、決定した開放パターンをセットする。例えば、特図停止図柄データが「1 1 H」の場合には、V 開閉部材 7 1 の開放パターンとして「開放パターン 3 1」がセットされる。大入賞口および V 開閉部材の開放パターンのセットとあわせてラウンドカウンタの値を、当選した大当たりの種類に応じたラウンド数にセットする。ラウンドカウンタとは、大当たり遊技中に実行した単位開放遊技（ラウンド遊技）の回数をカウントするものである。ここでは、ラウンドカウンタには「1 6」がセットされる（図 1 3（B））。

10

20

30

40

50

【0121】

開放パターンのセット後、遊技制御用マイコン81は、遊技状態リセット処理をおこなう（ステップS1804）。遊技状態リセット処理とは、確変フラグや時短フラグをリセットする（OFFに返す）ための処理であり内容について後述する。遊技状態リセット処理の後、大当たり遊技を開始するために、大当たりのオープニングコマンドをセットし（ステップS1805）、オープニングを開始する（ステップS1806）。その後、特別動作ステータスを「4」にセットして（ステップS1807）、本処理を終える。

【0122】

〔遊技状態管理処理〕

図28は、遊技状態管理処理（図27：ステップS1801）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、確変フラグがONか否かの判定をおこなう（ステップS2001）。確変フラグがOFFの場合（ステップS2001：NO）、処理はステップS2005にスキップする。確変フラグがONの場合（ステップS2001：YES）、確変カウンタの値を1デクリメントする（ステップS2002）。確変カウンタとは、高確率状態中に実行した特別図柄の変動回数をカウントするものである。ここでは、高確率状態への移行時に確変カウンタに「160」がセットされる。遊技制御用マイコン81は、確変カウンタを1デクリメントした結果、カウンタの値が「0」になったか否かの判定をおこなう（ステップS2003）。確変カウンタの値が「0」ではない場合（ステップS2003：NO）、処理はステップS2005にスキップする。確変カウンタの値が「0」の場合（ステップS2003：YES）、確変フラグをOFFに切り替える（ステップS2004）。

【0123】

ステップS2005では、遊技制御用マイコン81は、時短フラグがONか否かの判定をおこなう。時短フラグがOFFの場合（ステップS2005：NO）、処理はステップS2009にスキップする。時短フラグがONの場合（ステップS2005：YES）、時短カウンタの値を1デクリメントする（ステップS2006）。時短カウンタとは、時短状態中に実行した特別図柄の変動回数をカウントするものである。ここでは、時短状態への移行時に、低確高ベース状態であれば時短カウンタに「100」がセットされ、高確高ベース状態であれば時短カウンタに「160」がセットされる。遊技制御用マイコン81は、時短カウンタを1デクリメントした結果、カウンタの値が「0」になったか否かの判定をおこなう（ステップS2007）。時短カウンタの値が「0」ではない場合（ステップS2007：NO）、処理はステップS2009にスキップする。時短カウンタの値が「0」の場合（ステップS2007：YES）、時短フラグをOFFに切り替える（ステップS2008）。

【0124】

ステップS2009では、遊技制御用マイコン81は、遊技状態指定コマンドをメインRAM84のコマンドセット領域（出力バッファ）84aにセットして、本処理を終える。遊技状態指定コマンドには、今設定した現在の遊技状態に関する情報（確変状態か否か、確変カウンタ値、時短状態か否か、時短カウンタ値など）が含まれている。

【0125】

〔遊技状態リセット処理〕

図29は、遊技状態リセット処理（図27：ステップS1804）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、確変フラグがONか否かの判定をおこなう（ステップS2101）。確変フラグがOFFの場合（ステップS2101：NO）、処理はステップS2103にスキップする。確変フラグがONの場合（ステップS2101：YES）、確変フラグをOFFに切り替える（ステップS2102）。ステップS2103において、遊技制御用マイコン81は、時短フラグがONか否かの判定をおこなう。時短フラグがOFFの場合（ステップS2103：NO）、本処理を終える。時短フラグがONの場合（ステップS2103：YES）、時短フラグをOFFに切り替える（ステップS2104）。つまり、大当たり遊技の実行中は、非高確率状態かつ非時短状態となる。

遊技機 1 では、非時短状態時は常に低ベース状態となるため、大当たり遊技の実行中は低ベース状態となる。

【0126】

〔特別電動役物処理〕

図 30 は、特別電動役物処理（図 21：ステップ S 1308）のフローチャートである。遊技制御用マイコン 81 は、まず、大当たり終了フラグが ON か否かの判定をおこなう（ステップ S 2200）。「大当たり終了フラグ」とは、実行中の大当たり遊技において、開放パターンに基づく大入賞装置（第 1 大入賞装置 31 および第 2 大入賞装置 36）の開放がすべて終了したことを示すフラグである。大当たり終了フラグが ON の場合（ステップ S 2200：YES）、処理はステップ S 2230 に移行する。大当たり終了フラグが OFF の場合（ステップ S 2200：NO）、V 開閉部材 71 を作動させるための V 開閉部材動作処理をおこなう（ステップ S 2201）。本実施形態の V 開閉部材 71 は、第 1 大入賞口 30 に所定個数の遊技球が入賞した時に作動するように構成されており、V 開閉部材動作処理では、V 開閉部材開放パターン T9 に応じて所定番目の遊技球の入賞時に V 開閉部材 71 を所定期間開放させる。V 開閉部材動作処理の詳細については後述する。V 開閉部材動作処理の後、遊技制御用マイコン 81 は、大入賞口（第 1 大入賞口 30 および第 2 大入賞口 35）が開放中か否かの判定をおこなう（ステップ S 2202）。開放中の場合（ステップ S 2202：YES）、処理はステップ S 2210 に移行する。

10

【0127】

大入賞口が開放中ではない場合（ステップ S 2202：NO）、遊技制御用マイコン 81 は、大入賞口を開放する時間（タイミング）か否かの判定をおこなう（ステップ S 2203）。大入賞口を開放する時間には、例えば、大当たりのオープニングの時間が経過して初回のラウンド遊技における開放開始の時期に至ったときや、開放後に一時的に閉鎖した大入賞口を再び開放させるまでのインターバル時間（閉鎖時間）が経過して、再度の開放開始の時期に至ったときが含まれる。大入賞口を開放する時間ではない場合（ステップ S 2203：NO）、処理はステップ S 2220 に移行する。

20

【0128】

大入賞口を開放する時間（タイミング）である場合（ステップ S 2203：YES）、遊技制御用マイコン 81 は、大入賞口開放処理をおこなう（ステップ S 2207）。具体的には、遊技制御用マイコン 81 は、大当たりの種類に応じた開放パターン（図 13）に従って大入賞口（第 1 大入賞口 30 または第 2 大入賞口 35）を開放させる。大入賞口開放処理の後、遊技制御用マイコン 81 は、ラウンド指定コマンドのセットをおこなう（ステップ S 2208）。ラウンド指定コマンドには、実行中の大当たり遊技のラウンド数に関する情報が含まれており、遊技制御用マイコン 81 は、ラウンド指定コマンドをメイン RAM 84 の出力バッファにセットする。なお、本実施形態では、1 回のラウンド遊技中に複数回の大入賞口の開放がなされることがない。しかし、他の実施形態として、1 回のラウンド遊技中に複数回の大入賞口の開放がなされる場合には、遊技制御用マイコン 81 は、大入賞口の開放が 1 回のラウンド中での初めての開放か否かを判定し、初めての開放の場合のみ、ラウンド指定コマンドをセットするようにしてもよい。ラウンド指定コマンドをセットした後、本処理を終える。

30

【0129】

上述のステップ S 2202 において、大入賞口の開放中の場合（ステップ S 2202：YES）、遊技制御用マイコン 81 は、大入賞口の閉鎖条件が成立しているか否かの判定をおこなう（ステップ S 2210）。ここでの閉鎖条件は、そのラウンド遊技における大入賞口への入賞個数が規定の最大入賞個数（例えば、1 ラウンドあたり 9 個）に達したこと、または、大入賞口を閉鎖させる時間に至ったこと（すなわち、大入賞口を開放してから所定の開放時間（図 13）が経過したこと）のいずれかが満たされていることである。そして、大入賞口の閉鎖条件が成立していなければ（ステップ S 2210：NO）、遊技制御用マイコン 81 は、本処理を終える。一方、大入賞口の閉鎖条件が成立している場合には（ステップ S 2210：YES）、遊技制御用マイコン 81 は、大入賞口を閉鎖（閉

40

50

塞)する(ステップS 2 2 1 1)。

【0 1 3 0】

上述のステップS 2 2 0 3において、大入賞口を開放する時間(タイミング)ではない場合、遊技制御用マイコン8 1は、当該ラウンド遊技が終了しているか否かの判定をおこなう(ステップS 2 2 2 0)。ここでは1回のラウンドは、大入賞口が閉鎖してから所定の時間(ここでは2秒)経過後に終了する。上述のように、ラウンド遊技間の大入賞口の閉鎖の時間(インターバル時間)は、その閉鎖前の開放ラウンド遊技に含まれるためである。遊技制御用マイコン8 1は、大入賞口を閉鎖してから所定のインターバル時間が経過したか否かによって、当該ラウンド遊技が終了しているか否かの判定をおこなう。当該ラウンド遊技が終了していない場合(ステップS 2 2 2 0: NO)、遊技制御用マイコン8 1は本処理を終了する。

10

【0 1 3 1】

当該ラウンド遊技が終了している場合(ステップS 2 2 2 0: YES)、遊技制御用マイコン8 1は、ラウンドカウンタの値を1デクリメントし(ステップS 2 2 2 1)、ラウンドカウンタの値が「0」であるか否かの判定をおこなう(ステップS 2 2 2 6)。ラウンドカウンタの値が「0」でない場合(ステップS 2 2 2 6: NO)、すなわち、規定のラウンド遊技回数をまだ消化していない場合、次のラウンド遊技を開始するために本処理を終える。一方、ラウンドカウンタの値が「0」の場合、大当たり遊技を終了させる大当たり終了処理として、大当たりのエンディングコマンドをセットするとともに(ステップS 2 2 2 7)、大当たりのエンディングを開始する(ステップS 2 2 2 8)。本実施形態では、「1 6 R(実質1 3 R) V通過予定大当たり」でV領域3 9への遊技球の通過があった場合のエンディング時間(例えば1 8秒)は、「1 6 R(実質1 3 R) V非通過予定大当たり」でV領域3 9への遊技球の通過が無かった場合のエンディング時間と同じ長さになっている。これにより、遊技者に対して、「1 6 R(実質1 3 R) V通過予定大当たり」でV領域3 9への遊技球の通過があった場合であっても、「1 6 R(実質1 3 R) V非通過予定大当たり」でV領域3 9への遊技球の通過が無かったと認識させることができる。なお、「1 6 R(実質1 3 R) V通過予定大当たり」でV領域3 9への遊技球の通過が無かった場合のエンディング時間もこれらと同じ長さになっている。大当たりのエンディングの開始後、大当たり終了フラグをONにセットして(ステップS 2 2 2 9)、本処理を終える。

20

30

【0 1 3 2】

上述のステップS 2 2 0 0において、大当たり終了フラグがONの場合(ステップS 2 2 0 0: YES)、最終ラウンドが終了しているので、遊技制御用マイコン8 1は、大当たりのエンディングの時間が経過したか否かを判定する(ステップS 2 2 3 0)。エンディング時間が経過していない場合(ステップS 2 2 3 0: NO)、遊技制御用マイコン8 1は、本処理を終える。一方、エンディング時間が経過している場合(ステップS 2 2 3 0: YES)、遊技制御用マイコン8 1は、大当たり終了フラグをOFFにするとともに(ステップS 2 2 3 1)、大当たりフラグをOFFにし(ステップS 2 2 3 2)、特別動作ステータスを「1」にセットする(ステップS 2 2 3 3)。これにより、次の特別動作処理において、再び特別図柄待機処理(ステップS 1 3 0 2)が実行される。その後、後述の遊技状態設定処理(ステップS 2 2 3 4)を実行し本処理を終える。

40

【0 1 3 3】

〔V開閉部材動作処理〕

図3 1は、V開閉部材動作処理(図3 0: ステップS 2 2 0 1)のフローチャートである。遊技制御用マイコン8 1は、まず、現在のラウンド遊技(当該ラウンド)がV開閉部材7 1の開放ラウンドであるか否かの判定をおこなう(ステップS 2 5 0 1)。ここでは、第2ラウンド、第4ラウンド、第6ラウンド、第8ラウンド、第10ラウンド、第12ラウンドがV開閉部材7 1の開放ラウンドに該当する。遊技制御用マイコン8 1は、ラウンドカウンタの値が「1 5」、「1 3」、「1 1」、「9」、「7」、「5」のとき、開放ラウンドであると判定することができる。V開閉部材7 1の開放ラウンドではない場合

50

(ステップS2501:NO)、本処理を終える。当該ラウンドにおいてV開閉部材71を作動させる必要がないためである。

【0134】

V開閉部材71の開放ラウンドである場合(ステップS2501:YES)、遊技制御用マイコン81は、第1入賞フラグがONか否かの判定をおこなう(ステップS2502)。「第1入賞フラグ」とは、当該ラウンドにおいて、第1大入賞口30に1球目の入賞があったことを示すフラグである。第1入賞フラグがONの場合(ステップS2502:YES)、処理はステップS2520に移行する。第1入賞フラグがOFFの場合(ステップS2502:NO)、1球目の入賞を検出したか否かの判定をおこなう(ステップS2503)。1球目の入賞を検出していない場合(ステップS2503:NO)、本処理を終える。当該ラウンドにおいて第1大入賞口30への入賞がまだなく、V開閉部材71を作動させる必要がないためである。

【0135】

1球目の入賞を検出した場合(ステップS2503:YES)、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71をショート開放させるとともに、V有効期間設定処理をおこなう(ステップS2504)。V開閉部材71をショート開放させるのは、V開閉部材71の開放パターン(図14(B))では、「ショート開放」、「ロング開放」のいずれの場合であっても、1球目の入賞時にショート開放(ここでは0.1秒)を実行させるためである。なお、V開閉部材71のショート開放では、V開閉部材71の開放時間が非常に短いため、第1大入賞口30に入賞した1球目の遊技球は、V領域39を通過せずに非V領域70を通過するように構成されている。V有効期間設定処理では、V開閉部材71の開放中、および、V開閉部材71の閉鎖後の数秒間を、V領域センサ39aによる遊技球の検知を有効とするV有効期間に設定する。ここでは、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71の開放パターン(図14(B))に従って、V開閉部材71をショート開放(ここでは0.1秒)させ、V開閉部材71の開放中および閉鎖後1秒間をV有効期間に設定する。遊技制御用マイコン81は、V有効期間以外の期間(大当たり遊技を実行していないときも含む)を、V領域センサ39aによる遊技球の検知を無効と判定するV無効期間に設定している。ここで「V領域センサ39aによる遊技球の検知を有効と判定する」とは、V領域センサ39aによる遊技球の検知に基づいてVフラグをONにすることを意味する(後述のV領域センサ検出処理(図33)参照)。また、「V領域センサ39aによる遊技球の検知を無効と判定する」とは、V領域センサ39aによる遊技球の検知があってもVフラグをONにしないことを意味する。なお、V有効期間にV開閉部材71の閉鎖後の数秒間(球ハケ期間)を含めているのは、V開閉部材71とV領域センサ39aとの間には物理的な距離があるため、V開閉部材71の閉鎖直前にV領域39側に入球した遊技球がV領域センサ39aによって検知されるまでの期間を考慮したものである。すなわち、ここでは、V有効期間中のV通過(V領域39への遊技球の通過)の検知時のみVフラグをONし、V有効期間外(V無効期間)のV通過検知時にはVフラグをONしないこととしている。なお、VフラグがONである場合には、確変フラグがONされる、すなわち、大当たり遊技後の遊技状態が高確率状態に設定される(後述の遊技状態設定処理(図32)参照)。このようにすることで、不正行為によるV通過に基づいてVフラグがONされ、高確率状態に設定されることのないようにしている。V開閉部材71のショート開放およびV有効期間設定処理の後、遊技制御用マイコン81は、第1入賞フラグをONに切り替え(ステップS2505)、ステップS2540に移行する。

【0136】

ステップS2502において、第1入賞フラグがONの場合、すなわち、既に1球目の入賞があった場合(ステップS2502:YES)、遊技制御用マイコン81は、第2入賞フラグがONか否かの判定をおこなう(ステップS2520)。「第2入賞フラグ」とは、当該ラウンドのV開閉部材71の開放パターンがロング開放の場合には、第1大入賞口30に2球目の入賞があったことを示すフラグである。第2入賞フラグがONの場合(ステップS2520:YES)、処理はステップS2540に移行する。第2入賞フラグ

がOFFの場合（ステップS2520：NO）、遊技制御用マイコン81は、当該ラウンドにおけるV開閉部材71の開放パターンがロング開放か否かの判定をおこなう（ステップS2521）。ロング開放ではない場合（ステップS2521：NO）、すなわち、ショート開放である場合、処理はステップS2540に移行する。一方、ロング開放である場合（ステップS2521：YES）、遊技制御用マイコン81は、2球目の入賞を検出したか否かの判定をおこなう（ステップS2522）。2球目の入賞を検出していない場合（ステップS2522：NO）、処理はステップS2540に移行する。

【0137】

2球目の入賞を検出した場合（ステップS2522：YES）、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71をロング開放させるとともに、V有効期間設定処理をおこなう（ステップS2523）。V開閉部材71をロング開放させるのは、V開閉部材71の開放パターン（図14（B））では、「ロング開放」の場合、2球目の入賞時にロング開放（ここでは最大31.5秒）を実行させるためである。なお、ここでは、1回のラウンド遊技時間は最長で31.5秒（大入賞口最大開放時間29.5秒＋インターバル閉鎖時間2秒）となるため、一般的には、2球目の入賞時からラウンドの終了時までの時間は31.5秒よりも短くなる。後述のように、V開閉部材71は、当該ラウンドの終了時に強制的に閉鎖されるため、V開閉部材71のロング開放の開放時間は、31.5秒よりも短くなる。しかし、V開閉部材71のロング開放は、V開閉部材71の開放時間が比較的に長い場合、第1大入賞口30に入賞した2球目以降の遊技球の少なくとも一部は、V領域39を通過するように構成されている。V有効期間設定処理では、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71の開放中をV有効期間に設定し、当該ラウンドの終了時にV開閉部材71の閉鎖とともにV無効期間を設定する。V開閉部材71のロング開放およびV有効期間設定処理の後、遊技制御用マイコン81は、第2入賞フラグをONに切り替え（ステップS2524）、ステップS2540に移行する。

【0138】

ステップS2540では、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71が開放中か否かの判定をおこなう。V開閉部材71が開放中の場合（ステップS2540：YES）、遊技制御用マイコン81は、当該ラウンド遊技が終了しているか否かの判定をおこなう（ステップS2550）。既述のように、遊技制御用マイコン81は、大入賞口を閉鎖してから所定のインターバル時間（ここでは2秒）が経過したか否かによって、当該ラウンド遊技が終了しているか否かの判定をおこなう。

【0139】

当該ラウンド遊技が終了している場合（ステップS2550：YES）、遊技制御用マイコン81は、第1入賞フラグおよび第2入賞フラグをOFFに切り替え（ステップS2551）、V開閉部材閉鎖処理およびV無効期間設定処理をおこなう（ステップS2552）。ここでは、当該ラウンド遊技の終了時に遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71を強制的に閉鎖させ、V開閉部材71の閉鎖後数秒間（ここでは1秒間）経過後から、V無効期間に設定し、本処理を終える。

【0140】

当該ラウンド遊技が終了していない場合（ステップS2550：NO）、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71の閉鎖条件が成立しているか否かの判定をおこなう（ステップS2560）。V開閉部材71の閉鎖条件とは、例えば、ショート開放であれば、V開閉部材71の開放後に所定期間（例えば0.1秒）が経過していること等が例示できる。閉鎖条件が成立している場合（ステップS2560：YES）、V開閉部材閉鎖処理およびV無効期間設定処理をおこない（ステップS2552）、本処理を終える。閉鎖条件が成立していない場合（ステップS2560：NO）、V開閉部材71を開放状態、V有効期間を継続したまま本処理を終える。

【0141】

ステップS2540において、遊技制御用マイコン81は、V開閉部材71が閉鎖中と判定した場合（ステップS2540：NO）、当該ラウンド遊技が終了しているか否かの

10

20

30

40

50

判定をおこなう（ステップS2571）。当該ラウンドが終了している場合（ステップS2571：YES）、遊技制御用マイコン81は、第1入賞フラグおよび第2入賞フラグをOFFに切り替えて（ステップS2572）、本処理を終える。ラウンドが終了していない場合には（ステップS2571：NO）、そのまま本処理を終える。

【0142】

〔遊技状態設定処理〕

図32は、遊技状態設定処理（図30：ステップS2234）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、VフラグがONか否かの判定をおこなう（ステップS2301）。VフラグがOFFの場合（ステップS2301：NO）、時短フラグをONにし（ステップS2302）、時短カウンタに「100」をセットする（ステップS2303）。これにより、今回の大当たり遊技後の遊技状態が「非高確率状態」かつ「時短状態」かつ「高ベース状態」（すなわち、低確高ベース）になる。この低確高ベース状態は、特別図柄の可変表示が100回おこなわれること、または、次の大当たりに当選すること、のいずれかの条件の成立によって終了する。

10

【0143】

一方、ステップS2301において、VフラグがONの場合（ステップS2301：YES）、遊技制御用マイコン81は、確変フラグをONにし（ステップS2304）、確変カウンタに「160」をセットし（ステップS2305）、VフラグをOFFにする（ステップS2306）。また、遊技制御用マイコン81は、時短フラグをONにし（ステップS2307）、時短カウンタに「160」をセットする（ステップS2308）。これにより、今回の大当たり遊技後の遊技状態が「高確率状態」かつ「時短状態」かつ「高ベース状態」（すなわち、高確高ベース）になる。この高確高ベース状態は、特別図柄の可変表示が160回おこなわれること、または、次の大当たりに当選すること、のいずれかの条件の成立によって終了する。

20

【0144】

ステップS2309では、遊技制御用マイコン81は、遊技状態指定コマンドをメインRAM84のコマンドセット領域（出力バッファ）84aにセットして、本処理を終える。遊技状態指定コマンドには、今設定した遊技状態に関する情報が含まれている。

【0145】

〔V領域センサ検出処理〕

図33は、V領域センサ検出処理（図16：ステップS106）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、V領域センサ39aによる遊技球の検知があったか否かの判定をおこなう（ステップS2601）。V領域センサ39aによる遊技球の検知がない場合には（ステップS2601：NO）、本処理を終える。一方、検知がある場合には（ステップS2601：YES）、遊技制御用マイコン81は、V有効期間中か否かの判定をおこなう（ステップS2602）。V有効期間は、V開閉部材動作処理（図31）のV有効期間設定処理（ステップS2504、S2523）によって設定される期間である。V有効期間は、第2ラウンド、第4ラウンド、第6ラウンド、第8ラウンド、第10ラウンド、第12ラウンド中のV開閉部材71の開放時や閉鎖後の数秒間（球ハケ期間）に設定される。V有効期間中ではない場合には（ステップS2602：NO）、本処理を終える。一方、V有効期間中である場合（ステップS2602：YES）、遊技制御用マイコン81は、VフラグをONするとともに（ステップS2603）、V通過コマンドをセットして（ステップS2604）、本処理を終える。

30

40

【0146】

〔保留球数処理〕

図34は、保留球数処理（図16：ステップS107）のフローチャートである。遊技制御用マイコン81は、まず、メインRAM84に記憶されている特図1保留球数、特図2保留球数、および、普通図柄保留球数の読み出しをおこなう（ステップS2701）。次に、遊技制御用マイコン81は、保留球数コマンドをメインRAM84のコマンドセット領域（出力バッファ）84aにセットする（ステップS2702）。保留球数コマンド

50

は、保留球数をサブ制御基板 90 に通知するためのコマンドであり、特図 1 保留球数、特図 2 保留球数、および、普通図柄保留球数に関する情報を含んでいる。保留球数コマンドのセット後、遊技制御用マイコン 81 は、本処理を終了する。

【0147】

7. 演出制御用マイコン 91 の動作

図 35～図 45 に基づいてサブ制御基板 90（図 4）に設けられた演出制御用マイコン 91 の動作について説明する。演出制御用マイコン 91 の動作説明にて登場するカウンタ、フラグ、ステータス、バッファ等はサブ RAM 94 に設けられている。

【0148】

〔サブ制御メイン処理〕

図 35 は、サブ制御メイン処理を示すフローチャートである。演出制御用マイコン 91 は、遊技機 1 の電源がオンされると、サブ ROM 93 からサブ制御メイン処理を実行するためのプログラムを読み出す。サブ制御メイン処理では、演出制御用マイコン 91 は、まず、CPU 初期化処理をおこなう（ステップ S4000）。CPU 初期化処理では、例えば、サブ CPU 92 の設定、各種のフラグ、ステータスおよびカウンタなどのリセット等をおこなう。フラグの初期値は「0」つまり「OFF」であり、ステータスの初期値は「1」であり、カウンタの初期値は「0」である。なお、CPU 初期化処理は、電源投入後に一度だけ実行され、それ以降は実行されない。

【0149】

CPU 初期化処理の後、演出制御用マイコン 91 は、割り込み処理の割り込みを禁止し（ステップ S4015）、乱数更新処理（ステップ S4020）をおこなう。この乱数更新処理では、演出制御用マイコン 91 は、図 7（B）で示した乱数カウンタ値を 1 加算して更新する。各乱数カウンタ値は設定された上限値に達すると「0」に戻って再び加算される。なお、各乱数カウンタの初期値は「0」以外の値であってもよく、ランダムに変更されるものであってもよい。また、乱数値は、1 ずつ加算する以外に、2 以上を加算するようにしてもよい。各乱数はいわゆるハードウェア乱数であってもよい。

【0150】

乱数更新処理の後、演出制御用マイコン 91 は、割り込み処理の割り込みを許可する（ステップ S4025）。割り込み許可中は、サブ側タイマ割り込み処理（ステップ S4035）の実行が可能となる。サブ側タイマ割り込み処理は、所定の周期でサブ CPU 92 に繰り返し入力される割り込みパルスに基づいて実行される。すなわち、サブ側タイマ割り込み処理は、所定周期ごとに実行される。そして、サブ側タイマ割り込み処理が終了してから、次にサブ側タイマ割り込み処理が開始されるまでの間に、乱数更新処理が繰り返し実行される。

【0151】

〔サブ側タイマ割り込み処理〕

図 36 は、サブ側タイマ割り込み処理（図 35：ステップ S4035）のフローチャートである。演出制御用マイコン 91 は、まず、受信コマンド解析処理をおこなう（ステップ S4300）。受信コマンド解析処理の詳細については後述する。受信コマンド解析処理の後、演出制御用マイコン 91 は、変動演出中処理をおこなう（ステップ S4305）。変動演出中処理は、変動演出中に特定のタイミングで変動終了前コマンドをセットして、表示画面 7a に特定の表示演出を実行させるための処理であり、詳細については後述する。変動演出中処理の後、演出制御用マイコン 91 は、スイッチ処理をおこなう（ステップ S4310）。スイッチ処理では、演出制御用マイコン 91 は、演出ボタン検出スイッチ 63a からの検知信号に基づいて出力されたスイッチデータ（エッジデータおよびレベルデータ）に基づいて、表示画面 7a の表示内容の設定等をおこなう。スイッチ処理の後、演出制御用マイコン 91 は、コマンド送信処理をおこなう（ステップ S4315）。コマンド送信処理では、演出制御用マイコン 91 は、受信コマンド解析処理等でサブ RAM 94 の演出コマンドセット領域 94b（出力バッファ）にセットした各種コマンドを画像制御基板 100、音声制御基板 106、ランプ制御基板 107、中継基板 108 に送信す

10

20

30

40

50

る。各種コマンドを受信した画像制御基板100は、画像表示装置7を用いて、受信したコマンドに応じた表示演出を実行する。また、各種コマンドを受信した音声制御基板106は、受信したコマンドに応じて、スピーカ67から音声を出力する音声演出を実行する。各種コマンドを受信したランプ制御基板107は、受信したコマンドに応じて盤ランプ5や枠ランプ66の発光制御を行うランプ演出を実行する。コマンド送信処理の後、演出制御用マイコン91は、その他の処理をおこない（ステップS4320）、本処理を終える。その他の処理では、例えば、乱数更新処理等がおこなわれる。

【0152】

〔受信コマンド解析処理〕

図37は、受信コマンド解析処理（図36：ステップS4300）のフローチャートである。演出制御用マイコン91は、まず、主制御基板80から事前判定コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4415）。受信している場合（ステップS4415：YES）、先読み演出決定処理をおこなう（ステップS4420）。「先読み演出決定処理」は、先読み演出を実行するか否か、および実行する場合の先読み演出パターンを決定する処理である。先読み演出決定処理の詳細については後述する。一方、受信していない場合（ステップS4415：NO）、上述の先読み演出決定処理をスキップする。先読み演出とは、特図保留記憶領域85に新たに記憶された保留情報に当たりが含まれている可能性が高いことを示唆する演出であり、変動演出中に実行される。

【0153】

続いて、演出制御用マイコン91は、主制御基板80から保留球数コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4445）。受信している場合（ステップS4445：YES）、保留表示処理をおこなう（ステップS4450）。保留表示処理では、保留球数コマンドに含まれている特図1保留球数、特図2保留球数、および、普通図柄保留球数に関する情報に基づいて、サブRAM94のカウンタセット領域94dに設けられた、第1特図保留演出カウンタ、第2特図保留演出カウンタ、および、普図保留演出カウンタの値を更新する。これにより、主制御基板80側だけでなく、サブ制御基板90側でも各保留球数の情報を保持することができる。また、演出制御用マイコン91は、第1特図保留演出カウンタ、第2特図保留演出カウンタ、および、普図保留演出カウンタの値に基づいて、表示画面7aに表示されている保留画像9A、9Bの更新をおこなう。一方、保留球数コマンドを受信していない場合（ステップS4445：NO）、上述の保留表示処理をスキップする。

【0154】

続いて、演出制御用マイコン91は、主制御基板80から変動開始コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4455）。受信している場合（ステップS4455：YES）、変動演出開始処理をおこなう（ステップS4460）。「変動演出開始処理」は、特別図柄変動中に実行する変動演出パターン（内容）を選択する処理である。変動演出開始処理の詳細については後述する。一方、受信していない場合（ステップS4455：NO）、上述の変動演出開始処理をスキップする。

【0155】

続いて、演出制御用マイコン91は、主制御基板80から変動停止コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4465）。受信している場合（ステップS4465：YES）、変動演出終了処理をおこなう（ステップS4470）。「変動演出終了処理」は、特別図柄変動中に実行される変動演出を停止させるための処理である。変動演出終了処理では、演出制御用マイコン91は、変動停止コマンドの解析結果に基づいてカウンタのセット等をおこなうとともに、変動演出を終了させるための変動演出終了コマンドをセットする。これにより変動中の特図1または特図2に対応する装飾図柄が停止表示される。また、演出制御用マイコン91は、後述する事前判定情報シフト処理（図39）をおこなう。なお、変動停止コマンドを受信していない場合（ステップS4465：NO）、上述の変動演出終了処理をスキップする。

【0156】

10

20

30

40

50

続いて、演出制御用マイコン91は、主制御基板80からオープニングコマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4475）。受信している場合（ステップS4475：YES）、オープニング演出パターン決定処理をおこなう（ステップS4480）。「オープニング演出パターン決定処理」は、特別遊技（大当たり遊技）開始時に実行するオープニング演出パターン（内容）を選択する処理である。オープニング演出パターン決定処理では、演出制御用マイコン91は、まず、オープニングコマンドの解析をおこない、オープニングコマンドに含まれる、大当たり当選判定時にセットされた特図停止図柄データに関する情報をサブRAM94にセットする。そして、特図停止図柄データが示す当たり種別に対応して予め設定されているオープニング演出の演出パターンを選択し、選択したオープニング演出を開始するためのオープニング演出開始コマンドをサブRAM94の演出コマンドセット領域94bにセットする。演出コマンドセット領域94bにセットされたオープニング演出開始コマンドがコマンド送信処理（図36：ステップS4315）において画像制御基板100に送信されると、画像制御基板100のCPU102は、所定のオープニング演出画像をROM103から読み出して、画像表示装置7の表示画面7aに表示させる。なお、ステップS4475において、オープニングコマンドを受信していない場合（ステップS4475：NO）、上述のオープニング演出パターン決定処理をスキップする。

【0157】

続いて、演出制御用マイコン91は、主制御基板80からラウンド指定コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4485）。受信している場合（ステップS4485：YES）、ラウンド演出パターン決定処理をおこなう（ステップS4490）。「ラウンド演出パターン決定処理」は、特別遊技（大当たり遊技）において、大入賞口の開放中や開放間のインターバル中に実行する開放遊技演出パターン（内容）を選択する処理である。ラウンド演出パターン決定処理では、演出制御用マイコン91は、まず、ラウンド指定コマンドの解析をおこない、ラウンド指定コマンドに含まれる、特図停止図柄データに関する情報、および、ラウンド数に関する情報をサブRAM94にセットする。そして、特図停止図柄データが示す当たり種別およびラウンド数に対応して予め設定されているラウンド演出の演出パターンを選択し、選択したラウンド演出を開始するためのラウンド演出開始コマンドをサブRAM94の演出コマンドセット領域94bにセットする。演出コマンドセット領域94bにセットされたラウンド演出開始コマンドが画像制御基板100に送信されると、CPU102は、所定のラウンド演出画像をROM103から読み出して、表示画面7aに表示させる。なお、ステップS4485において、ラウンド指定コマンドを受信していない場合（ステップS4485：NO）、上述のラウンド演出パターン決定処理をスキップする。

【0158】

続いて、演出制御用マイコン91は、主制御基板80からエンディングコマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS4495）。受信している場合（ステップS4495：YES）、エンディング演出パターン決定処理をおこなう（ステップS4500）。「エンディング演出パターン決定処理」は、特別遊技（大当たり遊技または小当たり遊技）のエンディング中に実行するエンディング演出パターン（内容）を選択する処理である。エンディング演出パターン決定処理では、演出制御用マイコン91は、まず、エンディングコマンドの解析をおこない、エンディングコマンドに含まれる特図停止図柄データに関する情報をサブRAM94にセットする。そして、特図停止図柄データが示す当たり種別に応じたエンディング演出パターンを選択し、選択したエンディング演出を開始するためのエンディング演出開始コマンドをサブRAM94の出力バッファにセットする。演出コマンドセット領域94bにセットされたエンディング演出開始コマンドが画像制御基板100に送信されると、CPU102は、所定のエンディング演出画像をROM103から読み出して、表示画面7aに表示させる。なお、エンディングコマンドを受信していない場合（ステップS4495：NO）、上述のエンディング演出パターン決定処理をスキップする。

【0159】

続いて、演出制御用マイコン91は、その他の処理をおこなう（ステップS4545）。その他の処理では、例えば、演出制御用マイコン91は、遊技状態指定コマンドを受信したときに、遊技状態指定コマンドに含まれる遊技状態に関する情報（高確率状態か否か、時短状態か否か、確変カウンタ、時短カウンタの値など）をサブRAM94に保持させる。また、演出制御用マイコン91は、V通過コマンドを受信したときに、V通過した情報をサブRAM94に保持させる。また、演出制御用マイコン91は、上記以外のコマンド（客待ち待機コマンド、RAMクリア報知コマンドなど）に基づく処理をおこなって、本処理を終了する。

【0160】

〔先読み演出決定処理〕

図38は、先読み演出決定処理（図37：ステップS4420）のフローチャートである。演出制御用マイコン91は、まず、事前判定情報書換処理をおこなう（ステップS4601）。具体的には、演出制御用マイコン91は、主制御基板80から受信した事前判定コマンドに含まれる、大当たり事前判定結果（大当たり判定情報）、大当たり種別事前判定結果（大当たり種別情報）、および、変動パターン事前判定結果（変動パターン情報）を事前判定情報記憶領域94cに記憶させる。

【0161】

図39は、事前判定情報記憶領域94cの構成を説明するための図である。事前判定情報記憶領域94cには、上述した、大当たり判定情報、大当たり種別情報、および、変動パターン情報のほか、先読み演出パターン情報が記憶される。先読み演出パターン情報とは、変動演出中に実行される先読み演出の内容を示す情報であり、後述するステップS4604において選択される。図39（A）は、特図2保留の1個目～3個目にそれぞれ対応する事前判定結果として、大当たり判定情報「ハズレ」と、変動パターン情報「P72」「P73」が第1～3格納領域に記憶され、また、当該変動に対応する事前判定結果が当該領域に記憶された状態が示されている。図39（B）は、図39（A）の状態から特図2の入賞があり、主制御基板80から受信した事前判定コマンドに含まれる事前判定情報を、特図2保留の4個目に対応する第4格納領域に記憶させた状態が示されている。ここでは、事前判定情報として、大当たり判定情報「大当たり」と、大当たり種別情報「21H」と、変動パターン情報「P61」が記憶されている。また、あわせて、特図2保留の1個目～4個目に対応する第1～4格納領域と、当該変動に対応する当該領域とのそれぞれに先読み演出パターン情報として「パターンA」がセットされている。図39（C）は、図39（B）の状態から当該変動が終了して事前判定情報シフト処理が実行された状態が示されている。具体的には、第1格納領域に格納されていた事前判定情報が当該領域にシフトし、第2～4格納領域に格納されていた事前判定情報が第1～3格納領域にシフトし、第4記憶領域の事前判定情報がクリアされる。事前判定情報シフト処理は、変動演出終了処理（図37：ステップS4470）において実行される。

【0162】

図38に戻り、続いて、演出制御用マイコン91は、事前判定情報記憶領域94cに先読み演出パターン情報が記憶されているか否かの判定をおこなう（ステップS4602）。具体的には、演出制御用マイコン91は、事前判定情報記憶領域94cの当該領域、第1～4格納領域のいずれかに先読み演出パターン情報が記憶されていないか否かの判定をおこなう。先読み演出パターン情報が記憶されている場合（ステップS4602：YES）には、本処理を終了する。すなわち、事前判定情報記憶領域94cの当該領域、第1～4格納領域のいずれかに先読み演出パターン情報が記憶されている場合には、新たに先読み演出パターン情報を選択して記憶させない。一方、事前判定情報記憶領域94cに先読み演出パターン情報が記憶されていない場合（ステップS4602：NO）には、演出制御用マイコン91は、受信した事前判定コマンドに含まれる事前判定結果が「大当たり」または「リーチ有りハズレ」か否かの判定をおこなう（ステップS4603）。「大当たり」または「リーチ有りハズレ」か否かは、例えば、変動パターン事前判定結果（変動パ

10

20

30

40

50

ターン情報)によって判別することができる。演出制御用マイコン91は、受信した事前判定コマンドに含まれる事前判定結果が「リーチ無しハズレ」の場合には(ステップS4603:NO)、本処理を終了する。先読み演出をおこなう必要が無いためである。一方、受信した事前判定コマンドに含まれる事前判定結果が「大当たり」または「リーチ有りハズレ」の場合(ステップS4603:YES)には、先読み演出を実行するか否かを判定する先読み演出実行判定、および、先読み演出パターン選択をおこなう(ステップS4604)。具体的には、演出制御用マイコン91は、先読み演出乱数乱数のカウンタの値を取得し、取得した乱数値と、サブROM93に記憶されている先読み演出パターン決定テーブルT51を参照して先読み演出をおこなうか否か、および、先読み演出をおこなう場合の先読み演出パターンを決定する。

10

【0163】

図40は、先読み演出パターン決定テーブルT51を説明するための図である。図40では、事前判定結果が「大当たり」で、先読み演出乱数値が「0~55」の場合、先読み演出は「無し」となり、先読み演出乱数値が「56~67」の場合、先読み演出として「パターンA」が選択され、先読み演出乱数値が「68~127」の場合、先読み演出として「パターンB」が選択される。また、事前判定結果が「リーチ有りハズレ」で、先読み演出乱数値が「0~107」の場合、先読み演出は「無し」となり、先読み演出乱数値が「108~114」の場合、先読み演出として「パターンA」が選択され、先読み演出乱数値が「115~127」の場合、先読み演出として「パターンB」が選択される。なお、先読み演出パターンの種類、内容、選択される乱数値の範囲は任意に設定することができる。

20

【0164】

図38に戻り、ステップS4604において、先読み演出が実行されることが決定した場合(ステップS4605:YES)、選択された先読み演出パターンを事前判定情報記憶領域94cに記憶する(ステップS4606)。ここでは、先読み演出パターンを事前判定情報記憶領域94cに記憶するとき、第1~4格納領域のうち、受信した事前判定コマンドに対応する格納領域のみでなく、対応する格納領域よりも前の格納領域および当該領域にも先読み演出パターンを格納する。具体的には、図39(B)に示すように、受信した事前判定コマンドに対応する第4格納領域に「パターンA」をセットするだけでなく、第1~3格納領域、および、当該領域にも「パターンA」をセットする。これにより、第4格納領域に対応する変動演出が実行される前に実行される変動演出(当該領域および第1~3格納領域に対応する変動演出)においても、先読み演出パターンAが実行される。なお、当該領域に対応する変動演出で先読み演出が実行されるか否かは、当該変動演出の進捗状況による。すなわち、当該変動演出において、先読み演出を実行するタイミングをもう過ぎている場合には、先読み演出が実行されないが、先読み演出を実行するタイミング前であれば、そのタイミングにおいて実行される。これについては後述する。ステップS4604において、先読み演出が実行されないことが決定した場合(ステップS4605:NO)、処理を終了する。

30

【0165】

[変動演出開始処理]

図41は、変動演出開始処理(図37:ステップS4460)のフローチャートである。演出制御用マイコン91は、まず、変動開始コマンドの解析をおこなう(ステップS5000)。ここでは、演出制御用マイコン91は、変動開始コマンドに含まれる特図停止図柄データに関する情報、および、変動パターンに関する情報をサブRAM94にセットする。セットされた情報には、現在の遊技状態を示す遊技状態情報や、特図1または特図2の当たり判定処理の判定結果としての図柄を示す図柄情報等が含まれている。ここで取得された遊技状態情報や図柄情報は、演出制御用マイコン91によって適宜参照され得る。

40

【0166】

続いて、演出制御用マイコン91は、基幹演出パターン決定処理をおこなう(ステップS5010)。基幹演出パターン決定処理は、変動演出の基本的な構成(例えば、画像表

50

示装置 7 における背景画像の表示およびその切り換え、所定のキャラクタの表示およびその動作、スピーカ 6 7 を用いたメロディや効果音の出力、ランプ類の点灯制御など) を決定するための処理である。変動演出は、この基幹演出にチャンスアップ演出や先読み演出などの付加的な演出が重畳されて完成する。演出制御用マイコン 9 1 は、サブ ROM 9 3 に記憶されている基幹演出パターン決定テーブル T 5 2 を参照して基幹演出パターンを決定する。

【0167】

図 4 2 は、基幹演出パターン決定テーブル T 5 2 を説明するための図である。図 4 2 では、ノーマルリーチ演出をおこなう複数種類の基幹演出パターンと、SP1 演出をおこなう複数種類の基幹演出パターン、SP2 演出をおこなう複数種類の基幹演出パターン、SP3 演出をおこなう複数種類の基幹演出パターンと、リーチ無しハズレ演出をおこなう複数種類の基幹演出パターンが設定されている。基幹演出パターンの種類は任意に設定することができる。ここでは、例えば、変動開始コマンドに含まれていた変動パターンが「P1」の場合、SP1 演出をおこなう基幹演出パターンが選択される。また、変動開始コマンドに含まれていた変動パターンが「P72」の場合、リーチ無しハズレ演出をおこなう基幹演出パターンが選択される。

【0168】

図 4 1 に戻り、基幹演出パターンを決定した後、演出制御用マイコン 9 1 は、チャンスアップ演出パターン決定処理をおこなう(ステップ S 5 0 1 5)。チャンスアップ演出パターン決定処理は、変動演出に重畳させる付加的な演出を決定するための処理である。演出制御用マイコン 9 1 は、チャンスアップ乱数のカウンタの値を取得し、取得した乱数値と、サブ ROM 9 3 に記憶されているチャンスアップ演出パターン決定テーブル T 5 3 を参照してチャンスアップ演出パターンを決定する。

【0169】

図 4 3 は、チャンスアップ演出パターン決定テーブル T 5 3 を説明するための図である。ここでは、チャンスアップ演出パターン決定テーブル T 5 3 のうち、非時短状態時における特図 1 の変動演出パターンを決定する部分のみを示している。すなわち、図 4 3 は、変動開始コマンドに含まれていた変動パターンが「P1」～「P16」の場合において実行されるチャンスアップ演出パターンを示している。なお、チャンスアップ演出パターン決定テーブル T 5 3 は、変動パターンが「P21」～「P33」「P41」～「P56」「61」～「73」の場合において実行されるチャンスアップ演出パターンを決定する部分を備えていてもよいし備えていなくてもよい。

【0170】

図 4 3 では、チャンスアップ演出パターンとして「2-NO」「2-SP1」「2-SP2」「2-SP3」「3-NO」「3-SP1」「3-SP2」「3-SP3」「4-NO」「4-SP1」「4-SP2」「4-SP3」「ANO」が設定されている。これらのチャンス演出パターンは、後述の種々のチャンスアップ演出に対応する。

【0171】

図 4 1 に戻り、チャンスアップ演出パターンを決定した後、演出制御用マイコン 9 1 は、さらに、乱数値と停止図柄パターン決定テーブル T 5 4 を参照して、停止表示する演出図柄 8 L、8 C、8 R の組み合わせなどを決定してもよい。これらにより、変動演出としてどのような演出をおこなうかが決定される。

【0172】

演出制御用マイコン 9 1 は、上記ステップ S 5 0 1 0～S 5 0 1 5 にて決定された変動演出パターンに基づく変動演出が実現されるよう変動演出開始コマンドをサブ RAM 9 4 の演出コマンドセット領域 9 4 b (出力バッファ) にセットする(ステップ S 5 0 2 0)。サブ RAM 9 4 の演出コマンドセット領域 9 4 b にセットされた変動演出開始コマンドがコマンド送信処理(図 3 6: ステップ S 4 3 1 5)において画像制御基板 1 0 0 に送信されると、画像制御基板 1 0 0 の CPU 1 0 2 は、変動演出画像を ROM 1 0 3 から読み出して、画像表示装置 7 の表示画面 7 a に表示させる。

【0173】

続いて、演出制御用マイコン91は、変動演出タイマをセットして（ステップS5030）、本処理を終了する。変動演出タイマには、変動開始コマンドに含まれる変動パターン変動パターンに応じた変動時間（図42）がセットされる。例えば、変動パターンが「P1」のとき、変動演出タイマには「40秒」がセットされる。

【0174】

〔変動演出中処理〕

図44は、変動演出中処理（図36：ステップS4305）のフローチャートである。演出制御用マイコン91は、変動演出中か否かの判定をおこなう（ステップS4701）。変動演出中か否かは、例えば、変動演出タイマがゼロになっているか否かによって判定することができる。変動演出中ではない場合（ステップS4701：NO）、本処理を終了する。一方、変動演出中の場合（ステップS4701：YES）、演出制御用マイコン91は、変動終了前コマンドをサブRAM94の演出コマンドセット領域94bにセットするタイミングか否かの判定をおこなう（ステップS4702）。変動終了前コマンドは、演出制御用マイコン91が画像制御基板100などに対して、変動演出中の特定のタイミングであることを知らせるコマンドであり、画像制御基板100は、変動終了前コマンドを受信すると、変動終了前コマンドに含まれる情報にしたがって演出内容の切り替えや、特定の画像の表示等をおこなう。

【0175】

変動終了前コマンドをセットするタイミングではない場合（ステップS4702：NO）、本処理を終える。一方、変動終了前コマンドをセットするタイミングである場合（ステップS4702：YES）、事前判定情報記憶領域94cの当該領域に先読み演出パターン情報があるか否かの判定をおこなう（ステップS4703）。当該領域に先読み演出パターン情報がある場合（ステップS4703：YES）、先読み演出パターン情報を含んだ変動終了前コマンドをサブRAM94の演出コマンドセット領域94bにセットする（ステップS4704）。一方、当該領域に先読み演出パターン情報が無い場合（ステップS4703：NO）には、先読み演出パターン情報を含まない変動終了前コマンドをサブRAM94の演出コマンドセット領域94bにセットする（ステップS4705）。これにより、当該領域に先読み演出パターン情報がある場合には、当該変動演出の終了2秒前に先読み演出パターン情報を含んだ変動終了前コマンドが画像制御基板100に送信される。そして、画像制御用マイコン101は、画像表示装置7の表示画面7aに先読み演出画像を表示させる先読み演出を開始させる。一方、当該領域に先読み演出パターン情報が無い場合にも当該変動の終了2秒前に変動終了前コマンドが画像制御基板100に送信される。ここでは、画像制御用マイコン101は、画像表示装置7の表示画面7aに既に予告画像が表示されている場合、その予告画像をフェードさせる予告フェード演出を開始させる。

【0176】

8. 画像制御用マイコン101の動作

図45に基づいて画像制御基板100（図4）に設けられた画像制御用マイコン101の動作について説明する。画像制御用マイコン101の動作説明にて登場するバッファ等はRAM104に設けられている。図45は、表示制御処理のフローチャートである。画像制御用マイコン101は、遊技機1の電源がオンされると、ROM103からプログラムを読み出し、CPU初期化処理の後、表示制御処理が繰り返し実行される。表示制御処理では、まず、画像制御用マイコン101は、サブ制御基板90から変動演出開始コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS5001）。受信している場合（ステップS5001：YES）、画像制御用マイコン101は、変動演出表示を開始させる（ステップS5002）。具体的には、画像制御用マイコン101は、受信した変動演出開始コマンドを解析し、変動演出開始コマンドにおいて指示された所定の変動演出画像をROM103から読み出して、画像表示装置7の表示画面7aに表示させる。一方、受信していない場合（ステップS5001：NO）、上述の処理をスキップする。

【0177】

続いて、画像制御用マイコン101は、サブ制御基板90から変動終了前コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS5003）。受信している場合（ステップS5003：YES）、画像制御用マイコン101は、先読み演出表示を開始させる（ステップS5004）。具体的には、画像制御用マイコン101は、変動終了前コマンドを解析し、変動終了前コマンドに先読み演出パターン情報が含まれている場合、所定の先読み演出画像をROM103から読み出して、画像表示装置7の表示画面7aに表示させる。また、変動終了前コマンドに先読み演出パターン情報が含まれていない場合であっても、画像表示装置7の表示画面7aに予告画像が表示されていれば、その予告画像をフェードさせる予告フェード演出をおこなう。一方、受信していない場合（ステップS5003：NO）、上述の処理をスキップする。

10

【0178】

続いて、画像制御用マイコン101は、サブ制御基板90から変動演出終了コマンドを受信したか否かの判定をおこなう（ステップS5005）。受信している場合（ステップS5005：YES）、画像制御用マイコン101は、変動演出を停止表示させた画像をROM103から読み出して、画像表示装置7の表示画面7aに表示させる変動演出停止表示をおこなう（ステップS5006）。一方、受信していない場合（ステップS5005：NO）、上述の処理をスキップする。

【0179】

続いて、画像制御用マイコン101は、その他の処理をおこなう（ステップS4545）。その他の処理では、例えば、画像制御用マイコン101は、オープニング演出開始コマンドを受信したときに、オープニング演出開始コマンドにおいて指示された所定のオープニング演出画像をROM103から読み出して、画像表示装置7の表示画面7aに表示させる。また、ラウンド演出開始コマンドを受信したときに、ラウンド演出開始コマンドにおいて指示された所定のラウンド演出画像をROM103から読み出して、表示画面7aに表示させる。また、エンディング演出開始コマンドを受信したときに、エンディング演出開始コマンドにおいて指示された所定のエンディング演出画像をROM103から読み出して、表示画面7aに表示させて、本処理を終了する。

20

【0180】

9. 可動役物（盤可動体15）の動作

図46は、可動役物（盤可動体15）による動作について説明するための図である。

演出制御用マイコン91は、遊技演出（表示演出）中や電源投入時の初期動作等において、盤可動体15を可動制御する。盤可動体15は、図1に示す位置にある状態がホームポジションである。一方、盤可動体15は、図46に示す位置にある状態が展開ポジションである。演出制御用マイコン91は、盤可動体15をホームポジションから展開ポジションまでの間で可動制御可能となっている。盤可動体15は、基本的にホームポジションの位置にあり、表示演出（遊技演出）に応じて適宜、演出制御用マイコン91によって展開ポジションに可動制御される。盤可動体15は、展開ポジションに可動制御された場合には、画像表示装置7の表示画面7a上（表示画面7aの手前側）に配置され、言い換えれば、遊技者から見て、表示画面7aの所定領域と重なる位置に配置される。従って、この場合、盤可動体15は、遊技者から見て、表示画面7aの所定領域を遮る状態となる。また、盤可動体15は、中央部に星状の孔部15aを備えている。従って、盤可動体15が展開ポジションにある場合には、孔部15aから表示画面7aの一部の領域が見える状態となる。また、盤可動体15は、ホームポジションにある場合には、表示画面7aとは重ならない位置となる。

30

40

【0181】

10. 本実施形態の演出例、効果例、変形例、態様例

以下に、本実施形態の各演出例（表示演出例、役物可動演出例）を説明する。また、その演出例に対する効果例、変形例、および、態様例も合わせて説明する。

これから説明する演出は、上述したように、遊技制御用マイコン81から送信される種

50

々の情報（大当たり判定情報、大当たり種別情報、変動パターン情報、事前判定情報など）に基づき、演出制御用マイコン 9 1（画像制御用マイコン 1 0 1）によって実現される演出である。なお、以下の表示演出例は、画像表示装置 7 の表示画面 7 a で実行される。また、表示演出例において特に必要がない場合には、保留表示（保留アイコン）については省略している。

【0182】

以下に図 4 7～図 4 9 を用いてタイマフリーズ演出について説明する。このタイマフリーズ演出は、装飾図柄の変動演出中、例えば、特別図柄の変動表示の開始時、装飾図柄の変動演出の開始時、または、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。

【0183】

〔タイマフリーズ演出 A〕

図 4 7 は、タイマフリーズ演出 A を説明するための図である。

まず、タイマフリーズ演出 A では、図 4 7（A）に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、タイマ画像 I 1 A が表示される。タイマ画像 I 1 A は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図 4 7（A）に示すタイマ画像 I 1 A では、タイマ初期値としての「100 秒」が示されている。なお、タイマ表示演出では、味方キャラクタ C R A も表示されている。以下に示す表示演出では、特に必要がないときは、味方キャラクタ C R A の説明は省略する。また、図 4 7（A）の右上には、装飾図柄 8 L，8 R が同じ図柄であり、装飾図柄 8 C が変動中であることが示されており、すなわち、リーチ状態であることが示されている。以下に、このようなリーチ状態であることが示されている場合において、特に必要がないときは、その説明は省略する。

【0184】

次に、図 4 7（B）に示すように、タイマ停止演出が実行される。タイマ停止演出では、タイマ画像 I 1 A のタイマ値が「77.7 秒」で停止する演出が実行される。

次に、図 4 7（C）に示すように、タイマ停止演出で停止したタイマ値を装飾図柄の図柄配列に反映させて、それを大当たり図柄配列として報知する大当たり報知演出が実行される。

【0185】

〔タイマフリーズ演出 B〕

図 4 8 は、タイマフリーズ演出 B を説明するための図である。

まず、タイマフリーズ演出 B では、図 4 8（A）に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、タイマ画像 I 1 A とボタン画像 I 1 B が表示される。ボタン画像 I 1 B は、演出ボタン 6 3 を示唆する画像であり、これから演出ボタン 6 3 を用いた演出が実行され得ることを予感している。タイマ画像 I 1 A は、図 4 7（A）のタイマ画像 I 1 A と同様であり、タイマ値がカウントダウン方式で表示され、タイマの初期値としての「100 秒」が示されている。

【0186】

次に、図 4 8（B）に示すように、ボタン有効表示演出が実行される。ボタン有効表示演出では、ボタン画像 I 1 C とタイマ画像 I 1 A とが表示される。ボタン画像 I 1 C は、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン 6 3 が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像 I 1 C は、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像 I 1 B の色を濃くした状態、および/または、ボタン画像 I 1 B が点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像 I 1 C に隣接して、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すために、「押せ！！」の文字も表されている。タイマ画像 I 1 A は、「80 秒」が示され、演出ボタン 6 3 の有効操作期間（例えば、3 秒）が 80 秒からスタートしたことが表されている。

【0187】

図 4 8（C）に示すように、タイマ停止演出が実行される。このタイマ停止演出では、ボタン有効表示演出によって遊技者が演出ボタン 6 3 を押下したことに応じて、タイマ画

10

20

30

40

50

像 I 1 A のタイマ値が 77.7 秒で停止する演出が実行される。ボタン有効表示演出は、タイマ値が 80 秒からスタートするので、タイマ値が 77.7 秒になる前（例えば、79 秒）に演出ボタン 63 が押下され得るが、この場合には、タイマ値（例えば、79 秒）を高速変動させて「77.7 秒」にて停止させる。なお、これに限らずタイマ値を一気に 77.7 秒に停止させるようにしてもよい。

【0188】

次に、図 48（D）に示すように、図 47（C）と同様に、タイマ停止演出で停止したタイマ値を装飾図柄の図柄配列に反映させて、それを大当たり図柄配列として報知する大当たり報知演出が実行される。

【0189】

〔タイマフリーズ演出 C〕

図 49 は、タイマフリーズ演出 C を説明するための図である。

まず、タイマフリーズ演出 C では、図 49（A）に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、タイマ画像 I 1 D とボタン画像 I 1 B が表示される。ボタン画像 I 1 B は、図 48（A）と同様に、演出ボタン 63 を示唆する画像であり、これから演出ボタン 63 を用いた演出が実行され得ることを予感している。タイマ画像 I 1 D は、タイマ値がカウントアップ方式で表示され、タイマの初期値として、「0 秒」がセットされている。

【0190】

次に、図 49（B）に示すように、ボタン有効表示演出が実行される。ボタン有効表示演出では、ボタン画像 I 1 C とタイマ画像 I 1 D とが表示される。ボタン画像 I 1 C は、図 48（B）と同様に、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン 63 が有効操作期間中であることを示す画像である。また、ボタン画像 I 1 C に隣接して、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すために、「押せ！！」の文字も表されている。タイマ画像 I 1 D は、「75 秒」が示され、演出ボタン 63 の有効操作期間（例えば、3 秒）が 75 秒からスタートしたことが表されている。

【0191】

図 49（C）に示すように、タイマ停止演出が実行される。このタイマ停止演出では、ボタン有効表示演出によって遊技者が演出ボタン 63 を押下したことに応じて、タイマ画像 I 1 A のタイマ値が 77.7 秒で停止する演出が実行される。ボタン有効表示演出は、タイマ値が 75 秒からスタートするので、タイマ値が 77.7 秒になる前（例えば、76 秒）に演出ボタン 63 が押下され得るが、この場合には、タイマ値（例えば、76 秒）を高速変動させて「77.7 秒」にて停止させる。なお、これに限らずタイマ値を一気に 77.7 秒に停止させるようにしてもよい。

【0192】

次に、図 49（D）に示すように、図 48（D）と同様に、タイマ停止演出で停止したタイマ値を装飾図柄の図柄配列に反映させて、それを大当たり図柄配列として報知する大当たり報知演出が実行される。

【0193】

〔効果例〕

以下に、タイマフリーズ演出の効果例を示す。

〔効果 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 47～図 49 に示すように、タイマ表示（タイマ画像の表示）が実行され、タイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示が実行され、停止したタイマ値を用いて大当たりを報知する表示が実行される。この構成によれば、遊技者に意外性を感じさせることができ、興趣を向上させることができる。

【0194】

〔効果 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 48、図 49 に示すように、タイマ表示が実行されて

10

20

30

40

50

いるときにボタン画像 I 1 C が表示され、遊技者が演出ボタン 6 3 の操作をしたことに応じてタイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示が実行され、停止したタイマ値を用いて大当たりを報知する表示が実行される。この構成によれば、遊技者に意外性を感じさせると共に、遊技に参加した実感を付与でき、興趣を向上させることができる。

【0195】

〔効果 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 4 8、図 4 9 に示すように、タイマ停止演出でタイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示がなされる場合において、タイマ値が当該所定値（77.7 秒）よりも前の値（80 秒または 75 秒）となったときに、演出ボタン 6 3 の有効操作期間を開始し、当該有効操作期間内に演出ボタン 6 3 の操作があると、タイマ値を所定値（77.7 秒）で停止させるようにしている。この構成によれば、遊技者に意外性を感じさせることができると共に、遊技者が演出ボタン 6 3 の操作タイミングを逸することを抑制することができ、遊技への参加率を向上させることができ、その結果、興趣を向上させることができる。

【0196】

〔効果 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 4 7～図 4 9 に示すように、タイマ停止演出でタイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示がなされた後、大当たり報知演出において、装飾図柄の図柄配列を、タイマ停止演出で停止されたタイマ値（77.7 秒）と同じとすることにより、大当たりを報知するようにしている。この構成によれば、遊技者に意外性を感じさせることができ、興趣を向上させることができる。

【0197】

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 4 7～図 4 9 に示すように、タイマ停止演出でタイマ表示のタイマ値をゾロ目となる所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示がなされた後、大当たり報知演出において、装飾図柄の図柄配列を、タイマ停止演出で停止されたゾロ目となるタイマ値（77.7 秒）と同じとすることにより、大当たりを報知するようにしている。この構成によれば、遊技者に分かりやすく大当たりしたことを報知することができ、遊技者は大当たりを素早く認識することができる。その結果、興趣を向上させることができる。

【0198】

〔変形例〕

以下に、タイマフリーズ演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 4 8、図 4 9 に示すように、タイマ表示が実行されているときにボタン画像 I 1 C が表示され、ボタン画像 I 1 C の表示によって遊技者が演出ボタン 6 3 の操作をしたことに応じてタイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示が実行され、停止したタイマ値を用いて大当たりを報知する表示が実行されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ボタン画像 I 1 C の表示をおこない遊技者が演出ボタン 6 3 の操作をしなかった場合であっても、タイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示が実行され、停止したタイマ値を用いて大当たりを報知する表示を実行するようにしてもよい。

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 4 7～図 4 9 に示すように、タイマ停止演出でタイマ表示のタイマ値を所定値（77.7 秒）で停止（制止）させる表示がなされた後、大当たり報知演出において、装飾図柄の図柄配列を、タイマ停止演出で停止されたタイマ値（77.7 秒）と同じとすることにより、大当たりを報知するようにしているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、タイマ停止演出において停止されたタイマ表示のタイマ値（77.7 秒）をそのまま用いて、大当たりを報知するようにしてもよい。

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 4 7 ～ 図 4 9 に示すように、タイマ停止演出において停止するタイマ値は、7 7 . 7 となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、1 1 . 1、1 1 1、3 3 . 3 など、他のゾロ目であってもよい。また、タイマ停止演出において停止するタイマ値は、ゾロ目に限らず、1 3 5 などの所定の値でもよい。

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、演出ボタン 6 3 の有効操作期間は、有効操作期間のスタート秒数から後述のタイマ停止演出で停止するタイマ値を引いた秒数としてもよい。例えば、演出ボタン 6 3 の有効操作期間が 8 0 秒からスタートし、タイマ停止演出で停止するタイマ値が 7 7 . 7 秒であるときには、2 . 3 秒を有効操作期間としてもよい。

【 0 1 9 9 】

〔変形例 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、タイマフリーズ演出において、1 つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、2 つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

【 0 2 0 0 】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 I 1 - 1〕

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、
前記複数種類の表示のうちの一つの表示は、或る表示であり、
第 1 の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
第 2 の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
第 3 の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
前記第 1 の態様の前記或る表示は、タイマ画像を用いてタイマ値をカウントする表示を含む態様の表示であり、
前記第 2 の態様の前記或る表示は、タイマ画像のタイマ値を第 1 の所定値で制止させる表示を含む態様の表示であり、
前記第 3 の態様の前記或る表示は、タイマ画像のタイマ値を用いて大当たりを示唆する表示を含む態様の表示であり、
前記或る表示は、前記第 1 の態様で表示された後に前記第 2 の態様で表示され、その後、前記第 3 の態様で表示される場合がある表示である、
ことを特徴とする遊技機。

【 0 2 0 1 】

〔態様 I 1 - 2〕

遊技者の操作を受け付けて、遊技者の操作により所定の演出を実行可能な操作部を備え、
第 4 の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
前記第 4 の態様の前記或る表示は、遊技者に前記操作部の操作を促す操作部画像の表示を含む態様の表示であり、
前記或る表示は、前記第 1 の態様で表示されているときに前記第 4 の態様で表示され、
前記第 4 の態様における前記操作部画像の表示により遊技者が前記操作部の操作をしたことに応じて前記第 2 の態様で表示され、前記第 2 の態様で表示された後、前記第 3 の態様で表示される場合がある表示である、
ことを特徴とする態様 I 1 - 1 に記載の遊技機。

【 0 2 0 2 】

〔態様 3〕

前記或る表示において前記第 2 の態様の表示がなされる場合には、前記タイマ値が前記第 1 の所定値よりも前の第 2 の所定値となったときに、前記操作部の操作有効期間を開始し、前記操作有効期間内に前記操作部の操作があると、前記タイマ値を前記第 1 の所定値で制止させる、

ことを特徴とする態様 I 1-2 に記載の遊技機。

【0203】

[態様 4]

前記第 3 の態様は、装飾図柄を用いて大当たりを示唆する表示であり、

前記或る表示において前記第 2 の態様の表示がなされた後、前記第 3 の態様の表示がなされる場合には、前記装飾図柄の図柄配列を、前記第 2 の態様において制止された前記第 1 の所定値と同じとすることにより、大当たりを示唆する、

ことを特徴とする態様 I 1-1 から態様 I 1-3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0204】

[態様 5]

前記第 2 の態様において制止された前記第 1 の所定値と同じ前記装飾図柄の図柄配列は、ゾロ目である、

ことを特徴とする態様 I 4-1 に記載の遊技機。

【0205】

以下に図 50～図 52 を用いてチャンスアップメータ演出について説明する。このチャンスアップメータ演出は、大当たり遊技中、装飾図柄の変動演出中（例えば、特別図柄の変動表示の開始時、装飾図柄の変動演出の開始時、または、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）などに実行され得る。

【0206】

[チャンスアップメータ演出 A]

図 50 は、チャンスアップメータ演出 A を説明するための図である。

チャンスアップメータ演出 A では、まず、図 50 (A) に示すように、チャンスアップメータ画像 I 2 A と、タイマ画像 I 2 B とが表示される。チャンスアップメータ画像 I 2 A は、メータ画像 I 2 A A と、カーソル画像 I 2 A 1 と、チャンスアップ済示唆画像 I 2 A 2 と、チャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 とを含んでいる。メータ画像 I 2 A A は、開始位置から終了位置までをカーソル画像 I 2 A 1 によって形成されるメータ領域（図ではクロスハッチングで表される）が動くメータであり、カーソル画像 I 2 A 1 が開始位置から終了位置までを動くことでチャンスアップメータ演出の期間を表している。チャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 は、メータ画像 I 2 A A 上に配置される。カーソル画像 I 2 A 1 が動いてカーソル画像 I 2 A 1 が、チャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 と重なったとき（一致したとき）にチャンスアップ演出が実行される場合がある。チャンスアップ演出が実行された場合には、チャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 は、チャンスアップ済示唆画像 I 2 A 2 に変更される。チャンスアップ済示唆画像 I 2 A 2 は、メータ画像 I 2 A A 上に配置され、そのタイミングでチャンスアップ演出が実行済みであることを示唆している。

【0207】

すなわち、メータ画像 I 2 A A において、カーソル画像 I 2 A 1 が開始位置からチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 まで移動することによって、チャンスアップメータ演出の開始からチャンスアップ演出が実行され得るタイミングまでを表している。

【0208】

タイマ画像 I 2 B は、チャンスアップメータ画像 I 2 A の表示中に表示される。例えば、タイマ画像 I 2 B は、チャンスアップメータ演出開始時、または、チャンスアップ済示唆画像 I 2 A 2 が表示されてからの所定タイミングで表示される。タイマ画像 I 2 B は、タイマ値がカウントダウン方式で表示され、タイマの初期値として、15 秒がセットされている。

【0209】

次に、図 50 (B) に示すタイミング一致表示演出、または、図 50 (D) に示すタイミング不一致演出が実行される。

図 50 (B) に示すように、タイミング一致表示演出では、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達する

10

20

30

40

50

タイミングと、タイマ画像 I 2 B におけるタイマ値が 0 秒になるタイミングとが一致することを表す演出がおこなわれる。なお、タイミング一致表示演出は、これに限られず、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達するタイミングと、タイマ画像 I 2 B におけるタイマ値が予め定められた値（例えば、7.77 秒）になるタイミングとが一致することを表す演出であってもよい。

【0210】

次に、図 50 (C) に示すように、高期待度チャンスアップ演出が実行される。高期待度チャンスアップ演出では、高期待度チャンスアップ画像 I 2 C が表示される。高期待度チャンスアップ画像 I 2 C は、大当たり期待度が比較的高いことを示唆する画像である。

10

【0211】

一方、図 50 (D) に示すタイミング不一致演出では、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達するタイミングと、タイマ画像 I 2 B におけるタイマ値が 0 秒になるタイミングとが一致しないことを表す演出がおこなわれる。なお、タイミング不一致表示演出は、これに限られず、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達するタイミングと、タイマ画像 I 2 B におけるタイマ値が予め定められた値（例えば、7.77 秒）になるタイミングとが一致しないことを表す演出であってもよい。

【0212】

20

次に、図 50 (E) に示すように、低期待度チャンスアップ演出が実行される。低期待度チャンスアップ演出では、低期待度チャンスアップ画像 I 2 D が表示される。低期待度チャンスアップ画像 I 2 D は、大当たり期待度が比較的低いことを示唆する画像である。すなわち、低期待度チャンスアップ画像 I 2 D が出現した場合は、高期待度チャンスアップ画像 I 2 C が出現した場合と比較して、大当たり期待度が低い。

【0213】

〔チャンスアップメータ演出 B〕

図 51 は、チャンスアップメータ演出 B を説明するための図である。

チャンスアップメータ演出 B では、まず、図 51 (A) に示すように、チャンスアップメータ画像 I 2 A と、タイマ画像 I 2 B と、ボタン画像 I 2 E とが表示される。チャンスアップメータ画像 I 2 A とタイマ画像 I 2 B とは、図 50 (A) と同様であるので、説明は省略する。ボタン画像 I 2 E は、演出ボタン 63 を示唆する画像であり、これから演出ボタン 63 を用いた演出が実行され得ることを予感している。

30

【0214】

次に、図 51 (B) に示すタイミング一致表示演出、または、図 51 (D) に示すタイミング不一致演出が実行される。

図 51 (B) に示すように、タイミング一致表示演出では、図 50 (B) と同様に、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達するタイミングと、タイマ画像 I 2 B におけるタイマ値が 0 秒になるタイミングとが一致することを表す演出がおこなわれる。

40

【0215】

また、ボタン画像 I 2 F が表示されている。ボタン画像 I 2 F は、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン 63 が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像 I 2 F は、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像 I 2 E の色を濃くした状態、および/または、ボタン画像 I 2 E が点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像 I 2 F に隣接して、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。ボタン画像 I 2 F は、タイマ画像 I 2 B のタイマ値が「0 秒」となってから表示される。これに限られず、タイマ値が「0 秒」になる前の所定値（例えば、タイマ値が 1 秒）となってから表示されてもよい。なお、演出ボタン 63 の有効操作期間は、例えば、3 秒としてもよい。

50

【0216】

次に、図51(C)に示すように、高期待度チャンスアップ演出が実行される。高期待度チャンスアップ演出では、ボタン画像I2Fの表示によって遊技者が演出ボタン63を押下したことに応じて、高期待度チャンスアップ画像I2Cが表示される。高期待度チャンスアップ画像I2Cは、図50(C)と同様に、大当たり期待度が比較的高いことを示唆する画像である。

【0217】

一方、図51(D)に示すタイミング不一致演出では、図50(D)と同様に、チャンスアップメータ画像I2Aにおいてカーソル画像I2A1がチャンスアップ予定示唆画像I2A3に到達するタイミングと、タイマ画像I2Bにおけるタイマ値が0秒になるタイミングとが一致しないことを表す演出がおこなわれる。また、ボタン画像I2Fが表示されている。ボタン画像I2Fは、図51(B)と同様の画像である。

【0218】

次に、図51(E)に示すように、低期待度チャンスアップ演出が実行される。低期待度チャンスアップ演出では、低期待度チャンスアップ画像I2Dが表示される。低期待度チャンスアップ画像I2Dは、図51(E)と同様に、大当たり期待度が比較的低いことを示唆する画像である。

【0219】

[チャンスアップメータ演出C]

図52は、チャンスアップメータ演出Cを説明するための図である。

チャンスアップメータ演出Cでは、まず、図52(A)に示すように、チャンスアップメータ画像I2Aと、タイマ画像I2Gと、ボタン画像I2Eとが表示される。チャンスアップメータ画像I2Aとボタン画像I2Eとは、図51(A)と同様であるので、説明は省略する。タイマ画像I2Gは、チャンスアップメータ画像I2Aの表示中に表示される。例えば、タイマ画像I2Gは、チャンスアップメータ演出開始時、または、チャンスアップ済示唆画像I2A2が表示されてからの所定タイミングで表示される。タイマ画像I2Gは、タイマ値がカウントアップ方式で表示され、タイマの初期値として、0秒がセットされている。

【0220】

次に、図52(B)に示すタイミング一致表示演出、または、図52(D)に示すタイミング不一致演出が実行される。

図52(B)に示すように、タイミング一致表示演出では、タイマ画像I2Gのタイマ値が所定値(例えば、15秒)となると、ボタン画像I2Hが表示される。ボタン画像I2Hは、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン63が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像I2Hは、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像I2Eの色を濃くした状態、および/または、ボタン画像I2Eが点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像I2Hに隣接して、遊技者に演出ボタン63の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。

そして、タイミング一致表示演出では、チャンスアップメータ画像I2Aにおいてカーソル画像I2A1がチャンスアップ予定示唆画像I2A3に到達するタイミングと、タイマ画像I2Gのタイマ値が所定値となり、ボタン画像I2Hが表示されたタイミングとが一致することを表している。

【0221】

次に、図52(C)に示すように、高期待度チャンスアップ演出が実行される。高期待度チャンスアップ演出では、ボタン画像I2Hの表示によって遊技者が演出ボタン63を押下したことに応じて、高期待度チャンスアップ画像I2Cが表示される。高期待度チャンスアップ画像I2Cは、図50(C)と同様に、大当たり期待度が比較的高いことを示唆する画像である。

【0222】

一方、図52(D)に示すタイミング不一致演出では、図52(B)と同様に、タイマ画像I2Gのタイマ値が所定値(例えば、15秒)となると、ボタン画像I2Hが表示される。そして、タイミング不一致表示演出では、チャンスアップメータ画像I2Aにおいてカーソル画像I2A1がチャンスアップ予定示唆画像I2A3に到達するタイミングと、タイマ画像I2Gのタイマ値が所定値となり、ボタン画像I2Hが表示されたタイミングとが一致しないことを表している。

【0223】

次に、図52(E)に示すように、低期待度チャンスアップ演出が実行される。低期待度チャンスアップ演出では、低期待度チャンスアップ画像I2Dが表示される。低期待度チャンスアップ画像I2Dは、図50(E)と同様に、大当たり期待度が比較的低いことを示唆する画像である。

【0224】

〔効果例〕

以下に、チャンスアップメータ演出の効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図50～図52に示すように、チャンスアップメータ画像I2Aの表示中(チャンスアップメータ演出)に、タイマ表示(タイマ画像の表示)が実行される構成になっている。この構成によれば、種類の異なる2つの時間を取り扱う表示が成されるので、遊技者は、時間経過と共に期待感を持つことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0225】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図50～図52に示すように、チャンスアップメータ画像I2Aにおいてカーソル画像I2A1がチャンスアップ予定示唆画像I2A3に到達するタイミングと、タイマ画像におけるタイマ値が所定値になるタイミングとに基づいて、高期待度チャンスアップ演出または低期待度チャンスアップ演出が実行される場合がある。この構成によれば、種類の異なる2つの時間を取り扱う表示に基づいて、高期待度チャンスアップ演出が実行され得るので、遊技者は、これらの表示の進行により大きな期待感を持つことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0226】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図50～図52に示すように、チャンスアップメータ画像I2Aにおいてカーソル画像I2A1がチャンスアップ予定示唆画像I2A3に到達するタイミングと、タイマ画像におけるタイマ値が所定値になるタイミングとが一致した場合に、高期待度チャンスアップ演出が実行される場合がある。この構成によれば、種類の異なる2つの時間を取り扱う表示が同期したときに、高期待度チャンスアップ演出が実行され得るので、遊技者は、これらの表示の進行により大きな期待感を持つことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0227】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図50～図52に示すように、チャンスアップメータ画像I2Aにおいてカーソル画像I2A1がチャンスアップ予定示唆画像I2A3に到達するタイミングと、タイマ画像におけるタイマ値が所定値になるタイミングとが一致しなかった場合に、低期待度チャンスアップ演出が実行される場合がある。この構成によれば、種類の異なる2つの時間を取り扱う表示が同期しなかったときには、低期待度チャンスアップ演出が実行され得るので、遊技者は、これらの表示の進行により大きな期待感を持つことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0228】

〔効果5〕

上記実施形態の遊技機1では、図51～図52に示すように、タイミング一致表示演出

10

20

30

40

50

、または、タイミング不一致表示演出において、タイマ画像 I 2 G のタイマ値が所定値になると、遊技者に演出ボタン 6 3 の押下を促進させるボタン画像 I 2 H を表示させるようにしている。この構成によれば、遊技者に遊技に参加した実感を付与でき、興趣を向上させることができる。

【0229】

〔変形例〕

以下に、チャンスアップメータ演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 0 ～図 5 2 に示すように、チャンスアップメータ表示とタイマ表示が実行されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、

10

チャンスアップメータ表示とその他の時間の経過を表す表示とが実行されてもよい。ここで、その他の時間の経過を表す表示とは、例えば、時間を表すメータやインジケータでもよい。

【0230】

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 0 ～図 5 2 に示すように、タイミング一致表示演出で、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達するタイミングと、タイマ画像におけるタイマ値が所定値になるタイミングとが一致した場合に、高期待度チャンスアップ演出が実行されるように構成されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、タイミングの一致した

20

場合に、擬似連演出、リーチの種類を表す演出、スーパーリーチ演出に発展することを示唆する予告など種々の演出が実行されてもよい。この場合、タイミング不一致表示演出後の演出は、これらの演出とは異なる演出が実行されるようにしてもよい。この場合も、タイミングの一致した場合に実行される演出は、タイミングの一致しなかった場合に実行される演出よりも大当たり期待度が高い演出が選択される。

【0231】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 0 ～図 5 2 に示すように、タイミング不一致表示演出で、チャンスアップメータ画像 I 2 A においてカーソル画像 I 2 A 1 がチャンスアップ予定示唆画像 I 2 A 3 に到達するタイミングと、タイマ画像におけるタイマ値が所定値になるタイミングとが一致しなかった場合に、低期待度チャンスアップ演出が実行されるように構成されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、タイミングが一致しなかった場合に、擬似連演出、リーチの種類を表す演出、スーパーリーチ演出に発展することを示唆する予告など種々の演出が実行されてもよい。この場合、タイミング一致表示演出後の演出は、これらの演出とは異なる演出が実行されるようにしてもよい。この場合も、タイミングの一致しなかった場合に実行される演出は、タイミングの一致した場合に実行される演出よりも大当たり期待度が低い演出が選択される。

30

【0232】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、チャンスアップメータ演出において、1 つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、2 つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

40

【0233】

〔変形例 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、チャンスアップ演出として、高期待度チャンスアップ画像 I 2 C や低期待度チャンスアップ画像 I 2 D を用いて、チャンスアップを示唆するようにしているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チャンスアップとして、大当たり期待度を具体的に表示したり（「期待度 5 0 % !」など）、色で大当たり期待度を示唆する表示をしたり、音声で大当たり期待度を示唆したり、所定のキャラクタで大当たり期待度を示唆する表示をしたりしてもよい。

50

【 0 2 3 4 】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様Ⅰ 2－1〕

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、

前記複数種類の表示のうちの一つは、第1の期間表示であり、

前記複数種類の表示のうちの一つは、第2の期間表示であり、

前記複数種類の表示のうちの一つは、第1の演出表示であり、

前記第1の期間表示は、リーチ演出表示が行われている期間のうちの或る期間において表示される場合がある表示であり、

前記第1の期間表示は、カーソル表示を含む表示であり、

前記カーソル表示が開始位置から特定位置を経て終了位置まで移動することによって、前記或る期間の開始から終了までを表しており、

前記第1の期間表示は、前記特定位置を報知する特定位置表示を含む表示であり、

前記カーソル表示が前記開始位置から前記特定位置まで移動することによって、前記或る期間のうちの開始から第1のタイミングまでを表しており、

前記第1のタイミングとは、前記リーチ演出表示の表示中において、前記第1の演出表示の表示が開始される可能性があるタイミングのことであり、

前記第1の期間表示中に前記第2の期間表示を実行する場合がある、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様Ⅰ 2－2〕

前記複数種類の表示のうちの一つは、前記第1の演出表示とは異なる第2の演出表示であり、

前記第2の期間表示は、タイマ表示であり、

前記第1の期間表示中に前記第2の期間表示を実行する場合に、前記第1のタイミングと、前記タイマ表示が所定値となった第2のタイミングとに基づいて、前記第2の演出表示を実行する場合がある、

ことを特徴とする態様Ⅰ 2－1に記載の遊技機。

〔態様Ⅰ 2－3〕

前記第1の期間表示中に前記第2の期間表示を実行する場合に、前記第1のタイミングと、前記タイマ表示が所定値となった第2のタイミングとが一致した場合において、前記第1のタイミングで前記第2の演出表示を実行する場合がある、

ことを特徴とする態様Ⅰ 2－2に記載の遊技機。

〔態様Ⅰ 2－4〕

前記第1の期間表示中に前記第2の期間表示を実行する場合に、前記第1のタイミングと、前記タイマ表示が所定値となった第2のタイミングとが一致しなかった場合に、前記第1のタイミングで前記第1の演出表示を実行する場合がある、

ことを特徴とする態様Ⅰ 2－2または態様Ⅰ 2－3に記載の遊技機。

〔態様Ⅰ 2－5〕

前記第1の演出表示は、第1のチャンスアップ演出を含む表示であり、

前記第2の演出表示は、前記第1のチャンスアップ演出よりも大当たり期待度が高い第2のチャンスアップ演出を含む表示である、

ことを特徴とする態様Ⅰ 2－2から態様Ⅰ 2－4までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様Ⅰ 2－6〕

前記第2の演出表示は、前記第1の演出表示よりも大当たり期待度が高い演出である、

ことを特徴とする態様Ⅰ 2から態様Ⅰ 5までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様Ⅰ 7〕

前記複数種類の表示のうちの一つは、遊技者が操作部の操作を促進するための操作部画像の表示であり、

前記タイマ表示を実行している場合に、前記操作部画像の表示が実行される、

10

20

30

40

50

ことを特徴とする態様 I 2-1 から態様 I 2-6 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0235】

以下に図 5 3～図 5 5 を用いて保留タイマ演出について説明する。この保留タイマ演出は、装飾図柄の変動演出中（例えば、特別図柄の変動表示の開始時、装飾図柄の変動演出の開始時、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）、または、大当たり遊技中などに実行され得る。なお、保留タイマ演出 A、B は、複数変動にまたがって実行され得る演出であり、保留タイマ演出 C は、当該変動で実行され得る演出である。

【0236】

〔保留タイマ演出 A〕

図 5 3 は、保留タイマ演出 A を説明するための図である。

保留タイマ演出 A では、まず、図 5 3（A）に示すように、保留アイコン I 3 と、タイマ画像 I 3 C とが表示される。保留アイコン I 3 は、保留を表す第 1 保留アイコン I 3 B（最大 8 つ）と、当該保留を表す第 2 保留アイコン I 3 A とから構成される。なお、説明を簡単にするため、図では、第 1 保留アイコン I 3 B のうち、特図 1 の保留に対応する第 1 保留アイコン（最大 4 つ）のみが示されている。従って、図での第 1 保留アイコン I 3 B は、保留画像 9 A に該当する。以下、保留タイマ演出では、同様に示す。

【0237】

タイマ画像 I 3 C は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図 5 3（A）に示すタイマ画像 I 3 C では、タイマ初期値としての 15 秒が示されている。このタイマ画像 I 3 C は、特定の第 1 保留アイコン I 3 B に対応づけられるように隣接して表示される。

【0238】

次に、図 5 3（B）に示すように、タイムアウト表示演出が実行される。このタイムアウト表示演出では、保留のシフトに伴い、タイマ画像 I 3 C と対応付けられた第 1 保留アイコン I 3 B が右に一つシフトされ、その後、タイマ画像 I 3 C のタイマ値が 0 秒となる演出が実行される。なお、図 5 3（B）の右上には、装飾図柄 8 L、8 C、8 R が変動中であることが示されており、すなわち、全装飾図柄が変動中であることが示されている。以下に、このような状態である場合には、特に必要がないときは、その説明は省略する。

【0239】

次に、図 5 3（C）に示すように、保留変化表示演出が実行される。この保留変化表示演出では、タイマ画像 I 3 C と対応付けられていた第 1 保留アイコン I 3 B の色が変化すると共に、保留アイコン上に「熱」を示す文字が表示される。これにより、タイマ画像 I 3 C と対応付けられていた第 1 保留アイコン I 3 B に対応する変動演出において、大当たり期待度が上昇したことを示唆することができる。すなわち、保留変化表示演出は、タイマ画像 I 3 C と対応づけられていた第 1 保留アイコン I 3 B に対応する変動演出の大当たり期待度を示唆している。

【0240】

〔保留タイマ演出 B〕

図 5 4 は、保留タイマ演出 B を説明するための図である。

保留タイマ演出 B では、まず、図 5 4（A）に示すように、保留アイコン I 3（第 1 保留アイコン I 3 B と第 2 保留アイコン I 3 A）と、タイマ画像 I 3 C と、ボタン画像 I 3 D とが表示される。保留アイコン I 3 およびタイマ画像 I 3 C については、図 5 3（A）と同様であるので説明は省略する。

ボタン画像 I 3 D は、演出ボタン 6 3 を示唆する画像であり、これから演出ボタン 6 3 を用いた演出が実行され得ることを予感している。

【0241】

次に、図 5 4（B）に示すように、タイムアウト表示演出が実行される。このタイムアウト表示演出では、保留のシフトに伴い、タイマ画像 I 3 C と対応付けられた第 1 保留アイコン I 3 B が右に一つシフトされ、その後、タイマ画像 I 3 C のタイマ値が「0」秒となる演出が実行される。

10

20

30

40

50

【0242】

また、タイムアウト表示演出では、ボタン画像I3Eが表示される。ボタン画像I3Eは、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン63が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像I3Eは、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像I3Dの色を濃くした状態、および/または、ボタン画像I3Dが点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像I3Eに隣接して、遊技者に演出ボタン63の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。

【0243】

次に、図54(C)に示すように、保留期待度示唆演出が実行される。この保留期待度示唆演出では、タイマ画像I3Cと対応付けられていた第1保留アイコンI3Bに対応するように、保留期待度示唆画像I3Fが表示される。保留期待度示唆画像I3Fは、対応づけられる第1保留アイコンI3Bに対応する変動演出の大当たり期待度を示唆している。保留期待度示唆画像I3Fは、タイマ画像I3Cと同じ枠を用いて表示されている。

10

【0244】

〔保留タイマ演出C〕

図55は、保留タイマ演出Cを説明するための図である。

保留タイマ演出Cでは、まず、図55(A)に示すように、保留アイコンI3(第1保留アイコンI3Bと第2保留アイコンI3A)と、タイマ画像I3Cと、ボタン画像I3Dとが表示される。この場合、タイマ画像I3Cは、第2保留アイコンI3Aに対応づけられるように隣接して表示される。保留アイコンI3、タイマ画像I3C、および、ボタン画像I3Dについての機能は、図54(A)と同様であるので説明は省略する。なお、この保留タイマ演出では、味方キャラクタCRAと敵キャラクタCRBとが示されている。

20

【0245】

次に、図55(B)に示すように、タイムアウト表示演出が実行される。このタイムアウト表示演出では、図54(B)と同様にボタン画像I3Eが表示され、タイマ画像I3Cのタイマ値が「0」秒となる演出が実行される。

【0246】

次に、図55(C)に示すように、擬似連演出演出が実行される。この擬似連演出では、タイマ画像I3Cと対応付けられていた第2保留アイコンI3Aに対応するように、擬似連示唆画像I3Gが表示される。擬似連示唆画像I3Gは、対応づけられる第2保留アイコンI3Aに対応する変動演出(当該変動演出)において、擬似連演出が実行されていること、および、擬似連演出の回数を示唆している。擬似連示唆画像I3Gは、タイマ画像I3Cと同じ枠を用いて表示されている。

30

【0247】

なお、擬似連演出とは、変動演出の開始時やリーチ演出中等において実行される演出であり、例えば、装飾図柄を変動開始させ仮停止させる演出を繰り返す演出、装飾図柄の所定の図柄配列の少なくとも一部を仮停止させる演出を繰り返す演出、予め決められたロゴを仮停止させる演出を繰り返す演出、または、「×2」、「×3」、「擬似」など擬似連を連想させる表示と共に、装飾図柄の変動演出を実行させる演出を含む。

40

【0248】

〔効果例〕

以下に、保留タイマ演出の効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図53～図55に示すように、タイマ画像I3Cと保留アイコンI3とが対応付けられて表示され、タイマ画像I3Cのタイマ値に基づいて、所定の演出(保留変化表示演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出)が実行される。この構成によれば、保留に対する遊技者の興味を引きつけることができ、その結果、興味を向上させることができる。

【0249】

50

[効果 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C と保留アイコン I 3 とが対応付けられて表示され、タイマ画像 I 3 C のタイマ値に基づき、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 に対して所定の演出（保留変化表示演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出）が実行される。この構成によれば、特定の保留に対して遊技者の興味をより引きつけることができ、その結果、興味を向上させることができる。

【0250】

[効果 3]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C と保留アイコン I 3 とが隣接して表示される。この構成によれば、遊技者がタイマ画像 I 3 C と保留アイコン I 3 との対応関係を迅速に認識することができ、特定の保留に対して遊技者の興味を増大させることができる。その結果、興味を向上させることができる。

10

【0251】

[効果 4]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 4 に示すように、タイマ画像 I 3 C と保留アイコン I 3 とが対応付けられて表示され、タイマ画像 I 3 C のタイマ値に基づき、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 に対して、大当たり期待度を示唆する演出（保留変化表示演出、または、保留期待度示唆演出）が実行される。この構成によれば、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 に対して大当たり期待度を示唆する演出が実行されるので、遊技者の興味をより深いものにすることができ、その結果、興味を向上させることができる。

20

【0252】

[効果 5]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3 に示すように、タイマ画像 I 3 C と保留アイコン I 3 とが対応付けられて表示され、タイマ画像 I 3 C のタイマ値に基づき、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 に対して、保留変化表示演出が実行される。この構成によれば、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 の態様が変化するので、遊技者の興味をより深いものにすることができ、その結果、興味を向上させることができる。

30

【0253】

[効果 6]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C と保留アイコン I 3 とが対応付けられて表示され、タイマ画像 I 3 C のタイマ値が所定値（0 秒）となった場合に、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 に対して、所定の演出（保留変化表示演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出）が実行される。この構成によれば、タイマ画像 I 3 C のタイマ値が所定値となるまでの間、タイマ画像 I 3 C に対応付けられた保留アイコン I 3 に対して遊技者の興味を引きつけることができ、その結果、興味を向上させることができる。

【0254】

40

[効果 7]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 4～図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C が所定値（0 秒）となった場合に、演出ボタン 6 3 の操作を遊技者に促すボタン画像 I 3 E を表示し、遊技者による演出ボタン 6 3 の操作があったときに、所定の演出（保留期待度示唆演出、または、擬似連演出）が実行される。この構成によれば、遊技者が演出ボタン 6 3 の操作タイミングを逸することを抑制することができ、遊技への参加率を向上させることができる。

【0255】

[変形例]

以下に、保留タイマ演出の変形例を示す。

50

〔変形例 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像 I 3 C は、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したタイムアウト表示演出が実行され得る。

【0256】

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C が第 2 保留アイコン I 3 A に対応付けて表示され、タイマ値が所定値（0 秒）になると、擬似連演出が実行されるが、本発明はこれに限られるものではなく、他の演出、例えば、図 5 3（C）のような保留変化表示演出、図 5 4（C）のような保留期待度示唆演出、または、チャンスアップ演出が実行されてもよい。

10

また、図 5 3 または図 5 4 に示すように、タイマ画像 I 3 C が第 1 保留アイコン I 3 B に対応付けて表示され、タイマ値が所定値（0 秒）になると、保留変化表示演出や保留期待度示唆演出が実行されるが、本発明はこれに限られるものではなく、他の演出、例えば、擬似連演出やチャンスアップ演出などが実行される構成でもよい。

【0257】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 5 に示すように、タイマ画像 I 3 C が保留アイコン I 3 に対応付けて表示され、タイマ値が 0 秒になると、所定の演出（保留変化表示演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出）が実行されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像 I 3 C が保留アイコン I 3 に対応付けて表示され、タイマ値が所定値（例えば 7.77 秒）となると、所定の演出が実行される構成でもよい。

20

【0258】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 5 に示す保留タイマ演出 A～C において、1 つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、2 つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

30

【0259】

〔変形例 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 3～図 5 4 に示す保留タイマ演出 A，B は、複数変動にまたがって実行される演出としているが、本発明はこれに限られるものではなく、当該変動のみで実行される演出としてもよい。また、図 5 5 に示す保留タイマ演出 C は、当該変動で実行される演出としているが、本発明はこれに限られるものではなく、複数変動にまたがって実行される演出としてもよい。

【0260】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

40

◇〔態様 I 3-1〕

表示手段を備える遊技機であって、

前記表示手段は、複数の保留アイコンを表示可能な手段であり、

前記保留アイコンは、保留を表すアイコンと、当該保留を表すアイコンとを含み、

前記保留アイコンの表示数で保留数を報知可能なように構成されており、

前記表示手段は、複数の演出を表示可能な手段であり、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第 1 の演出をおこなう場合があり、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第 2 の演出をおこなう場合があり、

前記第 1 の演出は、タイマ表示を行う演出であり、

前記第 1 の演出と前記第 2 の演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、

50

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の演出の前記タイマ表示と前記保留アイコンとが対応付けられて表示され、前記第 1 の演出のタイマ表示に基づいて前記第 2 の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 I 3-2〕

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の演出の前記タイマ表示と前記保留アイコンとが対応付けられて表示され、前記タイマ表示に基づき、前記タイマ表示に対応付けられた前記保留アイコンに対して前記第 2 の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 I 3-1 に記載の遊技機。

〔態様 I 3-3〕

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の演出の前記タイマ表示と前記保留アイコンとが隣接して表示される。

ことを特徴とする態様 I 3-1 または態様 I 3-2 に記載の遊技機

〔態様 I 3-4〕

前記第 2 の演出は、大当たり期待度示唆表示を行う演出である、

ことを特徴とする態様 1 から態様 3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 I 3-5〕

前記大当たり期待度示唆表示は、前記保留アイコンの態様を変化させる場合がある表示である、

ことを特徴とする態様 I 3-4 に記載の遊技機。

〔態様 I 3-6〕

前記組み合わせ演出において、前記第 1 の演出の前記タイマ表示が所定値となった場合に、前記第 2 の演出が行われる、

ことを特徴とする態様 I 3-1 から態様 I 3-5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 I 3-7〕

遊技者が操作可能な操作部を備え、

前記組み合わせ演出において、前記第 1 の演出の前記タイマ表示が所定値となった場合に、前記操作部の操作を遊技者に促す操作部画像を表示し、遊技者による前記操作部の操作があったときに、前記第 2 の演出が行われる、

ことを特徴とする態様 I 3-1 から態様 I 3-6 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0261】

以下に図 5 6～図 5 8 を用いてタイマ出玉獲得演出について説明する。この出玉獲得演出は、装飾図柄の変動演出中、例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。特に、タイマ出玉獲得演出は、リーチ演出（スーパーリーチ演出）の終盤で実行され得る。

【0262】

〔タイマ出玉獲得演出 A〕

図 5 6 は、タイマ出玉獲得演出 A を説明するための図である。

タイマ出玉獲得演出 A では、まず、図 5 6（A）に示すように、大当たり報知演出が実行される。この大当たり報知演出では、装飾図柄 8 L、8 C、8 R を用いた大当たり図柄配列が示される。図 5 6（A）では、大当たり図柄配列は、7 図柄のゾロ目揃いとなっている。

【0263】

次に、図 5 6（B）に示すように、タイマ表示演出が実行される。タイマ表示演出では、タイマ画像 I 4 A と味方キャラクタ C R A が表示される。タイマ画像 I 4 A は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図 5 6（B）に示すタイマ画像 I 4 A では、タイマ初期値としての「5 秒」が示されている。

【0264】

次に、図 5 6（C）に示すように、払出予定出玉表示演出が実行される。払出予定出玉表示演出では、タイマ画像 I 4 A のタイマ値が 0 秒となると払出予定出玉数示唆画像 I 4

10

20

30

40

50

Bが表示される。払出予定出玉数示唆画像I 4 Bは、大当たり遊技における払出予定の大当たり出玉数を示唆する画像である。図5 6 (C)の例では、払出予定出玉数示唆画像I 4 Bにおいて、1 5 0 0玉の出玉が大当たり遊技中に払い出され得ることを示している。

【0 2 6 5】

〔タイマ出玉獲得演出B〕

図5 7は、タイマ出玉獲得演出Bを説明するための図である。

タイマ出玉獲得演出Bでは、まず、図5 7 (A)に示すように、大当たり報知演出が実行される。この大当たり報知演出では、図5 6 (A)と同様に、装飾図柄8 L, 8 C, 8 Rを用いた大当たり図柄配列が示される。

【0 2 6 6】

次に、図5 7 (B)に示すように、タイマ表示演出が実行される。タイマ表示演出では、図5 6 (B)と同様に、タイマ画像I 4 Aと味方キャラクターC R Aが表示される。

【0 2 6 7】

次に、図5 7 (C)に示すように、ボタン押下促進表示演出が実行される。このボタン押下促進表示演出では、タイマ画像I 4 Aのタイマ値が「0 秒」となると共に、ボタン画像I 4 Cが表示される。ボタン画像I 4 Cは、遊技者に演出ボタン6 3の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン6 3が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像I 4 Cは、画像中に「P U S H」と表され、点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像I 4 Cに隣接して、遊技者に演出ボタン6 3の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。

【0 2 6 8】

次に、図5 7 (D)に示すように、払出予定出玉表示演出が実行される。この払出予定出玉表示演出では、遊技者により演出ボタン6 3が押下されたことに応じて、図5 6 (C)と同様に払出予定出玉数示唆画像I 4 Bが表示される。

【0 2 6 9】

〔タイマ出玉獲得演出C〕

図5 8は、タイマ出玉獲得演出Cを説明するための図である。

タイマ出玉獲得演出Cでは、まず、図5 8 (A)に示すように、大当たり報知演出が実行される。この大当たり報知演出では、図5 6 (A)と同様に、装飾図柄を用いた大当たり図柄配列が示される。

【0 2 7 0】

次に、図5 8 (B)に示すタイマ表示演出（タイマ初期値大）、または、図5 8 (E)に示すタイマ表示演出（タイマ初期値小）が実行される。

図5 8 (B)に示すように、タイマ表示演出（タイマ初期値大）では、タイマ初期値が比較的大きい「1 5 秒」のタイマ画像I 4 Dが表示される。

【0 2 7 1】

次に、図5 8 (C)に示すように、ボタン押下促進表示演出が実行される。このボタン押下促進表示演出では、タイマ画像I 4 Dのタイマ値が「0 秒」となると共に、図5 7 (C)と同様に、ボタン画像I 4 Cが表示される。

【0 2 7 2】

次に、図5 8 (D)に示すように、払出予定出玉表示演出が実行される。この払出予定出玉表示演出では、図5 7 (D)と同様に、遊技者により演出ボタン6 3が押下されたことに応じて、払出予定の出玉数が比較的多い1 5 0 0玉であることを示唆する払出予定出玉数示唆画像I 4 Bが表示される。

【0 2 7 3】

一方、図5 8 (E)に示すタイマ表示演出（タイマ初期値小）では、タイマ初期値が比較的小さい「5 秒」のタイマ画像I 4 Aが表示される。

次に、図5 8 (F)に示すように、ボタン押下促進表示演出が実行される。このボタン押下促進表示演出では、図5 7 (C)と同様に、タイマ画像I 4 Aのタイマ値が「0 秒」となると共に、ボタン画像I 4 Cが表示される。

【0274】

次に、図58（G）に示すように、払出予定出玉表示演出が実行される。この払出予定出玉表示演出では、遊技者により演出ボタン63が押下されたことに応じて、払出予定の出玉数が比較的少ない700玉であることを示唆する払出予定出玉数示唆画像I4Eが表示される。

【0275】

〔効果例〕

以下に、タイマ出玉獲得演出の効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図56～図58に示すように、タイマ画像I4A、I4Cが表示され、払出予定出玉数示唆画像I4B、I4Eが表示される。この構成によれば、払出予定出玉数示唆表示が実行される前に、タイマ表示が行われるので、遊技者の払出予定出玉数に対する興味を向上させることができる。その結果、遊技の興味を向上させることができる。

10

【0276】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図56～図58に示すように、タイマ画像I4A、I4Cが表示され、タイマ値が0秒になってから、払出予定出玉数示唆画像I4B、I4Eが表示される。この構成によれば、タイマ値が0秒になると払出予定出玉数表示が行われるので、遊技者の払出予定出玉数に対する興味をより向上させることができる。その結果、遊技の興味を向上させることができる。

20

【0277】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図57～図58に示すように、タイマ画像I4A、I4Cが表示され、遊技者に演出ボタン63の押下を促すボタン画像I4Cが表示され、その後、遊技者により演出ボタン63の押下がなされたことに応じて、払出予定出玉数示唆画像I4B、I4Eが表示される。この構成によれば、遊技者に遊技に参加した実感を付与でき、興味を向上させることができる。

【0278】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図58に示すように、タイマ出玉獲得演出Cにおいて、タイマ表示演出が実行される場合に、タイマ初期値が比較的大きいタイマ画像I4Dが表示された場合には、タイマ初期値が比較的小さいタイマ画像I4Aが表示された場合と比較して、払出予定出玉表示演出で払出予定出玉数示唆画像で示される払出予定の出玉数を表す値が大きい。この構成によれば、払出予定出玉数示唆画像の表示が成される前のタイマ表示に対して遊技者の興味を向上させることができる。その結果、遊技の興味を向上させることができる。

30

【0279】

〔変形例〕

以下に、タイマ出玉獲得演出の変形例を示す。

40

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図57～図58に示すように、ボタン押下促進表示演出において、ボタン画像I4Cは、タイマ画像I4A、I4Dのタイマ値が0秒になってから表示される構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ボタン画像I4Cは、タイマ画像I4A、I4Dのタイマ値が0秒になる前の所定値（例えば、2秒）になった場合に、表示される構成としてもよい。

【0280】

〔変形例2〕

上記実施形態の遊技機1では、図56～図58に示すタイマ出玉獲得演出は、特別図柄の変動表示の開始時、装飾図柄の変動演出中、または、リーチ演出（スーパーリーチ演出

50

）中などに実行され得る構成としたが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、タイマ出玉獲得演出のうちのタイマ表示演出、ボタン押下促進演出、および、払出予定出玉表示演出は、大当たり遊技中に実行される構成としてもよい。

【０２８１】

〔変形例３〕

上記実施形態の遊技機１では、図５６～図５８に示すタイマ出玉獲得演出において、１つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、２つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

【０２８２】

〔変形例４〕

上記実施形態の遊技機１では、図５６～図５８に示すように、タイマ画像Ｉ４Ａ，Ｉ４Ｄは、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像Ｉ４Ａ，Ｉ４Ｄは、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したタイムアウト表示演出が実行され得る。

【０２８３】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様Ｉ４－１〕

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、
前記複数種類の表示のうちの一つの表示は、或る表示であり、
前記或る表示は、大当たり抽選に当選した場合に行われる表示であり、
第１の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
第２の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
前記第１の態様は、タイマ表示を含む態様であり、
前記第２の態様は、大当たりに基づく大当たり遊技中に払い出し予定の遊技媒体数を示唆する払出予定数示唆表示を含む態様であり、
前記或る表示は、前記第１の態様で表示された後、前記第２の態様で表示される場合がある表示である、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様Ｉ４－２〕

前記或る表示は、前記第１の態様において前記タイマ表示のタイマ値が第１の所定値となった後に、前記第２の態様で表示される、

ことを特徴とする態様Ｉ４－１に記載の遊技機。

〔態様Ｉ４－３〕

遊技者の操作を受け付けて、遊技者の操作により所定の演出を実行可能な操作部を備え、
第３の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
前記第３の態様は、遊技者に前記操作部の操作を促す操作部画像の表示を含む態様であり、

前記或る表示は、前記第１の態様で表示され、前記第１の態様で表示されているときに前記第３の態様で表示され、その後、遊技者により前記操作部の操作がなされたことに応じて、前記第２の態様で表示される場合がある、

ことを特徴とする態様Ｉ４－１または態様Ｉ４－２に記載の遊技機。

〔態様Ｉ４－４〕

前記或る表示は、前記第１の態様で表示され、前記第１の態様における前記タイマ値が第２の所定値となる前に前記第３の態様で表示され、その後、遊技者により前記操作部の操作がなされたことに応じて、前記第２の態様で表示される場合がある、

ことを特徴とする態様Ｉ４－３に記載の遊技機。

〔態様Ｉ４－５〕

前記第１の態様において、前記タイマ値の初期値が第１の値と、前記第１の値よりも大

10

20

30

40

50

きい第2の値の場合があり、

前記或る表示で前記第1の態様で表示された後、前記第2の態様で表示される場合において、前記第1の態様における前記タイム値の前記初期値が前記第2の値の場合には、前記第1の態様における前記タイム値の前記初期値が前記第1の値の場合と比較して、前記第2の態様における前記払出予定数示唆表示で示される払い出し予定の遊技媒体数を表す値が大きい、

ことを特徴とする態様Ⅰ4-1から態様Ⅰ4-4までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0284】

以下に図59～図61を用いて復活演出について説明する。この復活演出は、装飾図柄の変動演出中、例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。

【0285】

まず、復活演出を説明する前に、図59を用いてハズレ演出と大当たり演出の例を説明する。

[ハズレ演出]

図59は、ハズレ演出と大当たり演出とを説明するための図である。

ハズレ演出では、まず、図59（A）に示すように、リーチ演出が実行される。リーチ演出は、装飾図柄8L、8Rが同じ図柄となったリーチ状態中に行われる演出である。リーチ演出には、大当たり期待度が比較的低い通常リーチ演出や大当たり期待度が比較的高いスーパーリーチ演出が含まれる。スーパーリーチ演出は、通常リーチ演出から発展して実行される場合がある演出である。なお、このリーチ演出では、「6」図柄でリーチ状態となっている。

【0286】

この「6」図柄を3つ用いて大当たりした場合（すなわち、大当たり図柄配列「666」）には、大当たり遊技後の遊技状態が確変状態になる場合もあるし、非確変状態となる場合もある。従って、大当たり図柄配列「666」の場合には、遊技者は、この図柄配列からは大当たり遊技後の遊技状態が確変状態となるのか非確変状態となるのかを判断することはできない。このような装飾図柄を確変不確定図柄とも呼ぶ。本実施形態では、確変不確定図柄は、偶数図柄が該当する。これに限られず、例えば、「3」、「7」図柄以外の図柄を確変不確定図柄としてもよい。

また、「7」図柄を3つ用いて大当たりした場合（すなわち、大当たり図柄配列「777」）には、大当たり遊技後の遊技状態が確変状態となることが確定する。従って、大当たり図柄配列「777」の場合には、遊技者は、この図柄配列から大当たり遊技後の遊技状態が確変状態となると判断することができる。このような装飾図柄を確変確定図柄とも呼ぶ。本実施形態では、確変確定図柄は、奇数図柄が該当する。これに限られず、例えば、「3」、「7」図柄のみを確変確定図柄としてもよい。

【0287】

なお、このリーチ演出は、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出と、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出とを含む。ハズレ演出では、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出よりも、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出の方が、出現率が高くなっている。

【0288】

次に、図59（B）に示すように、チャンスアップ演出としてのカットイン演出が実行される。このカットイン演出では、カットイン画像H1Aが表示される。カットイン画像H1Aは、比較的大当たり期待度が低いことを示唆するチャンスアップ画像であり、「チャンスだ!」という文字を表している。なお、ハズレ演出におけるカットイン演出は、図59（B）に示す演出に限られず、後述の図59（E）のように、カットイン画像H1Bを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出（チャンスアップ演出）が実行されてもよい。この場合、ハズレ演出では、カットイン画像H1Bを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出よりも、カットイン画像H1Aを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出の方が、出現率が高くなっている。

【0289】

10

20

30

40

50

次に、図59(C)に示すように、ハズレ報知演出が実行される。このハズレ報知演出では、装飾図柄8L、8C、8Rを用いたハズレ図柄配列が示される。図59(C)では、ハズレ図柄配列は、左装飾図柄8Lと右装飾図柄8Rとが同じ図柄(6図柄)であり、中装飾図柄8Cが異なる図柄(7図柄)となっている。

【0290】

[大当たり演出]

大当たり演出では、まず、図59(D)に示すように、図59(A)と同様に、リーチ演出が実行される。なお、このリーチ演出は、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出と、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出とを含む。大当たり演出では、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出よりも、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出の方が、出現率が高くなっている。

10

【0291】

次に、図59(E)に示すように、チャンスアップ演出としてのカットイン演出が実行される。このカットイン演出では、カットイン画像H1Bが表示される。カットイン画像H1Bは、比較的大当たり期待度が高いことを示唆するチャンスアップ画像であり、「激アツだ!」という文字を表している。なお、大当たり演出におけるカットイン演出は、図59(E)に示す演出に限られず、図59(B)のように、カットイン画像H1Aを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出(チャンスアップ演出)が実行されてもよい。この場合、大当たり演出では、カットイン画像H1Aを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出よりも、カットイン画像H1Bを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出の方が、出現率が高くなっている。

20

【0292】

次に、図59(F)に示すように、大当たり報知演出が実行される。この大当たり報知演出では、装飾図柄8L、8C、8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。図59(F)では、大当たり図柄配列は、装飾図柄8L、8C、8Rとが同じ図柄(6図柄)となるゾロ目となっている。すなわち、この場合の大当たり図柄配列は、確変不確定図柄で形成されている。

【0293】

[復活演出A]

図60は、復活演出Aを説明するための図である。

30

復活演出Aでは、まず、図60(A)に示すように、図59(A)と同様にリーチ演出が実行される。なお、このリーチ演出は、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出と、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出とを含む。復活演出Aでは、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出よりも、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出の方が、出現率が高くなっている。

【0294】

次に、図60(B)に示すように、図59(E)と同様に、カットイン画像H1Bを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出(チャンスアップ演出)が実行される。なお、復活演出Aにおけるカットイン演出は、これに限られず、図59(B)のように、カットイン画像H1Aを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出(チャンスアップ演出)が実行されてもよい。この場合、復活演出Aでは、カットイン画像H1Aを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出よりも、カットイン画像H1Bを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出の方が、出現率が高くなっている。

40

次に、図60(C)に示すように、図59(C)と同様に、ハズレ報知演出が実行される。

【0295】

次に、図60(D)に示すように、役物可動演出が実行される。この役物可動演出は、盤可動体15が展開ポジションに可動制御され、表示画面7a上(表示画面7aの一部を隠す位置)に配置される演出である。この役物可動演出により、遊技者に変動演出がまだ終了していないことを示唆することができる。

50

次に、図 60 (E) に示すように、確変確定図柄を用いた大当たり報知演出が実行される。

【0296】

〔復活演出 B〕

図 61 は、復活演出 B を説明するための図である。

復活演出 B において、図 61 (A) のリーチ演出、図 61 (B) のカットイン演出、図 61 (C) のハズレ報知演出は、それぞれ図 60 (A) のリーチ演出、図 60 (B) のカットイン演出、図 60 (C) のハズレ報知演出と同様であるので、説明を省略する。

【0297】

なお、このリーチ演出は、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出と、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出とを含む。復活演出 B では、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出よりも、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出の方が、出現率が高くなっている。また、復活演出 B におけるカットイン演出は、図 61 (B) に示す演出に限られず、図 59 (B) のように、カットイン画像 H1A を用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出（チャンスアップ演出）が実行されてもよい。この場合、復活演出 B では、カットイン画像 H1A を用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出よりも、カットイン画像 H1B を用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出の方が、出現率が高くなっている。

【0298】

次に、図 61 (D) に示すように、ボタン押下促進表示演出が実行される。このボタン押下促進表示演出では、ボタン画像 H1C が表示される。ボタン画像 H1C は、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン 63 が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像 H1C は、画像中に「PUSH」と表され、点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像 H1C に隣接して、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すために、「押せ！！」の文字も表されている。

次に、図 61 (E) に示すように、図 60 (E) と同様に、確変確定図柄を用いた大当たり報知演出が実行される。

【0299】

〔効果例〕

以下に、復活演出の効果例を示す。

〔効果 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 59～図 61 に示すように、ハズレ演出が実行される場合と、大当たり演出が実行される場合と、復活演出が実行される場合とがある。この構成によれば、ハズレ報知演出が実行された場合であっても、復活演出の可能性があるので、遊技者に希望を与えることができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0300】

〔効果 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 60～図 61 に示すように、復活演出 A, B において、リーチ演出では、確変不確定図柄を用いてリーチ状態が示され、ハズレ報知演出後の大当たり報知演出では、確変確定図柄を用いて大当たり図柄配列が示される。この構成によれば、復活演出の場合には、確変状態への移行が確定するので、復活演出が実現された場合には、遊技者に大きな歓喜を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0301】

〔効果 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 60～図 61 に示すように、復活演出でリーチ演出が実行される場合において、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出よりも、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出の方が、出現率が高くなっている。この構成によれば、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出が出現した場合には、復活演出である可能性が高まるの

10

20

30

40

50

【 0 3 0 7 】

上記実施形態の遊技機１では、図６０～図６１に示すように、復活演出では、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出よりも、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出の方が、出現率が高くなっているが、本発明はこれに限られるものではなく、比較的大当たり期待度が低いリーチ演出の方が、比較的大当たり期待度が高いリーチ演出よりも、出現率が高くなっているてもよい。また、復活演出では、カットイン画像Ｈ１Ａを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出よりも、カットイン画像Ｈ１Ｂを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出の方が、出現率が高くなっているが、本発明はこれに限られるものではなく、カットイン画像Ｈ１Ａを用いた比較的大当たり期待度が低いカットイン演出の方が、カットイン画像Ｈ１Ｂを用いた比較的大当たり期待度が高いカットイン演出よりも、出現率が高くなっているてもよい。

【 0 3 0 8 】

上記実施形態の遊技機 1 では、図 60～図 61 に示すように、復活演出では、リーチ演出にて確変不確定図柄を用いてリーチ状態を形成後、ハズレ報知演出を経て、大当たり報知演出が実行される場合には、確変確定図柄を用いて大当たり図柄配列が示される構成であるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、リーチ演出にて確変確定図柄を用いてリーチ状態を形成後、ハズレ報知演出を経て、大当たり報知演出が実行される場合には、再度確変確定図柄を用いて大当たり図柄配列が示される構成でもよいし、リーチ演出にて確変不確定図柄を用いてリーチ状態を形成後、ハズレ報知演出を経て、大当たり報知演出が実行される場合には、再度確変不確定図柄を用いて大当たり図柄配列が示される構成でもよい。

【 0 3 0 9 】

上記実施形態の遊技機 1 では、図 5 9 ～ 図 6 1 に示すように、チャンスアップ演出としてカットイン演出が実行されているが、本発明はこれに限られるものではなく、例えば、チャンスアップ演出として、所定領域（味方キャラクタ C R A など）の色が変化する演出、所定のレアキャラクタが出現する演出、または、所定の演出（ゲームなど）を成功させる演出が実行されてもよい。

【 0 3 1 0 】

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇[熊様 H 1 - 1]

複数種類の表示演出を実行可能な表示手段を備える遊技機であって、

複数の表示演出のうちの一つは、或る演出であり、

第1の態様で前記或る演出が実行される場合があり、

第2の態様で前記或る演出が実行される場合があり、

第3の態様で前記或る演出が実行される場合があり、

第4の態様で前記或る演出が実行される場合があり、

前記第1の態様は、リーチ演出を含む態様であり、

前記第2の態様は、チャンスアップ演出を含む態様であり、

前記第3の態様は、ハズレ図柄配列を表示するハズレ演出を含む態様であり、

前記第4の態様は、大当たり図柄配列を表示する当たり演出を含む態様であり、

前記或る演出は、第1のパターンと第2のパターンと第3のパターンとを含む複数のパターンのうちの一つのパターンでおこなわれる場合がある演出であり、

前記或る演出は、前記第1のパターンとして、前記第1の態様で演出が実行された後に前記第2の態様で演出が実行され、前記第2の態様で演出が実行された後に前記第3の態

様で演出が実行される場合がある演出であり、

前記或る演出は、前記第 2 のパターンとして、前記第 1 の態様で演出が実行された後に前記第 2 の態様で演出が実行され、前記第 2 の態様で演出が実行された後に前記第 4 の態様で演出が実行される場合がある演出であり、

前記或る演出は、前記第 3 のパターンとして、前記第 1 の態様で演出が実行された後に前記第 2 の態様で演出が実行され、前記第 2 の態様で演出が実行された後に前記第 3 の態様で演出が実行され、前記第 3 の態様で演出が実行された後に前記第 4 の態様の演出が実行される場合がある演出である、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 H 1 - 2〕

前記第 1 の態様の前記リーチ演出では、遊技者に有利な遊技状態への移行の有無を示唆しない第 1 の図柄を用いてリーチ状態が示され、前記第 4 の態様で表示される前記大当たり図柄配列は、遊技者に有利な遊技状態への移行を示唆する第 2 の図柄を用いて示される、ことを特徴とする態様 H 1 - 1 に記載の遊技機。

〔態様 H 1 - 3〕

前記第 1 の態様の前記リーチ演出は、第 1 のリーチ演出が実行される場合があり、

前記第 1 の態様の前記リーチ演出は、前記第 1 のリーチ演出よりも大当たり期待度が高い第 2 のリーチ演出が実行される場合があり、

前記或る演出が前記第 3 のパターンでおこなわれる場合において、前記第 1 の態様で演出が実行される場合には、前記第 1 のリーチ演出よりも前記第 2 のリーチ演出の方が多く実行される、

ことを特徴とする態様 H 1 - 1 または態様 H 1 - 2 に記載の遊技機。

〔態様 H 1 - 4〕

前記第 2 の態様の前記チャンスアップ演出は、第 1 のチャンスアップ演出が実行される場合があり、

前記第 2 の態様の前記チャンスアップ演出は、前記第 1 のチャンスアップ演出よりも大当たり期待度が高い第 2 のチャンスアップ演出が実行される場合があり、

前記或る演出が前記第 3 のパターンでおこなわれる場合において、前記第 2 の態様で演出が実行される場合には、前記第 1 のチャンスアップ演出よりも前記第 2 のチャンスアップ演出の方が多く実行される、

ことを特徴とする態様 H 1 - 1 から態様 H 1 - 3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 H 1 - 5〕

可動式役物を備え、

前記或る演出が前記第 3 のパターンでおこなわれる場合において、前記第 4 の態様の前記当たり演出は、前記第 3 の態様で演出が実行され、前記可動式役物が所定位置に移動した後実行される、

ことを特徴とする態様 H 1 - 1 から態様 H 1 - 4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 H 1 - 6〕

前記所定位置は、前記表示手段より手前側であり、遊技者からみて前記表示手段と重なる位置である、

ことを特徴とする態様 H 1 - 5 に記載の遊技機。

〔0311〕

以下に図 6 2 ~ 図 6 4 を用いてリザルト演出について説明する。このリザルト演出は、例えば、大当たり遊技中に実行され得る。

〔0312〕

〔リザルト演出 A〕

図 6 2 は、リザルト演出 A を説明するための図である。

リザルト演出 A では、まず、大当たり遊技が始まると、図 6 2 (A) に示すように確変移行挑戦演出が実行される。この確変移行挑戦演出は、味方キャラクタ C R A と敵キャラクタ C R B とが表示され、味方キャラクタ C R A と敵キャラクタ C R B とが戦って、大当

10

20

30

40

50

たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行することへの挑戦を示す演出である。なお、時短付き確変状態とは、時短状態であり、かつ、確変状態である状態である。

【0313】

次に、図62(B)に示すように、確変移行失敗演出1が実行される。この確変移行失敗演出1では、味方キャラクタCRAが敵キャラクタCRBにふっ飛ばされて戦いに負けた状態を表す演出である。すなわち、この確変移行失敗演出1は、大当たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行しないことを示唆する演出である。

【0314】

次に、図62(C)に示すように、確変移行失敗演出2が実行される。この確変移行失敗演出2では、味方キャラクタCRAが敵キャラクタCRBとの戦いに負けたことを強調する演出である。すなわち、この確変移行失敗演出2は、大当たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行しないことを示唆する演出である。

【0315】

次に、図62(D)に示すように、リザルト画面表示演出が実行される。このリザルト画面表示演出では、継続回数示唆画像H2Aと、獲得玉数示唆画像H2Bとが表示される。継続回数示唆画像H2Aは、時短状態中における連続した大当たりの回数（以下では、継続回数とも呼ぶ）を示唆する画像である。獲得玉数示唆画像H2Bは、当該大当たり遊技で払い出された玉数（以下では、獲得玉数とも呼ぶ）を示唆する画像である。図62(D)の継続回数示唆画像H2Aでは、継続回数が「3回」であり、獲得玉数示唆画像H2Bでは、獲得玉数が「2700玉」であることが表されている。リザルト画面表示演出が実行され、大当たり遊技が終了した場合には、遊技状態が時短付き非確変状態に移行する。時短付き非確変状態とは、時短状態であり、かつ、非確変状態である状態である。

【0316】

[リザルト演出B]

図63は、リザルト演出Bを説明するための図である。

リザルト演出Bでは、まず、大当たり遊技が始まると、図63(A)に示すように、図62(A)と同様な確変移行挑戦演出が実行される。

【0317】

次に、図63(B)に示すように、確変移行成功演出1が実行される。この確変移行成功演出1では、味方キャラクタCRAが敵キャラクタCRBにふっ飛ばして戦いに勝った状態を表す演出である。すなわち、この確変移行成功演出1は、大当たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行することを示唆する演出である。

【0318】

次に、図63(C)に示すように、確変移行成功演出2が実行される。この確変移行成功演出2では、味方キャラクタCRAが敵キャラクタCRBとの戦いに勝ったことを強調する演出である。すなわち、この確変移行成功演出2は、大当たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行することを示唆する演出である。

【0319】

次に、図63(D)に示すように、リザルト画面表示演出が実行される。このリザルト画面表示演出では、継続回数示唆画像H2Aと、獲得玉数示唆画像H2Bとが表示される。図63(D)の継続回数示唆画像H2Aでは、継続回数が「5回」であり、獲得玉数示唆画像H2Bでは、獲得玉数が「4500玉」であることが表されている。リザルト画面表示演出が実行され、大当たり遊技が終了した場合には、遊技状態が時短付き確変状態に移行する。

【0320】

[リザルト演出C]

図64は、リザルト演出Cを説明するための図である。

リザルト演出Cでは、まず、大当たり遊技が始まると、図64(A)に示すように、図62(A)と同様な確変移行挑戦演出が実行される。

【0321】

次に、図 6 4 (B) に示すように、図 6 2 (B) と同様な確変移行失敗演出 1 が実行される。

次に、図 6 4 (C) に示すように、図 6 2 (C) と同様な確変移行失敗演出 2 が実行される。

次に、図 6 4 (D) に示すように、図 6 2 (D) と同様なリザルト画面表示演出が実行される。

【0322】

次に、図 6 4 (E) に示すように、役物可動演出が実行される。この役物可動演出では、盤可動体 1 5 が展開ポジションに可動制御され、表示画面 7 a 上（表示画面 7 a の一部を隠す位置）に配置される演出である。

次に、図 6 4 (F) に示すように、確変移行示唆演出が実行される。この確変移行示唆演出では、確変移行示唆画像 H 2 C が表示される。確変移行示唆画像 H 2 C は、大当たり遊技後の遊技状態が確変状態に移行することを示唆する演出であり、「まだまだ続くぞ！」という文字で表されている。リザルト画面表示演出が実行され、大当たり遊技が終了した場合には、遊技状態が時短付き確変状態に移行する。

【0323】

なお、リザルト演出 A, C では、リザルト画面表示演出において、チャンスアップ表示が実行され得る。このチャンスアップ表示として、例えば、以下の表示が実行され得る。

(1) 継続回数示唆画像 H 2 A における継続回数の文字の色が、第 1 の色（例えば、青）と第 2 の色（例えば、赤）との場合がある。この場合、継続回数示唆画像 H 2 A における継続回数の文字の色が、第 2 の色の場合の方が、第 1 の色の場合よりも、役物可動演出および確変移行示唆演出への発展期待度（確変状態への移行期待度）が高くなるように設定される。言い換えれば、継続回数示唆画像 H 2 A における継続回数の文字の色が、第 2 の色の場合の方が、第 1 の色の場合よりも、リザルト演出 C が選択されている可能性が高くなるように設定される。

(2) 獲得玉数示唆画像 H 2 B における獲得玉数の文字の色が、第 1 の色（例えば、青）と第 2 の色（例えば、赤）との場合がある。この場合、獲得玉数の文字の色が第 2 の色の場合の方が、第 1 の色の場合よりも、役物可動演出および確変移行示唆演出への発展期待度（確変状態への移行期待度）が高くなるように設定される。言い換えれば、獲得玉数示唆画像 H 2 B における獲得玉数の文字の色が、第 2 の色の場合の方が、第 1 の色の場合よりも、リザルト演出 C が選択されている可能性が高くなるように設定される。

(3) リザルト画面（表示画面 7 a）の背景色の模様が、第 1 の模様（例えば、縞々模様）と、第 2 の模様（虎柄模様）との場合がある。この場合、リザルト画面（表示画面 7 a）の背景色の模様が、第 2 の模様の場合の方が、第 1 の模様の場合よりも、役物可動演出および確変移行示唆演出への発展期待度（確変状態への移行期待度）が高くなるように設定される。言い換えれば、リザルト画面（表示画面 7 a）の背景色の模様が、第 2 の模様の場合の方が、第 1 の模様の場合よりも、リザルト演出 C が選択されている可能性が高くなるように設定される。

(4) リザルト画面（表示画面 7 a）において、第 1 のキャラクタ（例えば、敵キャラクタ）が登場する場合と、第 2 のキャラクタ（例えば、味方キャラクタ）が登場する場合とがある。この場合、リザルト画面（表示画面 7 a）において、第 2 のキャラクタが登場する場合の方が、第 1 のキャラクタが登場する場合よりも、役物可動演出および確変移行示唆演出への発展期待度（確変状態への移行期待度）が高くなるように設定される。言い換えれば、リザルト画面（表示画面 7 a）において、第 2 のキャラクタが登場する場合の方が、第 1 のキャラクタが登場する場合よりも、リザルト演出 C が選択されている可能性が高くなるように設定される。

なお、上記チャンスアップ表示では、継続回数示唆画像 H 2 A の継続回数の色、獲得玉数示唆画像 H 2 B の獲得玉数の色、リザルト画面の背景色の色、および、リザルト画面における登場するキャラクタの種類において、第 1 のチャンスアップ表示と第 2 のチャンスアップ表示とが示されているが、これに限られず、これらのチャンスアップ表示に加えて

複数のチャンスアップ表示が実行されてもよい。

【0324】

[効果例]

以下に、リザルト演出の効果例を示す。

[効果1]

上記実施形態の遊技機1では、図62に示すリザルト演出Aのように、確変移行失敗演出が実行され、リザルト画面表示演出が実行されて大当たり遊技が終了するパターン（以下では、確変移行失敗演出パターンとも呼ぶ）と、図64に示すリザルト演出Cのように、確変移行失敗演出が実行され、リザルト画面表示演出が実行され、その後、確変移行示唆演出が実行されて大当たり遊技が終了するパターン（以下では、確変移行復活演出パターンとも呼ぶ）とを有している。この構成によれば、確変移行復活演出パターンを体験した遊技者は、確変移行失敗演出が実行された場合であっても、大当たり遊技の最後まで確変移行示唆演出の出現に期待することができるので、遊技者に大当たり遊技の最後までドキドキ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【0325】

[効果2]

上記実施形態の遊技機1では、図62～図64に示すように、リザルト演出A～Cにおいて、リザルト画面表示演出では、時短状態中に連続した大当たりの回数である継続回数が表示される。この構成によれば、継続回数の表示により、リザルト画面に遊技者の注意を引きつけることができ、リザルト演出Cのごとく、リザルト画面表示演出の後に、役物可動演出、および、確変移行示唆演出が実行されたときに、遊技者に大きなサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

20

【0326】

[効果3]

上記実施形態の遊技機1では、図62～図64に示すように、リザルト演出A～Cにおいて、リザルト画面表示演出では、当該大当たり遊技で払い出された玉数である獲得玉数が表示される。この構成によれば、獲得玉数の表示により、リザルト画面に遊技者の注意を引きつけることができ、リザルト演出Cのごとく、リザルト画面表示演出の後に、役物可動演出、および、確変移行示唆演出が実行されたときに、遊技者に大きなサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

30

【0327】

[効果4]

上記実施形態の遊技機1のリザルト演出A、Cにおけるリザルト画面表示演出では、継続回数示唆画像H2Aの色、獲得玉数示唆画像H2Bの色、リザルト画面の背景色、および、リザルト画面に登場するキャラクタにおいて、第1のチャンスアップ表示と、第1のチャンスアップ表示よりも、役物可動演出および確変移行示唆演出に発展する期待度が高い（すなわち、時短付き確変状態への移行期待度が高い）第2のチャンスアップ表示とのうちの一つのチャンスアップ表示が実行され得る構成となっている。この構成によれば、リザルト演出において、確変移行失敗演出が実行された場合であっても、遊技者に対してリザルト画面表示演出に注目させることができ、リザルト画面表示演出において、第2のチャンスアップ表示が実行された場合には、遊技者に大きな期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

40

【0328】

[効果5]

上記実施形態の遊技機1のリザルト演出A、Cにおけるリザルト画面表示演出では、継続回数示唆画像H2Aまたは獲得玉数示唆画像H2Bにおける文字の色が、第1の色と第2の色との場合があり、文字の色が、第2の色の場合の方が、第1の色の場合よりも、役物可動演出および確変移行示唆演出への発展期待度（確変状態への移行期待度）が高くなるように設定される。言い換えれば、文字の色が、第2の色の場合の方が、第1の色の場合よりも、リザルト演出Cが選択されている可能性が高くなるように設定される。この構

50

成によれば、リザルト演出において、確変移行失敗演出が実行された場合であっても、遊技者に対してリザルト画面表示演出におけるリザルト画面に表示された文字の色に注目させることができ、リザルト画面の継続回数示唆画像 H 2 A または獲得玉数示唆画像 H 2 B における文字の色が、第 2 の色である場合には、遊技者に大きな期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0329】

〔変形例〕

以下に、リザルト演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 2 ～ 図 6 4 に示すように、リザルト演出 A ～ C において、大当たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行するか否かの演出が実行され、リザルト演出 A では、リザルト画面表示演出後に、時短付き非確変状態に移行し、リザルト演出 B, C では、リザルト画面表示演出後に、時短付き確変状態に移行する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、リザルト演出 A ～ C において、大当たり遊技後の遊技状態が時短付き確変状態に移行するのか、時短無し非確変状態に移行するのか否かの演出が実行され、リザルト演出 A では、リザルト画面表示演出後に、時短無し非確変状態に移行し、リザルト演出 B, C では、リザルト画面表示演出後に、時短付き確変状態に移行する構成としてもよい。

また、遊技機 1 は、いわゆる、VST 機であるが、本発明は、これに限られるものではなく、1 種 2 種混合機としてもよい。この場合、リザルト演出 A ～ C において、大当たり遊技後の遊技状態が時短状態に移行するのか、非時短状態に移行するのか否かの演出が実行され、リザルト演出 A では、リザルト画面表示演出後に、非時短状態に移行し、リザルト演出 B, C では、リザルト画面表示演出後に、時短状態に移行する構成としてもよい。

【0330】

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 3 に示すように、リザルト演出 B において、リザルト画面表示演出で、チャンスアップ表示が実行されていないが、本発明は、これに限られるものではなく、リザルト演出 B のリザルト画面表示演出で、チャンスアップ表示が実行されてもよい。この場合、リザルト画面表示演出時には確変状態への移行が既に確変移行成功演出で報知されているので、チャンスアップ表示は、所定の期待度を示唆してもよく、例えば、保留内に大当たりがあるか否かを表す期待度（保留内連チャンの期待度）を示唆してもよい。

【0331】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 2, 図 6 4 に示すように、リザルト演出 A, C において、リザルト画面表示演出で、チャンスアップ表示が実行される構成となっているが、本発明は、これに限られるものではなく、リザルト演出 A, C において、リザルト画面表示演出よりも前の演出でチャンスアップ表示が実行される構成としてもよい。例えば、リザルト演出 A, C において、確変移行挑戦演出、確変移行失敗演出、または、確変移行成功演出のいずれかでチャンスアップ表示が実行される構成としてもよい。

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 3 に示すように、リザルト演出 B において、確変移行成功演出で役物可動演出が実行される構成としてもよい。この構成によれば、リザルト演出 C においても役物可動演出が実行されていることから、役物可動演出が確変状態に移行することを遊技者に印象付けることができ、遊技者は役物可動演出に対して大きなワクワク感を抱き得る。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0332】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 H 2 - 1〕

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、
前記複数種類の表示のうちの一つの表示は、大当たり遊技中における或る表示であり、
第1の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
第2の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
第3の態様で前記或る表示が表示される場合があり、
前記第1の態様は、前記大当たり遊技が終了することを示唆するリザルト表示を含む態様であり、
前記第2の態様は、大当たり遊技後の遊技状態が遊技者にとって比較的不利な第1の遊技状態であることを示唆する表示を含む態様であり、
前記第3の態様は、大当たり遊技後の遊技状態が遊技者にとって比較的有利な第2の遊技状態であることを示唆する表示を含む態様であり、
前記或る表示は、第1のパターンと第2のパターンとを含む複数のパターンのうちの一つのパターンでおこなわれる表示であり、
前記或る表示は、前記第1のパターンとして、前記第2の態様で表示された後に前記第1の態様で表示される場合がある表示であり、
前記或る表示は、前記第2のパターンとして、前記第2の態様で表示された後に前記第1の態様で表示され、さらに、前記第3の態様で表示される場合がある表示である、
ことを特徴とする遊技機。

[態様H2-2]

前記リザルト表示は、所定の期間中に当選した大当たりの回数を表す表示を含む、
ことを特徴とする態様H2-1に記載の遊技機。

[態様H2-3]

前記リザルト表示は、大当たり出玉情報を表す表示を含む、
ことを特徴とする態様H2-1または態様H2-2に記載の遊技機。

[態様H2-4]

前記リザルト表示は、第1のチャンスアップ表示と、前記第1のチャンスアップ表示よりも前記第2の遊技状態への移行期待度が高い第2のチャンスアップ表示とを含む複数のチャンスアップ表示のうちの一つのチャンスアップ表示を含む場合がある表示である、
ことを特徴とする態様H2-1から態様H2-3までのいずれか一項に記載の遊技機。

[態様H2-5]

前記第1のチャンスアップ表示と前記第2のチャンスアップとは、色が異なることによりチャンスアップを示唆している、
ことを特徴とする態様H2-4に記載の遊技機。

【0333】

以下に図65～図66を用いて複数指標演出について説明する。この複数指標演出は、装飾図柄の変動演出中、例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。

【0334】

[複数指標演出A]

図65は、複数指標演出Aを説明するための図である。

複数指標演出Aでは、まず、図65（A）に示すように、第1パネル表示演出が実行される。この第1パネル表示演出では、表示画面7aに第1パネルPN1が示される。第1パネルPN1には、大当たり期待度を示す指標として、味方キャラクタCRAと、水晶画像G1Aと、期待度示唆画像G1Bと、スーパーリーチ予告画像G1Cとが表示される。

【0335】

味方キャラクタCRAは、状態A、状態B、状態Cのいずれか一つの状態を取ることが可能である。図65の指標期待度表に示すように、味方キャラクタCRAが、状態Cの場合が1番目に大当たり期待度が高い示唆となり、状態Bの場合が2番目に大当たり期待度が高い示唆となり、状態Cの場合が3番目に大当たり期待度が高い示唆となる。図65（A）に示す第1パネル表示演出では、味方キャラクタCRAは、状態Bの状態であり、味

10

20

30

40

50

方キャラクターC R Aの状態の中では2番目に高い大当たり期待度が示唆されている。

【0336】

水晶画像G 1 Aは、色が青色、緑色、赤色のいずれか一つの色となり得る。図65の指標期待度表に示すように、水晶画像G 1 Aが、赤色の場合が1番目に大当たり期待度が高い示唆となり、緑色の場合が2番目に大当たり期待度が高い示唆となり、青色の場合が3番目に大当たり期待度が高い示唆となる。図65(A)に示す第1パネル表示演出では、水晶画像G 1 Aは、赤い色の状態であり、水晶画像G 1 Aの色の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆されている。

【0337】

期待度示唆画像G 1 Bは、星の数が3つ、4つ、5つのいずれか一つの数を取り得る。図65の指標期待度表に示すように、期待度示唆画像G 1 Bの星の数が、5つの場合が1番目に大当たり期待度が高い示唆となり、4つの場合が2番目に大当たり期待度が高い示唆となり、3つの場合が3番目に大当たり期待度が高い示唆となる。図65(A)に示す第1パネル表示演出では、期待度示唆画像G 1 Bの星の数は、3つの状態であり、期待度示唆画像G 1 Bの中では3番目に高い大当たり期待度が示唆されている。

【0338】

スーパーリーチ予告画像G 1 Cは、今後に発展予定のスーパーリーチ演出がスーパーリーチ演出A(図の指標期待度表ではS P Aと記載)、スーパーリーチ演出B(図の指標期待度表ではS P Bと記載)、スーパーリーチ演出C(図の指標期待度表ではS P Cと記載)のいずれか一つのスーパーリーチ演出を予告し得る。図65の指標期待度表に示すように、スーパーリーチ予告画像G 1 Cが、スーパーリーチ演出Cを予告する場合が1番目に大当たり期待度が高い示唆となり、スーパーリーチ演出Bを予告する場合が2番目に大当たり期待度が高い示唆となり、スーパーリーチ演出Aを予告する場合が3番目に大当たり期待度が高い示唆となる。図65(A)に示す第1パネル表示演出では、スーパーリーチ予告画像G 1 Cは、スーパーリーチ演出Bを予告する状態であり、スーパーリーチ予告画像G 1 Cの中では2番目に高い大当たり期待度が示唆されている。

【0339】

すなわち、図65(A)の第1パネル表示演出では、第1パネルP N 1が表示され、その第1パネルP N 1において、味方キャラクターC R Aの状態の中では2番目に高い大当たり期待度が示唆された状態Bの味方キャラクターC R Aが表示され、水晶画像G 1 Aの色の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆された赤色の水晶画像G 1 Aが表示され、期待度示唆画像G 1 Bの中では3番目に高い大当たり期待度が示唆された星が3つの期待度示唆画像G 1 Bが表示され、スーパーリーチ予告画像G 1 Cの中では2番目に高い大当たり期待度が示唆されたスーパーリーチ演出Bを予告するスーパーリーチ予告画像G 1 Cが表示される。

【0340】

次に、図65(B)に示すように、第2パネル表示演出が実行される。この第2パネル表示演出では、表示画面7aに第2パネルP N 2が表示される。第2パネルP N 2には、大当たり期待度を示す指標として、味方キャラクターC R Aと、水晶画像G 1 Aと、期待度示唆画像G 1 Bと、スーパーリーチ予告画像G 1 Cとが表示される。

【0341】

第2パネルP N 2において、味方キャラクターC R Aの状態の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆された状態Cの味方キャラクターC R Aが表示され、水晶画像G 1 Aの色の中では3番目に高い大当たり期待度が示唆された青色の水晶画像G 1 Aが表示され、期待度示唆画像G 1 Bの中では2番目に高い大当たり期待度が示唆された星が4つの期待度示唆画像G 1 Bが表示され、スーパーリーチ予告画像G 1 Cの中では3番目に高い大当たり期待度が示唆されたスーパーリーチ演出Aを予告するスーパーリーチ予告画像G 1 Cが表示される。

【0342】

次に、図65(C)に示すように、第3パネル表示演出が実行される。この第3パネル

10

20

30

40

50

表示演出では、表示画面 7 a に第 3 パネル P N 3 が示される。第 3 パネル P N 3 には、大当たり期待度を示す指標として、味方キャラクタ C R A と、水晶画像 G 1 A と、期待度示唆画像 G 1 B と、スーパーリーチ予告画像 G 1 C とが表示される。

【0343】

第 3 パネル P N 3 において、味方キャラクタ C R A の状態の中では 3 番目に高い大当たり期待度が示唆された状態 A の味方キャラクタ C R A が表示され、水晶画像 G 1 A の色の中では 2 番目に高い大当たり期待度が示唆された緑色の水晶画像 G 1 A が表示され、期待度示唆画像 G 1 B の中には 1 番目に高い大当たり期待度が示唆された星が 5 つの期待度示唆画像 G 1 B が表示され、スーパーリーチ予告画像 G 1 C の中には 1 番目に高い大当たり期待度が示唆されたスーパーリーチ演出 C を予告するスーパーリーチ予告画像 G 1 C が表示される。

10

【0344】

次に、図 6 5 (D) に示すように、パネル選択演出が実行される。このパネル選択演出では、第 1 パネル表示領域 A R 1 と、第 2 パネル表示領域 A R 2 と、第 3 パネル表示領域 A R 3 とが表示される。第 1 パネル表示領域 A R 1 には、第 1 パネル P N 1 が表示され、第 2 パネル表示領域 A R 2 には、第 2 パネル P N 2 が表示され、第 3 パネル表示領域 A R 3 には、第 3 パネル P N 3 が表示される。パネル選択演出では、第 1 パネル表示領域 A R 1 ~ 第 3 パネル表示領域 A R 3 の背景色を順々に変更していき、最終的に一つのパネル表示領域（すなわち、第 1 パネル P N 1 ~ 第 3 パネル P N 3 のうちの一つのパネル）を選択する演出が実行される。図 6 5 (D) では、第 1 パネル表示領域 A R 1 がクロスハッチで示されており、第 1 パネル表示領域 A R 1 が選択されたことが示されている。すなわち、図 6 5 (D) では、第 1 パネル P N 1 が選択されたことが示されている。

20

【0345】

パネル選択演出で、第 1 パネル表示領域 A R 1 (第 1 パネル P N 1) が選択された場合には、その後、スーパーリーチ予告画像 G 1 C で表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 B に発展する。第 2 パネル表示領域 A R 2 (第 2 パネル P N 2) が選択された場合には、その後、スーパーリーチ予告画像 G 1 C で表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 A に発展する。第 3 パネル表示領域 A R 3 (第 3 パネル P N 3) が選択された場合には、その後、スーパーリーチ予告画像 G 1 C で表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 C に発展する。なお、スーパーリーチ演出は、リーチ演出に含まれる。

30

【0346】

[複数指標演出 B]

図 6 6 は、複数指標演出 B を説明するための図である。

複数指標演出 B では、まず、図 6 6 (A) に示すように、第 1 パネル表示演出が実行される。この第 1 パネル表示演出では、表示画面 7 a に第 1 パネル P N 1 が示される。第 1 パネル P N 1 には、大当たり期待度を示す指標として、味方キャラクタ C R A と、水晶画像 G 1 A と、期待度示唆画像 G 1 B と、スーパーリーチ予告画像 G 1 C とが表示される。これら指標の状態別の大当たり期待度については、複数指標演出 A と同様であるので、説明を省略する。

40

【0347】

すなわち、図 6 6 (A) の第 1 パネル表示演出では、第 1 パネル P N 1 が表示され、その第 1 パネル P N 1 において、味方キャラクタ C R A の状態の中では 3 番目に高い大当たり期待度が示唆された状態 A の味方キャラクタ C R A が表示され、水晶画像 G 1 A の色の中では 3 番目に高い大当たり期待度が示唆された青色の水晶画像 G 1 A が表示され、期待度示唆画像 G 1 B の中には 3 番目に高い大当たり期待度が示唆された星が 3 つの期待度示唆画像 G 1 B が表示され、スーパーリーチ予告画像 G 1 C の中には 3 番目に高い大当たり期待度が示唆されたスーパーリーチ演出 A を予告するスーパーリーチ予告画像 G 1 C が表示される。

【0348】

50

次に、図 6 6 (B) に示すように、第 2 パネル表示演出が実行される。この第 2 パネル表示演出では、表示画面 7 a に第 2 パネル P N 2 が示される。第 2 パネル P N 2 には、大当たり期待度を示す指標として、味方キャラクタ C R A と、水晶画像 G 1 A と、期待度示唆画像 G 1 B と、スーパーリーチ予告画像 G 1 C とが表示される。

【0349】

第 2 パネル P N 2 において、味方キャラクタ C R A の状態の中では 2 番目に高い大当たり期待度が示唆された状態 B の味方キャラクタ C R A が表示され、水晶画像 G 1 A の色の中では 2 番目に高い大当たり期待度が示唆された緑色の水晶画像 G 1 A が表示され、期待度示唆画像 G 1 B の中では 2 番目に高い大当たり期待度が示唆された星が 4 つの期待度示唆画像 G 1 B が表示され、スーパーリーチ予告画像 G 1 C の中では 2 番目に高い大当たり期待度が示唆されたスーパーリーチ演出 B を予告するスーパーリーチ予告画像 G 1 C が表示される。

【0350】

次に、図 6 6 (C) に示すように、第 3 パネル表示演出が実行される。この第 3 パネル表示演出では、表示画面 7 a に第 3 パネル P N 3 が示される。第 3 パネル P N 3 には、大当たり期待度を示す指標として、味方キャラクタ C R A と、水晶画像 G 1 A と、期待度示唆画像 G 1 B と、スーパーリーチ予告画像 G 1 C とが表示される。

【0351】

第 3 パネル P N 3 において、味方キャラクタ C R A の状態の中では 1 番目に高い大当たり期待度が示唆された状態 C の味方キャラクタ C R A が表示され、水晶画像 G 1 A の色の中では 1 番目に高い大当たり期待度が示唆された赤色の水晶画像 G 1 A が表示され、期待度示唆画像 G 1 B の中では 1 番目に高い大当たり期待度が示唆された星が 5 つの期待度示唆画像 G 1 B が表示され、スーパーリーチ予告画像 G 1 C の中では 1 番目に高い大当たり期待度が示唆されたスーパーリーチ演出 C を予告するスーパーリーチ予告画像 G 1 C が表示される。

【0352】

次に、図 6 6 (D) に示すように、図 6 5 (D) と同様なパネル選択演出が実行される。このパネル選択演出では、第 1 パネル表示領域 A R 1 と、第 2 パネル表示領域 A R 2 と、第 3 パネル表示領域 A R 3 とが表示される。第 1 パネル表示領域 A R 1 には、第 1 パネル P N 1 が表示され、第 2 パネル表示領域 A R 2 には、第 2 パネル P N 2 が表示され、第 3 パネル表示領域 A R 3 には、第 3 パネル P N 3 が表示される。パネル選択演出では、第 1 パネル表示領域 A R 1 ～第 3 パネル表示領域 A R 3 の背景色を順々に変更していき、最終的に一つのパネル表示領域（すなわち、第 1 パネル P N 1 ～第 3 パネル P N 3 のうちの一つのパネル）を選択する演出が実行される。図 6 6 (D) では、第 1 パネル表示領域 A R 1 がクロスハッチで示されており、第 1 パネル表示領域 A R 1 が選択されたことが示されている。すなわち、図 6 6 (D) では、第 1 パネル P N 1 が選択されたことが示されている。

【0353】

パネル選択演出で、第 1 パネル表示領域 A R 1（第 1 パネル P N 1）が選択された場合には、その後、スーパーリーチ予告画像 G 1 C で表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 A に発展する。第 2 パネル表示領域 A R 2（第 2 パネル P N 2）が選択された場合には、その後、スーパーリーチ予告画像 G 1 C で表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 B に発展する。第 3 パネル表示領域 A R 3（第 3 パネル P N 3）が選択された場合には、その後、スーパーリーチ予告画像 G 1 C で表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 C に発展する。

【0354】

[効果例]

以下に、複数指標演出の効果例を示す。

[効果 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 5 ～図 6 6 に示すように、複数指標演出 A，B にお

10

20

30

40

50

いて、各パネル表示演出で、大当たり期待度を示唆する指標として、味方キャラクタC R A、水晶画像G 1 A、期待度示唆画像G 1 B、スーパーリーチ予告画像G 1 Cが表示される。各パネルP N 1～P N 3において、これら各指標がそれぞれ大当たり期待度が異なるように示される。例えば、複数指標演出Aにおける第1パネルP N 1では、味方キャラクタC R Aの状態の中では2番目に高い大当たり期待度が示唆された状態Bの味方キャラクタC R Aが表示され、第2パネルP N 2では、味方キャラクタC R Aの状態の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆された状態Cの味方キャラクタC R Aが表示され、かつ、複数指標演出Aにおける第1パネルP N 1では、水晶画像G 1 Aの色の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆された赤色の水晶画像G 1 Aが表示され、第2パネルP N 2では、水晶画像G 1 Aの色の中では3番目に高い大当たり期待度が示唆された青色の水晶画像G 1 Aが表示される。パネル選択演出において、第1パネルP N 1～第3パネルP N 3のうちの一つのパネルが選択される。この構成によれば、大当たり期待度を示唆する複数の指標が表示され、各パネルP N 1～P N 3において、これら指標が、それぞれ大当たり期待度が異なるように示されるので、遊技者は、各指標の期待度を一喜一憂して楽しむことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0355】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図66に示すように、複数指標演出Bにおいて、各パネル表示演出で、大当たり期待度を示唆する指標として、味方キャラクタC R A、水晶画像G 1 A、期待度示唆画像G 1 B、スーパーリーチ予告画像G 1 Cが表示される。第3パネルP N 3の各指標は、第2パネルP N 2の対応する各指標よりもそれぞれ大当たり期待度が高い示唆が実行され、第2パネルP N 2の各指標は、第1パネルP N 1の対応する各指標よりもそれぞれ大当たり期待度が高い示唆が実行される。例えば、複数指標演出Bにおける第3パネルP N 3では、味方キャラクタC R Aの状態の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆された状態Cの味方キャラクタC R Aが表示され、かつ、水晶画像G 1 Aの色の中では1番目に高い大当たり期待度が示唆された赤色の水晶画像G 1 Aが表示され、第2パネルP N 2では、味方キャラクタC R Aの状態の中では2番目に高い大当たり期待度が示唆された状態Bの味方キャラクタC R Aが表示され、かつ、水晶画像G 1 Aの色の中では2番目に高い大当たり期待度が示唆された緑色の水晶画像G 1 Aが表示される。この構成によれば、パネル選択演出において、遊技者は、選択希望のパネルを容易に順位付けすることができ（遊技者は第3パネルP N 3を1番目に望み、第2パネルP N 2を2番目に望み、第1パネルP N 1を3番目に望み得る）、パネル選択演出をときどきしながら楽しむことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0356】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図65～図66に示すように、複数指標演出A、Bにおいて、パネル選択演出後には、パネル選択演出で選択されたパネルに表示されるスーパーリーチ予告画像G 1 Cが表すスーパーリーチ演出が実行される構成である。この構成によれば、パネル選択演出で選択されたパネルに表示されるスーパーリーチ予告画像G 1 Cが表すスーパーリーチ演出が、スーパーリーチ予告画像G 1 Cの中で大当たり期待度が1番高いスーパーリーチ演出Cであった場合には、当該スーパーリーチ演出Cが実行されるので、遊技者の期待を裏切ることなく、遊技の興趣を向上させることができる。

【0357】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図65～図66に示すように、複数指標演出A、Bにおいて、パネル選択演出は、リーチ演出に含まれ、パネル選択演出後の演出は、スーパーリーチ演出に含まれ得る。この構成によれば、パネル選択演出と、パネル選択演出後の演出とに一環性（または、ストーリー性）を持たせることが可能であり、遊技の興趣を向上させることができる。

【0358】

〔変形例〕

以下に、複数指標演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 5 ～図 6 6 に示すように、複数指標演出 A, B において、パネル選択演出では、第 1 パネル P N 1 ～第 3 パネル P N 3 が表示された状態で、いずれかのパネルを選択するようにしているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、パネル選択演出では、表示画面 7 a において、第 1 パネル P N 1 ～第 3 パネル P N 3 を横または縦にスクロールさせ、その後、一つのパネルを停止表示させることで、パネルの選択を行うようにしてもよい。

また、パネル選択演出では、表示画面 7 a において、第 1 パネル P N 1 ～第 3 パネル P N 3 を順番に表示させ、その後、一つのパネルを停止表示させることで、パネルの選択を行うようにしてもよい。この場合、特に、一つのパネルが表示されている間には、他のパネルが表示されないようにしてもよい。例えば、第 1 パネル P N 1 が表示されている場合には、第 2 パネル P N 2 および第 3 パネル P N 3 が表示されないようにしてもよい。この構成によれば、一つ一つのパネルをしっかりと遊技者が確認することができ、遊技者は、所望のパネルで止まるか否かを楽しむことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【 0 3 5 9 】

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 5 ～図 6 6 に示すように、複数指標演出 A, B において、パネル選択演出後には、パネル選択演出で選択されたパネルに対応するスーパーリーチ予告画像 G 1 C において表されるスーパーリーチ演出が実行される構成である。例えば、複数指標演出 A において、パネル選択演出で第 1 パネル P N 1 が選択された場合には、パネル選択演出の後、第 1 パネル P N 1 におけるスーパーリーチ予告画像 G 1 C において表されるスーパーリーチ演出であるスーパーリーチ演出 B が実行される。しかしながら、本発明は、これに限られるものではない。例えば、パネル選択演出後には、パネル選択演出で選択されたパネルに対応するスーパーリーチ予告画像 G 1 C において表されるスーパーリーチ演出とは異なる他のスーパーリーチ演出（例えば、他のパネルにおけるスーパーリーチ予告画像 G 1 C において表されるスーパーリーチ演出）が実行される構成でもよい。また、パネル選択演出後には、スーパーリーチ演出とは関係のない演出（例えば、擬似連演出、複数変動で行われ得る先読み連続演出）が実行されてもよい。

【 0 3 6 0 】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 6 に示すように、複数指標演出 B において、各パネル表示演出で、大当たり期待度を示唆する指標として、味方キャラクタ C R A、水晶画像 G 1 A、期待度示唆画像 G 1 B、スーパーリーチ予告画像 G 1 C が表示され、第 3 パネル P N 3 の各指標は、第 2 パネル P N 2 の対応する各指標よりもそれぞれ大当たり期待度が高い示唆が実行され、第 2 パネル P N 2 の各指標は、第 1 パネル P N 1 の対応する各指標よりもそれぞれ大当たり期待度が高い示唆が実行される構成であるが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、第 3 パネル P N 3 の 4 つある各指標のうち、1 つの指標は、第 2 パネル P N 2 の対応する指標よりも大当たり期待度が低い示唆が実行されてもよいし、第 2 パネル P N 3 の 4 つある各指標のうち、1 つの指標は、第 1 パネル P N 1 の対応する指標よりも大当たり期待度が低い示唆が実行されてもよい。また、第 3 パネル P N 3 の 4 つある各指標のうち、半分の 2 つの指標は、第 2 パネル P N 2 の対応する指標よりも大当たり期待度が低い示唆が実行されてもよいし、第 2 パネル P N 3 の 4 つある各指標のうち、半分の 2 つの指標は、第 1 パネル P N 1 の対応する指標よりも大当たり期待度が低い示唆が実行されてもよい。

【 0 3 6 1 】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 5 ～図 6 6 に示すように、複数指標演出 A, B にお

いて、複数指標演出は、上述または後述されるタイマを用いた演出、および/または、メータを用いた演出で、タイマ値、および/または、メータ値が所定値（例えば、0、または、最大（MAX））となった場合に、実行されてもよい。また、パネル選択演出後に、このようなタイマやメータを用いた演出が実行されてもよい。

【0362】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様G1-1〕

複数種類の表示を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、

前記複数種類の表示のうちの一つは、第1の態様で表示される場合があり、

10

前記複数種類の表示のうちの一つは、第2の態様で表示される場合があり、

前記第1の態様の表示は、第1の指標を表す表示と第2の指標を表す表示とを含み、

前記第2の態様の表示は、第1の指標を表す表示と第2の指標を表す表示とを含み、

前記第1の指標は、第1の形式で大当たり期待度を表す指標であり、

前記第2の指標は、前記第1の形式とは異なる第2の形式で大当たり期待度を表す指標であり、

前記第1の態様の前記第1の指標は、前記第2の態様の前記第1の指標とは大当たり期待度が異なるように表され、かつ、前記第1の態様の前記第2の指標は、前記第2の態様の前記第2の指標とは大当たり期待度が異なるように表され、

前記第1の態様の表示と、前記第2の態様の表示とを含む複数の態様の表示から一つの態様の表示を選択する演出がおこなわれる、

20

ことを特徴とする遊技機。

〔態様G1-2〕

前記第1の態様の前記第1の指標は、前記第2の態様の前記第1の指標よりも大当たり期待度が高く表され、かつ、前記第1の態様の前記第2の指標は、前記第2の態様の前記第2の指標よりも大当たり期待度が高く表される、

ことを特徴とする態様G1-1に記載の遊技機。

〔態様G1-3〕

前記第1の態様の表示と、前記第2の態様の表示とを含む複数の態様の表示から一つの態様の表示を選択する場合において、前記第1の態様の表示がなされている場合には、前記第2の態様の表示がなされない場合があり、前記第2の態様の表示がなされている場合には、前記第1の態様の表示がなされない場合がある、

30

ことを特徴とする態様G1-1または態様G1-2に記載の遊技機。

〔態様G1-4〕

前記第1の態様の表示と、前記第2の態様の表示とを含む複数の態様の表示から一つの態様の表示を選択する演出において、前記第1の態様の表示が選択された場合には、第1の演出がおこなわれ、

前記第1の態様の表示と、前記第2の態様の表示とを含む複数の態様の表示から一つの態様の表示を選択する演出において、前記第2の態様の表示が選択された場合には、第2の演出がおこなわれ、

40

前記第1の演出が実行された場合は、前記第2の演出が実行された場合と比較して大当たり期待度が高い、

ことを特徴とする態様G1-1から態様G1-3までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様G1-5〕

前記第1の態様の表示と、前記第2の態様の表示とを含む複数の態様の表示から一つの態様の表示を選択する演出は、リーチ演出に含まれ、

前記第1の演出は、スーパーリーチ演出に含まれ、

前記第2の演出は、スーパーリーチ演出に含まる、

ことを特徴とする態様G1-4に記載の遊技機。

【0363】

50

以下に図 6 7～図 6 8 を用いて保留トリガ演出について説明する。この保留トリガ演出は、装飾図柄の変動演出中（1 回の変動演出中）、例えば、装飾図柄の変動開始時、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。

【0364】

[保留トリガ演出 A]

図 6 7 は、保留トリガ演出 A を説明するための図である。

保留トリガ演出 A では、まず、図 6 7（A）に示すように、保留表示演出が実行される。この保留表示演出では、味方キャラクタ C R A と保留アイコン G 2 とが表示される。保留アイコン G 2 は、表示画面 7 a の下方の保留表示エリア G 2 1 に表示され、保留を表す第 1 保留アイコン G 2 B（最大 8 つ）と、当該保留を表す第 2 保留アイコン G 2 A とから構成される。なお、説明を簡単にするため、第 1 保留アイコン G 2 B のうち、図では、特図 1 の保留に対応する第 1 保留アイコン（最大 4 つ）のみが示されている。従って、図での第 1 保留アイコン G 2 B は、保留画像 9 A に該当する。以下、保留トリガ演出では、同様に示す。第 1 保留アイコン G 2 B の態様は、円形状で示されている。

10

【0365】

なお、第 1 保留アイコン G 2 B は、当該変動が終了し、次変動に移行する場合には、それぞれ右方向（第 2 保留アイコン G 2 A の方向）に移動する保留シフト演出が実行される。図 6 7 に示すように、第 1 保留アイコン G 2 B がシフトする方向を保留シフト方向とも呼ぶ。

【0366】

次に、図 6 7（B）に示すように、当該保留変化演出が実行される。この当該保留変化演出では、味方キャラクタ C R A と保留アイコン G 2 とが表示され、味方キャラクタ C R A の持つ剣の先から閃光が放たれ第 2 保留アイコン G 2 A の態様が円形から星形に変化する演出が実行される。

20

【0367】

次に、図 6 7（C）に示すように、情報表示演出が実行される。この情報表示演出では、味方キャラクタ C R A と保留アイコン G 2 と情報画像 G 2 C 2 とが表示される。情報画像 G 2 C 2 は、所定の情報を表す画像であり、第 2 保留アイコン G 2 A の態様が変化したことに基づいて、情報表示エリア G 2 C 1 に表示される。情報表示エリア G 2 C 1 は、保留アイコン G 2（第 2 保留アイコン G 2 A）から保留シフト方向とは異なる方向に位置し、保留表示エリア G 2 1 よりも右上方の位置に設けられる。図 6 7（C）の情報画像 G 2 C 2 には、今後に発展し得る予告情報として、スーパーリーチ演出 A に発展することが示唆されている。

30

情報表示演出の後、情報画像 G 2 C 2 に基づいてスーパーリーチ演出 A が実行される。

【0368】

[保留トリガ演出 B]

図 6 8 は、保留トリガ演出 B を説明するための図である。

保留トリガ演出 B では、まず、図 6 8（A）に示すように、保留表示演出が実行される。この保留表示演出では、味方キャラクタ C R A と保留アイコン G 2 と情報表示エリア G 2 D 1 とが表示される。保留アイコン G 2 は、図 6 7（A）と同様に表示される。情報表示エリア G 2 D 1 は、保留アイコン G 2（第 2 保留アイコン G 2 A）から保留シフト方向とは異なる方向に位置し、保留表示エリア G 2 1 よりも右上方の位置に設けられる。

40

【0369】

次に、図 6 8（B）に示すように、当該保留変化演出が実行される。この当該保留変化演出では、味方キャラクタ C R A と保留アイコン G 2 と情報表示エリア G 2 D 1 とが表示され、味方キャラクタ C R A の持つ剣の先から閃光が放たれ第 2 保留アイコン G 2 A の態様が円形から星形に変化する演出が実行される。

【0370】

次に、図 6 8（C）に示すように、媒体移動演出が実行される。この媒体移動演出では、味方キャラクタ C R A と保留アイコン G 2 と情報表示エリア G 2 D 1 と星形媒体画像 G

50

２Ｅとが表示され、第２保留アイコンＧ２Ａが星形媒体画像Ｇ２Ｅを射出し、星形媒体画像Ｇ２Ｅを情報表示エリアＧ２Ｄ１に到達させる演出が実行される。

【０３７１】

次に、図６８（Ｄ）に示すように、情報表示演出が実行される。この情報表示演出では、味方キャラクタＣＲＡと保留アイコンＧ２と情報画像Ｇ２Ｄ２とが表示される。情報画像Ｇ２Ｄ２は、所定の情報を表す画像であり、第２保留アイコンＧ２Ａの態様が変わり、星形媒体画像Ｇ２Ｅが情報表示エリアＧ２Ｄ１に到達したことに基づいて、情報表示エリアＧ２Ｃ１に表示される。図６８（Ｄ）の情報画像Ｇ２Ｄ２には、今後に発展し得る予告情報として、スーパーリーチ演出Ａに発展することが示唆されている。

情報表示演出の後、情報画像Ｇ２Ｄ２に基づいてスーパーリーチ演出Ａが実行される。

【０３７２】

〔保留トリガ演出Ｃ〕

図６９は、保留トリガ演出Ｃを説明するための図である。

保留トリガ演出Ｃでは、まず、図６９（Ａ）に示すように、保留表示演出が実行される。この保留表示演出では、味方キャラクタＣＲＡと保留アイコンＧ２と情報表示エリアＧ２Ｆ１とが表示される。保留アイコンＧ２は、図６７（Ａ）と同様に表示される。情報表示エリアＧ２Ｆ１は、保留アイコンＧ２（第２保留アイコンＧ２Ａ）から保留シフト方向とは異なる方向に位置し、保留表示エリアＧ２１よりも右上方の位置に設けられる。

【０３７３】

次に、図６９（Ｂ）に示すように、当該保留変化演出が実行される。この当該保留変化演出では、味方キャラクタＣＲＡと保留アイコンＧ２と情報表示エリアＧ２Ｆ１とが表示され、味方キャラクタＣＲＡの持つ剣の先から閃光が放たれ第２保留アイコンＧ２Ａの態様が円形から星形に変化する演出が実行される。

【０３７４】

次に、図６９（Ｃ）に示すように、媒体譲渡演出が実行される。この媒体譲渡演出では、味方キャラクタＣＲＡと保留アイコンＧ２と情報表示エリアＧ２Ｆ１とメール媒体画像Ｇ２Ｇとが表示され、第２保留アイコンＧ２Ａから味方キャラクタＣＲＡにメール媒体画像Ｇ２Ｇを渡す演出が実行される。

【０３７５】

次に、図６９（Ｄ）に示すように、媒体お届け演出が実行される。この媒体お届け演出では、味方キャラクタＣＲＡと保留アイコンＧ２と情報表示エリアＧ２Ｆ１とメール媒体画像Ｇ２Ｇとが表示され、味方キャラクタＣＲＡが媒体譲渡演出で受け取ったメール媒体画像Ｇ２Ｇを情報表示エリアＧ２Ｆ１に届ける演出が実行される。

【０３７６】

次に、図６９（Ｅ）に示すように、情報表示演出が実行される。この情報表示演出では、味方キャラクタＣＲＡと保留アイコンＧ２と情報画像Ｇ２Ｆ２とが表示される。情報画像Ｇ２Ｆ２は、所定の情報を表す画像であり、第２保留アイコンＧ２Ａの態様が変化し、第２保留アイコンＧ２Ａからメール媒体画像Ｇ２Ｇが味方キャラクタＣＲＡに譲渡され、味方キャラクタＣＲＡによってメール媒体画像Ｇ２Ｇが情報表示エリアＧ２Ｆ１に届けられたことに基づいて、情報表示エリアＧ２Ｃ１に表示される。図６９（Ｄ）の情報画像Ｇ２Ｆ２には、今後に発展し得る予告情報として、スーパーリーチ演出Ａに発展することが示唆されている。

情報表示演出の後、情報画像Ｇ２Ｆ２に基づいてスーパーリーチ演出Ａが実行される。

【０３７７】

〔効果例〕

以下に、保留トリガ演出の効果例を示す。

〔効果１〕

上記実施形態の遊技機１では、図６７～図６９に示すように、保留トリガ演出Ａ～Ｃにおいて、当該保留変化演出で、第２保留アイコンＧ２Ａの態様が円形から星形に変化する演出が実行され、情報表示演出で、第２保留アイコンＧ２Ａの態様が変わったことに基づ

10

20

30

40

50

いて、情報画像 G 2 C 2 , G 2 D 2 , G 2 F 2 が情報表示エリア G 2 C 1 , G 2 D 1 , G 2 F 1 に表示される。この構成によれば、第 2 保留アイコン G 2 A の態様の変化を契機に情報画像が表示されるので、情報画像に示される情報の価値を高めることができ、遊技者に大当たりへの期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【 0 3 7 8 】

〔効果 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 8 に示すように、保留トリガ演出 B において、情報表示演出で、情報表示エリア G 2 D 1 に情報画像 G 2 D 2 が表示される場合には、星形媒体画像 G 2 E を第 2 保留アイコン G 2 A から情報表示エリア G 2 D 1 に到達させる媒体移動演出が実行される。この構成によれば、第 2 保留アイコン G 2 A と情報表示エリア G 2 D 1 とが星形媒体画像 G 2 E によって対応付けられるので、情報表示エリア G 2 D 1 に表示された情報画像に示される情報が当該変動において実行される演出に関連することを遊技者に分かりやすく伝達することができ、遊技者は、情報画像に示される情報の内容を十分に認識することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【 0 3 7 9 】

〔効果 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 9 に示すように、保留トリガ演出 C において、媒体譲渡演出で、第 2 保留アイコン G 2 A から味方キャラクタ C R A にメール媒体画像 G 2 G を渡す演出が実行され、媒体お届け演出で、味方キャラクタ C R A が媒体譲渡演出で受け取ったメール媒体画像 G 2 G を情報表示エリア G 2 F 1 に届ける演出が実行されることにより、メール媒体画像 G 2 G を第 2 保留アイコン G 2 A から情報表示エリア G 2 F 1 に到達させる構成としている。この構成によれば、第 2 保留アイコン G 2 A と情報表示エリア G 2 D 1 とが味方キャラクタ C R A とメール媒体画像 G 2 G とによって対応付けられ、情報表示エリア G 2 D 1 に表示された情報画像に示される情報が当該変動において実行される演出に関連することを遊技者に分かりやすく伝達することができ、遊技者は、情報画像に示される情報の内容を十分に認識できると共に、味方キャラクタ C R A がメール媒体画像 G 2 G を伝搬するというコミカルな演出により、遊技者を楽しませることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【 0 3 8 0 】

〔効果 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 7 ～図 6 9 に示すように、保留トリガ演出 A ～ C において、情報表示演出で、情報表示エリア G 2 C 1 , G 2 D 1 , G 2 F 1 は、保留アイコン G 2 (第 2 保留アイコン G 2 A) から保留シフト方向とは異なる方向に位置する保留表示エリア G 2 1 に設けられる。この構成によれば、表示画面 7 a において、保留シフト演出および情報表示演出が実行されることで、色々な方向への動きで演出を魅せることができるので、遊技者を楽しませることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【 0 3 8 1 】

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 7 ～図 6 9 に示すように、保留トリガ演出 A ～ C において、情報表示エリア G 2 C 1 , G 2 D 1 , G 2 F 1 と、保留表示エリア G 2 1 とは互いに重ならない異なるエリアである。この構成によれば、表示画面 7 a において、保留シフト演出が実行される領域と、情報表示演出が実行される領域とが異なり、色々な場所で演出を魅せることができるので、遊技者を楽しませることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【 0 3 8 2 】

〔効果 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 6 7 ～図 6 9 に示すように、保留トリガ演出 A ～ C において、情報表示演出で情報表示エリア G 2 C 1 , G 2 D 1 , G 2 F 1 に情報画像 G 2 C

2, G 2 D 2, G 2 F 2が表示され、その後、当該情報画像が示唆する情報（スーパーリーチ演出Aに発展することの予告）に基づいて、スーパーリーチ演出Aが実行される。この構成によれば、情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示される情報画像G 2 C 2, G 2 D 2, G 2 F 2に示される情報に、遊技者が大いに興味を持ち得る。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0383】

〔変形例〕

以下に、保留トリガ演出の変形例を示す。

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図67～図69に示すように、保留トリガ演出A～Cにおいて、当該保留変化演出で、第2保留アイコンG 2 Aの態様が円形から星形に変化する演出が実行され、情報表示演出で、第2保留アイコンG 2 Aの態様が変化したことに基づいて、情報画像G 2 C 2, G 2 D 2, G 2 F 2が情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示されるが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、第1保留アイコンG 2 Bのいずれかの保留アイコンの態様が変化したことに基づいて、情報画像G 2 C 2, G 2 D 2, G 2 F 2が情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示される構成としてもよい。この場合、情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示される情報は、変化した保留アイコンに対応する情報（例えば、装飾図柄の変動演出等に関する情報）とすることができる。例えば、第1保留アイコンG 2 Bのうち、或る保留アイコンの態様が変化した場合には、当該或る保留アイコンの態様が変化したことに基づいて、当該或る保留アイコンに対応する装飾図柄の変動演出が大当たりを報知する演出であることを示唆する情報画像（「次回予告：大当たり！！」など）が情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示される構成としてもよい。

【0384】

〔変形例2〕

上記実施形態の遊技機1では、図68に示すように、保留トリガ演出Bにおいて、第2保留アイコンG 2 Aの態様が円形から星形に変化する演出が実行され、媒体移動演出で、第2保留アイコンG 2 Aから情報表示エリアG 2 D 1に移動する媒体として、星形媒体画像G 2 Eが用いられているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、媒体移動演出で、移動する媒体として、球状の媒体を表す球状媒体画像、線状の媒体を表す線状媒体画像、矢印状の媒体を表す矢印状媒体画像、スピード線状の媒体を表すスピード線状媒体画像、または、吹き出し状の媒体を表す吹き出し状媒体画像が用いられてもよい。

【0385】

〔変形例3〕

上記実施形態の遊技機1では、図67～図69に示すように、保留トリガ演出A～Cにおいて、情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1と、保留表示エリアG 2 1とは、互いに重ならない異なるエリアであったが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1は、保留表示エリアG 2 1に設けられてもいいし、保留表示エリアG 2 1は、保留表示エリアG 2 1内に設けられてもいい。

【0386】

〔変形例4〕

上記実施形態の遊技機1では、図67～図69に示すように、保留トリガ演出A～Cにおいて、当該保留変化演出で、第2保留アイコンG 2 Aの態様が円形から星形に変化する演出が実行され、情報表示演出で、第2保留アイコンG 2 Aの態様が変化したことに基づいて、情報画像G 2 C 2, G 2 D 2, G 2 F 2が情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示されるが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、当該保留変化演出で、第2保留アイコンG 2 Aの態様が円形から星形に変化する演出が実行され、情報表示演出で、第2保留アイコンG 2 Aの態様が変化したことに基づいて、上述や後述のようなタイマ画像やボタン画像が情報表示エリアG 2 C 1, G 2 D 1, G 2 F 1に表示される構成としてもよい。

【0387】

〔変形例5〕

上記実施形態の遊技機1では、図67～図69に示すように、保留トリガ演出A～Cにおいて、当該保留変化演出で、第2保留アイコンG2Aの態様が増える構成であるが、この場合に、変化後の態様によって、大当たり期待度を示唆するようにしてもよい。例えば、当該保留変化演出で、第2保留アイコンG2Aの態様が第1の態様に変化した場合には、第2保留アイコンG2Aの態様が第2の態様に変化した場合と比較して、大当たり期待度が高くなるように設定してもよい。

【0388】

〔変形例5〕

上記実施形態の遊技機1では、図67～図69に示すように、保留トリガ演出A～Cにおいて、当該保留変化演出で、第2保留アイコンG2Aの態様を増える場合には、形を増えるようにしているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、第2保留アイコンG2Aの態様を増える場合において、アイコンの色を増えるようにしてもよいし、アイコンの模様を増えるようにしてもよい。

【0389】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様G2-1〕

複数の演出を実行可能な表示手段を備える遊技機であって、
前記表示手段は、複数の保留アイコンを表示可能な手段であり、
前記保留アイコンは、保留を表すアイコンと、当該保留を表すアイコンを含み、
前記保留アイコンの表示数で保留数を報知するように構成されており、
前記保留アイコンは、複数の態様で表示可能なアイコンであり、
前記複数の演出のうちの一つの演出として、第1の演出をおこなう場合があり、
前記複数の演出のうちの一つの演出として、第2の演出をおこなう場合があり、
前記第1の演出は、前記保留アイコンの態様を第1の態様から第2の態様に変化させる場合がある演出であり、
前記第2の演出は、前記第1の演出の後に行われ、前記保留アイコンが前記第1の態様から前記第2の態様に変化したことに基づいて、変化した保留アイコンから第1の方向に位置する第1のエリアに所定情報が表示される演出である、
ことを特徴とする遊技機。

〔態様G2-2〕

前記第2の演出において、前記変化した保留アイコンから前記第1の方向に位置する前記第1のエリアに所定情報が表示される場合には、所定の媒体を当該保留アイコンから前記第1のエリアに到達させる媒体表示が実行される、
ことを特徴とする態様G2-1に記載の遊技機。

〔態様G2-3〕

前記第2の演出において、前記媒体表示は、前記変化した保留アイコンから所定のキャラクターに前記所定の媒体を渡す表示が実行され、前記所定のキャラクターが受け取った前記所定の媒体を前記第1のエリアに届ける表示が実行されることにより実現される、
ことを特徴とする態様G2-2に記載の遊技機。

〔態様G2-4〕

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第3の演出をおこなう場合があり、
前記第3の演出は、前記保留アイコンを、前記表示数で保留数を報知するために第2の方向にシフトさせる演出であり、
前記第1の方向は、前記第2の方向とは異なる方向である、
ことを特徴とする態様G2-1から態様G2-3までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様G2-5〕

前記保留アイコンは、第2のエリアに表示され、

10

20

30

40

50

前記第 1 のエリアは、前記第 2 のエリアとは異なるエリアである、

ことを特徴とする態様 G 2 - 1 から態様 G 2 - 4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 G 2 - 6〕

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第 4 の演出をおこなう場合があり、

前記第 4 の演出は、前記第 2 の演出の後に行われ、前記第 1 のエリアに表示された前記所定情報に基づいて、所定の演出が実行される、

ことを特徴とする態様 G 2 - 1 から態様 G 2 - 5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0390】

以下に図 70～図 73 を用いて重畳演出について説明する。この重畳演出は、装飾図柄の変動演出中（例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）、または、大当たり遊技中などに実行され得る。重畳演出は、重畳成功演出 A～C と、重畳失敗演出を含む。以下では、まず、重畳成功演出 A～C を説明し、重畳失敗演出を説明する。

【0391】

〔重畳成功演出 A〕

図 70 は、重畳成功演出 A を説明するための図である。

重畳成功演出 A では、まず、図 70（A）に示すように、画像出現演出が実行される。この画像出現演出では、リング画像 G 3 A とトライアングル画像 G 3 B とが表示される。リング画像 G 3 A とトライアングル画像 G 3 B とは、互いに異なる形状である。リング画像 G 3 A は、表示画面 7 a の左上方に配置され、トライアングル画像 G 3 B は、表示画面 7 a の右下方に配置される。図 70（A）では、目的位置 G C が示されている。この目的位置 G C は、画像出現演出の開始時において、リング画像 G 3 A とトライアングル画像 G 3 B とが表示されたときのこれらの間の中間地点である。なお、図では、目的位置 G C は、「点」で示されているが、表示しないようにしてもよい。

【0392】

次に、図 70（B）に示すように、画像移動演出が実行される。この画像移動演出では、リング画像 G 3 A が目的位置 G C に向けて移動すると共に、トライアングル画像 G 3 B が目的位置 G C に向けて移動する。

【0393】

次に、図 70（C）に示すように、画像重畳演出が実行される。この画像重畳演出では、リング画像 G 3 A およびトライアングル画像 G 3 B が目的位置 G C に到達することで、重畳して、一つのエンブレム画像 G 3 C（重畳画像）が形成される。このエンブレム画像 G 3 C は、リング画像 G 3 A に対応するリング部と、トライアングル画像 G 3 B に対応するトライアングル部とから成り、リング画像 G 3 A およびトライアングル画像 G 3 B よりも比較的透過性が低い画像である。

【0394】

次に、図 70（D）に示すように、チャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出では、チャンスアップ画像 G 3 D が表示される。チャンスアップ画像 G 3 D は、チャンスアップを示唆する画像であり、重畳の成功によりエンブレム画像 G 3 C（重畳画像）が形成されたことにより表示される。図 70（D）のチャンスアップ画像 G 3 D では、大当たりの期待度が高いことを示唆する「激アツだ！！」という文字が表示されている。チャンスアップ画像 G 3 D は、味方キャラクタ C R A の発言として表されている。

【0395】

〔重畳成功演出 B〕

図 71 は、重畳成功演出 B を説明するための図である。

重畳成功演出 B では、まず、図 71（A）に示すように、画像出現演出が実行される。この画像出現演出では、エンブレム画像 G 3 E とトライアングル画像 G 3 F とが表示される。エンブレム画像 G 3 E は、リング部とトライアングル部とから構成される。トライアングル画像 G 3 F は、エンブレム画像 G 3 E の一部（トライアングル部）と同形状である。エンブレム画像 G 3 E は、表示画面 7 a の左上方に配置され、トライアングル画像 G 3 F は、表示画面 7 a の右下方に配置される。図 71（A）では、目的位置 G C が示されて

10

20

30

40

50

いる。この目的位置 G C は、画像出現演出の開始時において、エンブレム画像 G 3 E とトライアングル画像 G 3 F とが表示されたときのこれらの間の中間地点である。

【0396】

次に、図 7 1 (B) に示すように、画像移動演出が実行される。この画像移動演出では、エンブレム画像 G 3 E が目的位置 G C に向けて移動すると共に、トライアングル画像 G 3 F が目的位置 G C に向けて移動する。

【0397】

次に、図 7 1 (C) に示すように、画像重畳演出が実行される。この画像重畳演出では、エンブレム画像 G 3 E およびトライアングル画像 G 3 F が目的位置 G C に到達することで、重畳して、一つのエンブレム画像 G 3 G (重畳画像) が形成される。このエンブレム画像 G 3 G は、エンブレム画像 G 3 E およびトライアングル画像 G 3 F よりも透過性が低い画像である。この場合、エンブレム画像 G 3 G において、リング部とトライアングル部の両方が、エンブレム画像 G 3 E およびトライアングル画像 G 3 F よりも透過性が低い画像としてもよいし、トライアングル部のみエンブレム画像 G 3 E およびトライアングル画像 G 3 F よりも透過性が低い画像としてもよいし、リング部のみエンブレム画像 G 3 E およびトライアングル画像 G 3 F よりも透過性が低い画像としてもよい。エンブレム画像 G 3 G は、エンブレム画像 G 3 E と同形状である。

【0398】

次に、図 7 1 (D) に示すように、図 7 0 (D) と同様にチャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出は、チャンスアップ画像 G 3 D が表示される。チャンスアップ画像 G 3 D は、チャンスアップを示唆する画像であり、重畳の成功によりエンブレム画像 G 3 G (重畳画像) が形成されたことにより実行される。

【0399】

[重畳成功演出 C]

図 7 2 は、重畳成功演出 C を説明するための図である。

重畳成功演出 C では、まず、図 7 2 (A) に示すように、画像出現演出が実行される。この画像出現演出では、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが表示される。エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とは、それぞれ、リング部とトライアングル部とから構成され、同形状である。エンブレム画像 G 3 H は、表示画面 7 a の左上方に配置され、エンブレム画像 G 3 I は、表示画面 7 a の右下方に配置される。図 7 2 (A) では、目的位置 G C が示されている。この目的位置 G C は、画像出現演出の開始時において、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが表示されたときのこれらの間の中間地点である。

【0400】

次に、図 7 2 (B) に示すように、画像移動演出が実行される。この画像移動演出では、エンブレム画像 G 3 H が目的位置 G C に向けて移動すると共に、エンブレム画像 G 3 I が目的位置 G C に向けて移動する。

【0401】

次に、図 7 2 (C) に示すように、画像重畳演出が実行される。この画像重畳演出では、エンブレム画像 G 3 H およびエンブレム画像 G 3 I が目的位置 G C に到達することで、重畳して、一つのエンブレム画像 G 3 J (重畳画像) が形成される。このエンブレム画像 G 3 J は、エンブレム画像 G 3 H およびエンブレム画像 G 3 I よりも比較的透過性が低い画像である。エンブレム画像 G 3 J とエンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とは同形状である。

【0402】

次に、図 7 2 (D) に示すように、図 7 0 (D) と同様にチャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出は、チャンスアップ画像 G 3 D が表示される。チャンスアップ画像 G 3 D は、チャンスアップを示唆する画像であり、重畳の成功によりエンブレム画像 G 3 J (重畳画像) が形成されたことにより実行される。

【0403】

[重畳失敗演出]

図 7 3 は、重畳失敗演出を説明するための図である。

重畳失敗演出では、まず、図 7 3 (A) に示すように、図 7 2 (A) と同様に画像出現演出が実行される。

次に、図 7 3 (B) に示すように、図 7 2 (B) と同様に画像移動演出が実行される。

【0404】

次に、図 7 3 (C) に示すように、画像スルー演出が実行される。この画像スルー演出では、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが目的位置 G C 上で一旦重畳されるが、その後、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが目的位置 G C を互いに通り過ぎることで、重畳失敗が示唆される。言い換えれば、この画像スルー演出は、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが目的位置 G C 上で一旦重畳された後、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが引き離されて、重畳画像が生成されない演出である。

画像スルー演出が実行された場合、すなわち、画像の重畳に失敗した場合には、チャンスアップ演出を実行せず、次の所定の演出に移行する。

【0405】

[効果例]

以下に、重畳演出の効果例を示す。

[効果 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 0 ～図 7 2 に示すように、重畳成功演出 A ～ C において、互いに異なる位置に出現した比較的透過性が高い 2 つの画像が、目的位置 G C に向けて移動し、互いに目的位置 G C に到達することで、重畳して、比較的透過性が低い一つの重畳画像が形成され、重畳画像が形成されたことに基づいてチャンスアップ演出が実行される。

例えば、重畳成功演出 A では、画像出現演出で、表示画面 7 a の左上方に配置される、比較的透過性が高いリング画像 G 3 A と、表示画面 7 a の右下方に配置される、比較的透過性が高いトライアングル画像 G 3 B とが表示される。画像移動演出で、リング画像 G 3 A が目的位置 G C に向けて移動すると共に、トライアングル画像 G 3 B が目的位置 G C に向けて移動し、画像重畳演出で、リング画像 G 3 A およびトライアングル画像 G 3 B が目的位置 G C に到達することで、重畳して、比較的透過性が低い一つのエンブレム画像 G 3 C (重畳画像) が形成される。エンブレム画像 G 3 C が形成されたことに基づいて、チャンスアップ演出が実行される。

この構成によれば、比較的透過性が高い 2 つの画像が重畳することで比較的透過性が低い画像が形成されるので、遊技者は、画像を認識し易くなると共に、驚きを感じることができる。また、2 つの画像の重畳が成功することによって、チャンスアップ演出が実行されるので、遊技者に、チャンスアップ演出で大当たり期待度が高い示唆が出現することへの期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0406】

[効果 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 1 に示すように、重畳成功演出 B において、エンブレム画像 G 3 E と、エンブレム画像 G 3 E の一部 (トライアングル部) と同形状であるトライアングル画像 G 3 F とが重畳され、比較的透過性が低いエンブレム画像 G 3 G が形成される。この構成によれば、一部分が同形状な 2 つの画像が重畳され、比較的透過性が低い画像が形成されるので、遊技者に対して、2 つの画像の同形状な部分の動きに注目させることができ、重畳演出を興味ある演出に昇華することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0407】

[効果 3]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 2 に示すように、重畳成功演出 C において、互いに同形状なエンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが重畳され、比較的透過性が低

いエンブレム画像 G 3 J が形成される。この構成によれば、互いに同形状な 2 つの画像が重畳され、比較的透過性が低い画像が形成されるので、遊技者に対して、2 つの画像の全体の動きに注目させることができ、重畳演出を興趣ある演出に昇華することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0408】

[効果 4]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 1 ～図 7 2 に示すように、重畳成功演出 B, C において、エンブレム画像 G 3 E, G 3 H と、トライアングル画像 G 3 F またはエンブレム画像 G 3 I とが重畳されて、エンブレム画像 G 3 E, G 3 H と同形状な重畳画像 G 3 G, G 3 J が形成される。この構成によれば、遊技者に対して、エンブレム画像 G 3 E, G 3 H の動きに注目させることができ、重畳演出を興趣ある演出に昇華することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【0409】

[効果 5]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 0 ～図 7 2 に示すように、重畳成功演出 A ～ C において、画像出現演出で、重畳させる 2 つの画像が表示され、画像移動演出で、重畳させる 2 つの画像の間に位置する目的位置 G C に向けて、2 つの画像が移動することで、目的位置 G C において 2 つの画像が重畳され、目的位置 G C で重畳画像が形成される。この構成によれば、遊技者に対して、目的位置 G C を中心として、2 つの画像の動きに注目させることができ、重畳演出を興趣ある演出に昇華することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

20

[効果 6]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 0 ～図 7 2 に示すように、重畳成功演出 A ～ C において、2 つの画像の重畳が成功したに基づいて、チャンスアップ演出が実行される。この構成によれば、遊技者に、チャンスアップ演出で大当たり期待度が高い示唆が出現することへの期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0410】

[効果 7]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 3 に示すように、重畳失敗演出において、画像スルー演出では、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが目的位置 G C 上で一旦重畳された後、エンブレム画像 G 3 H とエンブレム画像 G 3 I とが引き離されて、重畳画像が生成されず、チャンスアップ演出も実行されない構成である。この構成によれば、重畳失敗演出で重畳の失敗によりチャンスアップ演出が実行されない体験をした遊技者は、重畳成功演出でチャンスアップ演出が実行された場合に、チャンスアップ演出に大きな期待感を持つことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

30

【0411】

[変形例]

以下に、重畳演出の変形例を示す。

[変形例 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 1 に示すように、重畳成功演出 B において、エンブレム画像 G 3 E のトライアングル部と、トライアングル画像 G 3 F とは、重畳画像であるエンブレム画像 G 3 G よりも比較的透過性が高い構成とする一方、エンブレム画像 G 3 E のリング部は、比較的透過性が低く、例えば、重畳画像であるエンブレム画像 G 3 G のリング部と同程度としてもよい。

40

【0412】

[変形例 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 0 ～図 7 3 に示すように、重畳成功演出 A ～ C、重畳失敗演出において、目的位置 G C は、画像出現演出の開始時において出現した 2 つの画像間の中間地点としているが、本発明は、これに限られるものではなく、目的位置 G C が

50

ランダムに設定されるようにしてもよいし、味方キャラクタ C R A など所定の位置に対する相対的位置を目的位置 G C としてもよい。

【0413】

〔変形例3〕

上記実施形態の遊技機1では、図70～図72に示すように、重畳成功演出A～Cにおいて、画像重畳演出で、2つの画像の重畳され重畳画像が形成されると、すなわち、2つの画像の重畳が成功すると、チャンスアップ演出が実行される構成としているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チャンスアップ演出に代えて、所定のポイントが付与されるポイント付与演出、擬似連演出、リーチ演出の発展先の示唆を行う発展先示唆演出、または、所定のキャラクタの出現を示唆するキャラクタ出現示唆演出などが実行されてもよい。

10

【0414】

〔変形例4〕

上記実施形態の遊技機1では、図70～図73に示すように、重畳成功演出A～Cで、2つの画像の重畳が成功すると、チャンスアップ演出が実行され、重畳失敗演出で、2つの画像の重畳が失敗すると、チャンスアップ演出が実行されない構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、重畳成功演出A～Cで、2つの画像の重畳が成功すると、高期待度チャンスアップ演出が実行され、2つの画像の重畳が失敗すると、低期待度チャンスアップ演出が実行される構成としてもよい。高期待度チャンスアップ演出は、低期待度チャンスアップ演出と比較して、大当たり期待度が高いチャンスアップ演出である。

20

【0415】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様G3-1〕

複数の演出を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第1の演出をおこなう場合があり、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第2の演出をおこなう場合があり、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第3の演出をおこなう場合があり、

前記第1の演出は、第1の位置に第1の画像を表示し、前記第1の位置とは異なる第2の位置に第2の画像を表示する演出であり、

30

前記第2の演出は、前記第1の演出の後におこなわれ、前記第1の画像と前記第2の画像とを重畳させて、前記第1の画像、および、前記第2の画像よりも透過性が低い第3の画像が生成される演出であり、

前記第2の演出で前記第3の画像が生成されたことに基づいて、前記第3の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様G3-2〕

前記第1の画像と前記第2の画像とは少なくとも一部が同形状である、

ことを特徴とする態様G3-1に記載の遊技機。

40

〔態様G3-3〕

前記第1の画像と前記第2の画像とは同形状である、

ことを特徴とする態様G3-1または態様G3-2に記載の遊技機。

〔態様G3-4〕

前記第1の画像と前記第3の画像とは同形状である、

ことを特徴とする態様G3-1から態様G3-3までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様G3-5〕

前記第2の演出では、前記第1の位置と前記第2の位置との間の第3の位置に前記第1の画像と前記第2の画像とがそれぞれ移動することで、前記第3の位置において前記第1の画像と前記第2の画像とが重畳され、前記第3の位置で前記第3の画像が生成される、

50

ことを特徴とする態様 G 3 - 1 から態様 G 3 - 4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 G 3 - 6〕

前記第 3 の演出は、チャンスアップ演出、所定のポイントが付与されるポイント付与演出、擬似連演出、リーチ演出の発展先の示唆を行う演出、または、所定のキャラクタの出現を示唆する演出、のうちのいずれかである、

ことを特徴とする態様 G 3 - 1 から態様 G 3 - 5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 G 3 - 7〕

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第 4 の演出をおこなう場合があり、

前記第 4 の演出は、前記第 1 の演出の後におこなわれ、前記第 1 の画像と前記第 2 の画像とを重畳させた後、前記第 1 の画像と前記第 2 の画像とを引き離して、前記第 3 の画像が生成されない演出であり、

前記第 4 の演出後には、前記第 3 の演出を行わない、

ことを特徴とする態様 G 3 - 1 から態様 G 3 - 6 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0416】

以下に図 7 4 ~ 図 7 7 を用いて大当たり図柄表示演出について説明する。この大当たり図柄表示演出は、装飾図柄の変動演出中（例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）の終了時）などに実行され得る。

【0417】

〔大当たり図柄表示演出 A〕

図 7 4 は、大当たり図柄表示演出 A を説明するための図である。

大当たり図柄表示演出 A では、まず、図 7 4 (A) に示すように、リーチ演出が実行される。このリーチ演出は、装飾図柄 8 L, 8 R が同じ図柄となったリーチ状態中に行われる演出である。リーチ演出には、大当たり期待度が比較的低い通常リーチ演出や大当たり期待度が比較的高いスーパーリーチ演出が含まれる。スーパーリーチ演出は、通常リーチ演出から発展して実行される場合がある演出である。なお、このリーチ演出では、「7」図柄でリーチ状態となっている。

【0418】

次に、図 7 4 (B) に示すように、大当たり通常報知演出が実行される。この大当たり通常報知演出では、装飾図柄 8 L, 8 C, 8 R を用いた大当たり図柄配列が表示される。この大当たり図柄配列は、図柄配列の図柄面 F 1 が正面視となるように、言い換えれば、図柄配列の図柄面 F 1 を正面から見たように表示される。図 7 4 (B) では、大当たり図柄配列は、7 図柄のゾロ目揃いとなっている。

【0419】

次に、図 7 4 (C) に示すように、右斜め方向視表示演出が実行される。この右斜め方向視表示演出では、右斜め方向視で大当たり図柄配列が表示される。すなわち、この大当たり図柄配列は、図柄配列の図柄面 F 1 を右斜め方向から見たように表示される。

【0420】

次に、図 7 4 (D) に示すように、左斜め方向視演出が実行される。この左斜め方向視表示演出では、左斜め方向視で大当たり図柄配列が表示される。すなわち、この大当たり図柄配列は、図柄配列の図柄面 F 1 を左斜め方向から見たように表示される。

【0421】

次に、図 7 4 (E) に示すように、正面視表示演出が実行される。この正面視表示演出では、正面視で大当たり図柄配列が表示される。すなわち、この大当たり図柄配列は、図柄配列の図柄面 F 1 を正面から見たように表示される。

その後、大当たり遊技演出が実行される。

【0422】

〔大当たり図柄表示演出 B〕

図 7 5 は、大当たり図柄表示演出 B を説明するための図である。

大当たり図柄表示演出 B では、まず、図 7 5 (A) に示すように、図 7 4 (A) と同様にリーチ演出が実行される。

次に、図 7 5 (B) に示すように、図 7 4 (B) と同様に大当たり通常報知演出が実行される。

次に、図 7 5 (C) に示すように、図 7 4 (C) と同様に右斜め方向視表示演出が実行される。

次に、図 7 5 (D) に示すように、図 7 4 (D) と同様に左斜め方向視演出が実行される。

【0 4 2 3】

次に、図 7 5 (E) に示すように、正面視図柄拡大表示演出が実行される。この正面視図柄拡大表示演出では、正面視で大当たり図柄配列が表示されると共に、大当たり図柄配列が図 7 5 (B) ～図 7 5 (D) で示された大当たり図柄配列よりも拡大されて表示される。なお、これに限られず、正面視図柄拡大表示演出では、大当たり図柄配列が図 7 5 (B) ～図 7 5 (D) で示されるいずれかの図柄配列よりも拡大されて表示される構成としてもよい。

10

【0 4 2 4】

次に、図 7 5 (F) に示すように、図 7 4 (E) と同様に、正面視表示演出が実行される。

その後、大当たり遊技演出が実行される。

【0 4 2 5】

[大当たり図柄表示演出 C]

図 7 6 は、大当たり図柄表示演出 C を説明するための図である。

20

大当たり図柄表示演出 C では、まず、図 7 6 (A) に示すように、図 7 4 (A) と同様にリーチ演出が実行される。

次に、図 7 6 (B) に示すように、図 7 4 (B) と同様に大当たり通常報知演出が実行される。

次に、図 7 6 (C) に示すように、図 7 4 (C) と同様に右斜め方向視表示演出が実行される。

次に、図 7 6 (D) に示すように、図 7 4 (D) と同様に左斜め方向視演出が実行される。

【0 4 2 6】

次に、図 7 6 (E) に示すように、正面視図柄縮小表示演出が実行される。この正面視図柄縮小表示演出では、正面視で大当たり図柄配列が表示されると共に、大当たり図柄配列が図 7 6 (B) ～図 7 6 (D) で示された大当たり図柄配列よりも縮小されて表示される。なお、これに限られず、正面視図柄縮小表示演出では、大当たり図柄配列が図 7 6 (B) ～図 7 6 (D) で示されるいずれかの図柄配列よりも縮小されて表示される構成としてもよい。

30

【0 4 2 7】

次に、図 7 6 (F) に示すように、図 7 4 (E) と同様に、正面視表示演出が実行される。

その後、大当たり遊技演出が実行される。

【0 4 2 8】

40

[大当たり図柄表示演出 D]

図 7 7 は、大当たり図柄表示演出 D を説明するための図である。

大当たり図柄表示演出 D では、まず、図 7 7 (A) に示すように、図 7 4 (A) と同様にリーチ演出が実行される。

次に、図 7 7 (B) に示すように、図 7 4 (B) と同様に大当たり通常報知演出が実行される。

【0 4 2 9】

次に、図 7 7 (C) に示すように、右斜め方向視表示演出が実行される。この右斜め方向視表示演出では、右斜め方向視で（図柄配列の図柄面 F 1 を右斜め方向から見たように）大当たり図柄配列が表示されると共に、大当たり図柄配列を形成する装飾図柄 8 L、8

50

C, 8Rが隣接し、隣接する装飾図柄が重なっているように表示される。

【0430】

次に、図77(D)に示すように、左斜め方向視演出が実行される。この左斜め方向視表示演出では、左斜め方向視で(図柄配列の図柄面F1を左斜め方向から見たように)大当たり図柄配列が表示されると共に、大当たり図柄配列を形成する装飾図柄8L, 8C, 8Rが隣接し、隣接する装飾図柄が重なっているように表示される。

【0431】

次に、図77(E)に示すように、図74(E)と同様に、正面視表示演出が実行される。

その後、大当たり遊技演出が実行される。

【0432】

[効果例]

以下に、大当たり図柄表示演出の効果例を示す

[効果1]

上記実施形態の遊技機1では、図74～図77に示すように、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、大当たり通常報知演出後、右斜め方向視表示演出が実行され、左斜め方向視表示演出が実行される。この構成によれば、大当たり通常報知後に、異なる方向から見たように、順に大当たり図柄配列(図柄面F1)が表示されるので、大当たりを強調し、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0433】

[効果2]

上記実施形態の遊技機1では、図74～図77に示すように、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、大当たり通常報知演出後、右斜め方向視表示演出が実行され、左斜め方向視表示演出が実行され、正面視表示演出が実行される。この構成によれば、異なる3つの方向から見たように、順に大当たり図柄配列(図柄面F1)が表示されるので、大当たりをより強調し、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0434】

[効果3]

上記実施形態の遊技機1では、図74～図77に示すように、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、大当たり通常報知演出後、まず、右斜め方向視表示演出が実行され、次に、左斜め方向視表示演出が実行され、最後に、正面視表示演出が実行される。この構成によれば、右斜め方向視表示演出および左斜め方向視表示演出が実行されることにより、異なる2つの方向から見たように順に大当たり図柄配列(図柄面F1)が表示されて、大当たりを強調し、最後に、正面視表示演出が実行されることにより、大当たりをさらに強調し、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0435】

[効果4]

上記実施形態の遊技機1では、図75に示すように、大当たり図柄表示演出Bにおいて、大当たり通常報知演出後、右斜め方向視表示演出が実行され、左斜め方向視表示演出が実行され、正面視図柄拡大表示演出が実行される。この構成によれば、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出が実行されることにより、異なる2つの方向から見たように大当たり図柄配列(図柄面F1)が表示されて、大当たりを強調すると共に、正面視図柄拡大表示演出が実行されて、さらに、大当たりを強調することができ、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0436】

[効果5]

上記実施形態の遊技機1では、図75に示すように、大当たり図柄表示演出Bにおいて

10

20

30

40

50

、大当たり通常報知演出後、まず、右斜め方向視表示演出が実行され、次に、左斜め方向視表示演出が実行され、次に、正面視図柄拡大表示演出が実行される。この構成によれば、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出が実行されることにより、異なる2つの方向から見たように順に大当たり図柄配列（図柄面F1）が表示されて、大当たりを強調することができ、その後、大当たり図柄配列の図柄面F1の方向視の変更ではない正面視図柄拡大表示演出が実行されるので、大当たりをより強調することができ、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0437】

〔効果6〕

上記実施形態の遊技機1では、図76に示すように、大当たり図柄表示演出Cにおいて、大当たり通常報知演出後、右斜め方向視表示演出が実行され、左斜め方向視表示演出が実行され、正面視図柄縮小表示演出が実行される。この構成によれば、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出が実行されることにより、異なる2つの方向から見たように大当たり図柄配列（図柄面F1）が表示されて、大当たりを強調すると共に、正面視図柄縮小表示演出が実行されて、さらに、大当たりを強調することができ、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0438】

〔効果7〕

上記実施形態の遊技機1では、図76に示すように、大当たり図柄表示演出Cにおいて、大当たり通常報知演出後、まず、右斜め方向視表示演出が実行され、次に、左斜め方向視表示演出が実行され、次に、正面視図柄縮小表示演出が実行される。この構成によれば、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出が実行されることにより、異なる2つの方向から見たように順に大当たり図柄配列（図柄面F1）が表示されて、大当たりを強調することができ、その後、大当たり図柄配列の図柄面F1の方向視の変更ではない正面視図柄縮小表示演出が実行されるので、大当たりをより強調することができ、これにより遊技者に祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0439】

〔効果8〕

上記実施形態の遊技機1では、図77に示すように、大当たり図柄表示演出Dにおいて、右斜め方向視表示演出または左斜め方向視表示演出が実行される。この右斜め方向視表示演出では、右斜め方向視で（図柄配列の図柄面F1を右斜め方向から見たように）大当たり図柄配列が表示されると共に、大当たり図柄配列を形成する装飾図柄8L、8C、8Rが隣接し、隣接する装飾図柄が重なっているように表示される。また、または左斜め方向視表示では、左斜め方向視で（図柄配列の図柄面F1を左斜め方向から見たように）大当たり図柄配列が表示されると共に、大当たり図柄配列を形成する装飾図柄8L、8C、8Rが隣接し、隣接する装飾図柄が重なっているように表示される。この構成によれば、大当たり図柄配列を重厚に見せることができ、これにより遊技者を祝福の意を示すことができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0440】

〔変形例〕

以下に、大当たり図柄表示演出の変形例を示す。

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図74～図77に示すように、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出、正面視図柄拡大表示演出、正面視図柄縮小表示演出、または、正面視表示演出が実行されるが、これらの表示演出の報知順番は、大当たり図柄表示演出A～Dの表示順に限定されず、種々の表示順で実行可能である。例えば、大当たり図柄表示演出Aにおいて、まず、正面視表示演出が実行され、次に、左斜め方向視表示演出が実行され、次に、右斜め方向視表示演出が実行されてもよい。また、大当たり図柄表示演出Bにおいて、まず、正面視図柄拡大表示演出が実行され、次に、左斜め方向視表示演出が実行され、次に、右斜め方向視表示演出が実行され、

正面視表示演出が実行されてもよい。さらに、大当たり図柄表示演出Cにおいて、まず、左斜め方向視表示演出が実行され、次に、正面視図柄縮小表示演出が実行され、次に、右斜め方向視表示演出が実行され、正面視表示演出が実行されてもよい。また、大当たり図柄表示演出Dにおいて、まず、左斜め方向視表示演出が実行され、次に、右斜め方向視表示演出が実行され、正面視表示演出が実行されてもよい。

【0441】

〔変形例2〕

上記実施形態の遊技機1では、図74～図77に示すように、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出、正面視図柄拡大表示演出、正面視図柄縮小表示演出、または、正面視表示演出が実行されるが本発明は、これに限られるものではない。例えば、大当たり図柄表示演出において、大当たり図柄配列の図柄面F1を上方斜め方向から見たように表示される上方斜め方向視表示演出が実行されてもよいし、大当たり図柄配列の図柄面F1を下方斜め方向から見たように表示される下方斜め方向視表示演出が実行されてもよい。また、大当たり図柄表示演出において、大当たり図柄配列の図柄面F1を裏返し、図柄面F1の裏側の図柄面が表示される大当たり図柄裏返し演出が実行されてもよいし、大当たり図柄配列を構成する装飾図柄をくるくる回転させて表示させる図柄回転表示演出が実行されてもよい。

【0442】

〔変形例3〕

上記実施形態の遊技機1では、図74～図77に示すように、大当たり図柄表示演出A～Dにおいて、大当たり図柄配列を用いる大当たり報知時に、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出、正面視図柄拡大表示演出、正面視図柄縮小表示演出、または、正面視表示演出が実行されるが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、これらの演出を、装飾図柄を仮停止させる演出、例えば、擬似連演出、リーチ演出などに適用してもよい。この場合、装飾図柄を仮停止させた場合における図柄配列を用いて、右斜め方向視表示演出、左斜め方向視表示演出、正面視図柄拡大表示演出、正面視図柄縮小表示演出、または、正面視表示演出が実行され得る。

【0443】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様F1-1〕

複数の演出を表示可能な表示手段を備える遊技機であって、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第1の演出をおこなう場合があり、

前記複数の演出のうちの一つの演出として、第2の演出をおこなう場合があり、

前記第1の演出は、リーチ演出であり、

前記第2の演出は、前記第1の演出の後に行われ、大当たりを表す大当たり図柄配列を表示する演出であり、

前記第2の演出は、第1の態様で演出をおこなう場合があり、

前記第2の演出は、第2の態様で演出をおこなう場合があり、

前記第1の態様の演出は、前記大当たり図柄配列の図柄面を第1の方向から見たように表示する演出であり、

前記第2の態様の演出は、前記大当たり図柄配列の図柄面を前記第1の方向とは異なる第2の方向から見たように表示する演出であり、

前記第2の演出は、前記第1の態様の演出と前記第2の態様の演出とを含む演出がおこなわれる場合がある演出である、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様F1-2〕

前記第2の演出は、第3の態様で演出をおこなう場合があり、

前記第3の態様の演出は、前記大当たり図柄配列の図柄面を正面から見たように表示する演出であり、

10

20

30

40

50

前記第 2 の演出は、前記第 1 の態様の演出と前記第 2 の態様の演出と前記第 3 の態様の演出とを含む演出がおこなわれる場合がある演出である、

ことを特徴とする態様 F 1 - 1 に記載の遊技機。

〔態様 F 1 - 3〕

前記第 2 の演出は、前記第 1 の態様の演出がおこなわれ、次に前記第 2 の態様の演出がおこなわれ、次に前記第 3 の態様の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 F 1 - 2 に記載の遊技機。

〔態様 F 1 - 4〕

前記第 2 の演出は、第 4 の態様で演出をおこなう場合があり、

前記第 4 の態様の演出は、前記大当たり図柄配列を拡大する表示をおこなう演出であり、

前記第 2 の演出は、前記第 1 の態様の演出と、前記第 2 の態様の演出と、前記第 4 の態様の演出とを含む演出がおこなわれる場合がある演出である、

ことを特徴とする態様 F 1 - 1 から態様 F 1 - 4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 F 1 - 5〕

前記第 2 の演出は、前記第 1 の態様の演出が実行おこなわれ、次に前記第 2 の態様の演出がおこなわれ、次に前記第 4 の態様の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 F 1 - 4 に記載の遊技機。

〔態様 F 1 - 6〕

前記第 2 の演出は、第 5 の態様で演出をおこなう場合があり、

前記第 5 の態様の演出は、前記大当たり図柄配列を縮小する表示をおこなう演出であり、

前記第 2 の演出は、前記第 1 の態様の演出と、前記第 2 の態様の演出と、前記第 5 の態様の演出とがおこなわれる場合がある演出である、

ことを特徴とする態様 F 1 - 1 から F 1 - 態様 5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 F 1 - 7〕

前記第 2 の演出は、前記第 1 の態様の演出が実行おこなわれ、次に前記第 2 の態様の演出がおこなわれ、次に前記第 5 の態様の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 F 1 - 6 に記載の遊技機。

〔態様 F 1 - 8〕

前記大当たり図柄配列は、複数の装飾図柄によって構成され、

前記第 1 の態様の演出は、前記大当たり図柄配列の図柄面を第 1 の方向から見たように表示する演出であり、かつ、前記大当たり図柄配列を構成する前記装飾図柄が重なっているように表示される、

ことを特徴とする態様 F 1 - 1 から態様 F 1 - 7 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0444】

以下に図 7 8 ～図 7 9 を用いて復活演出について説明する。この役物図柄表示演出は、装飾図柄の変動演出中（例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）の終了時）などに実行され得る。

【0445】

〔役物図柄表示演出 A〕

図 7 8 は、役物図柄表示演出を説明するための図である。

役物図柄表示演出では、まず、図 7 8 (A) に示すように、リーチ演出が実行される。このリーチ演出は、装飾図柄 8 L, 8 R が同じ図柄となったリーチ状態中に行われる演出である。リーチ演出には、大当たり期待度が比較的低い通常リーチ演出や大当たり期待度が比較的高いスーパーリーチ演出が含まれる。スーパーリーチ演出は、通常リーチ演出から発展して実行される場合がある演出である。なお、このリーチ演出では、「7」図柄でリーチ状態となっている。

【0446】

次に、図 7 8 (B) に示すように、役物可動演出が実行される。この役物可動演出は、決め演出であり、盤可動体 1 5 がホームポジションから展開ポジションに可動制御され、表示画面 7 a 上（表示画面 7 a の一部を隠す位置）に配置される演出である。盤可動体 1

10

20

30

40

50

5の孔部15aからは、表示画面7aが見える状態である。

【0447】

次に、図78(C)に示すように、大当たり図柄表示演出Aが実行される。この大当たり図柄表示演出では、盤可動体15が展開ポジションに可動制御された状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L、8C、8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。すなわち、大当たり図柄表示演出Aは、役物可動演出中に実行される。図78(C)では、大当たり図柄配列は、装飾図柄8L、8C、8Rとが同じ図柄(7図柄)となるゾロ目となっている。この場合、表示画面7aにおいて、遊技者から見て盤可動体15と重ならない領域に表示される大当たり図柄配列の一部も見える状態である。具体的には、盤可動体15の孔部15aからは、表示画面7aに表示された大当たり図柄配列の一部(例えば、中装飾図柄8Cの一部)が見える状態である。また、表示画面7aにおいて、遊技者から見て盤可動体15の外側に対応する領域に表示される大当たり図柄配列の一部も見える状態である。

10

【0448】

なお、本実施形態では、大当たり図柄配列は、複数種類の装飾図柄で形成される。具体的には、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、赤色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、緑色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄(2, 4, 6, 8図柄)の場合には、青色の装飾図柄で形成される。

【0449】

次に、図78(D)に示すように、大当たり図柄表示演出Bが実行される。この大当たり図柄表示演出Bでは、盤可動体15が展開ポジションからホームポジションに可動制御され、表示画面7a上から消えた状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L、8C、8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。

20

【0450】

[役物図柄表示演出B]

図79は、役物図柄表示演出を説明するための図である。

役物図柄表示演出では、まず、図79(A)に示すように、図78(A)と同様なりーチ演出が実行される。

【0451】

次に、図79(B)に示すように、役物可動演出が実行される。この役物可動演出は、決め演出であり、盤可動体15Aがホームポジションから展開ポジションに可動制御され、表示画面7a上(表示画面7aの一部を隠す位置)に配置される演出である。この盤可動体15Aは、図78に示す盤可動体15と基本的に同様の構成であるが、異なる点として、孔部15aの代わりに、孔部15bと孔部15cとを備えている。盤可動体15の孔部15bおよび孔部15cからは、表示画面7aが見える状態である。

30

【0452】

次に、図79(C)に示すように、大当たり図柄表示演出Aが実行される。この大当たり図柄表示演出では、盤可動体15Aが展開ポジションに可動制御された状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L、8C、8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。すなわち、大当たり図柄表示演出Aは、役物可動演出中に実行される。図79(C)では、大当たり図柄配列は、装飾図柄8L、8C、8Rとが同じ図柄(7図柄)となるゾロ目となっている。この場合、表示画面7aにおいて、遊技者から見て盤可動体15Aと重ならない領域に表示される大当たり図柄配列の一部も見える状態である。具体的には、盤可動体15Aの孔部15bおよび孔部15cからは、表示画面7aに表示された大当たり図柄配列の一部(例えば、中装飾図柄8Cの一部)が見える状態である。また、表示画面7aにおいて、遊技者から見て盤可動体15Aの外側に対応する領域に表示される大当たり図柄配列の一部も見える状態である。

40

【0453】

なお、本実施形態では、大当たり図柄配列は、複数種類の装飾図柄で形成される。具体的には、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、赤色の装飾図柄で形成さ

50

れ、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、緑色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄（2，4，6，8図柄）の場合には、青色の装飾図柄で形成される。

【0454】

次に、図79（D）に示すように、大当たり図柄表示演出Bが実行される。この大当たり図柄表示演出Bでは、盤可動体15Aが展開ポジションからホームポジションに可動制御され、表示画面7a上から消えた状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L，8C，8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。

【0455】

[効果例]

以下に、役物図柄表示演出の効果例を示す。

[効果1]

上記実施形態の遊技機1では、図78～図79に示すように、役物図柄表示演出A，Bにおいて、リーチ演出が実行され、盤可動体15，15Aがホームポジションから展開ポジションに可動制御され、表示画面7a上（表示画面7aの一部を隠す位置）に配置され、その状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L，8C，8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。この場合、表示画面7aにおいて、遊技者から見て盤可動体15，15Aと重ならない領域に表示される大当たり図柄配列の一部も見える状態である。具体的には、盤可動体15の孔部15a，15b，15cからは、表示画面7aに表示された大当たり図柄配列の一部（例えば、中装飾図柄8Cの一部）が見える状態である。また、表示画面7aにおいて、遊技者から見て盤可動体15，15Aの外側に対応する領域に表示される大当たり図柄配列の一部も見える状態である。この構成によれば、遊技者は、盤可動体が展開ポジションに位置する状態、言い換えれば、役物可動演出中であっても、大当たり図柄配列の一部から大当たり図柄配列の全体を想像することができ、大当たりをいち早く認知した喜びを感じることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0456】

[効果2]

上記実施形態の遊技機1では、図78～図79に示すように、役物図柄表示演出A，Bにおいて、大当たり図柄配列を表示画面7a上に表示した状態で、盤可動体15，15Aが展開ポジションからホームポジションに可動制御される。この構成によれば、表示画面7a上の大当たり図柄配列を遊技者ははっきりと認識し、大当たりを確信することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0457】

[効果3]

上記実施形態の遊技機1では、図78～図79に示すように、役物図柄表示演出A，Bにおいて、盤可動体15，15Aは、ホームポジションにある場合には、表示画面7aとは重ならない位置となっている。この構成によれば、盤可動体15，15Aが展開ポジションに移動した場合には、表示画面7a上の表示が突然隠れることになり得るので、遊技者にサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0458】

[効果4]

上記実施形態の遊技機1では、図79に示すように、役物図柄表示演出Bにおいて、リーチ演出が実行され、孔部15bと孔部15cとを有する盤可動体15Aがホームポジションから展開ポジションに可動制御され、表示画面7a上（表示画面7aの一部を隠す位置）に配置され、その状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L，8C，8Rを用いた大当たり図柄配列が示される。この場合、表示画面7aにおいて、盤可動体15Aの孔部15bおよび孔部15cからは、表示画面7aに表示された大当たり図柄配列の一部（例えば、中装飾図柄8Cの一部）が見える状態である。この構成によれば、遊技者は、盤可動体が展開ポジションに位置する状態、言い換えれば、役物可動演出中であっても、連続しな

10

20

30

40

50

い2つの領域から見える大当たり図柄配列の一部から大当たり図柄配列の全体を素早く想像することができるので、大当たりを認知した喜びを感じることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0459】

〔効果5〕

上記実施形態の遊技機1では、図78～図79に示すように、役物図柄表示演出A、Bにおいて、大当たり図柄配列は、複数種類の装飾図柄で形成される。具体的には、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、赤色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、緑色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄（2，4，6，8図柄）の場合には、青色の装飾図柄で形成される。この構成によれば、盤可動体15，15Aがホームポジションから展開ポジションに可動制御され、表示画面7a上（表示画面7aの一部を隠す位置）に配置され、その状態で、表示画面7a上に装飾図柄8L，8C，8Rを用いた大当たり図柄配列が示された場合において、盤可動体15，15Aの孔部から見える色によって、装飾図柄の種類を素早く認知することができる。装飾図柄の種類から大当たり遊技後の遊技状態を連想することが可能となる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0460】

〔変形例〕

以下に、役物図柄表示演出の変形例を示す。

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図78～図79に示すように、役物図柄表示演出A、Bにおいて、大当たり図柄配列は、図柄によって色が異なることで、複数種類の装飾図柄が形成されている。具体的には、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、赤色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、緑色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄（2，4，6，8図柄）の場合には、青色の装飾図柄で形成される。本発明は、これに限られるものではなく、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、赤色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、緑色の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄（2，4，6，8図柄）の場合には、青色の装飾図柄で形成される。しかしながら、本発明はこれに限られるものではない。

例えば、大当たり図柄配列は、図柄によって「柄」が異なることで、複数種類の装飾図柄が形成されてもよい。例えば、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、虎柄の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、豹柄の装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄（2，4，6，8図柄）の場合には、ゼブラ柄の装飾図柄で形成される。

また、大当たり図柄配列は、図柄によって付与されるキャラクタの種類で、複数種類の装飾図柄が形成されてもよい。例えば、大当たり図柄配列が、3図柄および7図柄の場合には、虎のキャラクタが付与された装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、1図柄および5図柄の場合には、豹のキャラクタが付与された装飾図柄で形成され、大当たり図柄配列が、偶数図柄（2，4，6，8図柄）の場合には、キャラクタが付与されない装飾図柄で形成される。

【0461】

〔変形例2〕

上記実施形態の遊技機1では、図78～図79に示すように、役物図柄表示演出A、Bにおいて、盤可動体15，15Aは、ホームポジションにある場合には、表示画面7aとは重ならない位置となっているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、盤可動体15，15Aは、ホームポジションにある場合に、表示画面7aの一部の領域と重なっていてもよい。

【0462】

〔変形例3〕

10

20

30

40

50

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 8 ～図 7 9 に示すように、役物図柄表示演出 A , B において、大当たり図柄表示演出 B で、大当たり図柄配列が表示された状態で、盤可動体 1 5 , 1 5 A を展開ポジションからホームポジションに戻す制御が実行されているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、盤可動体 1 5 , 1 5 A を展開ポジションからホームポジションに戻す制御は、大当たり図柄配列の表示が消えてから実行してもよい。
【 0 4 6 3 】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 7 8 ～図 7 9 に示すように、役物図柄表示演出 A , B において、盤可動体 1 5 , 1 5 A が役物可動演出で展開ポジションに可動制御された場合に、表示画面 7 a において遊技者から見て盤可動体 1 5 と重ならない領域に表示される大当たり図柄配列の一部が見える状態となっているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、盤可動体 1 5 , 1 5 A の外周部が表示画面 7 a の外周部の外側まで覆い、孔部 1 5 a、1 5 b、1 5 c からのみ、表示画面 7 a が見える構成としてもよい。

【 0 4 6 4 】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 F 2 - 1〕

可動式役物と表示手段とを備える遊技機であって、
前記可動式役物は、複数の役物演出を実行可能であり、
前記複数の役物演出のうちの一つの演出として、第 1 の役物演出をおこなう場合があり、
前記第 1 の役物演出は、前記可動式役物の状態を第 1 の状態から第 2 の状態にさせる役物演出であり、
前記第 1 の状態は、前記可動式役物が第 1 の位置にある状態であり、
前記第 2 の状態は、前記可動式役物が前記第 1 の位置とは異なる位置であって前記表示手段よりも前方に位置する第 2 の位置にある状態であり、かつ、遊技者から見て前記可動式役物が前記表示手段の第 1 の領域と重ならない位置にある状態であり、
前記表示手段は、複数の表示演出を実行可能であり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 1 の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 2 の表示演出をおこなう場合があり、
前記第 1 の表示演出は、リーチ演出であり、
前記第 2 の表示演出は、前記第 1 の表示演出後におこなわれ、前記表示手段において前記第 1 の領域を含む領域に大当たりを表す大当たり図柄配列を表示する演出であり、
前記表示演出と前記役物演出を組み合わせた組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、
前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれ、前記第 1 の役物演出がおこなわれ、前記第 1 の役物演出がおこなわれる場合に前記第 2 の表示演出がおこなわれる、
ことを特徴とする遊技機。

〔態様 F 2 - 2〕

前記複数の役物演出のうちの一つの演出として、第 2 の役物演出をおこなう場合があり、
前記第 2 の役物演出は、前記第 1 の役物演出後におこなわれ、前記可動式役物の状態を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態にさせる場合がある役物演出であり、
前記組み合わせ演出では、前記第 2 の表示演出中に前記第 2 の役物演出がおこなわれる、
ことを特徴とする態様 F 2 - 1 に記載の遊技機。

〔態様 F 2 - 3〕

前記第 1 の状態は、遊技者から見て前記可動式役物が前記表示手段に重ならない状態を含む、

ことを特徴とする態様 F 2 - 1 または態様 F 2 - 2 に記載の遊技機。

〔態様 F 2 - 4〕

前記表示手段は、前記第 1 の領域とは異なる領域であって前記第 1 の領域と連続しない第 2 の領域を有しており、

前記第 2 の状態は、遊技者から見て前記可動式役物が前記表示手段の前記第 1 の領域に

加え前記第2の領域とも重ならない状態であり、

前記第2の表示演出は、前記表示手段において前記第1の領域と前記第2の領域とを含む領域に大当たりを表す大当たり図柄配列を表示する演出である、

ことを特徴とする態様F2-1から態様F2-3までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様F2-5〕

前記第2の表示演出は、前記表示手段において前記大当たり図柄配列を表示する場合に、複数の態様のうち大当たり図柄配列を表示可能であり、

前記複数の態様のうち大当たり図柄配列の一つの態様は、第1の態様のうち大当たり図柄配列であり、

前記複数の態様のうち大当たり図柄配列の一つの態様は、前記第1の態様とは異なる第2の態様のうち大当たり図柄配列である、

ことを特徴とする態様F2-1から態様F2-4までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様F2-6〕

前記第1の態様のうち大当たり図柄配列と、前記第2の態様のうち大当たり図柄配列とは、色が異なる、

ことを特徴とする態様F2-5に記載の遊技機。

【0465】

以下に図80～図81を用いてボタン画像内メータ演出について説明する。このボタン画像内メータ演出は、装飾図柄の変動演出中（1回の変動演出中）（例えば、装飾図柄の変動開始時、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）、または、大当たり遊技中などに実行され得る。

【0466】

〔ボタン画像内メータ演出A〕

図80は、ボタン画像内メータ演出Aを説明するための図である。

ボタン画像内メータ演出Aでは、まず、図80（A）に示すように、ボタンメータ表示演出が実行される。このボタンメータ表示演出では、ボタン画像E1Aとメータ画像E1Bとが表示される。ボタン画像E1Aは、演出ボタン63を示唆する画像であり、これから演出ボタン63を用いた演出が実行され得ることを予感している。メータ画像E1Bは、メータ領域（図ではクロスハッチングで表される）が動くメータであり、メータ領域が動くことでメータ値を表している。また、メータ画像E1Bは、ボタン画像E1A内に横向きに配置される。

【0467】

次に、図80（B）に示すように、ポイント付与演出が実行される。このポイント付与演出では、ボタン画像E1Aとメータ画像E1Bとポイント獲得画像E1Cとが表示される。このポイント付与演出は、複数回実行され得る。ポイント獲得画像E1Cは、所定のポイントが付与されたこと、言い換えれば、遊技者が所定のポイントを獲得したことを示唆する画像である。図80（B）のポイント獲得画像E1Cでは、ポイントが遊技者に3ポイント（3P）付与された（遊技者が3ポイントを獲得した）ことが表されている。また、ボタン画像E1A内に配置されたメータ画像E1Bでは、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。メータ画像E1Bのメータ値は、ポイント付与演出が実行されるたびに、上昇していく。すなわち、メータ画像E1Bのメータ値は、獲得したポイントの累積値を表している。このポイント付与演出は、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、先読み演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出など種々の演出が実行されたことに応じて開始され得る。

【0468】

次に、図80（C）に示すように、チャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出では、ボタン画像E1Aとメータ画像E1Bとチャンスアップ画像E1Dが表示される。ボタン画像E1A内に配置されたメータ画像E1Bでは、メータ領域が拡大され

10

20

30

40

50

、メータ値が最大（MAX）になったことが表されている。また、チャンスアップ画像E1Dは、チャンスアップを示唆する画像である。チャンスアップ画像E1Dは、メータ値が最大（MAX）になった場合に表示される。図80（C）のチャンスアップ画像E1Dでは、大当たりの期待度が高いことを示唆する「激アツだ！」という文字と、大当たり期待度が50%程度であることを示唆する「期待度50%」という文字が表示されている。チャンスアップ画像E1Dは、メータ画像E1Bが配置されたボタン画像E1Aと隣接して表示される。

【0469】

[ボタン画像内メータ演出B]

図81は、ボタン画像内メータ演出Bを説明するための図である。

ボタン画像内メータ演出Bでは、まず、図81（A）に示すように、図80（A）と同様に、ボタンメータ表示演出が実行される。

次に、図81（B）に示すように、図80（B）と同様にポイント付与演出が実行される。

【0470】

次に、図81（C）に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、ボタン画像E1Aとメータ画像E1Bとタイマ画像E1Eが表示される。ボタン画像E1A内に配置されたメータ画像E1Bでは、メータ領域が拡大され、メータ値が最大（MAX）になったことが表されている。タイマ画像E1Eは、メータ値が最大（MAX）になった場合に表示される。タイマ画像E1Eは、タイマ値がカウントダウン方式で表示され、タイマの初期値として、50秒がセットされている。

【0471】

次に、図81（D）に示すように、ボタン押下演出が実行される。このボタン押下演出では、ボタン画像E1Fとタイマ画像E1Eが表示される。ボタン画像E1Fは、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン63が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像E1Fは、ボタン画像E1Aのあった位置に同様の大きさで表示され、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像E1Aの色を濃くした状態、および/または、ボタン画像E1Aが点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像E1Fに隣接して、遊技者に演出ボタン63の操作を促すために、「押せ！！」の文字も表されている。タイマ画像E1Eは、タイマ値が「0秒」となったことが示されている。ボタン画像E1Fは、タイマ画像E1Eのタイマ値が「0秒」となってから表示される。これに限られず、タイマ値が「0秒」になる前の所定値（例えば、タイマ値が1秒）となってから表示されてもよい。なお、演出ボタン63の有効操作期間は、例えば、3秒としてもよい。この場合、ボタン画像E1Fは、有効操作期間が過ぎると消失する。なお、ボタン画像E1F内にメータ画像E1Bが表示されてもよい。この場合、メータ画像E1Bのメータ値は、最大（MAX）をしめしなくてもいいし、初期値（メータ領域なし）に戻っていてもよい。

【0472】

ボタン押下演出後、ボタン押下演出によって遊技者により有効操作期間内に演出ボタン63が押下された場合には、所定の演出が実行される。所定の演出としては、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、または、先読み開始予告など種々の演出が実行され得る。

【0473】

[効果例]

以下に、ボタン画像内メータ演出の効果例を示す。

[効果1]

上記実施形態の遊技機1では、図80～図81に示すように、ボタン画像内メータ演出A，Bでは、ボタン画像E1Aが表示されているときに、メータ画像E1Bが表示される。このメータ画像E1Bはボタン画像E1A内に配置される。そして、メータ画像E1B

10

20

30

40

50

の表示後に、メータ画像 E 1 B のメータ値が最大 (MAX) になったときに、所定の演出 (チャンスアップ演出など) が実行される。この構成によれば、メータ画像 E 1 B はボタン画像 E 1 A 内に配置されているので、遊技者は、メータ表示と関連して演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出を連想し得る。従って、メータ表示に関連して実際にボタン演出が行われた場合には、遊技者にボタン演出に関して大きな期待感を付与することができ、メータ表示に関連してボタン演出ではなく他の演出が行われた場合には、遊技者にサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0474】

〔効果 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 80～図 81 に示すように、ボタン画像内メータ演出 A, B では、ポイント付与演出が、ボタン画像 E 1 A 内にメータ画像 E 1 B が配置されているときに実行され、ポイント付与演出において、ポイント獲得画像 E 1 C が表示され、所定のポイントが付与された場合には、メータ画像 E 1 B において付与されたポイント分メータ領域が拡大され、メータ値が上昇した表示が実行される。この構成によれば、ポイント付与によりボタン画像内に配置されたメータ画像のメータ値が上昇するので、ポイント獲得によるメータ値の上昇を強調することができる。また、ポイント付与によりボタン画像内に配置されたメータ画像のメータ値が上昇し、所定値 (最大値) に到達し、演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出へ発展した場合には、遊技者に大当たりへの大きな期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0475】

〔効果 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 80～図 81 に示すように、ボタン画像内メータ演出 A, B において、チャンスアップ画像 E 1 D またはタイマ画像 E 1 E は、メータ画像 E 1 B が配置されたボタン画像 E 1 A と隣接して表示される。この構成によれば、遊技者に、演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出発展への期待感、さらには、ボタン演出に発展した場合における大当たりへの期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0476】

〔効果 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 81 に示すように、ボタン画像内メータ演出 B において、タイマ表示演出で、メータ値が最大 (MAX) になった場合に、タイマ画像 E 1 E が表示される。この構成によれば、タイマ画像 E 1 E のタイマ値が所定値になった場合には、遊技者に演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出発展への期待感、さらには、ボタン演出に発展した場合における大当たりへの期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0477】

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 81 に示すように、ボタン画像内メータ演出 B において、ボタン押下演出で、タイマ画像 E 1 E のタイマ値が「0 秒」となったときに、遊技者に演出ボタン 6 3 の押下を促すボタン画像 E 1 F が表示される。この構成によれば、遊技者に演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出発展へのより強い期待感、さらには、ボタン演出に発展した場合における大当たりへのより強い期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0478】

〔効果 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 80～図 81 に示すように、ボタン画像内メータ演出 A, B において、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像 E 1 B のメータ値が最大 (MAX) のときに実行される。この構成によれば、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が、メータ画像 E 1 B のメータ値が最大 (MAX) より手前の所定値のときに実行される場合と比較して、チャンスアップ演出やタイマ表示演出に発展した場合の大当た

10

20

30

40

50

りへの期待感を大きくすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0479】

〔変形例〕

以下に、ボタン画像内メータ演出の変形例を示す。

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図80～図81に示すように、ボタン画像内メータ演出A、Bにおいて、チャンスアップ画像E1Dまたはタイマ画像E1Eは、メータ画像E1Bが配置されたボタン画像E1Aと隣接して表示されているが、本発明は、これに限られるものではなく、チャンスアップ画像E1Dまたはタイマ画像E1Eは、ボタン画像E1A内に配置されてもよいし、メータ画像E1Bから所定の距離離れた位置に表示されてもよい。

10

【0480】

〔変形例2〕

上記実施形態の遊技機1では、図80～図81に示すように、ボタン画像内メータ演出A、Bにおいて、メータ画像E1Bのメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ボタンメータ表示演出時において、メータ画像E1Bのメータ値が所定値（例えば、最大値）となっており、ポイント付与演出によるポイントの付与によってメータ領域が減少しメータ値が降下する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値（例えば、0）となると、図80（C）に示すチャンスアップ演出や図81（C）に示すタイマ表示演出が実行されてもよい。

20

【0481】

〔変形例3〕

上記実施形態の遊技機1では、図80～図81に示すように、ボタン画像内メータ演出A、Bにおいて、メータ画像E1Bのメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ポイント付与演出によるポイントの付与の代わりに、所定の動作が実行されたことによってメータ領域が拡大しメータ値が上昇する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値となると、図80（C）に示すチャンスアップ演出や図81（C）に示すタイマ表示演出が実行される。なお、「所定の動作が実行されたこと」とは、例えば、擬似連出が実行されたこと、保留アイコンが変化したこと（保留変化表示がおこなわれたこと）、所定のチャンスアップ演出が実行されたこと、所定のチャレンジ（ゲーム）に成功したことなどが含まれる。

30

【0482】

〔変形例4〕

上記実施形態の遊技機1では、図80～図81に示すように、ボタン画像内メータ演出A、Bにおいて、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像E1Bのメータ値が最大値（MAX）のときに実行される構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像E1Bのメータ値が最大値（MAX）のときでなく、最大値よりも小さい所定値となった場合に実行される構成としてもよい。所定値として、例えば、メータ値の半分の値であったり、1/4の値であってもよい。この場合、当該所定値が遊技者に分かるように、メータ画像E1Bのメータ領域に所定の印（目盛り）をつけるようにしてもよい。

40

【0483】

〔変形例5〕

上記実施形態の遊技機1では、図80に示すように、ボタン画像内メータ演出Aにおいて、チャンスアップ演出でチャンスアップ画像E1Dが表示された後に、ボタン画像E1Aのメータ値を初期値（0）に戻すようにしてもよい。その後に、ポイント付与演出が実行されて、メータ値を上昇させる演出が実行されてもよい。

また、上記実施形態の遊技機1では、図81に示すように、ボタン画像内メータ演出Bにおいて、ボタン押下演出では、メータ画像E1Bが表示されない構成となっているが、

50

本発明は、これに限られるものではなく、メータ画像 E 1 B が表示されてもよい。この場合、メータ画像 E 1 B は、ボタン画像 E 1 F 内に配置されてもよい。その後に、ポイント付与演出が実行されて、メータ値を上昇させる演出が実行されてもよい。

【0484】

〔変形例 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、ボタン画像内メータ演出 A, B は、1 回の変動演出中に実行されているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、ボタン画像内メータ演出 A, B は、複数の変動演出にまたがって実行されてもよい。

【0485】

〔変形例 7〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 1 に示すように、ボタン画像内メータ演出 B において、タイマ画像 E 1 E は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像 E 1 E は、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したボタン押下演出が実行され得る。

【0486】

〔変形例 8〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 1 に示すように、ボタン画像内メータ演出 B において、1 つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、2 つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

【0487】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 E 1 - 1〕

複数種類の表示演出を実行可能な表示手段と遊技者が操作可能な操作部とを備える遊技機であって、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 1 の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 2 の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 3 の表示演出をおこなう場合があり、
前記第 1 の表示演出は、前記操作部を表す第 1 の操作部画像を表示する演出であり、
前記第 2 の表示演出は、所定のメータを表示し、前記メータを複数の態様のうちの一つの態様で表示する演出であり、

前記第 3 の表示演出は、前記メータを表示し、前記メータが前記複数の態様のうちの第 1 の態様となったときに、所定の表示をおこなう演出であり、

前記第 1 の表示演出と前記第 2 の表示演出と前記第 3 の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれているときに、前記第 2 の表示演出がおこなわれ、前記第 2 の表示演出では前記メータが前記第 1 の表示演出の前記第 1 の操作部画像内に表示され、前記第 2 の表示演出の後に、前記第 3 の表示演出がおこなわれる、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 E 1 - 2〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 4 の表示演出をおこなう場合があり、
前記第 4 の表示演出は、所定のポイントが付与される演出であり、
前記組み合わせ演出は、前記第 4 の表示演出を含む場合がある演出であり、
当該組み合わせ演出において、前記第 4 の表示演出は、前記第 2 の表示演出がおこなわれているときにおこなわれ、前記第 4 の表示演出において前記所定のポイントが付与された場合には、前記第 2 の表示演出において前記メータを前記第 1 の態様とは異なる第 2 の態様から第 3 の態様とする表示がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 E 1 - 1 に記載の遊技機。

〔態様 E 1 - 3〕

前記第3の表示演出でおこなわれる前記所定の表示は、前記第1の操作部画像と隣接しておこなわれる場合がある表示である、

ことを特徴とする態様E1-1または態様E1-2に記載の遊技機。

〔態様E1-4〕

前記第3の表示演出でおこなわれる前記所定の表示は、タイマ表示である、

ことを特徴とする態様E1-1から態様E1-3までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様E1-5〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第5の表示演出をおこなう場合があり、前記組み合わせ演出は、前記第5の表示演出を含む場合がある演出であり、

当該組み合わせ演出において、前記第3の表示演出の後に、前記第5の表示演出がおこなわれ、

前記第5の表示演出は、前記タイマ表示のタイマ値が所定値となったときに、前記操作部を表す操作部画像であって遊技者に前記操作部の操作を促す第2の操作部画像が表示される演出である、

ことを特徴とする態様E1-4に記載の遊技機。

〔態様E1-6〕

前記第3の表示演出において、前記メータが前記複数の態様のうちの第1の態様となったときは、前記メータの値が最大値となったときである、

ことを特徴とする態様E1-1から態様E1-5までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0488】

以下に図82～図83を用いてボタン画像内表示演出について説明する。このボタン画像内表示演出は、装飾図柄の変動演出中（1回の変動演出中）（例えば、装飾図柄の変動開始時、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）、または、大当たり遊技中などに実行され得る。

【0489】

〔ボタン画像内表示演出A〕

図82は、ボタン画像内表示演出Aを説明するための図である。

ボタン画像内メータ演出Aでは、まず、図82（A）に示すように、ボタンメータ表示演出が実行される。このボタンメータ表示演出では、ボタン画像E2Aとメータ画像E2Bとが表示される。ボタン画像E2Aは、演出ボタン63を示唆する画像であり、これから演出ボタン63を用いた演出が実行され得ることを予感している。メータ画像E2Bは、メータ領域（図ではクロスハッチングで表される）が動くメータであり、メータ領域が動くことでメータ値を表している。また、メータ画像E2Bは、ボタン画像E2Aの下に隣接して横向きに配置される。

【0490】

次に、図82（B）に示すように、ポイント付与演出が実行される。このポイント付与演出では、ボタン画像E2Aとメータ画像E2Bとポイント獲得画像E2Cとが表示される。このポイント付与演出は、複数回実行され得る。ポイント獲得画像E2Cは、所定のポイントが付与されたこと、言い換えれば、遊技者が所定のポイントを獲得したことを示唆する画像である。図82（B）のポイント獲得画像E2Cでは、ポイントが遊技者に4ポイント（4P）付与された（遊技者が4ポイント獲得した）ことが表されている。また、ボタン画像E2Aに隣接して配置されたメータ画像E2Bでは、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。メータ画像E2Bのメータ値は、ポイント付与演出が実行されるたびに、上昇していく。すなわち、メータ画像E2Bのメータ値は、獲得したポイントの累積値を表している。このポイント付与演出は、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、先読み演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出など種々の演出が実行されたことに応じて開始され得る。

【0491】

次に、図 8 2 (C) に示すように、チャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出では、ボタン画像 E 2 A とメータ画像 E 2 B とチャンスアップ画像 E 2 D が表示される。ボタン画像 E 2 A に隣接して配置されたメータ画像 E 2 B では、メータ領域が拡大され、メータ値が最大 (MAX) になったことが表されている。また、チャンスアップ画像 E 2 D は、チャンスアップを示唆する画像である。チャンスアップ画像 E 2 D は、メータ値が最大 (MAX) になった場合に表示される。図 8 2 (C) のチャンスアップ画像 E 2 D では、大当たりの期待度が高いことを示唆する「GEKIA TU!」という文字が表示されている。チャンスアップ画像 E 2 D は、ボタン画像 E 2 A 内に表示される。

【0492】

[ボタン画像内表示演出 B]

図 8 3 は、ボタン画像内表示演出 B を説明するための図である。

ボタン画像内表示演出 B では、まず、図 8 3 (A) に示すように、図 8 2 (A) と同様に、ボタンメータ表示演出が実行される。

次に、図 8 3 (B) に示すように、図 8 2 (B) と同様にポイント付与演出が実行される。

【0493】

次に、図 8 3 (C) に示すように、メータ MAX 報知演出が実行される。このメータ MAX 報知演出では、ボタン画像 E 2 A とメータ画像 E 2 B とメータ値示唆画像 E 2 E が表示される。ボタン画像 E 2 A に隣接して配置されたメータ画像 E 2 B では、メータ領域が拡大され、メータ値が最大 (MAX) になったことが表されている。メータ値示唆画像 E 2 E は、メータ値が最大 (MAX) になった場合に表示され、メータ値が最大 (MAX) になったことを示唆する画像である。また、メータ値示唆画像 E 2 E は、ボタン画像 E 2 A 内に表示される。

【0494】

次に、図 8 3 (D) に示すように、ボタン押下演出が実行される。このボタン押下演出では、ボタン画像 E 2 F とメータ値示唆画像 E 2 E とメータ画像 E 2 B とが表示される。ボタン画像 E 2 F は、ボタン画像 E 2 A のあった位置に同様の大きさで表示され、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン 6 3 が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像 E 2 F は、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像 E 2 A の色を濃くした状態、および/または、ボタン画像 E 2 A が点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像 E 2 F に隣接して、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。なお、演出ボタン 6 3 の有効操作期間は、例えば、3 秒としてもよい。この場合、ボタン画像 E 2 F は、有効操作期間が過ぎると消失する。メータ値示唆画像 E 2 E は、ボタン画像 E 2 F 内に表示される。なお、メータ値示唆画像 E 2 E は、ボタン画像 E 2 F 内ではなく、ボタン画像 E 2 F に隣接して表示されていてもよいし、メータ画像 E 2 B 内に表示されていてもよい。また、図 8 3 (D) のメータ画像 E 2 B のメータ値は、最大 (MAX) を表している。なお、これに限らず、メータ画像 E 2 B のメータ値は、初期値 (メータ領域なし) に戻っていてもよい。

【0495】

ボタン押下演出後、ボタン押下演出によって遊技者により演出ボタン 6 3 が押下された場合には、所定の演出が実行される。所定の演出としては、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出 (大当たり期待度示唆演出)、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、タイマ表示演出、または、先読み開始予告など種々の演出が実行され得る。

【0496】

[効果例]

以下に、ボタン画像内表示演出の効果例を示す。

[効果 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 2 ~ 図 8 3 に示すように、ボタン画像内表示演出 A

10

20

30

40

50

、Bでは、ボタン画像E 2 Aが表示されているときに、メータ画像E 2 Bが表示され、メータ画像E 2 Bの表示後に、メータ画像E 2 Bのメータ値が最大(M A X)になったときに、ボタン画像E 2 Aが表示された領域において、チャンスアップ画像E 2 Dまたはメータ値示唆画像E 2 Eが表示される。この構成によれば、チャンスアップ画像E 2 Dまたはメータ値示唆画像E 2 Eを見た遊技者は、演出ボタン6 3を用いたボタン演出の実行を連想し得る。従って、実際にボタン演出が行われた場合には、遊技者にボタン演出に関して大当たりへの大きな期待感を付与することができる。また、ボタン画像E 2 Aが表示された領域において所定の演出が実行されるので、所定の演出にサプライズ感を創出することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0 4 9 7】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図8 2～図8 3に示すように、ボタン画像内表示演出A、Bでは、ポイント付与演出が、メータ画像E 1 Bが表示されているときに実行され、ポイント付与演出において、ポイント獲得画像E 2 Cが表示され、所定のポイントが付与された場合には、メータ画像E 2 Bにおいて付与されたポイント分メータ領域が拡大され、メータ値が上昇した表示が実行される。この構成によれば、ポイント付与によりメータ画像のメータ値が上昇するので、遊技者は、ポイント獲得によるメータ値の上昇を認識することができる。従って、メータ値の変化によってチャンスアップ画像E 2 Dまたはメータ値示唆画像E 2 Eの表示がされ得るので、遊技者にわくわく感を付与することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0 4 9 8】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図8 3に示すように、ボタン画像内表示演出Bにおいて、メータM A X報知演出で、メータ画像E 2 Bのメータ値が最大(M A X)であることを示唆するメータ値示唆画像E 2 Eが、ボタン画像E 2 Aが表示された領域において表示される。この構成によれば、メータ画像E 2 Bのメータ値が最大(M A X)となったことにより、演出ボタン6 3を用いたボタン演出が実行されることをボタン押下演出よりも前に遊技者に連想させることができる。従って、実際にボタン演出(ボタン押下演出を含む)が実行された場合に、遊技者にボタン演出に関して大当たりへの期待感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0 4 9 9】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図8 3に示すように、ボタン画像内表示演出Bにおいて、メータ画像E 2 Bのメータ値が最大(M A X)になったときに、遊技者に演出ボタン6 3の押下を促すボタン画像E 2 Fが表示され、ボタン画像E 2 Fが表示された領域においてメータ値示唆画像E 2 Eが表示される。この構成によれば、ボタン画像E 2 Fが表示された領域におけるメータ値示唆画像E 2 Eの表示により、演出ボタン6 3押下により発展する所定の演出における大当たりへの期待感を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0 5 0 0】

〔効果5〕

上記実施形態の遊技機1では、図8 2～図8 3に示すように、ボタン画像内表示演出A、Bにおいて、チャンスアップ画像E 2 Dやメータ値示唆画像E 2 Eの表示は、メータ画像E 2 Bのメータ値が最大(M A X)のときに実行される。この構成によれば、チャンスアップ画像E 2 Dやメータ値示唆画像E 2 Eの表示が、メータ画像E 2 Bのメータ値が最大(M A X)より手前の所定値のときに実行される場合と比較して、チャンスアップ画像E 2 Dやメータ値示唆画像E 2 Eが表示された場合の大当たりへの期待感を大きくすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0 5 0 1】

〔変形例〕

以下に、ボタン画像内表示演出の変形例を示す。

[変形例 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 2 ～図 8 3 に示すように、ボタン画像内表示演出 A , B において、メータ画像 E 2 B は、ボタン画像 E 2 A の下に隣接して配置されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、メータ画像 E 2 B は、ボタン画像 E 2 A 内に表示されてもよい。この構成により、遊技者は、メータ表示と関連して演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出を連想し得る。従って、メータ表示に関連して実際にボタン演出が行われた場合には、遊技者にボタン演出に関して大きな期待感を付与することができ、メータ表示に関連してボタン演出ではなく他の演出が行われた場合には、遊技者にサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。また、メータ画像 E 2 B は、ボタン画像 E 2 A に対して、所定の方向に、所定距離離して配置されてもよい。

10

【0502】

[変形例 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 2 ～図 8 3 に示すように、ボタン画像内表示演出 A , B において、メータ画像 E 2 B のメータ値が最大 (MAX) となると、ボタン画像 E 2 A が表示された領域 (ボタン画像 E 2 A 内) に、チャンスアップ画像 E 2 D またはメータ値示唆画像 E 2 E が表示される構成となっているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、メータ画像 E 2 B のメータ値が最大 (MAX) となると、ボタン画像 E 2 A が表示された領域 (ボタン画像 E 2 A 内) に、擬似連演出を示唆する画像、リーチ予告を示唆する画像、大当たり期待度を示唆する画像など種々の画像、タイマ画像が表示されてもいいし、ボタン画像 E 2 A が表示された領域 (ボタン画像 E 2 A 内) において、所定のキャラクタが動く演出など種々の演出が実行されてもよい。

20

【0503】

[変形例 3]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 3 に示すように、ボタン画像内表示演出 B において、ボタン押下演出では、ボタン画像 E 2 F が表示された領域 (ボタン画像 E 2 F 内) にメータ値示唆画像 E 2 E が表示されているが、本発明はこれに限られるものではない。ボタン押下演出において、例えば、ボタン画像 E 2 F が表示された領域 (ボタン画像 E 2 F 内) に、チャンスアップ画像 E 2 D、擬似連演出を示唆する画像、リーチ予告を示唆する画像、大当たり期待度を示唆する画像など種々の画像が表示されてもいいし、ボタン画像 E 2 A が表示された領域 (ボタン画像 E 2 A 内) において、所定のキャラクタが動く演出など種々の演出が実行されてもよい。

30

【0504】

[変形例 4]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 2 ～図 8 3 に示すように、ボタン画像内表示演出 A , B において、メータ画像 E 2 B のメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ボタンメータ表示演出時において、メータ画像 E 2 B のメータ値が所定値 (例えば、最大値) となっており、ポイント付与演出によるポイントの付与によってメータ領域が減少しメータ値が降下する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値 (例えば、0) となると、図 8 2 (C) に示すチャンスアップ演出や図 8 3 (C) に示すメータ MAX 報知演出が実行されてもよい。

40

【0505】

[変形例 5]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 2 ～図 8 3 に示すように、ボタン画像内表示演出 A , B において、メータ画像 E 2 B のメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ポイント付与演出によるポイントの付与の代わりに、所定の動作が実行されたことによってメータ領域が拡大しメータ値が上昇する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値となると、図 8 2 (C) に示すチャンスアップ演出や図 8 3 (C) に示すメータ MAX 報知演出が実行される

50

。なお、「所定の動作が実行されたこと」とは、例えば、擬似連出が実行されたこと、保留アイコンが変化したこと（保留変化表示がおこなわれたこと）、所定のチャンスアップ演出が実行されたこと、所定のチャレンジ（ゲーム）に成功したことなどが含まれる。

【0506】

〔変形例6〕

上記実施形態の遊技機1では、図82～図83に示すように、ボタン画像内表示演出A、Bにおいて、チャンスアップ演出やメータMAX報知演出は、メータ画像E2Bのメータ値が最大値（MAX）のときに実行される構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チャンスアップ演出やメータMAX報知演出は、メータ画像E2Bのメータ値が最大値（MAX）のときでなく、最大値よりも小さい所定値となった場合に実行される構成としてもよい。所定値として、例えば、メータ値の半分の値であったり、1/4の値であってもよい。この場合、当該所定値が遊技者に分かるように、メータ画像E2Bのメータ領域に所定の印（目盛り）をつけるようにしてもよい。

10

【0507】

〔変形例7〕

上記実施形態の遊技機1では、図82に示すように、ボタン画像内表示演出Aにおいて、チャンスアップ演出でチャンスアップ画像E2Dが表示された後に、メータ画像E2Bのメータ値を初期値（0）に戻すようにしてもよい。その後に、ポイント付与演出が実行されて、メータ値を上昇させる演出が実行されてもよい。

また、上記実施形態の遊技機1では、図83に示すように、ボタン画像内表示演出Bにおいて、ボタン押下演出でメータ画像E2Bが表示された後に、ボタン画像E2Aのメータ値を初期値（0）に戻すようにしてもよい。その後に、ポイント付与演出が実行されて、メータ値を上昇させる演出が実行されてもよい。

20

【0508】

〔変形例8〕

上記実施形態の遊技機1では、ボタン画像内表示演出A、Bは、1回の変動演出中に実行されているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、ボタン画像内表示演出A、Bは、複数の変動演出にまたがって実行されてもよい。

【0509】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様E2-1〕

複数種類の表示演出を実行可能な表示手段と遊技者が操作可能な操作部とを備える遊技機であって、

30

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第1の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第2の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第3の表示演出をおこなう場合があり、
前記第1の表示演出は、前記操作部を表す第1の操作部画像を表示する演出であり、
前記第2の表示演出は、所定のメータを表示し、前記メータを複数の態様のうちの一つの態様で表示する演出であり、

40

前記第3の表示演出は、前記メータを表示し、前記メータが前記複数の態様のうちの第1の態様となったときに、所定の表示をおこなう演出であり、

前記第1の表示演出と前記第2の表示演出と前記第3の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、

前記組み合わせ演出では、前記第2の表示演出がおこなわれた後、前記第3の表示演出がおこなわれ、前記第1の表示演出は、前記第3の表示演出がおこなわれているときにおこなわれており、前記第3の表示演出では、前記メータが前記第1の態様となったときに、前記第1の操作部画像が表示された領域において前記所定の表示がおこなわれる、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様E2-2〕

50

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第４の表示演出をおこなう場合があり、
前記第４の表示演出は、所定のポイントが付与される演出であり、

前記組み合わせ演出は、前記第４の表示演出を含む場合がある演出であり、

当該組み合わせ演出において、前記第４の表示演出は、前記第２の表示演出がおこなわれているときにおこなわれ、前記第４の表示演出において前記所定のポイントが付与された場合には、前記第２の表示演出の前記メータを前記第１の態様とは異なる第２の態様から第３の態様とする表示がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 E 2-1 に記載の遊技機。

〔態様 E 2-3〕

前記第３の表示演出でおこなわれる前記所定の表示は、前記メータが前記第１の態様となったことを示唆する表示である、

ことを特徴とする態様 E 2-1 または態様 E 2-2 に記載の遊技機。

〔態様 E 2-4〕

前記組み合わせ演出では、前記第１の表示演出は、前記第２の表示演出がおこなわれているときにおこなわれており、前記第２の表示演出の前記メータが前記第１の表示演出の前記第１の操作部画像内に表示される、

ことを特徴とする態様 E 2-1 から態様 E 2-3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 E 2-5〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第５の表示演出をおこなう場合があり、
前記第５の表示演出は、前記操作部を表す操作部画像であって遊技者に前記操作部の操作を促す第２の操作部画像を表示する演出であり、

前記組み合わせ演出は、前記第５の表示演出を含む場合がある演出であり、

前記組み合わせ演出において、前記第５の表示演出は、前記第３の表示演出で前記メータが前記複数の態様のうちの第１の態様となったときにおこなわれ、その後、前記第２の操作部画像が表示された領域において前記所定の表示がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 E 2-1 から態様 E 2-4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 E 2-6〕

前記第３の表示演出において、前記メータが前記複数の態様のうちの第１の態様となったときとは、前記メータの値が最大値となったときである、

ことを特徴とする態様 E 2-1 から態様 E 2-5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【０５１０】

以下に図８４～図８６を用いて複数変動演出について説明する。この複数変動演出は、複数変動にわたる装飾図柄の変動演出中（リーチ演出（スーパーリーチ演出）を含む）などに実行され得る。

【０５１１】

〔複数変動演出 A〕

図８４は、複数変動演出 A を説明するための図である。

複数変動演出 A では、まず、図８４（A）に示すように、当該変動メータ表示演出が実行される。この当該変動メータ表示演出では、保留アイコン E 3 と、メータ画像 E 3 C とが表示される。保留アイコン E 3 は、保留を表す第１保留アイコン E 3 B（最大８つ）と、当該保留を表す第２保留アイコン E 3 A とから構成される。なお、説明を簡単にするため、第１保留アイコン E 3 B のうち、図では、特図１の保留に対応する第１保留アイコン（最大４つ）のみが示されている。すなわち、図では、第１保留アイコン E 3 B は、保留画像 9 A に該当する。以下、複数変動演出では、同様に示す。

【０５１２】

メータ画像 E 3 C は、メータ領域（図ではクロスハッチングで表される）が動くメータであり、メータ領域が動くことでメータ値を表している。また、メータ画像 E 3 C は、表示画面 7 a の右端に縦向きに配置されている。

【０５１３】

次に、図８４（B）に示すように、当該変動ポイント付与演出が実行される。この当該

10

20

30

40

50

変動ポイント付与演出は、上述の当該変動メータ表示演出と同じ変動演出中に実行される演出であり、保留アイコンE3と、メータ画像E3Cと、ポイント獲得画像E3Dとが表示される。当該変動ポイント付与演出は、同じ変動演出中に複数回実行され得る。ポイント獲得画像E3Dは、所定のポイントが付与されたこと、言い換えれば、遊技者が所定のポイントを獲得したことを示唆する画像である。図84(B)のポイント獲得画像E3Dでは、ポイントが遊技者に2ポイント(2P)付与された(遊技者が2ポイント獲得した)ことが表されている。また、メータ画像E3Cでは、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が当該変動メータ表示演出時よりも拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。メータ画像E3Cのメータ値は、ポイント付与が実行されるたびに、上昇していく。すなわち、メータ画像E3Cのメータ値は、獲得したポイントの累積値を表している。この当該変動ポイント付与演出は、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出(大当たり期待度示唆演出)、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、先読み演出、保留期待度示唆演出、または、擬似連演出など種々の演出が実行されたことに応じて開始され得る。また、後述の次変動ポイント付与演出も同様に、これらの種々の演出が実行されたことに応じて実行され得る。

【0514】

次に、図84(C)に示すように、次変動ポイント付与演出が実行される。この次変動ポイント付与演出は、上述の当該変動メータ表示演出および当該変動ポイント付与演出が実行された変動(当該変動)の次の変動演出中に実行される演出であり、保留アイコンE3と、メータ画像E3Cと、ポイント獲得画像E3Dとが表示される。次変動ポイント付与演出は、同じ変動演出中に複数回実行され得る。図84(C)に示すポイント獲得画像E3Dでは、ポイントが遊技者に5ポイント(5P)付与された(遊技者が5ポイント獲得した)ことが表されている。また、メータ画像E3Cでは、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が当該変動ポイント付与演出時よりも拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。

【0515】

次に、図84(D)に示すように、ボタン押下演出が実行される。このボタン押下演出は、上述の次変動ポイント付与演出と同じ変動演出中に実行される演出であり、ボタン画像E3Eと保留アイコンE3とメータ画像E3Cとが表示される。ボタン画像E3Eは、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン63が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像E3Eは、画像中に「PUSH」と表され、点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像E3Eに隣接して、遊技者に演出ボタン63の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。なお、演出ボタン63の有効操作期間は、例えば、3秒としてもよい。この場合、ボタン画像E3Eは、有効操作期間が過ぎると消失する。また、図84(D)のメータ画像E3Cのメータ値は、最大(MAX)を表している。

【0516】

次に、図84(E)に示すように、チャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出では、保留アイコンE3とチャンスアップ画像E3Fが表示される。チャンスアップ画像E3Fは、チャンスアップを示唆する画像であり、メータ値が最大(MAX)になった場合に表示される。図84(E)のチャンスアップ画像E3Fでは、大当たりの期待度が高いことを示唆する「激アツだ!!」という文字が表示されている。チャンスアップ画像E3Fは、味方キャラクタCRAの発言として表されている。

【0517】

[複数変動演出B]

図85は、複数変動演出Bを説明するための図である。

複数変動演出Bでは、図85(A)～図85(E)に示すように、当該変動メータ表示演出、当該変動ポイント付与演出、次変動ポイント付与演出、ボタン押下演出、および、チャンスアップ演出が実行される。これらの各演出は、基本的に、図84(A)～図84(E)に示す当該変動メータ表示演出、当該変動ポイント付与演出、次変動ポイント付与

10

20

30

40

50

演出、ボタン押下演出、および、チャンスアップ演出とそれぞれ基本的に同様であるが、複数変動演出 B では、当該変動メータ表示演出、当該変動ポイント付与演出、および、次変動ポイント付与演出において、ボタン画像 E 3 G が表示される点で異なっている。このボタン画像 E 3 G は、表示画面 7 a の略中央に配置され、演出ボタン 6 3 を示唆する画像であり、これから演出ボタン 6 3 を用いた演出が実行され得ることを予感している。

【0518】

[複数変動演出 C]

図 8 6 は、複数変動演出 C を説明するための図である。

複数変動演出 C は、図 8 6 (A) に示すように、当該変動メータ表示演出が実行される。この当該変動メータ表示演出では、図 8 4 (A) と同様な保留アイコン E 3 と、図 8 5 (A) と同様なボタン画像 E 3 G と、メータ画像 E 3 H とが表示される。メータ画像 E 3 H は、メータ領域（図ではクロスハッチングで表される）が動くメータであり、メータ領域が動くことでメータ値を表しており、ボタン画像 E 3 G が表示された領域（ボタン画像 E 3 G 内）に配置される。

【0519】

次に、図 8 6 (B) に示すように、当該変動ポイント付与演出が実行される。この当該変動ポイント付与演出は、上述の当該変動メータ表示演出と同じ変動演出中に実行される演出であり、図 8 4 (B) と同様な保留アイコン E 3 と、図 8 4 (B) と同様なポイント獲得画像 E 3 D と、図 8 5 (B) と同様なボタン画像 E 3 G と、メータ画像 E 3 H とが表示される。この当該変動ポイント付与演出は、同じ変動演出中に複数回実行され得る。メータ画像 E 3 H では、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が当該変動メータ表示演出時よりも拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。メータ画像 E 3 H のメータ値は、ポイント付与が実行されるたびに、上昇していく。すなわち、メータ画像 E 3 H のメータ値は、獲得したポイントの累積値を表している。

【0520】

次に、図 8 6 (C) に示すように、次変動ポイント付与演出が実行される。この次変動ポイント付与演出は、上述の当該変動メータ表示演出および当該変動ポイント付与演出が実行された変動（当該変動）の次の変動演出中に実行される演出であり、図 8 4 (C) と同様な保留アイコン E 3 と、図 8 4 (C) と同様なポイント獲得画像 E 3 D と、図 8 5 (C) と同様なボタン画像 E 3 G と、メータ画像 E 3 H とが表示される。この次変動ポイント付与演出は、同じ変動演出中に複数回実行され得る。メータ画像 E 3 H では、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が当該変動ポイント付与演出時よりも拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。

【0521】

次に、図 8 6 (D) に示すように、ボタン押下演出が実行される。このボタン押下演出は、上述の次変動ポイント付与演出と同じ変動演出中に実行される演出であり、図 8 4 (D) と同様なボタン画像 E 3 E と、図 8 4 (D) と同様な保留アイコン E 3 と、メータ画像 E 3 H とが表示される。メータ画像 E 3 H は、ボタン画像 E 3 E が表示された領域（ボタン画像 E 3 E 内）に表示される。図 8 6 (D) のメータ画像 E 3 H のメータ値は、最大 (MAX) を表している。

【0522】

次に、図 8 6 (E) に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、保留アイコン E 3 と、ボタン画像 E 3 G と、メータ画像 E 3 H と、タイマ画像 E 3 I とが表示される。タイマ画像 E 3 I は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図 8 6 (E) に示すタイマ画像 E 3 I では、タイマ初期値としての「100 秒」が示されている。このタイマ画像 E 3 I は、ボタン画像 E 3 G に隣接して表示される。なお、タイマ画像 E 3 I のタイマ値が「0 秒」になった場合は、所定の演出、例えば、図 8 5 (E) に示すようなチャンスアップ演出が実行されてもよい。

【0523】

[効果例]

以下に、複数変動演出の効果例を示す。

[効果 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、連続する複数の変動演出にまたがってポイント付与演出が実行され、すなわち、複数の変動演出にまたがって所定のポイントを獲得していき、獲得したポイントの累積値（累積ポイント）を表すメータ画像 E 3 C，E 3 H が表示される。メータ画像のメータ値（累積ポイント）が最大（MAX）となると、遊技者に演出ボタン 6 3 の押下を促すボタン画像 E 3 E が表示されるボタン押下演出が実行される。遊技者による演出ボタン 6 3 の操作に応じて、チャンスアップ演出、タイマ表示演出などが実行される。この構成によれば、1 回の変動演出において累積ポイントが最大（MAX）にならない場合であっても、次の変動演出にポイントが引き継がれるので、遊技者は、複数の変動演出にまたがって、ポイントを獲得する演出を楽しむことができる。また、複数の変動演出にまたがって獲得した累積ポイントが最大（MAX）になった場合に、ボタン押下演出が実行されるので、ボタン押下演出を際立たせることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0524】

[効果 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 5～図 8 6 に示すように、複数変動演出 B，C において、連続する複数の変動演出にまたがってポイント付与演出が実行され、すなわち、複数の変動演出にまたがって所定のポイントを獲得していき、獲得したポイントの累積値（累積ポイント）を表すメータ画像 E 3 C，E 3 H が表示される。メータ画像 E 3 C，E 3 H が表示されているときに、ボタン画像 E 3 G の表示が実行される。この構成によれば、ポイントの累積によって、演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出の実行が予感され得るので、遊技者にわくわく感を付与することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0525】

[効果 3]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 6 に示すように、複数変動演出 C において、獲得したポイントの累積値（累積ポイント）を表すメータ画像 E 3 H が、ボタン画像 E 3 G が表示された領域（ボタン画像 E 3 G 内）に配置される。この構成によれば、遊技者は、メータ表示と関連して演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出を連想し得る。従って、メータ表示に関連して実際にボタン演出が行われた場合には、遊技者にボタン演出に関して大きな期待感を付与することができ、メータ表示に関連してボタン演出ではなく他の演出が行われた場合には、遊技者にサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0526】

[効果 4]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 5 に示すように、複数変動演出 A，B において、ボタン押下演出後、大当たり期待度を示唆する演出であるチャンスアップ演出が実行される。この構成によれば、複数の変動演出にまたがって累積されたポイントに基づいて、大当たり期待度を示唆するチャンスアップ演出が実行されるので、チャンスアップ演出で大当たり期待度が高い示唆がでることへの期待感を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0527】

[効果 5]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 6 に示すように、複数変動演出 C において、ボタン押下演出後、タイマ表示演出が実行される。この構成によれば、複数の変動演出にまたがって累積されたポイントに基づいて、タイマ表示演出が実行されるので、タイマ画像 E 3 I のタイマ値が 0 秒となったときに大当たり期待度が高い演出が実行されることへの期待感を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0528】

10

20

30

40

50

[効果 6]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、チャンスアップ演出またはタイマ表示演出は、メータ画像 E 3 C，E 3 H のメータ値が最大（MAX）のときに実行される。この構成によれば、チャンスアップ演出またはタイマ表示演出が、メータ画像 E 3 C，E 3 H のメータ値が最大（MAX）よりも手前の所定値のときに実行される場合と比較して、チャンスアップ演出やタイマ表示演出に発展した場合の大当たりへの期待感を大きくすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0529】

[変形例]

以下に、複数変動演出の変形例を示す。

[変形例 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、先読み演出（複数変動にまたがる連続演出）の一環として、当該ポイント付与演出または次変動ポイント付与演出におけるポイント付与が実行される構成（先読み演出の一環として、複数の変動演出にまたがってポイントを獲得する構成）としてもよい。この構成によれば、ポイントを獲得するたびに、大当たりへの期待感を大きくすることができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0530】

[変形例 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、累積ポイントをメータ画像 E 3 C，E 3 H のメータ値で表しているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、累積ポイントをメータ値ではなく、数字で表すようにしてもよい。また、累積ポイントを累積ポイントが最大（MAX）になるまでの残りポイントを数字で表すことで示唆するようにしてもよい。

【0531】

[変形例 3]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が行われる場合にボタン画像が表示され、チャンスアップ演出やタイマ表示演出がボタン画像内で実行されてもよい。また、ポイント獲得画像 E 3 D がボタン画像内で表示されてもよい。

【0532】

[変形例 4]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、メータ画像 E 3 C，E 3 H のメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、当該変動メータ表示演出において、メータ画像 E 3 C，E 3 H のメータ値が所定値（例えば、最大値）となっており、ポイント付与演出によるポイントの付与によってメータ領域が減少しメータ値が降下する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値（例えば、0）となると、図 8 4（C）に示すチャンスアップ演出や図 8 6（C）に示すタイマ表示演出が実行されてもよい。

【0533】

[変形例 5]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 4～図 8 6 に示すように、複数変動演出 A～C において、メータ画像 E 3 C，E 3 H のメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ポイント付与演出によるポイントの付与の代わりに、所定の動作が実行されたことによってメータ領域が拡大しメータ値が上昇する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値となると、図 8 4（C）に示すチャンスアップ演出や図 8 6（C）に示すタイマ表示演出が実行される。なお、「所定の動作が実行されたこと」とは、例えば、擬似連出が実行されたこと、保留アイ

10

20

30

40

50

コンが変化したこと（保留変化表示がおこなわれたこと）、所定のチャンスアップ演出が実行されたこと、所定のチャレンジ（ゲーム）に成功したことなどが含まれる。

【0534】

〔変形例6〕

上記実施形態の遊技機1では、図84～図86に示すように、複数変動演出A～Cにおいて、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像E3C、E3Hのメータ値が最大値（MAX）のときに実行される構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像E3C、E3Hのメータ値が最大値（MAX）のときでなく、最大値よりも小さい所定値となった場合に実行される構成としてもよい。所定値として、例えば、メータ値の半分の値であったり、1/4の値であってもよい。この場合、当該所定値が遊技者に分かるように、メータ画像E1Bのメータ領域に所定の印（目盛り）をつけるようにしてもよい。

10

【0535】

〔変形例7〕

上記実施形態の遊技機1では、図86に示すように、複数変動演出Cにおいて、タイマ画像E3Iは、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像E3Iは、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したボタン押下演出が実行され得る。また、タイマ画像E3Iを複数表示するようにしてもよい。

20

【0536】

〔変形例8〕

上記実施形態の遊技機1では、複数変動演出A～Cは、連続する複数の変動演出中に実行されているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、複数変動演出A～Cは、1回の変動演出に実行されてもよい。

【0537】

〔変形例9〕

上記実施形態の遊技機1では、複数変動演出A～Cにおいて、ボタン押下演出の後、チャンスアップ演出またはタイマ表示演出が実行されているが、本発明はこれに限られるものではなく、ボタン押下演出の後、他の演出が実行されてもよい。他の演出としては、擬似連演出、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、または、先読み開始予告など種々の演出が実行され得る構成でもよい。

30

【0538】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様E3-1〕

図柄を変動表示開始させた後、停止させる図柄変動表示をおこなうことが可能な図柄表示手段と、

複数種類の表示演出を実行可能な演出表示手段と、

遊技者が操作可能な操作部と、

を備える遊技機であって、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第1の表示演出をおこなう場合があり、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第2の表示演出をおこなう場合があり、

前記第1の表示演出は、連続する複数回の前記図柄変動表示にまたがって所定のポイントを獲得していき、獲得した累積ポイントを示唆するポイント示唆表示をおこなう演出であり、

40

前記第2の表示演出は、前記操作部を表す操作部画像であって遊技者に前記操作部の操作を促す第1の操作部画像を表示する演出であり、

前記第1の表示演出と前記第2の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合

50

があり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれ、前記第 1 の表示演出における前記累積ポイントが所定値となると、前記第 2 の表示演出がおこなわれ、遊技者による前記操作部の操作に応じて、所定の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 E 3-2〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 3 の表示演出をおこなう場合があり、

前記第 3 の表示演出は、前記操作部を表す第 2 の操作部画像を表示する演出であり、

前記組み合わせ演出は、第 3 の表示演出を含む場合がある演出であり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれているときに前記第 3 の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様 E 3-1 に記載の遊技機。

〔態様 E 3-3〕

前記組み合わせ演出において、前記第 1 の表示演出における前記ポイント示唆表示は、前記第 3 の表示演出における前記第 2 の操作部画像が表示された領域においておこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様 E 3-2 に記載の遊技機。

〔態様 E 3-4〕

前記所定の演出は、大当たり期待度を示唆する表示を含む演出である、

ことを特徴とする態様 E 3-1 から態様 E 3-3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 E 3-5〕

前記所定の演出は、タイマ表示を含む演出である、

ことを特徴とする態様 E 3-1 から態様 E 3-4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 E 3-6〕

先読み演出を実行可能な先読み演出実行手段を備え、

前記第 1 の表示演出において、前記先読み演出として連続する複数回の前記図柄変動表示にまたがって所定のポイントを獲得する、

ことを特徴とする態様 E 3-1 から態様 E 3-5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 E 3-7〕

前記組み合わせ演出において、前記第 2 の表示演出がおこなわれる場合は、前記累積ポイントが最大値となったときである、

ことを特徴とする態様 E 3-1 から態様 E 3-6 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0539】

以下に図 87～図 89 を用いて操作チャージ演出について説明する。この操作チャージ演出は、装飾図柄の変動演出に並行して行われる。もちろん、リーチ演出（スーパーリーチ演出）などの実行中を含む。

【0540】

〔操作チャージ演出 A（成功）〕

図 87 は、操作チャージ演出 A（成功）を説明するための図である。

まず、操作チャージ演出 A（成功）では、図 87（A）に示すように、変動開始演出が実行される。この変動開始演出では、変動中の装飾図柄が左上に表示される。また、画面下部には、保留画像 9A、9B および保留消化画像 9C が表示されている。保留画像 9A、9B および保留消化画像 9C については以下の演出でも同様に表示される。

【0541】

次に図 87（B）に示すように、剣移動演出が実行される。剣移動演出では、剣部材 64 を示す剣画像 K G が画面の右寄りに上方から出現して下方へ移動する。

次に図 87（C）に示すように、剣停止演出が実行される。剣停止演出では、剣移動演出で下方へ移動する剣画像 K G が停止する。

【0542】

剣画像 K G は、その柄の部分が複数の領域に区切られている。具体的には、領域 R1、R

10

20

30

40

50

2, R3, R4, R5, R6の6つの隣接する領域に区切られている。これらの領域R1～R6の描画色は、最初は、青色になっている。

次に図87(D)に示すように、チャージ演出(初期)が実行される。チャージ演出(初期)では、剣画像KGの領域R1の描画色が青色から赤色に変化させられる。そして、領域R2→R3→R4→R5という具合に所定順序で描画色が青色から赤色に変化させられる。

【0543】

次に図87(E)に示すように、チャージ演出(終期)が実行される。チャージ演出(終期)では、剣画像KGの領域R6の描画色が青色から赤色に変化させられる。上述した領域R5の描画色の変化に続く変化である。

次に図87(F)に示すように、ボタン押下指示演出が実行される。ボタン押下指示演出では、剣部材64の剣ボタン65の押下を指示する画像が表示される。具体的には、ボタン画像BGの押下を指示する矢印画像YGとともに「押せ!」というテキスト画像TGが表示される。

【0544】

〔操作チャージ演出A(失敗)〕

図88は、操作チャージ演出A(失敗)を説明するための図である。

まず、操作チャージ演出A(失敗)では、図88(A)に示すように、変動開始演出が実行される。この変動開始演出では、変動中の装飾図柄が左上に表示される。また、画面下部には、保留画像9A, 9Bおよび保留消化画像9Cが表示されている。保留画像9A, 9Bおよび保留消化画像9Cについては以下の演出でも同様に表示される。

【0545】

次に図88(B)に示すように、剣移動演出が実行される。剣移動演出では、剣部材64を示す剣画像KGが画面の右寄りに上方から出現して下方へ移動する。

次に図88(C)に示すように、剣停止演出が実行される。剣停止演出では、剣移動演出で下方へ移動する剣画像KGが停止する。

【0546】

剣画像KGは、その柄の部分が複数の領域に区切られている。具体的には、領域R1, R2, R3, R4, R5, R6の6つの隣接する領域に区切られている。これらの領域R1～R6の描画色は、最初は、青色になっている。

次に図88(D)に示すように、チャージ演出(初期)が実行される。チャージ演出(初期)では、剣画像KGの領域R1の描画色が青色から赤色に変化させられる。次に、領域R2の描画色が青色から赤色に変化させられる。

なお、図88(A)～図88(D)の変動開始演出、剣移動演出、剣停止演出、および、チャージ演出(初期)は、図87に示した操作チャージ演出(成功)と同様の演出となっている。

【0547】

次に図88(E)に示すように、チャージ演出(中期)が実行される。チャージ演出(中期)では、剣画像KGの領域R3の描画色が青色から赤色に変化させられる。上述した領域R2の描画色の変化に続く変化である。

次に図88(F)に示すように、変動継続演出が実行される。変動継続演出では、剣画像KGの表示がなくなり、図88(A)に示した変動開始演出と同様の演出となる。つまり、領域R3が青色から赤色になった段階でチャージ演出が中断されて変動開始演出と同様の演出が行われるのである。

【0548】

〔操作チャージ演出B〕

図89は、操作チャージ演出Bを説明するための図である。

まず、操作チャージ演出Bでは、図89(A)に示すように、変動開始演出が実行される。この変動開始演出では、変動中の装飾図柄が左上に表示される。また、画面下部には、保留画像9A, 9Bおよび保留消化画像9Cが表示されている。保留画像9A, 9Bお

10

20

30

40

50

よび保留消化画像 9 C については以下の演出でも同様に表示される。

【0549】

次に図 8 9 (B) に示すように、チャージ予告演出が実行される。チャージ予告演出では、演出ボタン 6 3 を示すボタン画像 B B 1 が表示された状態で、チャージ予告画像が表示される。ここでは「C」と記された楕円形のチャージ予告画像 J G 1 が表示された様子を示した。なお、ボタン画像 B B 1 は、領域 S 1, S 2, S 3, S 4, S 5 の 5 つの領域を有している。

【0550】

次に図 8 9 (C) に示すように、チャージ演出が実行される。チャージ演出では、上述したチャージ予告演出におけるチャージ予告画像の出現を契機に、ボタン画像 B B 1 の領域の描画色が青色から赤色に変化させられる。ここでは、領域 S 1 が青色から赤色に変化した様子を示している。

10

【0551】

次に図 8 9 (D) に示すように、チャージ予告演出が実行される。チャージ予告演出は、図 8 9 (B) で説明した演出であり、ここでは「C×4」と記された楕円形のチャージ予告画像 J G 2 が表示された様子を示した。チャージ予告画像には、「C」というチャージ画像とは別に「C×2」、「C×3」、「C×4」、「C×5」が用意されている。「×」の後ろに記される数値によって青色から赤色に変化させられる領域の個数が決定される。

【0552】

20

次に図 8 9 (E) に示すように、チャージ演出が実行される。チャージ演出では、図 8 9 (C) で説明した演出であり、チャージ予告画像の出現を契機に、ボタン画像 B B 1 の領域の描画色が青色から赤色に変化させられる。ここでは「C×4」のチャージ予告画像 J G 2 に対応させ、4 つの領域 S 2 ~ S 5 が青色から赤色に変化させられる。

【0553】

次に図 8 9 (F) に示すように、ボタン押下指示演出が実行される。ボタン押下指示演出では、演出ボタン 6 3 の押下を指示する画像が表示される。具体的には、「押せ!」というテキスト画像 T G が表示される。

【0554】

〔効果例〕

30

以下に、本実施形態における効果例を示す。

〔効果 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 7 ~ 図 8 9 に示したように、剣画像 K G が複数の領域に区切られており、これら領域の描画色は所定順序で青色から赤色に変化させられ、すべての領域の描画色が赤色に変化させられると、ボタン押下指示演出が実行される。この構成によれば、描画色の変化が遊技者の期待につながり、興趣を向上させることができる。

【0555】

〔効果 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 9 (B) および図 8 9 (D) に示したように、チャージ予告演出として、チャージ予告画像を表示する。このチャージ予告画像の表示を契機に、図 8 9 (C) および図 8 9 (E) に示したように、チャージ演出を実行する。つまり、複数の領域 S 1 ~ S 5 を所定順序で青色から赤色に変化させる。この構成によれば、チャージ予告画像の表示で遊技者に期待感を抱かせることができ、興趣を向上させることができる。

40

【0556】

〔効果 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 8 9 (B) に示したようにチャージ予告画像 J G 1 が表示されると、図 8 9 (C) に示したように、チャージ演出では、1 つの領域 S 1 の描画色が青色から赤色に変化させられる。一方、図 8 9 (D) に示したようにチャージ予告画像 J G 2 が表示されると、図 8 9 (E) に示したように、2 以上の領域 S 2 ~ S 5 の描画

50

色が青色から赤色に変化させられる。この構成によれば、チャージ予告画像の種類によって遊技者の期待度を異ならせることができ、興趣を向上させることができる。

【0557】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図87および図88に示したように、剣画像KGは、隣接する複数の領域R1～R6に区切られている。この構成によれば、チャージ演出が分かりやすいものとなり、興趣を向上させることができる。

【0558】

〔効果5〕

上記実施形態の遊技機1では、図87(E)に示したように領域R1～R6のすべての描画色が赤色になると、図87(F)に示したように、ボタン押下指示演出が実行される。一方、図88(E)に示したように領域R1～R3の描画色が赤色になっても領域R4～R6が青色である場合、ボタン押下指示演出は実行されない。この構成によれば、チャージ演出が成功するか否かに期待が高まり、興趣を向上させることができる。

【0559】

〔変形例〕

以下に、本実施形態における変形例を示す。

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図87に示したように、剣画像KGのすべての領域R1～R6の描画色が赤色になると、ボタン押下指示演出が実行される。また、図89に示したように、ボタン画像BB1のすべての領域B1～B5の描画色が赤色になると、ボタン押下指示演出が実行される。しかしながら、本発明は、これに限られるものではない。例えば、一部の領域の描画色が赤色になった場合にボタン押下指示演出が実行されるようにしてもよい。

【0560】

〔変形例2〕

上記実施形態の遊技機1では、図87および図88に示したように剣画像KGの柄の部分を複数の領域S1～S6に区切っていたが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、剣画像KGの全体を複数の領域に区切ってもよい。

【0561】

〔変形例3〕

上記実施形態の遊技機1では、領域の描画色を青色から赤色に変化させるものとしたが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、領域の色が背景の色と同様の色となるような例えばワイヤーフレーム状の表示を行い、そのワイヤーフレーム状の画像の領域の描画色が変化する（色が塗られる）ようにしてもよい。

【0562】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

〔態様E4-1〕

遊技者が操作可能な操作手段と、
前記操作手段の画像を表示可能な表示手段と、を備えた遊技機であって、
前記操作手段の画像は、複数の領域を有しており、
当該複数の領域の描画色を所定順序で第1の描画色から第2の描画色へ変化させることで、前記操作手段の操作可能状態への移行期待度を示唆することが可能なことを特徴とする遊技機。

〔態様E4-2〕

変動中の所定タイミングにおいて特定画像を表示可能であり、
当該特定画像の表示を契機に、前記複数の領域の描画色を所定順序で第1の描画色から第2の描画色へ変化させることを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50

〔態様 E 4-3〕

前記特定画像のうち第1の特定画像が表示されると、前記複数の領域のうち一の領域の描画色を変化させ、前記特定画像のうち第2の特定画像が表示されると、前記複数の領域のうち二以上の領域の描画色を変化させる

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 E 4-4〕

前記操作手段の画像は、隣接する複数の領域に区切られている

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 E 4-5〕

前記複数の領域の描画色がすべて前記第2の描画色になると前記操作手段が操作可能状態になり、前記複数の領域の描画色に前記第2の描画色でない領域があると前記操作手段が操作可能状態にならない

ことを特徴とする遊技機。

【0563】

以下に図90～図91を用いて擬似連ポイント演出について説明する。この擬似連ポイント演出は、装飾図柄の変動演出中（1回の変動演出中）（例えば、装飾図柄の変動開始時、または、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）などに実行され得る。

【0564】

〔擬似連ポイント演出A〕

図90は、擬似連ポイント演出Aを説明するための図である。

擬似連ポイント演出Aでは、まず、図90（A）に示すように、擬似連演出が実行される。この擬似連演出では、擬似連示唆画像E5Aと、メータ画像E5Bとが表示される。擬似連示唆画像E5Aは、擬似連演出を連想させる画像であり、詳しくは、擬似連演出が2回目であることを示唆する「擬似×2」が示されている。また、装飾図柄8L、8Rが7図柄で仮停止され、装飾図柄8Cが擬似連演出を示唆するロゴ図柄で仮停止されている。すなわち、装飾図柄に8L、8C、8Rは、「7、ロゴ図柄、7」の態様で仮停止されている。メータ画像E5Bは、メータ領域（図ではクロスハッチングで表される）が動くメータであり、メータ領域が動くことでメータ値を表している。また、メータ画像E5Bは、表示画面7aの右端において縦向きに配置される。擬似連演出は、ポイント付与演出の後、再度、実行され得る。

【0565】

なお、擬似連演出とは、変動変出の開始時やリーチ演出中等において実行される演出であり、例えば、装飾図柄を変動開始させ仮停止させる演出を繰り返す演出、装飾図柄の所定の図柄配列の少なくとも一部を仮停止させる演出を繰り返す演出、予め決められたロゴを仮停止させる演出を繰り返す演出、または、「×2」、「×3」、「擬似」など擬似連を連想させる表示と共に、装飾図柄の変動演出を実行させる演出を含む。

【0566】

次に、図90（B）に示すように、ポイント付与演出が実行される。このポイント付与演出は、上述の擬似連演出が実行されたことに応じて実行され、メータ画像E5Bと、ポイント獲得画像E5Cとが表示される。このポイント付与演出は、同じ変動演出中に再度擬似連演出が実行された場合や、他の演出に応じて実行され得る。すなわち、ポイント付与演出は、同じ変動演出中に複数回実行され得る。ポイント獲得画像E5Cは、所定のポイントが付与されたこと、言い換えれば、遊技者が所定のポイントを獲得したことを示唆する画像である。図90（B）のポイント獲得画像E5Cでは、ポイントが遊技者に5ポイント（5P）付与された（遊技者が5ポイント獲得した）ことが表されている。また、メータ画像E5Bでは、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が当該変動メータ表示演出時よりも拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。メータ画像E5Bのメータ値は、ポイント付与が実行されるたびに、上昇していく。すなわち、メータ画像E5Bのメータ値は、獲得したポイントの累積値を表している。

【0567】

次に、図90(C)に示すように、ボタン押下演出が実行される。このボタン押下演出は、ボタン画像E5Dとメータ画像E5Bとが表示される。ボタン画像E5Dは、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン63が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像E5Dは、画像中に「PUSH」と表され、点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像E5Dに隣接して、遊技者に演出ボタン63の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。なお、演出ボタン63の有効操作期間は、例えば、3秒としてもよい。この場合、ボタン画像E3Eは、有効操作期間が過ぎると消失する。また、図90(C)のメータ画像E5Bは、メータ値が最大(MAX)であることを表している。

【0568】

次に、図90(D)に示すように、有効操作期間内に遊技者により演出ボタン63の押下があったことに応じて、チャンスアップ演出が実行される。このチャンスアップ演出では、チャンスアップ画像E5Eが表示される。チャンスアップ画像E5Eは、チャンスアップを示唆する画像であり、メータ値が最大(MAX)になった場合に表示される。図90(D)のチャンスアップ画像E5Eでは、大当たりの期待度が高いことを示唆する「激アツだ!!」という文字が表されている。チャンスアップ画像E5Eは、味方キャラクターCRAの発言として表されている。

【0569】

[擬似連ポイント演出B]

図91は、擬似連ポイント演出Bを説明するための図である。

擬似連ポイント演出Bは、図91(A)に示すように、擬似連演出が実行される。この擬似連演出では、図90(A)と同様な擬似連示唆画像E5Aと、ボタン画像E5Gと、メータ画像E5Fとが表示される。ボタン画像E5Gは、演出ボタン63を示唆する画像であり、これから演出ボタン63を用いた演出が実行され得ることを予感している。メータ画像E5Fは、メータ領域(図ではクロスハッチングで表される)が動くメータであり、メータ領域が動くことでメータ値を表している。また、メータ画像E5Fは、ボタン画像E5Gが表示された領域(ボタン画像E5G内)に横向きに配置される。また、装飾図柄8L, 8C, 8Rは、図90(A)と同様に、7図柄で仮停止され、装飾図柄8Cが擬似連演出を示唆するロゴ図柄で仮停止されている。すなわち、装飾図柄に8L, 8C, 8Rは、「7、ロゴ図柄、7」の態様で仮停止されている。擬似連演出は、ポイント付与演出の後、再度、実行され得る。

【0570】

次に、図91(B)に示すように、ポイント付与演出が実行される。このポイント付与演出は、上述の擬似連演出が実行されたことに応じて実行され、ボタン画像E5Gと、メータ画像E5Fと、図90(B)と同様なポイント獲得画像E5Cとが表示される。このポイント付与演出は、同じ変動演出中に再度擬似連演出が実行された場合や、他の演出に応じて再度実行され得る。すなわち、ポイント付与演出は、複数回実行され得る。また、ボタン画像E5G内に配置されたメータ画像E5Fでは、ポイントが付与されたことにより、当該ポイント分のメータ領域が当該変動メータ表示演出時よりも拡大され、メータ値が上昇したことが表されている。メータ画像E5Fのメータ値は、ポイント付与が実行されるたびに、上昇していく。すなわち、メータ画像E5Fのメータ値は、獲得したポイントの累積値を表している。

【0571】

次に、図91(C)に示すように、ボタン押下演出が実行される。このボタン押下演出は、図90(C)と同様なボタン画像E5Dと、メータ画像E5Fとが表示される。メータ画像E5Fは、ボタン画像E5Dが表示された領域、すなわち、ボタン画像E5D内に配置されている。また、図91(C)のメータ画像E5Fは、メータ値が最大(MAX)であることを表している。ボタン画像E5Dは、ボタン画像E5Gと同形状である。

【0572】

次に、図91(D)に示すように、有効操作期間内に遊技者により演出ボタン63の押

10

20

30

40

50

下があったことに応じて、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、図 9 1 (A) と同様なボタン画像 E 3 G と、メータ画像 E 5 F と、タイマ画像 E 5 H とが表示される。タイマ画像 E 5 H は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図 9 1 (D) に示すタイマ画像 E 5 H では、タイマ初期値としての「100 秒」が示されている。このタイマ画像 E 5 H は、ボタン画像 E 5 G に隣接して表示される。なお、タイマ画像 E 5 H のタイマ値が「0 秒」になると、所定の演出、例えば、図 9 0 (D) に示すチャンスアップ演出や再度、擬似連演出が実行され得る。

【0573】

[効果例]

以下に、擬似連ポイント演出の効果例を示す。

[効果 1]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 0 ~ 図 9 1 に示すように、擬似連ポイント演出 A, B において、擬似連演出が実行され、ポイント付与演出で付与されたポイントの累積値 (累積ポイント) をメータ画像 E 5 B, E 5 F のメータ値を用いて表し、メータ値が最大 (MAX) となったことに応じてボタン画像 E 5 D が表示され、遊技者によって演出ボタン 6 3 が押下された場合に、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が実行される。この構成によれば、擬似連演出の実現に応じてポイントが累積されいき、累積ポイントが最大 (MAX) になると、チャンスアップ演出やタイマ表示演出などの演出が実行され得るので、擬似連演出をより興味あるものにすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0574】

[効果 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 1 に示すように、擬似連ポイント演出 B において、擬似連演出中やポイント付与演出中などにメータ画像 E 5 F が表示される構成となっている。この構成によれば、擬似連演出中やポイント付与演出中に、演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出の実行が予感され得るので、遊技者にわくわく感を付与することができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0575】

[効果 3]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 1 に示すように、擬似連ポイント演出 A B において、累積ポイントを示唆するメータ画像 E 5 F が、ボタン画像 E 5 G が表示された領域 (ボタン画像 E 5 G 内) に配置される。この構成によれば、遊技者は、メータ表示に関連して演出ボタン 6 3 を用いたボタン演出を連想し得る。従って、メータ表示に関連して実際にボタン演出が行われた場合には、遊技者にボタン演出に関して大きな期待感を付与することができ、メータ表示に関連してボタン演出ではなく他の演出が行われた場合には、遊技者にサプライズ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0576】

[効果 4]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 0 に示すように、擬似連ポイント演出 A において、ボタン押下演出後、大当たり期待度を示唆する演出であるチャンスアップ演出が実行される。この構成によれば、擬似連演出により付与されたポイントに基づいて、大当たり期待度を示唆するチャンスアップ演出が実行されるので、チャンスアップ演出で大当たり期待度が高い示唆がでることへの期待感を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0577】

[効果 5]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 1 に示すように、擬似連ポイント演出 B において、ボタン押下演出後、タイマ表示演出が実行される。この構成によれば、擬似連演出により付与されたポイントに基づいて、タイマ表示演出が実行されるので、タイマ画像 E 5 H の

10

20

30

40

50

タイマ値が 0 秒となったときに大当たり期待度が高い演出が実行されることへの期待感を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0578】

〔効果 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 A，B において、チャンスアップ演出またはタイマ表示演出は、メータ画像 E5B，E5G のメータ値が最大（MAX）のときに実行される。この構成によれば、チャンスアップ演出またはタイマ表示演出が、メータ画像 E5B，E5G のメータ値が最大（MAX）よりも手前の所定値のときに実行される場合と比較して、チャンスアップ演出やタイマ表示演出に発展した場合の大当たりへの期待感を大きくすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【0579】

〔変形例〕

以下に、擬似連ポイント演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連演出 A，B において、メータ画像 E5B，E5F のメータ値が最大（MAX）になった場合に、ボタン押下演出が実行され、遊技者に演出ボタン 63 が押下されたことに応じて、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が実行される構成となっているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、メータ画像 E5B，E5F のメータ値が最大（MAX）になった場合に、遊技者による演出ボタン 63 の押下がなくても、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が実行されてもよい。また、メータ画像 E5B，E5F のメータ値が最大（MAX）になった場合に、ボタン押下演出が実行されず（ボタン画像 E5D が表示されず）に、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が実行されてもよい。

20

【0580】

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 A，B において、累積ポイントをメータ画像 E5B，E5F のメータ値で表しているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、累積ポイントをメータ値ではなく、数字で表すようにしてもよい。また、累積ポイントを累積ポイントが最大（MAX）になるまでの残りポイントを数字で表すことで示唆するようにしてもよい。

30

【0581】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 A，B において、チャンスアップ演出やタイマ表示演出が行われる場合にボタン画像が表示され、チャンスアップ演出やタイマ表示演出がボタン画像内で実行されてもよい。また、ポイント獲得画像 E5C がボタン画像内で表示されてもよい。

【0582】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 A，B において、メータ画像 E5B，E5F のメータ値は、ポイントの付与によって上昇する構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、擬似連演出時において、メータ画像 E5B，E5F のメータ値が所定値（例えば、最大値）となっており、ポイント付与演出によるポイントの付与によってメータ領域が減少しメータ値が降下する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値（例えば、0）となると、図 90（C）に示すチャンスアップ演出や図 91（C）に示すタイマ表示演出が実行されてもよい。

40

【0583】

〔変形例 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 A，B において、メータ画像 E5B，E5F のメータ値は、ポイントの付与によって上昇する

50

構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ポイント付与演出によるポイントの付与の代わりに、所定の動作が実行されたことによってメータ領域が拡大しメータ値が上昇する構成としてもよい。この場合、メータ値が所定値となると、図 90 (C) に示すチャンスアップ演出や図 91 (C) に示すタイマ表示演出が実行される。なお、「所定の動作が実行されたこと」とは、例えば、擬似連演出が実行されたこと、保留アイコンが変化したこと（保留変化表示がおこなわれたこと）、所定のチャンスアップ演出が実行されたこと、所定のチャレンジ（ゲーム）に成功したことなどが含まれる。

【0584】

〔変形例 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 90～図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 A，B において、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像 E 5 B，E 5 F のメータ値が最大値（MAX）のときに実行される構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チャンスアップ演出やタイマ表示演出は、メータ画像 E 5 B，E 5 F のメータ値が最大値（MAX）のときでなく、最大値よりも小さい所定値となった場合に実行される構成としてもよい。所定値として、例えば、メータ値の半分の値であったり、1/4 の値であってもよい。この場合、当該所定値が遊技者に分かるように、メータ画像 E 1 B のメータ領域に所定の印（目盛り）をつけるようにしてもよい。

【0585】

〔変形例 7〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 91 に示すように、擬似連ポイント演出 B において、タイマ画像 E 5 H は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像 E 5 H は、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したボタン押下演出が実行され得る。また、タイマ画像 E 5 H を複数表示するようにしてもよい。

【0586】

〔変形例 8〕

上記実施形態の遊技機 1 では、擬似連ポイント演出 A，B は、1 回の変動演出中に実行されているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、擬似連ポイント演出 A，B は、連続する複数の変動演出中に実行されてもよい。

【0587】

〔変形例 9〕

上記実施形態の遊技機 1 では、擬似連ポイント演出 A，B において、ボタン押下演出の後、チャンスアップ演出またはタイマ表示演出が実行されているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、ボタン押下演出の後、再度、擬似連演出が実行されてもよい。また、ボタン押下演出の後、ボタン押下演出の後、他の演出が実行されてもよい。他の演出としては、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、または、先読み開始予告など種々の演出が実行され得る構成でもよい。

【0588】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 E 5-1〕

複数種類の表示演出を実行可能な演出表示手段と、

遊技者が操作可能な操作部と、

を備える遊技機であって、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 1 の表示演出をおこなう場合があり、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 2 の表示演出をおこなう場合があり、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 3 の表示演出をおこなう場合があり、

前記第 1 の表示演出は、擬似連演出であり、

10

20

30

40

50

前記第 2 の表示演出は、或るポイントが付与され、付与されたポイントの累積ポイントを示唆するポイント示唆表示をおこなう演出であり、

前記第 3 の表示演出は、前記操作部を表す操作部画像であって遊技者に前記操作部の操作を促す第 1 の操作部画像を表示する演出であり、

前記第 1 の表示演出と前記第 2 の表示演出と前記第 3 の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれ、前記第 2 の表示演出において、前記第 1 の表示演出がおこなわれたことに応じて前記或るポイントが付与されて前記ポイント示唆表示がおこなわれ、その後、前記累積ポイントが所定値となったことに応じて前記第 3 の表示演出がおこなわれ、遊技者によって前記操作部の操作があった場合に、所定の演出がおこなわれる、

ことを特徴とする遊技機。

[態様 E 5-2]

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 4 の表示演出をおこなう場合があり、

前記第 4 の表示演出は、前記操作部を表す第 2 の操作部画像を表示する演出であり、

前記組み合わせ演出は、前記第 4 の表示演出を含む場合がある演出であり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれているとき、または、前記第 2 の表示演出がおこなわれているときに前記第 4 の表示演出がおこなわれる場合がある、ことを特徴とする態様 E 5-1 に記載の遊技機。

[態様 E 5-3]

前記組み合わせ演出において、前記第 2 の表示演出における前記ポイント示唆表示は、前記第 4 の表示演出における前記第 2 の操作部画像が表示された領域においておこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様 E 5-2 に記載の遊技機。

[態様 E 5-4]

前記所定の演出は、大当たり期待度を示唆する表示を含む演出である、

ことを特徴とする態様 E 5-1 から態様 E 5-3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

[態様 E 5-5]

前記所定の演出は、タイマ表示を含む演出である、

ことを特徴とする態様 E 5-1 から態様 E 5-4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

[態様 E 5-6]

前記組み合わせ演出において、前記第 3 の表示演出がおこなわれる場合は、前記累積ポイントが最大値となったときである、

ことを特徴とする態様 E 5-1 から態様 E 5-5 までのいずれか一項に記載の遊技機。

[0589]

図 92 を用いて獲得球数表示演出について説明する。この獲得球数表示演出は、大当たり遊技などの特別遊技中などに実行され得る。すなわち、画像制御用マイコン 101 がサブ制御基板 90 からラウンド指定コマンドを受信して実行するラウンド遊技演出の一つとして表示され得る。

[0590]

[獲得球数表示演出]

図 92 は、獲得球数表示演出を説明するための図である。獲得球数表示演出では、まず、図 92 (A) の入賞画像表示が実行される。この入賞画像表示は、例えば、V 開閉部材 71 の開放パターン (図 14 (B)) で「ロング開放」となる V 開閉部材 71 の開放ラウンドにおいて、第 1 大入賞口 30 に入賞した 2 球目以降の遊技球の少なくとも一部が V 領域 39 を通過したときに実行される。ここでは、遊技球が V 領域 39 を通過したことを示唆する V 入賞画像 WP が表示される。V 入賞画像 WP は、後に高確時短状態となることを示唆する画像であるため、後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する画像といえる。なお、図 92 (A) では、V 入賞画像 WP が表示された状態で、キャラクタ画像 CRA1 が表示される。

10

20

30

40

50

【0591】

次に、図92（B）に示すように、今回獲得可能球数表示CGNが表示される。今回獲得可能球数とは、1回のラウンド遊技において獲得できる球数の目安である。ここでは、V開閉部材71の開放ラウンドの次のラウンドの開始時に、当該ラウンド遊技における獲得可能な球数の目安として今回獲得可能球数表示CGNが表示される。なお、図92（B）では、今回獲得可能球数表示CGNが表示された状態で、複数の右打ち画像RD1、RD2、および、キャラクタ画像CRA1が表示される。右打ち画像RD1、RD2は、遊技球を右方向に発射することを示唆する画像である。

【0592】

次に、図92（C）に示すように、現在獲得球数表示AANが表示される。現在獲得球数とは、当該当たり遊技において既に獲得している球数である。ここでは、当該ラウンド開始時に、大当たり遊技の第1ラウンドから当該ラウンド遊技の開始前までに獲得した球数が現在獲得球数表示AANとして表示される。なお、図92（C）では、現在獲得球数表示AANが表示された状態で、複数の右打ち画像RD1、RD2、および、キャラクタ画像CRA1が表示される。

10

【0593】

次に、図92（D）に示すように、現在獲得球数表示AANと予定累積獲得球数表示TPNとが表示される。予定累積獲得球数とは、今回のラウンド終了時点で獲得する予定の球数である。ここでは、当該ラウンド開始時からラウンド遊技中において、予定累積獲得球数表示TPNが現在獲得球数表示AANに隣接して表示される。なお、図92（D）では、予定累積獲得球数表示TPNと現在獲得球数表示AANとが上下に隣接して表示され、あわせて、複数のキャラクタ画像CRA1、CRA2が表示される。

20

【0594】

〔効果例〕

以下に、獲得球数表示演出の効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図92（C）に示すように、複数の右打ち画像RD1、RD2が表示された状態で、現在獲得球数AANが表示される。この構成によれば、遊技者に対して、大当たり遊技において既に獲得した球数を知ることによる高揚感と、右打ち表示によってさらに獲得できる期待感をあわせて付与することができ、興趣の向上を図ることができる。

30

【0595】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図92（D）に示すように、ラウンド遊技中に現在獲得球数AANに隣接して、予定累積獲得球数表示TPNが表示される。この構成によれば、遊技者に対して、現在獲得球数が予定累積獲得球数に近づく高揚感を付与することができ、興趣の向上を図ることができる。

【0596】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図92（B）に示すように、ラウンド遊技の開始時に今回獲得可能球数表示CGNが表示される。この構成によれば、遊技者に対して、今回ラウンドにおいて獲得できる球数を知ることによる高揚感を付与することができ、興趣の向上を図ることができる。

40

【0597】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図92（B）に示す今回獲得可能球数表示CGNが表示される前に、図92（A）に示すV入賞画像WPが表示される。この構成によれば、遊技者にとって有利な状態になることを示唆することで遊技者に期待感を付与することができ、興趣の向上を図ることができる。

【0598】

50

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 2 (B) に示すように、今回獲得可能球数表示 C G N とともに、複数の右打ち画像 R D 1、R D 2 が表示される。この構成によれば、今回ラウンドにおいて獲得できる球数を知ることによる高揚感と、右打ち表示によってそれが右打ちによって実現されるという期待感をあわせて付与することができ、興趣の向上を図ることができる。

【0599】

〔変形例〕

以下に、獲得球数表示演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態では、図 9 2 (A) に示すように、後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する画像として、V 入賞画像を例示した演出を示した。しかし、遊技機 1 は、V 入賞画像の代わりに、後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する V 入賞画像以外の画像を用いて同様の演出をおこなってもよい。後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する V 入賞画像以外の画像とは、例えば、大当たり遊技が開始されることを示唆する画像や小当たり遊技が開始されることを示唆する画像などである。

【0600】

〔変形例 2〕

上記実施形態では、図 9 2 (B)、(C) に示すように、右打ち画像は、二つ表示されている。しかし、遊技機 1 は、右打ち画像を 3 つ以上表示してもよい。また、遊技機 1 は、互いの大きさが異なる複数の右打ち画像を表示してもよい。また、遊技機 1 は、図 9 2 (D) において、複数の右打ち画像 R D 1、R D 2 を表示してもよい。

【0601】

〔変形例 3〕

獲得球数表示演出は、大当たり遊技以外の特別遊技で実行されてもよい。例えば、小当たり遊技中に実行されてもよい。

【0602】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 D 1-1〕

複数種類の画像を表示可能な表示手段を備えた遊技機であって、
前記複数種類の画像のうちの一つは、遊技球を所定の方向に発射することを示唆する第 1 の画像であり、

当たり遊技中に複数の前記第 1 の画像が表示された状態で、当該当たり遊技において既に獲得している球数を表す現在獲得球数が表示される第 1 の演出を実行可能な

ことを特徴とする遊技機。

◇〔態様 D 1-2〕

態様 D 1-1 に記載の遊技機であって、

ラウンド遊技中に前記現在獲得球数の表示に隣接して、今回のラウンド終了時点で獲得する予定の球数を表す予定累積獲得球数を表示させる第 2 の演出を実行可能な

ことを特徴とする遊技機。

◇〔態様 D 1-3〕

態様 D 1-1 または態様 D 1-2 に記載の遊技機であって、

ラウンド遊技の開始時に、今回のラウンドにおいて獲得可能な球数を表す今回獲得可能球数が表示される第 3 の演出を実行可能な

ことを特徴とする遊技機。

◇〔態様 D 1-4〕

態様 D 1-3 に記載の遊技機であって、

前記複数種類の画像のうちの一つは、後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する第 2 の画像であり、

10

20

30

40

50

前記第3の演出が実行される前に、前記表示手段に前記第2の画像が表示される第4の演出を実行可能な

ことを特徴とする遊技機。

◇[態様D1-5]

態様D1-3または態様D1-4に記載の遊技機であって、

前記第3の演出において、前記今回獲得可能球数の表示とともに、前記第1の画像が表示される

ことを特徴とする遊技機。

【0603】

以下に図93～図94を用いて払出表示演出について説明する。この払出表示演出は、確変状態中または時短状態中における装飾図柄の変動演出中（例えば、リーチ演出の終盤（大当たり遊技の開始前））、または、大当たり遊技中などに実行され得る。

【0604】

[払出表示演出A]

図93は、払出表示演出Aを説明するための図である。

払出表示演出Aでは、まず、図93（A）に示すように、払出予定表示演出が実行される。この払出予定表示演出は、大当たり（以下、当該大当たりとも呼ぶ）を報知後、当該大当たりに基づく大当たり遊技（以下、当該大当たり遊技とも呼ぶ）の開始前、または、当該大当たり遊技中に実行され、払出予定出玉数示唆画像D2Aが表示される。払出予定出玉数示唆画像D2Aは、当該大当たり遊技で払い出される予定の玉数（以下では、当該払出予定玉数とも呼ぶ）を示唆する画像である。図93（A）の払出予定出玉数示唆画像D2Aでは、800玉が払出予定であることが示されている。

【0605】

次に、図93（B）に示すように、累積払出予定表示演出が実行される。この累積払出予定表示演出は、当該大当たり遊技の開始前、または、当該大当たり遊技中に実行され、累積払出予定玉数示唆画像D2Bが表示される。累積払出予定玉数示唆画像D2Bは、時短状態中における連続した大当たり（以下、連チャン中大当たりとも呼ぶ）のうち、当該大当たりよりも前に当選した大当たり（以下、連チャン中過去大当たりとも呼ぶ）に基づく大当たり遊技中に払い出された玉数に、当該払出予定玉数を加えた玉数（以下では、累積払出予定玉数とも呼ぶ）を示唆する画像である。言い換えれば、累積払出予定玉数示唆画像D2Bは、連チャン中大当たりに基づく大当たり遊技で払い出される予定の玉数を示唆している。

【0606】

次に、図93（C）に示すように、累積払出追加表示演出が実行される。この累積払出追加表示演出では、累積払出予定玉数示唆画像D2Bと、累積払出玉数示唆画像D2Cとが表示される。累積払出玉数示唆画像D2Cは、連チャン中過去大当たりに基づく大当たり遊技中に払い出された玉数に、当該大当たり遊技中に既に払い出された玉数である当該払出玉数を加えた玉数（以下では、累積払出玉数とも呼ぶ）を示唆する画像である。言い換えれば、累積払出玉数示唆画像D2Cは、連チャン中大当たりに基づく大当たり遊技で既に払い出された玉数を示唆している。図93（C）では、累積払出予定玉数示唆画像D2Bは、累積払出玉数示唆画像D2Cの下に配置され、累積払出予定玉数示唆画像D2Bと累積払出玉数示唆画像D2Cとの間には、スラッシュ（線）が示されている。すなわち、累積払出予定玉数示唆画像D2Bが分母の位置に、累積払出玉数示唆画像D2Cが分子の位置に配置され、「累積払出玉数／累積払出予定玉数」の形で表されている。

【0607】

この払出表示演出Aは、時短付き確変状態に移行する大当たりの場合に実行され、時短付き非確変状態に移行する大当たりの場合には、実行されない。なお、これに限らず、払出表示演出Aは、時短付き非確変状態に移行しない大当たり時でも実行してもよい。

【0608】

[払出表示演出B]

図 9 4 は、払出表示演出 B を説明するための図である。

払出表示演出 B では、まず、図 9 4 (A) に示すように、図 9 3 と同様に払出予定表示演出が実行される。

【0609】

次に、図 9 4 (B) に示すように、累積払出予定表示演出が実行される。この累積払出予定表示演出は、当該大当たり遊技の開始前、または、当該大当たり遊技中に実行され、上記累積払出予定玉数示唆画像 D 2 B と、当該大当たり払出玉数関連画像 D 2 E と、連チャン回数示唆画像 D 2 D とが表示される。払出玉数関連画像 D 2 E は、当該大当たり遊技で既に払い出された玉数（以下では、当該払出玉数とも呼ぶ）と当該払出予定玉数とを示唆している。図 9 4 (B) では、当該払出予定玉数の表示は、当該払出玉数の表示の右側に配置され、当該払出玉数の表示と当該払出予定玉数の表示との間には、スラッシュ（線）が示されている。すなわち、当該払出予定玉数の表示が分母の位置に、当該払出玉数の表示が分子の位置に配置され、「当該払出玉数／当該払出予定玉数」の形で表されている。連チャン回数示唆画像 D 2 D は、連チャン中大当たりの回数、すなわち、連チャン大当たり回数を示唆する画像である。

10

【0610】

次に、図 9 4 (C) に示すように、累積払出追加表示演出が実行される。この累積払出追加表示演出は、当該大当たり遊技中に実行され、払出玉数関連画像 D 2 E と、連チャン回数示唆画像 D 2 D と、累積払出玉数関連画像 D 2 F とが表示される。累積払出玉数関連画像 D 2 F は、累積払出玉数と累積払出予定玉数とを示唆している。図 9 4 (C) では、累積払出予定玉数の表示は、累積払出玉数の表示の右側に配置され、累積払出玉数の表示と累積払出予定玉数の表示との間には、スラッシュ（線）が示されている。すなわち、累積払出予定玉数の表示が分母の位置に、累積払出玉数の表示が分子の位置に配置され、「累積払出玉数／累積払出予定玉数」の形で表されている。

20

【0611】

なお、払出表示演出 A、B において、上述したように、払出予定表示演出は、変動演出（リーチ演出）の終盤（大当たり遊技の開始前）や、大当たり遊技中に実行され、累積払出予定表示演出は、変動演出（リーチ演出）の終盤（大当たり遊技の開始前）や、大当たり遊技中に実行され、累積払出追加表示演出は、大当たり遊技中に実行され得る。従って、例えば、払出表示演出 A、B において、払出予定表示演出は、大当たり遊技の開始前に実行され、累積払出予定表示演出、および、累積払出追加表示演出は、大当たり遊技中に実行される。

30

【0612】

この払出表示演出 B は、時短付き確変状態に移行する大当たりの場合に実行され、時短付き非確変状態に移行する大当たりの場合には、実行されない。なお、これに限らず、払出表示演出 B は、時短付き非確変状態に移行しない大当たり時でも実行してもよい。

【0613】

[効果例]

以下に、払出表示演出の効果例を示す。

[効果 1]

40

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 3 ～図 9 4 に示すように、払出表示演出 A、B において、払出予定表示演出で、払出予定出玉数示唆画像 D 2 A が表示され、累積払出予定表示演出で、累積払出予定玉数示唆画像 D 2 B が表示される。この構成によれば、遊技者は、当該大当たり遊技における払出予定玉数に加えて、連チャン中の累積払出予定玉数を把握することができるので、遊技者の遊技意欲を向上させることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0614】

[効果 2]

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 3 ～図 9 4 に示すように、払出表示演出 A、B において、累積払出追加表示演出で、累積払出予定玉数の表示がおこなわれているときに、累

50

積払出玉数の表示がおこなわれる。この構成によれば、累積払出予定玉数に到達するまで遊技者の遊技意欲を向上させることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0615】

[効果3]

上記実施形態の遊技機1では、図94に示すように、払出表示演出Bにおいて、累積払出予定表示演出または累積払出追加表示演出で、累積払出予定玉数の表示がおこなわれているときに、当該払出玉数の表示がおこなわれる。この構成によれば、遊技者は、当該払出玉数を認識でき、累積払出予定玉数に到達するまで遊技者の遊技意欲を向上させることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【0616】

[効果4]

上記実施形態の遊技機1では、図94に示すように、払出表示演出Cにおいて、累積払出予定玉数の表示がおこなわれているときに、連チャン回数の示唆がおこなわれる。この構成によれば、累積払出予定玉数と連チャン回数との関係から、1回の大当たり遊技における平均の払出玉数（平均払出玉数）を連想できるので、平均払出玉数が多い場合には、遊技者は幸福感を感じることができ、平均払出玉数が少ない場合には、連チャンを延ばすために遊技者の遊技意欲を向上させることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

20

【0617】

[変形例]

以下に、払出表示演出の変形例を示す。

[変形例1]

上記実施形態の遊技機1では、図93～図94に示すように、払出表示演出A、Bでは、累積払出追加表示演出が実行されているが、本発明はこれに限られるものではなく、累積払出追加表示演出が実行されない場合であってもよい。

【0618】

[変形例2]

上記実施形態の遊技機1では、図93～図94に示すように、払出表示演出A、Bでは、累積払出予定玉数を示す表示が実行されているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、当該大当たりの後の遊技状態が確変遊技状態でない場合には、累積払出予定玉数を表す表示が実行されないようにしてもよい。

30

【0619】

[変形例3]

上記実施形態の遊技機1では、図93～図94に示すように、払出表示演出A、Bは、払出予定表示演出、累積払出予定表示演出、累積払出追加表示演出の順に実行されているが、本発明はこれに限られるものではなく、これらの順番は変更してもよい。例えば、払出予定表示演出、累積払出追加表示演出、累積払出予定表示演出の順でもよいし、累積払出予定表示演出、払出予定表示演出、累積払出追加表示演出の順でもよい。

【0620】

[変形例4]

上記実施形態の遊技機1では、図93～図94に示すように、払出表示演出A、Bにおいて、連チャン中の大当たりに基づいて、累積払出予定玉数が決定されているが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、累積払出予定玉数を、その日の朝から連続した大当たりのうち、当該大当たりよりも前に当選した大当たりに基づく大当たり遊技中に払い出された玉数（当日累積払出玉数）に、当該払出予定玉数を加えた玉数（当日累積払出予定玉数）としてもよい。この場合、当日累積払出玉数も表示してもよい。

40

また、累積払出予定玉数を、あるタイミングから連続した大当たりのうち、当該大当たりよりも前に当選した大当たりに基づく大当たり遊技中に払い出された玉数（所定タイミング累積払出玉数）に、当該払出予定玉数を加えた玉数（所定タイミング累積払出予定玉

50

数)としてもよい。この場合、所定タイミング累積払出玉数も表示してもよい。なお、遊技機1は、「あるタイミング」を遊技者が決定できる機能を有していてもよい。これにより遊技者は「あるタイミング」を任意に設定することが可能となる。

【0621】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様D2-1〕

複数の表示演出を実行可能な演出表示手段と、

抽選により大当たりか否かを判定する判定手段と、

大当たりの場合に、遊技者に遊技媒体を払い出しする大当たり遊技を実行可能な大当たり遊技実行手段と、

を備える遊技機であって、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第1の表示演出をおこなう場合があり、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第2の表示演出をおこなう場合があり、

前記第1の表示演出は、第1の大当たりに基づく第1の大当たり遊技で払い出し予定の遊技媒体数である払出予定数を表す払出予定表示をおこなう演出であり、

前記第1の大当たりは、第1の遊技状態よりも遊技者にとって有利な第2の遊技状態のときの大当たりであり、

前記第2の表示演出は、前記第1の大当たり遊技中におこなわれ、第2の大当たりに基づく第2の大当たり遊技中に払い出された遊技媒体数に、前記第1の大当たり遊技での前記払出予定数を加えた累積払出予定数を表す累積払出予定表示をおこなう演出であり、

前記第2の大当たりは、前記第2の遊技状態中における、前記第1の大当たりを含む連続した大当たりのうち、前記第1の大当たりよりも前に当選した大当たりのことであり、

前記第1の表示演出と前記第2の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、

前記組み合わせ演出では、前記第1の表示演出と前記第2の表示演出とがおこなわれる、ことを特徴とする遊技機。

〔態様D2-2〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第3の表示演出をおこなう場合があり、

前記第3の表示演出は、前記第1の大当たり遊技中におこなわれ、前記第2の大当たり遊技中に払い出された遊技媒体数に、前記第1の大当たり遊技中に既に払い出された遊技媒体数を加えた累積払出数を表す累積払出表示をおこなう演出であり、

前記組み合わせ演出は、前記第3の表示演出を含む場合がある演出であり、

当該組み合わせ演出では、前記第2の表示演出がおこなわれているときに、前記第3の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様D2-1に記載の遊技機。

〔態様D2-3〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第4の表示演出をおこなう場合があり、

前記第4の表示演出は、前記第1の大当たり遊技中におこなわれ、前記第1の大当たり遊技中に既に払い出された遊技媒体数を表す当該大当たり払出表示をおこなう演出であり、

前記組み合わせ演出は、前記第4の表示演出を含む場合がある演出であり、

当該組み合わせ演出では、前記第2の表示演出がおこなわれているときに、前記第4の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様D2-1または態様D2-2に記載の遊技機。

〔態様D2-4〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第5の表示演出をおこなう場合があり、

前記第5の表示演出は、前記第1の大当たり遊技中におこなわれ、前記連続した大当たりの回数を表す連続大当たり回数表示をおこなう演出であり、

前記組み合わせ演出は、前記第5の表示演出を含む場合がある演出であり、

前記組み合わせ演出では、前記第2の表示演出がおこなわれているときに、前記第5の

10

20

30

40

50

表示演出がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 D 2 - 1 から態様 D 2 - 3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 D 2 - 5〕

前記第 1 の大当たりが、前記第 1 の大当たり遊技後の遊技状態が前記第 2 の遊技状態よりも不利な第 3 の遊技状態となる大当たりである場合には、前記組み合わせ演出は、実行されない、

ことを特徴とする態様 D 2 - 1 から態様 D 2 - 4 までのいずれか一項に記載の遊技機。

【0622】

図 9 5 ~ 図 9 7 を用いて入賞画像・キャラクタ画像重畳演出について説明する。この入賞画像・キャラクタ画像重畳演出は、大当たり遊技などの特別遊技中などに実行され得る。すなわち、画像制御用マイコン 101 がサブ制御基板 90 からラウンド指定コマンドを受信して実行するラウンド遊技演出の一つとして表示され得る。

【0623】

〔入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A〕

図 9 5 は、入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A を説明するための図である。入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A では、まず、図 9 5 (A) の入賞画像表示が実行される。この入賞画像表示は、例えば、V 開閉部材 71 の開放パターン (図 1 4 (B)) で「ロング開放」となる V 開閉部材 71 の開放ラウンドにおいて、第 1 大入賞口 30 に入賞した 2 球目以降の遊技球の少なくとも一部が V 領域 39 を通過したときに実行される。ここでは、遊技球が V 領域 39 を通過したことを示唆する V 入賞画像 WP が表示される。V 入賞画像 WP は、後に高確時短状態となることを示唆する画像であるため、後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する画像といえる。図 9 5 (A) では、V 入賞画像 WP が表示された状態で、キャラクタ画像 AN1 および右打ち画像 RD1 が表示される。第 1 キャラクタ画像 AN1 は、表示画面 7 a の右端から現れ、左方向に移動する。右打ち画像 RD1 は V 入賞画像 WP の一部と重なるように表示される。

【0624】

第 1 キャラクタ画像 AN1 は、V 入賞画像 WP の位置まで移動し、図 9 5 (B) に示す入賞画像・キャラクタ画像重畳表示が実行される。具体的には、V 入賞画像 WP の一部に第 1 キャラクタ画像 AN1 が重なった状態の画像が表示される。言い換えれば、V 入賞画像 WP の一部の前面に第 1 キャラクタ画像 AN1 が位置している状態を示す画像が表示される。第 1 キャラクタ画像 AN1 が重なった状態であっても V 入賞画像 WP の一部は隠れずに表示される。図 9 5 (B) では、さらに、第 2 キャラクタ画像 AN2 および右打ち画像 RD1 が表示される。第 2 キャラクタ画像 AN2 は、表示画面 7 a の右端から現れ、第 1 キャラクタ画像 AN1 に続いて左方向に移動する。

【0625】

第 1 キャラクタ画像 AN1 および第 2 キャラクタ画像 AN2 がともに左方向に移動することによって、図 9 5 (C) に示す入賞画像・キャラクタ画像重畳表示が実行される。具体的には、V 入賞画像 WP の一部に第 1 キャラクタ画像 AN1 および第 2 キャラクタ画像 AN2 の両方が重なった状態の画像が表示される。図 9 5 (C) では、さらに、右打ち画像 RD1 が表示される。

【0626】

第 1 キャラクタ画像 AN1 および第 2 キャラクタ画像 AN2 がさらに左方向に移動することによって、図 9 5 (D) に示す入賞画像・キャラクタ画像重畳表示が実行される。具体的には、V 入賞画像 WP の一部に第 2 キャラクタ画像 AN2 のみが重なった状態の画像が表示されている。言い換えれば、第 1 キャラクタ画像 AN1 が重なっていない状態の V 入賞画像 WP が表示される。第 1 キャラクタ画像 AN1 は、表示画面 7 a の左端からフレームアウトする。

【0627】

その後、第 2 キャラクタ画像 AN2 がさらに左方向に移動することによって、図 9 5 (E) に示すように入賞画像とキャラクタ画像とが非重畳状態となる。具体的には、キャラ

10

20

30

40

50

クタ画像（第1キャラクター画像AN1および第2キャラクター画像AN2）が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。その後、図95（F）に示すように、第2キャラクター画像AN2は、表示画面7aの左端からフレームアウトする。

【0628】

〔入賞画像・キャラクター画像重畳演出B〕

図96は、入賞画像・キャラクター画像重畳演出Bを説明するための図である。

入賞画像・キャラクター画像重畳演出Bは、図95の重畳演出Aと比較して、V入賞画像WPの形状が変化する点が異なる。重畳演出BのV入賞画像WPは、ローマ字の「V」の立体形状を表す図形が横回転している状態を表すように形状が変化する。まず、図96（A）では、V入賞画像WPが表示された状態で、キャラクター画像AN1および右打ち画像RD1が表示される。第1キャラクター画像AN1は、表示画面7aの右端から現れ、左方向に移動する。右打ち画像RD1はV入賞画像WPの一部と重なるように表示される。

10

【0629】

次に、図96（B）に示すように、V入賞画像WPの形状が図96（A）と比較して変化しつつ、V入賞画像WPの一部に第1キャラクター画像AN1が重なった状態の画像が表示される。V入賞画像WPは、立体形状を表す図形が図96（A）よりも横方向を向いた状態を示す形状となっている。第1キャラクター画像AN1が重なった状態であってもV入賞画像WPの一部は表示される。図96（B）では、さらに、第2キャラクター画像AN2および右打ち画像RD1が表示される。第2キャラクター画像AN2は、表示画面7aの右端から現れ、第1キャラクター画像AN1に続いて左方向に移動する。

20

【0630】

次に、図96（C）に示すように、V入賞画像WPの形状が図96（B）と比較して変化しつつ、V入賞画像WPの一部に第1キャラクター画像AN1および第2キャラクター画像AN2の両方が重なった状態の画像が表示される。図96（C）では、さらに、右打ち画像RD1が表示される。

【0631】

次に、図96（D）に示すように、V入賞画像WPの形状が図96（C）と比較して変化しつつ、V入賞画像WPの一部に第2キャラクター画像AN2のみが重なった状態の画像が表示される。次に、図96（E）に示すように、V入賞画像WPの形状が図96（D）と比較して変化しつつ、キャラクター画像が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。その後、図96（F）では、V入賞画像WPの形状が図96（E）と比較して変化しつつ、キャラクター画像が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。

30

【0632】

〔入賞画像・キャラクター画像重畳演出C〕

図97は、入賞画像・キャラクター画像重畳演出Cを説明するための図である。

入賞画像・キャラクター画像重畳演出Cは、図96の重畳演出Bと比較して、キャラクター画像AN1の表示方法が異なる。重畳演出Cのキャラクター画像AN1は、表示画面7aを左右に移動してV入賞画像WPと交差するのではなく、V入賞画像WPの形状の変化にあわせて形状が変化する。具体的には、重畳演出Cのキャラクター画像AN1は、V入賞画像WPの立体形状の一方の面上に配置され、V入賞画像WPの立体形状が横回転したときに、共に横回転しているような状態を表すように形状が変化する。まず、図97（A）に示すように、V入賞画像WPにキャラクター画像AN1が重なった状態の画像が表示される。具体的には、V入賞画像WPの前面の一部分にキャラクター画像AN1が位置している状態を示す画像が表示される。第1キャラクター画像AN1が重なった状態であってもV入賞画像WPの一部は表示される。右打ち画像RD1はV入賞画像WPの一部と重なるように表示される。

40

【0633】

次に、図97（B）に示すように、V入賞画像WPとキャラクター画像AN1の形状が図97（A）と比較して変化する。具体的には、V入賞画像WPとキャラクター画像AN1とを組み合わせた立体形状が図97（A）よりも横方向を向いた状態を示す画像が表示され

50

る。この状態においても、V入賞画像WPの一部にキャラクタ画像AN1が重なった状態の画像となっている。

【0634】

次に、図97(C)に示すように、V入賞画像WPとキャラクタ画像AN1とを組み合わせさせた立体形状が図97(B)よりもさらに横方向を向いた状態を示す画像が表示される。ここでは、V入賞画像WPとキャラクタ画像AN1とを組み合わせさせた立体形状は真横を向いており、キャラクタ画像AN1が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。

【0635】

次に、図97(D)に示すように、V入賞画像WPとキャラクタ画像AN1とを組み合わせさせた立体形状が図97(C)よりもさらに横回転し、V入賞画像WPの立体形状のうち、キャラクタ画像AN1が配置されていない他方の面側が見える状態となった画像が表示される。キャラクタ画像AN1はV入賞画像WPによって見えない状態となっており、キャラクタ画像AN1が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。

【0636】

次に、図97(E)に示すように、V入賞画像WPとキャラクタ画像AN1とを組み合わせさせた立体形状が図97(D)よりもさらに横回転し、V入賞画像WPの立体形状のうち、キャラクタ画像AN1が配置されていない他方の面が前面になった画像が表示される。キャラクタ画像AN1はV入賞画像WPの間から一部が見える状態となっているが、キャラクタ画像AN1が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。

【0637】

その後、図97(F)に示すように、V入賞画像WPとキャラクタ画像AN1とを組み合わせさせた立体形状が図97(E)よりもさらに横回転し、再び、キャラクタ画像AN1はV入賞画像WPによって見えない状態となっており、キャラクタ画像AN1が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。

【0638】

〔効果例〕

以下に、入賞画像・キャラクタ画像重畳演出の効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図95(B)～(D)、図96(B)～(D)、図97(A)(B)に示すように、V入賞画像WPの少なくとも一部にキャラクタ画像が重なった状態の画像が表示される。また、図95(A)(E)(F)、図96(A)(E)(F)、図97(C)～(F)に示すように、キャラクタ画像が重なっていない状態のV入賞画像WPが表示される。この構成によれば、V入賞画像WPの表示に遊技者の注意を向けさせることができるため、興趣の向上を図ることができる。

【0639】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図95(B)～(D)、図96(B)～(D)、図97(A)(B)に示すように、V入賞画像WPの一部にキャラクタ画像が重なった状態の画像が表示されているときであっても、V入賞画像WPの他の一部は表示される。この構成によれば、V入賞画像WPの一部にキャラクタ画像が重なった状態であっても、遊技者にV入賞画像WPの一部を見せることができるため、遊技者にV入賞したことを確信させることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0640】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図95、図96(A)(B)(D)～(F)、図97(A)(B)(D)～(F)に示すように、V入賞画像WPの一部に右打ち画像が重なった状態の画像が表示される。この構成によれば、右打ち画像の奥にV入賞画像WPが位置しているように見えるため、表示に奥行き感を演出することができ、興趣の向上を図ることができる。

【0641】

〔効果 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 6、図 9 7 に示すように、V 入賞画像 WP は、ローマ字の「V」の立体形状の図形が回転している状態を表すように形状が変化する。この構成によれば、右打ち画像の奥に V 入賞画像 WP が位置しているように見えるため、表示に奥行き感を演出することができ、興趣の向上を図ることができる。

【0642】

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 9 6～図 9 7 に示すように、V 入賞画像 WP に対して、キャラクタ画像が重なった状態や、キャラクタ画像が重なっていない状態の演出が実行される。この構成によれば、V 入賞画像 WP の表示に遊技者の注意を向けさせることができるため、興趣の向上を図ることができる。

10

【0643】

〔変形例〕

以下に、入賞画像・キャラクタ画像重畳演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態では、図 9 5～図 9 7 に示すように、V 入賞画像 WP がキャラクタ画像によって覆われた状態であっても V 入賞画像 WP の一部分が視覚可能となっている。しかし、V 入賞画像 WP の全体がキャラクタ画像によって覆われて、V 入賞画像 WP が視覚不可となってもよい。

【0644】

20

〔変形例 2〕

図 9 5～図 9 7 に示した、入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A～C の表示内容は適宜組み合わせる表示されてもよい。また、入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A～C は、図 9 5～図 9 7 に示した演出内容の一部を備えていなくてもよいし、他の演出内容が加わっていてもよい。また、入賞画像・キャラクタ画像重畳演出 A～C は、操作部画像や装飾図柄、保留アイコンの位置や移動方向に関して、図 9 5～図 9 7 に限定されず任意の位置や移動方向であってもよい。

【0645】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

30

◇〔態様 D 3-1〕

複数種類の画像を表示可能な表示手段を備えた遊技機であって、

前記複数種類の画像のうちの一つは、後に遊技者にとって有利な遊技状態になることを示唆する第 1 の画像であり、

前記複数種類の画像のうちの一つは、第 2 の画像であり、

前記第 1 の画像の少なくとも一部に前記第 2 の画像が重なった状態の画像が表示される第 1 の表示と、前記第 2 の画像が重なっていない状態の前記第 1 の画像が表示される第 2 の表示と、を実行可能な

ことを特徴とする遊技機。

◇〔態様 D 3-2〕

40

態様 D 3-1 に記載の遊技機であって、

前記第 1 の表示において、前記第 1 の画像の一部分は、前記第 2 の画像が重ならず表示されている

ことを特徴とする遊技機。

◇〔態様 D 3-3〕

態様 D 3-1 または態様 D 3-2 に記載の遊技機であって、

前記複数種類の画像のうちの一つは、右打ちを示唆する第 3 の画像であり、

前記第 1 の表示において、前記第 1 の画像の一部に前記第 3 の画像が重なった状態の画像が表示される

ことを特徴とする遊技機。

50

◇[態様 D 3 - 4]

態様 D 3 - 3 に記載の遊技機であって、

前記第 1 の画像は、立体形状の図形が回転をしている状態を表すように形状が変化することを特徴とする遊技機。

◇[態様 D 3 - 5]

態様 D 3 - 3 または態様 D 3 - 4 に記載の遊技機であって、

前記第 1 の画像は、V 入賞画像である

ことを特徴とする遊技機。

【0646】

図 98 ~ 図 100 を用いてタイマ画像移動演出について説明する。このタイマ画像移動演出は、装飾図柄の変動演出中やリーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。すなわち、画像制御用マイコン 101 がサブ制御基板 90 から受信した変動演出開始コマンドを解析し、タイマ画像移動演出を実行する指示が含まれている場合に、ROM 103 から対応する画像データを読み出して表示画面 7a に表示させる表示演出である。

【0647】

[タイマ画像移動演出 A]

図 98 は、タイマ画像移動演出 A を説明するための図である。タイマ画像移動演出 A では、まず、図 98 (A) のボタン画像表示が実行される。このボタン画像表示は、例えば、装飾図柄のリーチ演出中に実行される。ここでは、演出ボタン 63 (図 1) の外観を表した第 1 ボタン画像 B I 1 が表示画面 7a の中央付近に表示される。また、第 1 ボタン画像 B I 1 の上方には、壁画像 H A が表示される。壁画像 H A は第 1 ボタン画像 B I 1 と一部が重なっており、所定のタイミングで左方向にスライド移動する。

【0648】

次に、図 98 (B) の第 1 タイマ画像表示が実行される。具体的には、壁画像 H A の左方向へのスライドにともなって、壁画像 H A の右端から第 1 タイマ画像 T N 1 が現れる。壁画像 H A の右端から現れた第 1 タイマ画像 T N 1 は、壁画像 H A 上の所定の位置（第 1 の位置）で停止表示され、一部が第 1 ボタン画像 B I 1 と重なっている。第 1 タイマ画像 T N 1 のタイマはカウントダウン方式である。次に、図 98 (C) のタイマ画像移動演出が実行される。具体的には、壁画像 H A のさらなる左方向へのスライドにともなって、第 1 タイマ画像 T N 1 が第 1 の位置から左方向に移動する。また、第 1 ボタン画像 B I 1 が所定の色に発光する発光演出がおこなわれ、この発光演出開始後に、壁画像 H A の右端から第 2 タイマ画像 T N 2 が現れる。第 2 タイマ画像 T N 2 のタイマはカウントダウン方式である。

【0649】

次に、図 98 (D) に示す第 2 タイマ画像表示演出が実行される。具体的には、壁画像 H A の右端から現れた第 2 タイマ画像 T N 2 は、壁画像 H A 上の第 1 の位置で停止表示される。このとき、第 1 タイマ画像 T N 1 は壁画像 H A 上の第 2 の位置で停止表示される。これにより、現壁画像 H A の左側に第 1 タイマ画像 T N 1 が表示され、壁画像 H A の右側に第 2 タイマ画像 T N 2 が表示された状態となる。第 1 タイマ画像 T N 1 および第 2 タイマ画像 T N 2 は、互いに隣接した位置に表示され、それぞれ、第 1 ボタン画像 B I 1 と一部が重なっている。

【0650】

第 1 タイマ画像 T N 1 のタイマ値がゼロ（例えば「0 : 00」）となったときに、図 98 (E) に示すボタン操作促進演出が実行される。具体的には、壁画像 H A 上に第 1 タイマ画像 T N 1 と第 2 タイマ画像 T N 2 が表示された状態で、遊技者に演出ボタン 63 の操作を促すための「押せ！」の文字画像（ボタン操作促進画像）O P I と、演出ボタン 63 の操作有効期間を示すタイマーバー T B I が表示される。遊技者によって演出ボタン 63 が操作されると、図 98 (F) に示すように、第 1 ボタン画像 B I 1 が表示画面 7a から消え、同じ位置に爆発画像 E X I が表示される。その後、演出図柄がハズレ図柄で停止表示される。

10

20

30

40

50

【0651】

[タイマ画像移動演出B]

図99は、タイマ画像移動演出Bを説明するための図である。タイマ画像移動演出Bでは、まず、図99(A)のボタン画像表示が実行される。このボタン画像表示は、図98(A)と同様に、例えば、装飾図柄のリーチ演出中に実行される。ここでは、演出ボタン63(図1)の外観を表した第1ボタン画像BI1が表示画面7aの中央付近に表示される。また、第1ボタン画像BI1の下方には、ステージ画像STが表示され、ステージ画像ST上に第1ボタン画像BI1が配置された画像構成となっている。ステージ画像STと第1ボタン画像BI1は、所定のタイミングで、ボタンとステージの立体画像が横回転するように画像が変形する。以後、この画像の変形を横回転演出とも呼ぶ。

10

【0652】

次に、図99(B)の第1タイマ画像表示が実行される。具体的には、ステージ画像STと第1ボタン画像BI1の横回転演出にともなって、ステージ画像STの右側から第1タイマ画像TN1が現れる。ステージ画像STの右側から現れた第1タイマ画像TN1は、ステージ画像ST上に表示されており、第1ボタン画像BI1と隣接している。ステージ画像STと第1ボタン画像BI1の横回転演出が一時的に停止して、第1タイマ画像TN1は、第1の位置で停止表示される。第1タイマ画像TN1のタイマはカウントダウン方式である。

【0653】

次に、図99(C)のタイマ画像移動演出が実行される。具体的には、ステージ画像STと第1ボタン画像BI1の横回転演出の再開にともなって、第1タイマ画像TN1が第1の位置から左方向に移動する。横回転演出とともに、第1ボタン画像BI1が所定の色に発光する発光演出がおこなわれ、この発光演出開始後に、ステージ画像STの右側から第2タイマ画像TN2が現れる。第2タイマ画像TN2のタイマはカウントダウン方式である。

20

【0654】

次に、図99(D)に示す第2タイマ画像表示演出が実行される。具体的には、ステージ画像STの右側から現れた第2タイマ画像TN2は、ステージ画像STと第1ボタン画像BI1の横回転演出が一時的に停止して、第1の位置で停止表示される。このとき、第1タイマ画像TN1は第2の位置で停止表示される。これにより、ステージ画像STの左側に第1タイマ画像TN1が表示され、ステージ画像STの右側に第2タイマ画像TN2が表示された状態となる。第1タイマ画像TN1および第2タイマ画像TN2は、互いに隣接した位置に表示され、それぞれ、第1ボタン画像BI1と隣接している。

30

【0655】

第1タイマ画像TN1のタイマ値がゼロ(例えば「0:00」となったときに、図99(E)に示すボタン操作促進演出が実行される。具体的には、ステージ画像ST上に第1タイマ画像TN1と第2タイマ画像TN2が表示された状態で、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための「押せ!!」の文字画像(ボタン操作促進画像)OPIと、演出ボタン63の操作有効期間を示すタイマーバーTBIが表示される。遊技者によって演出ボタン63が操作されると、図99(F)に示すように、第1ボタン画像BI1が表示画面7aから消え、同じ位置に爆発画像EXIが表示される。その後、演出図柄がハズレ図柄で停止表示される。

40

【0656】

[タイマ画像移動演出C]

図100は、タイマ画像移動演出Cを説明するための図である。タイマ画像移動演出Cでは、まず、図100(A)のボタン画像表示が実行される。このボタン画像表示は、図98(A)と同様に、例えば、装飾図柄のリーチ演出中に実行される。ここでは、演出ボタン63(図1)の外観を表した第1ボタン画像BI1が表示画面7aの中央付近に表示される。

【0657】

50

次に、図100(B)の第1タイマ画像表示が実行される。具体的には、表示画面7aの右側から第1タイマ画像TN1が現れ、左方向に移動して第1ボタン画像BI1の右側の所定の位置(第1の位置)に接続される。第1の位置の第1タイマ画像TN1は、第1ボタン画像BI1と隣接している。第1タイマ画像TN1のタイマはカウントダウン方式である。次に、図100(C)のタイマ画像移動演出が実行される。具体的には、第1タイマ画像TN1が第1ボタン画像BI1の下方の所定の位置(第2の位置)に移動する。また、第1ボタン画像BI1が所定の色に発光する発光演出がおこなわれ、この発光演出開始後に、表示画面7aの右側から第2タイマ画像TN2が現れる。第2タイマ画像TN2のタイマはカウントダウン方式である。

【0658】

次に、図100(D)に示す第2タイマ画像表示演出が実行される。具体的には、表示画面7aの右側から現れた第2タイマ画像TN2は左方向に移動して第1ボタン画像BI1の右側の第1の位置に接続される。第2タイマ画像TN2が接続される位置は、第1タイマ画像TN1が当初接続されていた位置と同じである。これにより、第1ボタン画像BI1の下方の第2の位置に第1タイマ画像TN1が表示され、第1ボタン画像BI1の右側の第1の位置に第2タイマ画像TN2が表示される。第1タイマ画像TN1および第2タイマ画像TN2は、互いに隣接した位置に表示され、それぞれ、第1ボタン画像BI1と隣接している。

【0659】

第1タイマ画像TN1のタイマ値がゼロ(例えば「0:00」)となったときに、図100(E)に示すボタン操作促進演出が実行される。具体的には、第1ボタン画像BI1に第1タイマ画像TN1と第2タイマ画像TN2が接続(隣接)した状態で、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための「押せ!」の文字画像(ボタン操作促進画像)OPIと、演出ボタン63の操作有効期間を示すタイマーバーTBIが表示される。遊技者によって演出ボタン63が操作されると、図100(F)に示すように、第1ボタン画像BI1が表示画面7aから消え、同じ位置に爆発画像EXIが表示される。その後、演出図柄がハズレ図柄で停止表示される。

【0660】

【効果例】

以下に、タイマ画像移動演出の効果例を示す。

【効果1】

上記実施形態の遊技機1では、図98~図100に示すように、表示画面7aに第1ボタン画像BI1が表示された状態で、第1タイマ画像TN1が表示される第1の演出と、第1の演出の後、第1タイマ画像TN1が表示画面7a上の他の位置に表示され、第1タイマ画像TN1が表示されていた位置に第2タイマ画像TN2が表示される第2の演出と、を実行可能に構成されている。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0661】

【効果2】

上記実施形態の遊技機1では、図98(B)、図99(B)、図100(B)に示すように、第1タイマ画像表示時の第1タイマ画像TN1は、第1ボタン画像BI1に隣接している。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0662】

【効果3】

上記実施形態の遊技機1では、図98(D)、図99(D)、図100(D)に示すように、第2タイマ画像表示時の第1タイマ画像TN1は、第2タイマ画像TN2と隣接している。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0663】

10

20

30

40

50

〔効果 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 98 (D)、図 99 (D)、図 100 (D) に示すように、第 2 タイマ画像表示時の第 1 タイマ画像 T N 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 に隣接している。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0664】

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 98 (C)、図 99 (C)、図 100 (C) に示すように、第 2 タイマ画像 T N 2 が第 1 の位置に表示される前に、第 1 ボタン画像 B I 1 の発光演出がおこなわれる。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

10

【0665】

〔効果 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 98 ~ 図 100 に示すように、第 1 ボタン画像 B I 1 は、遊技機 1 の操作部（ここでは、演出ボタン 63）の外観を表した形状を有している。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0666】

〔変形例〕

以下に、タイマ画像移動演出の変形例を示す。

20

〔変形例 1〕

上記実施形態では、図 98 ~ 図 100 に示すように、演出ボタン 63 の外観を表した第 1 ボタン画像 B I 1 と、2 つのタイマ画像 T N 1、T N 2 による演出を実行可能に構成されている。しかし、遊技機 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 の代わりに、演出ボタン 63 とは異なる操作部の外観の形状を有する画像を用いて同様の演出を実行してもよい。また、遊技機 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 の代わりに、操作部の外観以外の形状を有する特定の画像を用いて同様の演出を実行してもよい。特定の画像とは、キャラクタ画像等の任意の文字、図形、記号等を含む画像である。言い換えれば、第 1 ボタン画像 B I 1 は、ボタン画像以外の任意の画像であってもよい。この構成によっても、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

30

【0667】

〔変形例 2〕

図 98 ~ 図 100 のタイマ画像 T N のタイマはカウントダウン方式であるが、カウントアップ方式であってもよい。また、タイマ画像 T N は、ボタン画像 B B と隣接していなくてもよい。

【0668】

〔変形例 3〕

図 98 ~ 図 100 に示した、タイマ画像移動演出 A ~ C の表示内容は適宜組み合わせて表示されてもよい。また、タイマ画像移動演出 A ~ C は、図 98 ~ 図 100 に示した演出内容の一部を備えていなくてもよいし、他の演出内容が加わっていてもよい。また、タイマ画像移動演出 A ~ C は、操作部画像や装飾図柄、保留アイコンの位置や移動方向に関して、図 98 ~ 図 100 に限定されず任意の位置や移動方向であってもよい。

40

【0669】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 C 1 - 1〕

複数種類の画像を表示可能な表示手段を備えた遊技機であって、
前記複数種類の画像のうちの一つは、第 1 の画像であり、
前記複数種類の画像のうちの一つは、第 1 のタイマ画像であり、
前記複数種類の画像のうちの一つは、第 2 のタイマ画像であり、

50

前記表示手段に前記第 1 の画像が表示された状態で、前記第 1 のタイマ画像が第 1 の位置に表示される第 1 の演出と、前記第 1 の演出の後、前記第 1 のタイマ画像が第 2 の位置に表示され、前記第 2 のタイマ画像が前記第 1 の位置に表示される第 2 の演出と、を実行可能な

ことを特徴とする遊技機。

◇[態様 C 1-2]

態様 C 1-1 に記載の遊技機であって、

前記第 1 の演出において、前記第 1 の位置の前記第 1 のタイマ画像は、前記第 1 の画像に隣接している

ことを特徴とする遊技機。

◇[態様 C 1-3]

態様 C 1-1 または態様 C 1-2 に記載の遊技機であって、

前記第 2 の演出において、前記第 2 の位置の前記第 1 のタイマ画像は、前記第 1 の画像に隣接している

ことを特徴とする遊技機。

◇[態様 C 1-4]

態様 C 1-1 から態様 C 1-3 までのいずれか一項に記載の遊技機であって、

前記第 2 の演出において、前記第 2 の位置の前記第 1 のタイマ画像は、前記第 1 の位置の前記第 2 のタイマ画像に隣接している。

ことを特徴とする遊技機。

◇[態様 C 1-5]

態様 C 1-1 から態様 C 1-4 までのいずれか一項に記載の遊技機であって、

前記第 2 の演出において、前記第 2 のタイマ画像が前記第 1 の位置に表示される前に、前記第 1 の画像を用いた所定の演出がおこなわれる

ことを特徴とする遊技機。

◇[態様 C 1-6]

態様 C 1-1 から態様 C 1-5 までのいずれか一項に記載の遊技機はさらに、

操作者が操作可能な操作手段を備えており、

前記第 1 の画像は、前記操作手段の外観を表す画像である

ことを特徴とする遊技機。

【0670】

図 101～図 103 を用いてタイマ画像傾斜表示演出について説明する。このタイマ画像傾斜表示演出は、装飾図柄の変動演出中やリーチ演出（スーパーリーチ演出）中などに実行され得る。すなわち、画像制御用マイコン 101 がサブ制御基板 90 から受信した変動演出開始コマンドを解析し、タイマ画像傾斜表示演出を実行する指示が含まれている場合に、ROM 103 から対応する画像データを読み出して表示画面 7a に表示させる表示演出である。

【0671】

〔タイマ画像傾斜表示演出 A〕

図 101 は、タイマ画像傾斜表示演出 A を説明するための図である。タイマ画像傾斜表示演出 A では、まず、図 101 (A) の第 1 タイマ画像表示が実行される。この第 1 タイマ画像表示は、例えば、装飾図柄のリーチ演出中に実行される。ここでは、演出ボタン 63 (図 1) の外観を表した第 1 ボタン画像 B I 1 が表示画面 7a の中央下方付近に表示される。また、表示画面 7a の右下には、第 1 タイマ画像 T N 1 が表示されるとともに、表示画面 7a の全体にわたって扇形状の領域画像 S C が表示される。領域画像 S C は、表示画面 7a の他の部分と色が異なっている。第 1 タイマ画像 T N 1 は、領域画像 S C 上の右下の所定の位置（第 1 の位置）に表示されている。第 1 タイマ画像 T N 1 のタイマはタイマカウントダウン方式である。

【0672】

次に、図 101 (B) に示す第 1 タイマ画像傾斜表示が実行される。具体的には、第 1

タイマ画像 T N 1 が扇形状の領域画像 S C に沿って左上方に移動し、第 1 の位置に表示されていた時に比べて斜めに表示される。次に、図 1 0 1 (C) に示す第 2 タイマ画像表示が実行される。具体的には、第 1 タイマ画像 T N 1 が領域画像 S C 上の第 1 の位置から左上方に移動した後、所定のタイミングで、領域画像 S C 上の第 1 の位置に第 2 タイマ画像 T N 2 が表示される。第 2 タイマ画像 T N 2 のタイマはカウントダウン方式である。第 1 タイマ画像 T N 1 は、領域画像 S C に沿った移動を継続し、第 1 の位置に表示されていた時に比べて約 9 0 度近く傾いて表示される。

【 0 6 7 3 】

次に、図 1 0 1 (D) の第 2 タイマ画像傾斜表示が実行される。具体的には、第 1 タイマ画像 T N 1 と同様に、第 2 タイマ画像 T N 2 が領域画像 S C に沿って左上方に移動し、第 1 の位置に表示されていた時に比べて斜めに表示される。このとき、第 1 タイマ画像 T N 1 は、領域画像 S C に沿って左下方に移動し、第 1 の位置に表示されていた時に比べて約 9 0 度以上傾いて表示される。また、第 1 タイマ画像 T N 1 は、タイマ値が所定値（例えば、4 秒）よりも小さくなったとき、発光演出や拡大演出などの所定の演出を実行する。

【 0 6 7 4 】

第 1 タイマ画像 T N 1 のタイマ値がゼロ（例えば「 0 : 0 0 」）となったときに、図 1 0 1 (E) に示すボタン操作促進演出が実行される。具体的には、領域画像 S C 上に第 1 タイマ画像 T N 1 と第 2 タイマ画像 T N 2 が表示された状態で、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すための「押せ！」の文字画像（ボタン操作促進画像） O P I と、演出ボタン 6 3 の操作有効期間を示すタイマーバー T B I が表示される。遊技者によって演出ボタン 6 3 が操作されると、図 1 0 1 (F) に示すように、第 1 ボタン画像 B I 1 が表示画面 7 a から消え、同じ位置に爆発画像 E X I が表示される。その後、演出図柄がハズレ図柄で停止表示される。

【 0 6 7 5 】

〔タイマ画像傾斜表示演出 B〕

図 1 0 2 は、タイマ画像傾斜表示演出 B を説明するための図である。タイマ画像傾斜表示演出 B では、まず、図 1 0 2 (A) の第 1 タイマ画像表示が実行される。この第 1 タイマ画像表示は、図 1 0 1 (A) と同様に、例えば、装飾図柄のリーチ演出中に実行される。ここでは、演出ボタン 6 3（図 1）の外観を表した第 1 ボタン画像 B I 1 が表示画面 7 a の中央下方付近に表示される。また、表示画面 7 a の中央付近の所定の位置（第 1 の位置）には、第 1 タイマ画像 T N 1 が表示される。第 1 タイマ画像 T N 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 の上方に位置している。第 1 タイマ画像 T N 1 のタイマはカウントダウン方式である。

【 0 6 7 6 】

次に、図 1 0 2 (B) に示す第 1 タイマ画像傾斜表示が実行される。具体的には、第 1 タイマ画像 T N 1 が第 1 の位置において左回転（逆時計回り回転）する。これにより、第 1 タイマ画像 T N 1 は、表示画面 7 a に現れた時点の状態と比べて斜めに表示される。次に、図 1 0 2 (C) に示す第 2 タイマ画像表示が実行される。具体的には、第 1 タイマ画像 T N 1 の表示後、所定のタイミングで、表示画面 7 a の右側中央付近の第 2 の位置に第 2 タイマ画像 T N 2 が表示される。第 2 タイマ画像 T N 2 のタイマはカウントダウン方式である。第 1 タイマ画像 T N 1 は、左回転を継続し、第 1 の位置において約 9 0 度近く傾いて表示される。

【 0 6 7 7 】

次に、図 1 0 2 (D) の第 2 タイマ画像傾斜表示が実行される。具体的には、第 1 タイマ画像 T N 1 と同様に、第 2 タイマ画像 T N 2 が第 2 の位置において左回転（逆時計回り回転）し、表示画面 7 a に現れた時点の状態と比べて斜めに表示される。第 1 タイマ画像 T N 1 は、左回転を継続し、表示画面 7 a に現れた時点の状態と比べて約 9 0 度以上傾いて表示される。また、第 1 タイマ画像 T N 1 は、タイマ値が所定値（例えば、4 秒）よりも小さくなったとき、発光演出や拡大演出などの所定の演出を実行する。

【 0 6 7 8 】

第1タイマ画像T N 1のタイマ値がゼロ（例えば「0：00」）となったときに、図102（E）に示すボタン操作促進演出が実行される。具体的には、領域画像S C上に第1タイマ画像T N 1と第2タイマ画像T N 2が表示された状態で、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための「押せ！」の文字画像（ボタン操作促進画像）O P Iと、演出ボタン63の操作有効期間を示すタイマーバーT B Iが表示される。遊技者によって演出ボタン63が操作されると、図102（F）に示すように、第1ボタン画像B I 1が表示画面7aから消え、同じ位置に爆発画像E X Iが表示される。その後、演出図柄がハズレ図柄で停止表示される。

【0679】

〔タイマ画像傾斜表示演出C〕

図103は、タイマ画像傾斜表示演出Cを説明するための図である。タイマ画像傾斜表示演出Cでは、まず、図103（A）の第1タイマ画像表示が実行される。この第1タイマ画像表示は、図101（A）と同様に、例えば、装飾図柄のリーチ演出中に実行される。ここでは、演出ボタン63（図1）の外観を表した第1ボタン画像B I 1が表示画面7aの中央下方付近に表示される。また、第1ボタン画像B I 1の右側に隣接する位置（第1の位置）には、第1タイマ画像T N 1が表示される。第1タイマ画像T N 1のタイマはカウントダウン方式である。

【0680】

次に、図103（B）に示す第1タイマ画像傾斜表示が実行される。具体的には、第1タイマ画像T N 1が第1ボタン画像B I 1に沿って左上方に移動し、第1の位置に表示されていた時に比べて斜めに表示される。第1タイマ画像T N 1は、移動中も第1ボタン画像B I 1と接触している。次に、図103（C）に示す第2タイマ画像表示が実行される。具体的には、第1タイマ画像T N 1が第1ボタン画像B I 1に沿って第1の位置から左上方に移動した後、所定のタイミングで、第1ボタン画像B I 1の右側に隣接する第1の位置に第2タイマ画像T N 2が表示される。第2タイマ画像T N 2のタイマはカウントダウン方式である。第1タイマ画像T N 1は、第1ボタン画像B I 1に沿った移動を継続し、第1の位置に表示されていた時に比べて約90度近く傾いて表示される。

【0681】

次に、図103（D）の第2タイマ画像傾斜表示が実行される。具体的には、第1タイマ画像T N 1と同様に、第2タイマ画像T N 2が第1ボタン画像B I 1に沿って左上方に移動し、第1の位置に表示されていた時に比べて斜めに表示される。このとき、第1タイマ画像T N 1は、第1ボタン画像B I 1に沿って左下方に移動し、第1の位置に表示されていた時に比べて約90度以上傾いて表示される。また、第1タイマ画像T N 1は、タイマ値が所定値（例えば、4秒）よりも小さくなったとき、発光演出や拡大演出などの所定の演出を実行する。

【0682】

第1タイマ画像T N 1のタイマ値がゼロ（例えば「0：00」）となったときに、図103（E）に示すボタン操作促進演出が実行される。具体的には、第1ボタン画像B I 1に接触した第1タイマ画像T N 1と第2タイマ画像T N 2が表示された状態で、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための「押せ！」の文字画像（ボタン操作促進画像）O P Iと、演出ボタン63の操作有効期間を示すタイマーバーT B Iが表示される。遊技者によって演出ボタン63が操作されると、図103（F）に示すように、第1ボタン画像B I 1が表示画面7aから消え、同じ位置に爆発画像E X Iが表示される。その後、演出図柄がハズレ図柄で停止表示される。

【0683】

〔効果例〕

以下に、タイマ画像傾斜表示演出の効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図101（B）、図102（B）、図103（B）に示すように、表示画面7aに第1ボタン画像B I 1が表示された状態で、第1タイマ画像T

10

20

30

40

50

N 1 が第 1 ボタン画像 B I 1 に対して所定の角度傾いて表示される第 1 の演出を実行可能に構成されている。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0684】

〔効果 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 103 に示すように、第 1 の演出において、第 1 タイマ画像 T N 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 に隣接している。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0685】

〔効果 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 101 (B)、図 102 (B)、図 103 (B) に示す第 1 の演出の後、図 101 (C)、図 102 (C)、図 103 (C) に示すように、第 1 の演出時とは異なる角度で傾いた第 1 タイマ画像 T N 1 が表示される第 2 の演出を実行可能に構成されている。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0686】

〔効果 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 101 ~ 図 103 に示すように、第 1 ボタン画像 B I 1 は、遊技機 1 の操作部（ここでは、演出ボタン 63）の外観を表した形状を有している。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0687】

〔効果 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 102 (D) (E)、図 103 (D) (E) に示すように、第 1 タイマ画像 T N 1 に表示されているカウントダウン値が所定値になったときに、第 1 タイマ画像 T N 1 の大きさが変化する第 3 の演出を実行可能に構成されている。この構成によれば、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0688】

〔変形例〕

以下に、タイマ画像傾斜表示演出の変形例を示す。

〔変形例 1〕

上記実施形態では、図 101 ~ 図 103 に示すように、演出ボタン 63 の外観を表した第 1 ボタン画像 B I 1 と、2 つのタイマ画像 T N 1、T N 2 による演出を実行可能に構成されている。しかし、遊技機 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 の代わりに、演出ボタン 63 とは異なる操作部の外観の形状を有する画像を用いて同様の演出を実行してもよい。また、遊技機 1 は、第 1 ボタン画像 B I 1 の代わりに、操作部の外観以外の形状を有する特定の画像を用いて同様の演出を実行してもよい。特定の画像とは、キャラクタ画像等の任意の文字、図形、記号等を含む画像である。言い換えれば、第 1 ボタン画像 B I 1 は、ボタン画像以外の任意の画像であってもよい。この構成によっても、遊技者に斬新な演出を印象づけることができ、興趣の向上を図ることができる。

【0689】

〔変形例 2〕

図 101 ~ 図 103 のタイマ画像 T N のタイマはカウントダウン方式であるが、カウントアップ方式であってもよい。また、図 101 ~ 図 103 のタイマ画像 T N は、ボタン画像 B I 1 に隣接していてもよいし隣接していなくてもよい。また、図 101 ~ 図 103 の第 1 タイマ画像 T N 1 と第 2 タイマ画像 T N 2 は、互いに隣接していてもよいし、隣接していてもよい。

【0690】

〔変形例 3〕

図101～図103に示した、タイマ画像傾斜表示演出A～Cの表示内容は適宜組み合わせられて表示されてもよい。また、タイマ画像傾斜表示演出A～Cは、図101～図103に示した演出内容の一部を備えていなくてもよいし、他の演出内容が加わっていてもよい。また、タイマ画像傾斜表示演出A～Cは、操作部画像や装飾図柄、保留アイコンの位置や移動方向に関して、図101～図103に限定されず任意の位置や移動方向であってもよい。

【0691】

[態様例]

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇[態様C2-1]

複数種類の画像を表示可能な表示手段を備えた遊技機であって、
前記複数種類の画像のうちの一つは、第1の画像であり、
前記複数種類の画像のうちの一つは、タイマ画像であり、
前記表示手段に前記第1の画像が表示された状態で、前記タイマ画像が前記第1の画像に対して所定の角度傾いて表示される第1の演出を実行可能なことを特徴とする遊技機。

◇[態様C2-2]

態様C2-1に記載の遊技機であって、
前記第1の演出において、前記タイマ画像は、前記第1の画像に隣接していることを特徴とする遊技機。

◇[態様C2-3]

態様C2-1または態様C2-2に記載の遊技機であって、
前記第1の演出の後、前記第1の演出時とは異なる角度で傾いた前記タイマ画像が表示される第2の演出を実行可能なことを特徴とする遊技機。

◇[態様C2-4]

態様C2-1から態様C2-3までのいずれか一項に記載の遊技機はさらに、
操作者が操作可能な操作手段を備えており、
前記第1の画像は、前記操作手段の外観を表す画像であることを特徴とする遊技機。

◇[態様C2-5]

態様C2-1から態様C2-4までのいずれか一項に記載の遊技機であって、
前記タイマ画像に表示されているカウントダウン値が所定値になったときに前記タイマ画像の大きさが変化する第3の演出を実行可能なことを特徴とする遊技機。

【0692】

以下に図104～図105を用いてタイマボタン演出について説明する。このタイマボタン演出は、装飾図柄の変動演出中（1回の変動演出中）（例えば、リーチ演出（スーパーリーチ演出）中）、または、大当たり遊技中などに実行され得る。

【0693】

[タイマボタン演出A]

図104は、タイマボタン演出Aを説明するための図である。

タイマボタン演出Aでは、まず、図104（A）に示すように、第1ボタン表示演出が実行される。この第1ボタン表示演出では、ボタン画像C3Aが表示される。ボタン画像C3Aは、演出ボタン63を示唆する画像であり、これから演出ボタン63を用いた演出が実行され得ることを予感している。

【0694】

次に、図104（B）に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、タイマ画像C3Bとボタン画像C3Aが表示される。タイマ画像C3Bは、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図104（B）に示す

10

20

30

40

50

タイマ画像 C 3 B では、タイマ初期値として「50 秒」が示されている。

【0695】

次に、図 104 (C) に示すように、第 2 ボタン表示演出が実行される。この第 2 ボタン表示演出では、ボタン画像 C 3 C とタイマ画像 C 3 B が表示される。ボタン画像 C 3 C は、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン 6 3 が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像 C 3 C は、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像 C 3 A の色を濃くした状態、および/または、ボタン画像 C 3 A が点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像 C 3 C に隣接して、遊技者に演出ボタン 6 3 の操作を促すために、「押せ!!」の文字も表されている。タイマ画像 C 3 B は、タイマ値が「0 秒」が示されている。ボタン画像 C 3 C は、タイマ画像 C 3 B のタイマ値が「0 秒」となってから表示される。これに限られず、タイマ値が「0 秒」になる前の所定値（例えば、タイマ値が 1 秒）となってから表示されてもよい。なお、演出ボタン 6 3 の有効操作期間は、例えば、3 秒としてもよい。この場合、ボタン画像 C 3 C は、有効操作期間が過ぎるとボタン画像 C 3 A の状態に戻る。

【0696】

次に、図 104 (D) に示すように、遊技者により演出ボタン 6 3 が押下されたことに応じて、役物可動演出が実行される。この役物可動演出は、盤可動体 1 5 が展開ポジションに可動制御され、表示画面 7 a 上（表示画面 7 a を隠す位置）に配置される演出である。この役物可動演出は、チャンスアップとして機能する。

【0697】

[タイマボタン演出 B]

図 105 は、タイマボタン演出 B を説明するための図である。

タイマボタン演出 B では、まず、図 105 (A) に示すように、図 104 (A) と同様に第 1 ボタン表示演出が実行される。

【0698】

次に、図 105 (B) に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、タイマ画像 C 3 D とボタン画像 C 3 A が表示される。タイマ画像 C 3 D は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示され、ボタン画像 C 3 A 内に配置されている。図 105 (B) に示すタイマ画像 C 3 D では、タイマ初期値として「30 秒」が示されている。

【0699】

次に、図 105 (C) に示すように、第 2 ボタン表示演出が実行される。この第 2 ボタン表示演出では、ボタン画像 C 3 C とタイマ画像 C 3 D が表示される。タイマ画像 C 3 D は、ボタン画像 C 3 C 内においてタイマ値「0 秒」が示されている。ボタン画像 C 3 C は、タイマ画像 C 3 D のタイマ値が「0 秒」となってから表示される。これに限られず、タイマ値が「0 秒」になる前の所定値（例えば、タイマ値が 1 秒）となってから表示されてもよい。なお、演出ボタン 6 3 の有効操作期間は、例えば、3 秒としてもよい。この場合、ボタン画像 C 3 C は、有効操作期間が過ぎるとボタン画像 C 3 A の状態に戻る。

【0700】

次に、図 105 (D) に示すように、遊技者により演出ボタン 6 3 が押下されたことに応じて、再タイマ表示演出が実行される。この再タイマ表示演出では、再びタイマ表示が実行される演出であり、すなわち、タイマ画像 C 3 D とボタン画像 C 3 A が表示される。この場合、図 105 (B) と同様に、タイマ画像 C 3 D は、ボタン画像 C 3 A 内に配置されている。なお、図 105 (D) に示すタイマ画像 C 3 D では、タイマ初期値として図 105 (B) の場合よりも長い「50 秒」が示されている。これにより、再タイマ表示演出が大当たり期待度が高いことを示唆することができる。

【0701】

なお、上記タイマボタン演出 A, B におけるタイマ表示演出では、タイマ画像 C 3 B, C 3 D のタイマ初期値が、複数のパターン用意されている。例えば、タイマ画像 C 3 B, C 3 D のタイマ初期値として、第 1 のパターンは、図 104, 図 105 に示すように、そ

10

20

30

40

50

れぞれ５０秒，３０秒に設定され、第２のパターンは、第１のパターンよりそれぞれ長い７０秒，５０秒に設定される。この場合、タイマ画像Ｃ３Ｂ，Ｃ３Ｄのタイマ初期値として、第１のパターンが設定された場合よりも、第２のパターンが設定された場合の方が、大当たり期待度が高い構成となっている。タイマ画像Ｃ３Ｂ，Ｃ３Ｄのタイマ初期値として、第１のパターンで表示する場合、および、第２のパターンで表示する場合は、チャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能する。

【０７０２】

〔効果例〕

以下に、タイマボタン演出の効果例を示す。

〔効果１〕

上記実施形態の遊技機１では、図１０４～図１０５に示すように、タイマボタン演出Ａ，Ｂにおいて、ボタン画像Ｃ３Ａが表示されるているときに、タイマ画像が表示され、タイマ画像の表示後、タイマ画像のタイマ値が所定値（０秒）となったことに応じて、遊技者に演出ボタン６３の押下を促すボタン画像Ｃ３Ｃが表示される。この構成によれば、遊技者はボタン画像の変化をタイマ表示から認識することができ、演出ボタン６３の押下タイミングを逃すことを抑制することができる。従って、遊技者の遊技演出への参加率を向上させることができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【０７０３】

〔効果２〕

上記実施形態の遊技機１では、タイマボタン演出Ａ，Ｂは、１回の変動演出中に実行される。この構成によれば、タイマ値が１回の変動演出中に初期値（５０秒または３０秒）から所定値（０秒）まで移行するので、遊技者はボタン画像の変化をタイマ表示から過誤なく認識することができ、演出ボタン６３の押下タイミングを逃すことを抑制することができる。従って、遊技者の遊技演出への参加率を向上させることができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【０７０４】

〔効果３〕

上記実施形態の遊技機１では、図１０５に示すように、タイマボタン演出Ｂにおいて、ボタン画像Ｃ３Ａが表示されるているときに、タイマ画像Ｃ３Ｄが表示され、タイマ画像Ｃ３Ｄの表示後、タイマ画像Ｃ３Ｄのタイマ値が所定値（０秒）となったことに応じて、遊技者に演出ボタン６３の押下を促すボタン画像Ｃ３Ｃが表示され、遊技者が演出ボタン６３を押下したことに応じて、タイマ画像Ｃ３Ｄとボタン画像Ｃ３Ａが再び表示される再タイマ表示演出が実行される。この構成によれば、遊技者はボタン画像の変化をタイマ表示から認識することができ、演出ボタン６３の押下タイミングを逃すことを抑制することができると共に、演出ボタン６３の押下後に再度タイマ表示が実行されるので、遊技者にサプライズを付与することができる。従って、遊技者の遊技演出への参加率を向上させつつ、遊技者の遊技意欲の向上を図ることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【０７０５】

〔効果４〕

上記実施形態の遊技機１では、図１０５に示すように、タイマボタン演出Ｂにおいて、タイマ画像Ｃ３Ｄは、ボタン画像Ｃ３Ａ内に表示される。この構成によれば、タイマ表示により演出ボタン６３に関連する演出（ボタン押下演出など）を遊技者に強く予感させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【０７０６】

〔効果５〕

上記実施形態の遊技機１では、タイマボタン演出Ａ，Ｂにおいて、タイマ画像Ｃ３Ｂ，Ｃ３Ｄのタイマ初期値として、第１のパターンで表示する場合と、第２のパターンで表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能する。この構成によれば、タイマ初期値でチャンスアップ演出を創出することができ

10

20

30

40

50

るので、遊技の興趣を向上させることができる。

【0707】

[効果6]

上記実施形態の遊技機1では、タイマボタン演出A、Bにおいて、タイマ画像C3B、C3Dのタイマ初期値として、第1のパターンで表示する場合と、第2のパターンで表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能し、第1のパターンが設定された場合よりも、第2のパターンが設定された場合の方が、大当たり期待度が高い構成となっている。この構成によれば、タイマ初期値でチャンスアップ演出を創出することができると共に、遊技者はタイマ初期値として第2のパターンの出現を心待ちにすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【0708】

[変形例]

以下に、タイマボタン演出の変形例を示す。

[変形例1]

上記実施形態の遊技機1では、図104～図105に示すように、タイマボタン演出A、Bにおいて、第2ボタン演出で、ボタン画像C3Cが表示され、遊技者によって演出ボタン63が押下されると、当該押下に応じて、役物可動演出や再タイマ表示演出が実行されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、第2ボタン演出で、ボタン画像C3Cが表示されたにも拘わらず、遊技者によって演出ボタン63が押下されなかった場合であっても、役物可動演出や再タイマ表示演出が実行されてもよい。

20

【0709】

[変形例2]

上記実施形態の遊技機1では、タイマボタン演出A、Bは、1回の変動演出中に実行されているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、タイマボタン演出A、Bは、複数の変動演出にまたがって実行されてもよい。

【0710】

[変形例3]

上記実施形態の遊技機1では、図104～図105に示すタイマボタン演出において、1つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、2つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

30

【0711】

[変形例4]

上記実施形態の遊技機1では、図104～図105に示すように、タイマ画像C3B、C3Dは、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像C3B、C3Dは、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したタイムアウト表示演出が実行され得る。

【0712】

[変形例5]

上記実施形態の遊技機1では、タイマボタン演出A、Bにおいて、タイマ画像C3B、C3Dのタイマ初期値として、第1のパターンで表示する場合と、第2のパターンで表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能し、第1のパターンが設定された場合よりも、第2のパターンが設定された場合の方が、大当たり期待度が高い構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、タイマボタン演出A、Bにおいて、タイマ画像C3B、C3Dのタイマ初期値が表示される場合に、当該タイマ画像を第1の色（例えば、青）で表示する場合と、第2の色（例えば、金色）で表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能し、第1の色が設定された場合よりも、第2の色が設定された場合の方が、大当たり期待度が高い構成とするようにしてもよい。

40

【0713】

50

〔変形例 6〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 104～図 105 に示すように、タイマボタン演出 A、B において、第 2 ボタン演出で、ボタン画像 C3C が表示され、遊技者によって演出ボタン 63 が押下されると、当該押下に応じて、役物可動演出や再タイマ表示演出が実行されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、第 2 ボタン演出で、ボタン画像 C3C が表示され、遊技者によって演出ボタン 63 が押下されると、当該押下に応じて、擬似連演出、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、大当たり期待度示唆演出、保留変化予告、または、先読み開始予告などの演出が実行されてもよい。

【0714】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 C3-1〕

複数の表示演出を実行可能な演出表示手段と、
遊技者が操作可能な操作部と、
を備える遊技機であって、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 1 の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 2 の表示演出をおこなう場合があり、
前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 3 の表示演出をおこなう場合があり、
前記第 1 の表示演出は、前記操作部を表す第 1 の操作部画像を表示する演出であり、
前記第 2 の表示演出は、第 1 のタイマ表示をおこなう演出であり、

前記第 3 の表示演出は、前記操作部を表す操作部画像であって遊技者に前記操作部の操作を促す第 2 の操作部画像を表示する演出であり、

前記第 1 の表示演出と前記第 2 の表示演出と前記第 3 の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれているときに前記第 2 の表示演出がおこなわれ、前記第 2 の表示演出における前記第 1 のタイマ表示のタイマ値が所定値となったことに応じて前記第 3 の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 C3-2〕

図柄の変動表示を開始させた後、停止させる図柄変動表示をおこなうことが可能な図柄表示手段を備え、

前記組み合わせ演出は、1 回の前記図柄変動表示中におこなわれる場合がある、

ことを特徴する態様 C3-1 に記載の遊技機。

〔態様 C3-3〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 4 の表示演出をおこなう場合があり、
前記第 4 の表示演出は、第 2 のタイマ表示をおこなう演出であり、

前記組み合わせ演出は、第 4 の表示演出を含む場合がある演出であり、

当該組み合わせ演出では、前記第 3 の表示演出がおこなわれ、遊技者により前記操作部の操作がなされた場合に、前記第 4 の表示演出がおこなわれる、

ことを特徴とする態様 C3-1 または態様 C3-2 に記載の遊技機。

〔態様 C3-4〕

前記組み合わせ演出において、前記第 2 の表示演出における前記第 1 のタイマ表示は、前記第 1 の操作部画像が表示された領域に表示される場合がある、

ことを特徴とする態様 C3-1 から態様 C3-3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 C3-5〕

前記第 2 の表示演出における前記第 1 のタイマ表示は、第 1 の態様のタイマ表示と、第 2 の態様のタイマ表示とを含む複数の態様のタイマ表示のうちの一つの態様のタイマ表示がおこなわれ、

前記第 2 の表示演出において、前記第 1 のタイマ表示が前記第 1 の態様のタイマ表示であるときには、第 1 のチャンスアップ表示として機能し、

10

20

30

40

50

前記第2の表示演出において、前記第1のタイマ表示が前記第2の態様のタイマ表示であるときには、第1のチャンスアップ表示よりも大当たり期待度が高い第2のチャンスアップ表示として機能する、

ことを特徴とする態様C3-1から態様C3-4までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様C3-6〕

前記第1のタイマ表示の前記第1の態様のタイマ表示は、タイマ値の初期値が第1の長さであり、

前記第1のタイマ表示の前記第2の態様のタイマ表示は、タイマ値の初期値が前記第1の長さよりも長い第2の長さである、

ことを特徴とする態様C3-5に記載の遊技機。

【0715】

以下に図106～図107を用いてタイマ擬似連演出について説明する。このタイマ擬似連演出は、装飾図柄の変動演出中（1回の変動演出中）、例えば、装飾図柄の変動開始時、リーチ演出中などに実行され得る。

【0716】

〔タイマ擬似連演出A〕

図106は、タイマ擬似連演出Aを説明するための図である。

タイマ擬似連演出Aでは、まず、図106（A）に示すように、タイマ表示演出が実行される。このタイマ表示演出では、タイマ画像C4Aが表示される。タイマ画像C4Aは、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示される。図106（A）に示すタイマ画像C4Aでは、タイマ初期値としての「15秒」が示されている。

【0717】

次に、図106（B）に示すように、ボタン押下演出Aが実行される。ボタン押下演出Aでは、ボタン画像C4Bとタイマ画像C4Aとが表示される。ボタン画像C4Bは、遊技者に演出ボタン63の操作を促すための画像であり、言い換えれば、演出ボタン63が有効操作期間中であることを示す画像である。具体的には、ボタン画像C4Bは、画像中に「PUSH」と表され、ボタン画像C4Dの色を濃くした状態、および/または、ボタン画像C4Dが点灯しているかのような状態を表した画像である。また、ボタン画像C4Bに隣接して、遊技者に演出ボタン63の操作を促すために、「押せ！！」の文字も表されている。タイマ画像C4Aは、タイマ値が「0秒」が示されている。ボタン画像C4Bは、タイマ画像C4Aのタイマ値が「0秒」となってから表示される。これに限られず、タイマ値が「0秒」になる前の所定値（例えば、タイマ値が1秒）となってから表示されてもよい。なお、演出ボタン63の有効操作期間は、例えば、3秒としてもよい。この場合、ボタン画像C4Bは、有効操作期間が過ぎると消失する。

【0718】

次に、図106（C）に示すように、擬似連演出Aが実行される。擬似連演出Aでは、擬似連示唆画像C4Cが表示される。擬似連示唆画像C4Cは、擬似連演出を連想させる画像であり、詳しくは、擬似連演出が2回目であることを示唆する「擬似×2」が示されている。また、装飾図柄8L、8Rが7図柄で仮停止され、装飾図柄8Cが擬似連演出を示唆するロゴ図柄で仮停止されている。すなわち、装飾図柄に8L、8C、8Rは、「7、ロゴ図柄、7」の態様で仮停止されている。

擬似連演出後は、所定の演出が実行される。所定の演出としては、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、または、先読み開始予告など種々の演出が実行され得る。

なお、擬似連演出とは、変動変出の開始時やリーチ演出中等において実行される演出であり、例えば、装飾図柄を変動開始させ仮停止させる演出を繰り返す演出、装飾図柄の所定の図柄配列の少なくとも一部を仮停止させる演出を繰り返す演出、予め決められたロゴを仮停止させる演出を繰り返す演出、または、「×2」、「×3」、「擬似」など擬似連を連想させる表示と共に、装飾図柄の変動演出を実行させる演出を含む。

10

20

30

40

50

【0719】

[タイマ擬似連演出B]

図107は、タイマ擬似連演出Bを説明するための図である。

タイマ擬似連演出Bでは、まず、図107(A)に示すように、タイマボタン表示演出Aが実行される。このタイマボタン表示演出Aでは、タイマ画像C4Aと、ボタン画像C4Dとが表示される。ボタン画像C4Dは、演出ボタン63を示唆する画像であり、これから演出ボタン63を用いた演出が実行され得ることを予感している。タイマ画像C4Aは、図106(A)のタイマ画像C4Aと同様であり、タイマ値がカウントダウン方式で表示され、タイマの初期値としての「15秒」が示されている。

【0720】

次に、図107(B)に示すように、図106(B)と同様にボタン押下演出Aが実行される。

次に、図107(C)に示すように、図106(C)と同様に擬似連演出Aが実行される。

【0721】

次に、図107(D)に示すように、タイマボタン表示演出Bが実行される。タイマボタン表示演出Bでは、このタイマボタン表示演出Bでは、タイマ画像C4Aと、ボタン画像C4Dとが表示される。ボタン画像C4Dは、図107(A)のボタン画像C4Dと同様である。タイマ画像C4Aは、タイマの初期値としての「30秒」が示されている。

【0722】

次に、図107(E)に示すように、図107(B)と同様に、ボタン押下演出Bが実行される。

次に、図107(F)に示すように、擬似連演出Bが実行される。擬似連演出Bでは、擬似連示唆画像C4Eが表示される。擬似連示唆画像C4Eは、擬似連演出を連想させる画像であり、詳しくは、擬似連演出が3回目であることを示唆する「擬似×3」が示されている。また、装飾図柄8L、8Rが7図柄で仮停止され、装飾図柄8Cが擬似連演出を示唆するロゴ図柄で仮停止されている。すなわち、装飾図柄に8L、8C、8Rは、「7、ロゴ図柄、7」の態様で仮停止されている。

擬似連演出B後は、所定の演出が実行される。所定の演出としては、リーチ演出、スーパーリーチ演出、チャンスアップ演出（大当たり期待度示唆演出）、大当たり予告演出、リーチ発展先予告演出、保留変化予告、または、先読み開始予告など種々の演出が実行され得る。

【0723】

なお、上記タイマ擬似連演出A、Bにおけるタイマ表示演出では、タイマ画像C4Aのタイマ初期値が、複数のパターン用意されている。例えば、タイマ画像C4Aのタイマ初期値として、第1のパターンは、図107に示すように、15秒に設定され、第2のパターンは、第1のパターンより長い30秒に設定される。この場合、タイマ表示演出において、タイマ画像C4Aのタイマ初期値として、第1のパターンが設定された場合よりも、第2のパターンが設定された場合の方が、タイマ擬似連演出Bとなる確率、すなわち、擬似連演出の後、再度、擬似連演出（図107(F)参照）が行われる確率が高い構成となっている。タイマ画像C4Aのタイマ初期値として、第1のパターンで表示する場合、および、第2のパターンで表示する場合は、チャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能する。

【0724】

[効果例]

以下に、タイマ擬似連演出の効果例を示す。

[効果1]

上記実施形態の遊技機1では、図106～図107に示すように、タイマ擬似連演出A、Bにおいて、タイマ画像C4Aが表示され、タイマ画像C4Aのタイマ値が所定値（0秒）となったことに応じて、遊技者に演出ボタン63の押下を促すボタン画像C4Bが表

10

20

30

40

50

示され、遊技者が演出ボタン63の押下をおこなったことに応じて擬似連演出が実行される。この構成によれば、単に擬似連演出が実行されるよりも、サプライズ感を創出することができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0725】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図107に示すように、タイマ擬似連演出Bにおいて、これから演出ボタン63を用いたボタン演出が行われることを示唆するボタン画像C4Dとタイマ画像C4Aが表示され、タイマ画像C4Aのタイマ値が所定値（0秒）となったことに応じて、遊技者に演出ボタン63の押下を促すボタン画像C4Bが表示され、遊技者が演出ボタン63の押下をおこなったことに応じて擬似連演出が実行される。この構成によれば、ボタン画像C4Dが表示されることにより、擬似連演出の実行が予感され、遊技の進行にドキドキ感を付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【0726】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、タイマ擬似連演出A、Bは、1回の変動演出中に実行される。この構成によれば、タイマ値が1回の変動演出中に初期値から所定値（0秒）まで移行するので、遊技者はボタン画像の変化をタイマ表示から過誤なく認識することができ、演出ボタン63の押下タイミングを逃すことを抑制することができる。従って、遊技者の遊技演出への参加率を向上させることができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

20

【0727】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図107に示すように、タイマ擬似連演出Bにおいて、擬似連演出Aの実行後、再度、タイマボタン表示演出が実行される（図107（D）参照）。この構成によれば、遊技者にサプライズを付与できると共に、再び擬似連演出が実現されることへの期待感を付与することができ、その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

【0728】

〔効果5〕

上記実施形態の遊技機1では、タイマ擬似連演出A、Bにおいて、タイマ画像C4Aのタイマ初期値として、第1のパターンで表示する場合と、第2のパターンで表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能する。この構成によれば、タイマ初期値でチャンスアップ演出を創出することができるので、遊技の興趣を向上させることができる。

30

【0729】

〔効果6〕

上記実施形態の遊技機1では、タイマ擬似連演出A、Bにおいて、タイマ画像C4Aのタイマ初期値として、第1のパターンで表示する場合と、第2のパターンで表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能し、第1のパターンが設定された場合よりも、第2のパターンが設定された場合の方が、タイマ擬似連演出Bとなる確率、すなわち、擬似連演出の後、再度、擬似連演出（図107（F）参照）が行われる確率が高い構成となっている。この構成によれば、タイマ初期値でチャンスアップ演出を創出できると共に、遊技者はタイマ初期値として第2のパターンの出現を心待ちにすることができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

40

【0730】

〔変形例〕

以下に、タイマ擬似連演出の変形例を示す。

〔変形例1〕

50

上記実施形態の遊技機 1 では、図 106～図 107 に示すように、タイマ擬似連演出 A、B において、ボタン押下演出で、ボタン画像 C4B が表示され、遊技者によって演出ボタン 63 が押下されると、当該押下に応じて、擬似連演出が実行されているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、ボタン押下演出で、ボタン画像 C4B が表示されたにも拘わらず、遊技者によって演出ボタン 63 が押下されなかった場合であっても、擬似連演出が実行されてもよい。

【0731】

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、タイマ擬似連演出 A、B は、1 回の変動演出中に実行されているが、本発明は、これに限られるものではなく、例えば、タイマ擬似連演出 A、B は、複数の変動演出にまたがって実行されてもよい。

【0732】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 106～図 107 に示すように、タイマ画像 C4A は、タイマ値がカウントダウンしていくカウントダウン方式で表示されるが、本発明はこれに限られるものではない。例えば、タイマ画像 C4A は、タイマ値がカウントアップしていくカウントアップ方式で表示されてもよい。この場合、予め決められた値になると、上述したタイムアウト表示演出が実行され得る。

【0733】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、タイマ擬似連演出 A、B において、タイマ画像 C4A のタイマ初期値として、第 1 のパターンで表示する場合と、第 2 のパターンで表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能し、第 1 のパターンが設定された場合よりも、第 2 のパターンが設定された場合の方が、タイマ擬似連演出 B となる確率、すなわち、擬似連演出の後、再度、擬似連演出（図 107（F）参照）が行われる確率が高い構成となっているが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、タイマ擬似連演出 A、B において、タイマ画像 C4A のタイマ初期値が表示される場合に、当該タイマ画像を第 1 の色（例えば、青）で表示する場合と、第 2 の色（例えば、金色）で表示する場合とがあり、これらがそれぞれチャンスアップ演出（チャンスアップ表示）として機能し、第 1 の色が設定された場合よりも、第 2 の色が設定された場合の方が、タイマ擬似連演出 B となる確率、すなわち、擬似連演出の後、再度、擬似連演出（図 107（F）参照）が行われる確率が高い構成とするようにしてもよい。

【0734】

〔変形例 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 106～図 107 に示すタイマ擬似連演出 A、B において、1 つのタイマ画像を表示しているが、本発明は、これに限られるものではなく、2 つ以上のタイマ画像を同時に表示するようにしてもよい。

【0735】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

◇〔態様 C4-1〕

複数種類の表示演出を実行可能な演出表示手段と、

遊技者が操作可能な操作部と、

を備える遊技機であって、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 1 の表示演出をおこなう場合があり、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 2 の表示演出をおこなう場合があり、

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 3 の表示演出をおこなう場合があり、

前記第 1 の表示演出は、第 1 のタイマ表示をおこなう演出であり、

前記第 2 の表示演出は、前記操作部を表す操作部画像であって遊技者に前記操作部の操作を促す第 1 の操作部画像を表示する演出であり、

10

20

30

40

50

前記第 3 の表示演出は、擬似連演出であり、

前記第 1 の表示演出と前記第 2 の表示演出と前記第 3 の表示演出とを含む組み合わせ演出がおこなわれる場合があり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれ、前記第 1 の表示演出における前記第 1 のタイマ表示のタイマ値が所定値となったことに応じて前記第 2 の表示演出がおこなわれ、遊技者が前記操作部の操作をおこなったことに応じて前記第 3 の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする遊技機。

〔態様 C 4-2〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 4 の表示演出をおこなう場合があり、

前記第 4 の表示演出は、前記操作部を表す第 2 の操作部画像を表示する演出であり、

前記組み合わせ演出は、第 4 の表示演出を含む場合がある演出であり、

前記組み合わせ演出では、前記第 1 の表示演出がおこなわれるときに、前記第 4 の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様 C 4-1 に記載の遊技機。

〔態様 C 4-3〕

図柄の変動表示を開始させた後、停止させる図柄変動表示をおこなうことが可能な図柄表示手段を備え、

前記組み合わせ演出は、1 回の前記図柄変動表示中におこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様 C 4-1 または態様 C 4-2 に記載の遊技機。

〔態様 C 4-4〕

前記複数の表示演出のうちの一つの演出として、第 5 の表示演出をおこなう場合があり、

前記第 5 の表示演出は、第 2 のタイマ表示をおこなう演出であり、

前記組み合わせ演出は、第 5 の表示演出を含む場合がある演出であり、

前記組み合わせ演出では、前記第 3 の表示演出がおこなわれた後に、前記第 5 の表示演出がおこなわれる場合がある、

ことを特徴とする態様 C 4-1 から態様 C 4-3 までのいずれか一項に記載の遊技機。

〔態様 C 4-5〕

前記第 1 の表示演出における前記第 1 のタイマ表示は、第 1 の態様のタイマ表示と、第 2 の態様のタイマ表示とを含む複数の態様のタイマ表示のうちの一つの態様のタイマ表示がおこなわれ、

前記第 1 の表示演出において、前記第 1 のタイマ表示が前記第 1 の態様のタイマ表示であるときには、第 1 のチャンスアップ表示として機能し、

前記第 1 の表示演出において、前記第 1 のタイマ表示が前記第 2 の態様のタイマ表示であるときには、前記組み合わせ演出において前記第 3 の表示演出がおこなわれた後に前記第 5 の表示演出がおこなわれる期待度が第 1 のチャンスアップ表示よりも高い第 2 のチャンスアップ表示として機能する、

ことを特徴とする態様 C 4-4 に記載の遊技機。

〔態様 C 4-6〕

前記第 1 のタイマ表示の前記第 1 の態様のタイマ表示は、タイマ値の初期値が第 1 の長さであり、

前記タイマ表示の前記第 2 の態様のタイマ表示は、タイマ値の初期値が前記第 1 の長さよりも長い第 2 の長さである、

ことを特徴とする態様 C 4-5 に記載の遊技機。

〔0736〕

以下に図 108～図 110 を用いて保留チェンジ演出について説明する。この保留チェンジ演出は、装飾図柄の変動演出に並行して行われる。もちろん、リーチ演出（スーパーリーチ演出）などの実行中を含む。

〔0737〕

〔保留チェンジ演出 A〕

10

20

30

40

50

図108は、保留チェンジ演出Aを説明するための図である。保留チェンジ演出Aは、先読み演出の一つとして実行される。つまり、上述した先読み演出パターンA，Bの一態様として実行される。保留チェンジ演出Aには、先読み演出パターンに基づく2つの態様がある。

【0738】

まず、保留チェンジ演出Aでは、図108（A）に示すように、変動開始演出が実行される。この変動開始演出では、変動中の装飾図柄が左上に表示される。また、画面下部には、保留画像9Aおよび保留消化画像9Cが表示されている。

【0739】

変動開始演出に続く一つの態様として、図108（B）に示すように、チェンジ表示演出（1）が実行される。チェンジ表示演出（1）では、「Change」と記された楕円形のチェンジ画像CG1が表示される。このとき、チェンジ画像CG1における文字背景色は、青色となっている。

10

【0740】

次に図108（C）に示すように、チェンジ移動演出（1）が実行される。チェンジ移動演出（1）では、チェンジ画像CG1が保留画像9Aのうちの一つである保留画像HGWへ吸い込まれるような演出が行われる。保留画像HGWは白色で表示されている。この保留画像HGWが先読み演出の対象保留に対応する。

【0741】

次に図108（D）に示すように、保留変化演出（1）が行われる。保留変化演出（1）では、白色の保留画像HGWがチェンジ画像CG1と同様の青色の保留画像HGBに変化する。

20

【0742】

一方、変動開始演出に続く別の態様として、図108（E）に示すように、チェンジ表示演出（2）が実行される。チェンジ表示演出（2）では、「Change」と記された楕円形のチェンジ画像CG2が表示される。このとき、チェンジ画像CG2における文字背景色は、赤色となっている。

【0743】

次に図108（F）に示すように、チェンジ移動演出（2）が実行される。チェンジ移動演出（2）では、チェンジ画像CG2が保留画像9Aのうちの一つである保留画像HGWへ吸い込まれるような演出が行われる。保留画像HGWは白色で表示されている。

30

【0744】

次に図108（G）に示すように、保留変化演出（2）が行われる。保留変化演出（2）では、白色の保留画像HGWがチェンジ画像CG2と同様の赤色の保留画像HGRに変化する。

【0745】

〔保留チェンジ演出B〕

図109は、保留チェンジ演出Bを説明するための図である。保留チェンジ演出Bは、先読み演出の一つとして実行される。つまり、上述した先読み演出パターンA，Bの一態様として実行される。

40

【0746】

まず、保留チェンジ演出Bでは、図109（A）に示すように、変動開始演出が実行される。この変動開始演出では、変動中の装飾図柄が左上に表示される。また、画面下部には、保留画像9Aおよび保留消化画像9Cが表示されている。

【0747】

次に図109（B）に示すように、チェンジ表示演出（1）が実行される。チェンジ表示演出（1）では、「Change」と記された楕円形のチェンジ画像CG1が表示される。このとき、チェンジ画像CG1における文字背景色は、青色となっている。

【0748】

次に図109（C）に示すように、チェンジ移動演出（1）が実行される。チェンジ移

50

動演出（１）では、チェンジ画像ＣＧ１が保留画像９Ａのうちの一つである保留画像ＨＧＷへ吸い込まれるような演出が行われる。保留画像ＨＧＷは白色で表示されている。

【０７４９】

次に図１０９（Ｄ）に示すように、保留変化演出（１）が行われる。保留変化演出（１）では、白色の保留画像ＨＧＷがチェンジ画像ＣＧ１と同様の青色の保留画像ＨＧＢに変化する。

【０７５０】

次に図１０９（Ｅ）に示すように、図１０９（Ｂ）と同様に、チェンジ画像ＣＧ１が表示されるチェンジ表示演出（１）が実行される。

次に図１０９（Ｆ）に示すように、図１０９（Ｃ）と同様にチェンジ移動演出（１）が実行され、チェンジ画像ＣＧ１が、保留画像ＨＧＷから変化した保留画像ＨＧＢへ吸い込まれるような演出が行われる。

次に図１０９（Ｇ）に示すように、保留変化演出（２）が行われる。保留変化演出（２）では、青色の保留画像ＨＧＢがさらに赤色の保留画像ＨＧＲに変化する。

【０７５１】

〔保留チェンジ演出Ｃ〕

図１１０は、保留チェンジ演出Ｃを説明するための図である。保留チェンジ演出Ｃは、先読み演出の一つとして実行される。つまり、上述した先読み演出パターンＡ，Ｂの一態様として実行される。

【０７５２】

まず、保留チェンジ演出Ｃでは、図１１０（Ａ）に示すように、変動開始演出が実行される。この変動開始演出では、変動中の装飾図柄が左上に表示される。また、画面下部には、保留画像９Ａおよび保留消化画像９Ｃが表示されている。

【０７５３】

次に図１１０（Ｂ）に示すように、ボタン押下促進演出が実行される。ボタン押下促進演出では、画面右寄りに演出ボタン６３を示すボタン画像ＢＢが表示され、ボタン画像ＢＢとともに「連打！」というテキスト画像ＴＧが表示される。これにより、演出ボタン６３の連打を遊技者に促す。

【０７５４】

次に図１１０（Ｃ）に示すように、チェンジ表示演出（１）が実行される。チェンジ表示演出（１）では、「Ｃｈａｎｇｅ」と記された楕円形のチェンジ画像ＣＧ１が表示される。このとき、チェンジ画像ＣＧ１における文字背景色は、青色となっている。このとき、ボタン押下促進演出も並行して行われる。

【０７５５】

次に図１１０（Ｄ）に示すように、チェンジ表示演出（２）が実行される。チェンジ表示演出（２）では、「Ｃｈａｎｇｅ」と記された楕円形のチェンジ画像ＣＧ２が表示される。このとき、チェンジ画像ＣＧ２における文字背景色は、赤色となっている。このとき、ボタン押下促進演出も並行して行われる。

【０７５６】

つまり、ボタン押下促進演出が実行されることで遊技者が演出ボタン６３を連打すると、最初は青色のチェンジ画像ＣＧ１が表示され、続けて、赤色のチェンジ画像ＣＧ２が表示されるのである。

【０７５７】

次に図１１０（Ｅ）に示すように、チェンジ移動演出（２）が実行される。チェンジ移動演出（２）では、チェンジ画像ＣＧ２が保留画像９Ａのうちの一つである保留画像ＨＧＷへ吸い込まれるような演出が行われる。保留画像ＨＧＷは白色で表示されている。

【０７５８】

次に図１１０（Ｆ）に示すように、保留変化演出（２）が行われる。保留変化演出（２）では、白色の保留画像ＨＧＷがチェンジ画像ＣＧ２と同様の赤色の保留画像ＨＧＲに変化する。

10

20

30

40

50

【0759】

〔効果例〕

以下に、本実施形態における効果例を示す。

〔効果1〕

上記実施形態の遊技機1では、図108～図110に示したように、チェンジ表示演出として、「Change」と記された楕円形のチェンジ画像が表示される。このチェンジ画像に対応させて保留画像HGWが変化させられる。この構成によれば、チェンジ画像によって保留画像の変化を期待させることができ、興趣を向上させることができる。

【0760】

〔効果2〕

上記実施形態の遊技機1では、図108（B）に示すように青色のチェンジ画像CG1が表示されると、図108（C）および図108（D）に示すように、白色の保留画像HGWが青色の保留画像HGBに変化させられる。また、図108（E）に示すように赤色のチェンジ画像CG2が表示されると、図108（F）および図108（G）に示すように、白色の保留画像HGWが赤色の保留画像HGRに変化させられる。この構成によれば、表示されるチェンジ画像CG1，CG2によって保留画像HGB，HGRへの変化を期待させることができ、興趣を向上させることができる。

【0761】

〔効果3〕

上記実施形態の遊技機1では、図109（B）に示すように青色のチェンジ画像CG1が表示されると、図109（C）および図109（D）に示すように、白色の保留画像HGWが青色の保留画像HGBに変化させられる。さらに、図109（E）に示すように青色のチェンジ画像CG1が再度表示されると、図109（F）および図109（G）に示すように、青色の保留画像HGBが赤色の保留画像HGRに変化させられる。この構成によれば、チェンジ画像CG1の再度の表示によって保留画像HGRへの変化を期待させることができ、興趣を向上させることができる。

【0762】

〔効果4〕

上記実施形態の遊技機1では、図108（C），（F）、図109（C），（F）、図110（E）に示したように、チェンジ移動演出が行われる。チェンジ移動演出では、チェンジ移動演出では、チェンジ画像が保留画像9Aのうちの一つである保留画像へ吸い込まれるような演出が行われて、保留画像が変化させられる。この構成によれば、保留画像の変化を演出することができ、興趣を向上させることができる。

【0763】

〔効果5〕

上記実施形態の遊技機1では、図110（B）に示すように、ボタン押下促進演出が実行され、演出ボタン63の連打を遊技者に促す。そして、遊技者が演出ボタン63を連打することにより、図110（C）および図110（D）に示したように、チェンジ画像CG1，CG2が表示される。この構成によれば、演出ボタン63の操作でチェンジ画像CG1，CG2が表示されるため、興趣を向上させることができる。

【0764】

〔変形例〕

以下に、本実施形態における変形例を示す。

〔変形例1〕

上記実施形態の遊技機1では、図108～図110に示したように、チェンジ表示演出として、「Change」と記された楕円形のチェンジ画像が表示される。このチェンジ画像に対応させて保留画像HGWが変化させられる。ここでは青色のチェンジ画像CG1と赤色のチェンジ画像CG2を例に挙げたが、本発明は、これに限られるものではない。例えば、チェンジ画像の種類は3種類以上あってもよい。

【0765】

10

20

30

40

50

〔変形例 2〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 108 (B) に示すように青色のチェンジ画像 C G 1 が表示されると青色の保留画像 H G B に変化し、図 108 (E) に示すように赤色のチェンジ画像 C G 2 が表示されると赤色の保留画像 H G R に変化する。つまり、チェンジ画像と変化後の保留画像とが一对一に対応している。これに対し、2 種類以上のチェンジ画像が一の保留画像に対応していてもよいし、一のチェンジ画像が 2 種類以上の保留画像に対応していてもよい。

【0766】

〔変形例 3〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 110 (B) に示すように、ボタン押下促進演出が実行され、演出ボタン 63 の連打を遊技者に促す。そして、遊技者が演出ボタン 63 を連打することにより、図 110 (C) および図 110 (D) に示したように、チェンジ画像 C G 1, C G 2 が表示される。これに対し、演出ボタン 63 を操作せずとも、図 110 (C) および図 110 (D) に示したチェンジ表示演出を行うようにしてもよい。

10

【0767】

〔変形例 4〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 110 (B) に示すように、ボタン押下促進演出が実行され、演出ボタン 63 の連打を遊技者に促す。そして、遊技者が演出ボタン 63 を連打することにより、図 110 (C) および図 110 (D) に示したように、チェンジ画像 C G 1, C G 2 が表示される。これに対し、演出ボタン 63 を操作しない場合には、図 110 (C) および図 110 (D) に示したチェンジ表示演出を行わずに、図 110 (B) に続けて図 110 (F) に示したような保留変化演出を行うようにしてもよい。

20

【0768】

〔変形例 5〕

上記実施形態の遊技機 1 では、図 110 (B) に示すように、ボタン押下促進演出が実行され、演出ボタン 63 の連打を遊技者に促す。そして、遊技者が演出ボタン 63 を連打することにより、図 110 (C) および図 110 (D) に示したように、チェンジ画像 C G 1, C G 2 が表示される。これに対する別の態様として、演出ボタン 63 を連打したときに、図 110 (D) に示すようなチェンジ表示演出 (2) には移行しないような演出としてもよい。この場合、図 108 (C) および図 108 (D) に示したのと同様に、チェンジ移動演出 (1)、保留変化演出 (1) を実行するようにすることが考えられる。

30

【0769】

〔態様例〕

本実施形態の遊技機では、以下の態様を実現可能である。

〔態様 C 5-1〕

保留数を保留画像の表示数によって報知可能な表示手段と、
複数の演出を実行可能な演出手段と、を備えた遊技機であって、
前記演出手段は、前記保留画像の変化を予告する複数の変化予告画像を表示可能となっており、

前記複数の変化予告画像に対応させて前記保留画像を変化させる
ことを特徴とする遊技機。

40

【0770】

〔態様 C 5-2〕

前記保留画像のうちの一つに対し、第 1 の変化予告画像が表示されると当該保留画像を第 1 の保留画像に変化させ、第 2 の変化予告画像が表示されると当該保留画像を第 2 の保留画像に変化させる
ことを特徴とする遊技機。

【0771】

〔態様 C 5-3〕

前記前記保留画像のうちの一つに対し、第 1 の変化予告画像が表示されると当該保留画

50

像を第 1 の保留画像に変化させ、再度第 1 の変化予告画像が表示されると当該保留画像を第 2 の保留画像に変化させる

ことを特徴とする遊技機。

【0772】

〔態様 C 5-4〕

表示された前記変化予告画像が前記保留画像のうちの一つに作用し、その後、当該保留画像を変化させる

ことを特徴とする遊技機。

【0773】

〔態様 C 5-5〕

遊技者が操作可能な操作手段をさらに備え、

前記複数の変化予告画像は、前記操作手段の操作の後に表示される

ことを特徴とする遊技機。

【0774】

〔その他の変形例〕

上記実施形態の遊技機 1 は、パチンコ遊技機を例に挙げて説明したが、これに限られるものではない。例えば、パチンコ遊技機に代えて、スロットマシン等の回胴式遊技機、アレンジボール遊技機、または、雀球遊技機に本発明を適用するようにしてもよい。遊技機 1 をスロットマシンとする場合には、遊技媒体を遊技球から遊技メダルに変更すればよい。

【0775】

上記実施形態の遊技機 1 では、遊技者に操作させる操作部として演出ボタン 63 を備えているが、これに限られず、遊技者に操作させる操作部として、レバーや、トリガーなどを用いてもよい。また、上記実施形態の遊技機 1 における表示演出において、演出ボタン 63 を表すボタン画像を用いて表示演出を実行する場合があるが、これに代えて剣部材 64 を表す画像を用いて表示演出を実行するようにしてもよいし、レバーやトリガーを表す画像を用いて表示演出を実行するようにしてもよい。

【0776】

上記実施形態の遊技機 1 では、タイマ表示として、タイマ画像のタイマ値を用いて時間を表しているが、これに限られず、タイマ表示として、メータ方式またはインジケータ方式で時間を表してもよい。

【0777】

上記実施形態の遊技機 1 は、玉を払出するための払出装置を搭載した遊技機であったが、これに限られるものではない。例えば、上記遊技機 1 に代えて、所謂封入式遊技機のように、払い出し装置を搭載しない遊技機に本発明を適用するようにしてもよい。

【0778】

また、上述した複数の演出例および/または変形例のうち、2 つ以上の演出例および/または変形例を組み合わせてもよい。さらに、遊技機 1 は、画像表示装置 7 の他にサブ表示装置を備えてもよい。この場合、上述した表示演出を当該サブ表示装置で実行するようにしてもよい。

【0779】

以上、実施形態、変形例に基づき本態様について説明してきたが、上記した態様の実施の形態は、本態様の理解を容易にするためのものであり、本態様を限定するものではない。本態様は、その趣旨並びに特許請求の範囲を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本態様にはその等価物が含まれる。

【符号の説明】

【0780】

1 … 遊技機

3 … 遊技領域

7 … 画像表示装置

9A … 第 1 保留アイコン

10

20

30

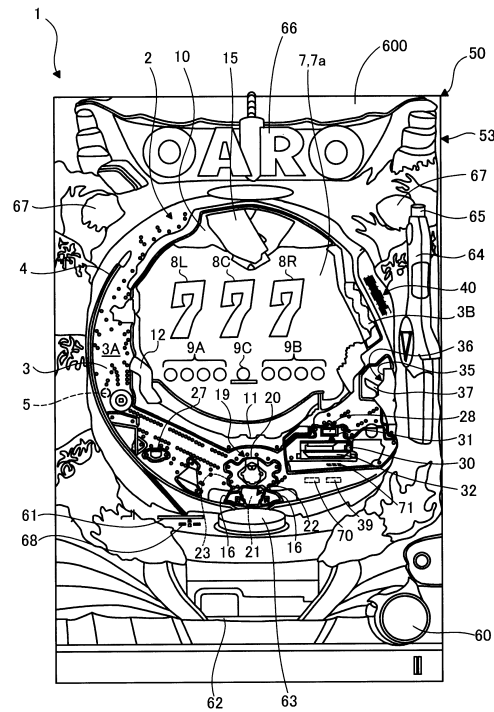
40

50

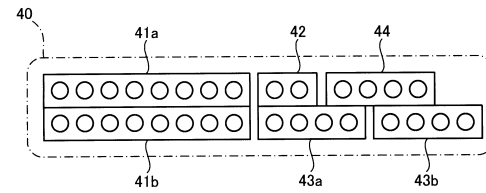
- 9 B … 第 1 保留アイコン
- 9 C … 第 2 保留アイコン
- 1 5 … 盤可動体
- 2 0 … 第 1 始動口 (第 1 入球口)
- 2 1 … 第 2 始動口 (第 2 入球口)
- 8 1 … 遊技制御用マイコン
- 9 1 … 演出制御用マイコン
- 1 0 1 … 画像制御用マイコン

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

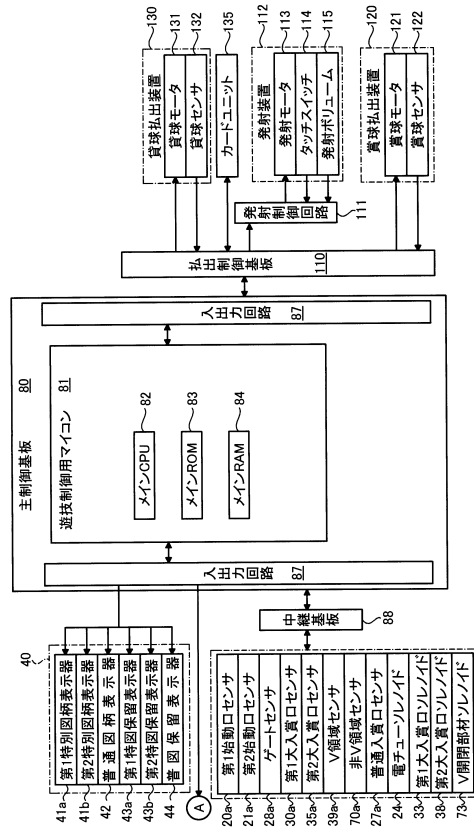
20

30

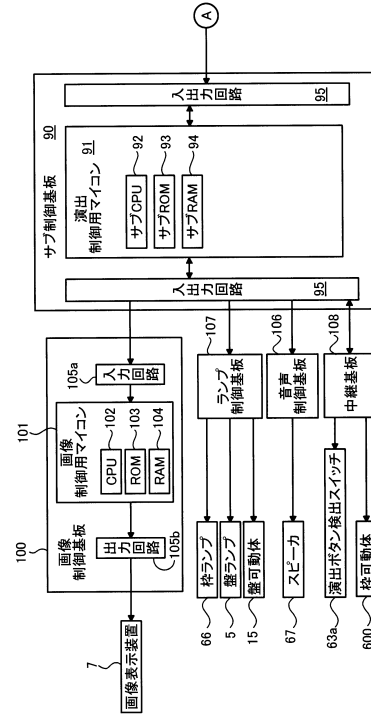
40

50

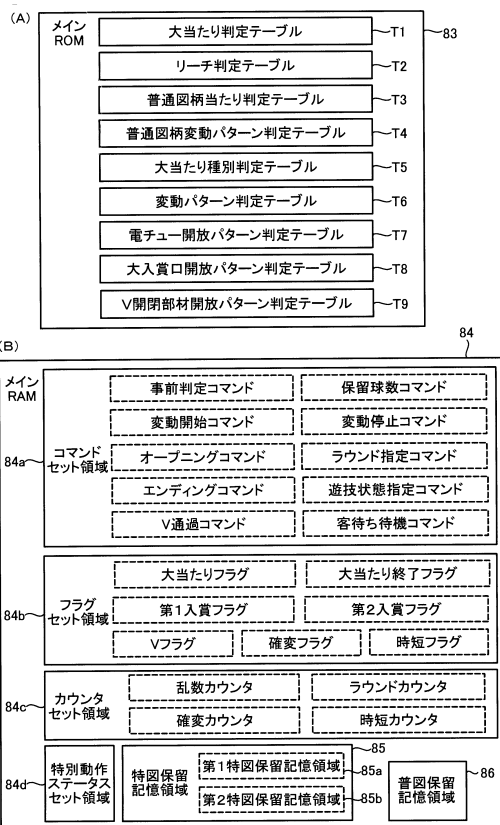
【図 3】



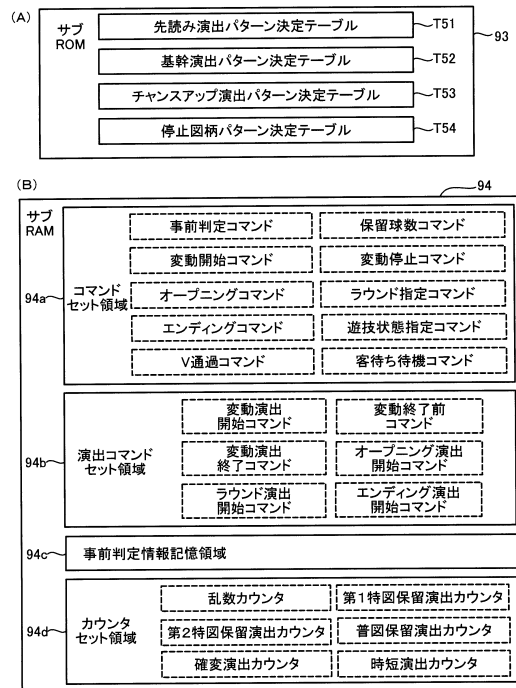
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

20

30

40

50

【図 7】

(A)

乱数カウンタ名	乱数名	数値範囲	用途
ラベル-TRND-A	大当たり乱数	0～65535	大当たり判定用
ラベル-TRND-AS	大当たり種別乱数	0～127	大当たり種別判定用
ラベル-TRND-RC	リーチ乱数	0～127	リーチの有無の判定用
ラベル-TRND-T1	変動パターン乱数	0～127	変動パターン判定用
ラベル-TRND-H	普通図柄乱数 (当たり回数)	0～255	普通図柄抽選の当否判定用

(B)

乱数カウンタ名	乱数名	数値範囲	用途
ラベル-TRND-SC	先読み演出乱数	0～127	先読み演出決定用
ラベル-TRND-OU	チャンスアップ乱数	0～127	チャンスアップ決定用

【図 8】

(A)大当たり判定テーブルT1

状態	大当たり乱数値	判定結果
通常確率状態 (非高確率状態)	0～164	大当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ
高確率状態	0～649	大当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ

(B)リーチ判定テーブルT2

状態	リーチ乱数値	判定結果
非時短状態	0～13	リーチ有り
	0～127のうち上記以外の数値	リーチ無し
時短状態	0～5	リーチ有り
	0～127のうち上記以外の数値	リーチ無し

(C)普通図柄当たり判定テーブルT3

状態	普通図柄乱数値	判定結果
非時短状態	0～2	当たり
	0～255のうち上記以外の数値	ハズレ
時短状態	0～254	当たり
	0～255のうち上記以外の数値	ハズレ

(D)普通図柄変動パターン判定テーブルT4

状態	普通図柄の変動時間(秒)
非時短状態	30秒
時短状態	1秒

10

20

【図 9】

大当たり種別判定テーブルT5

特別図柄	大当たりの種別	特別図柄の種類	特図停止 図柄データ	振分率(%)	OP コマンド	ラウンド指定 コマンド	ED コマンド	備考
特図 1	16R V通過予定大当たり	特図1_大当たり図柄1	11H	19.5	D101(H)	D2*(H)	D301(H)	金図柄
		特図1_大当たり図柄2	12H	19.5	D102(H)	D2*(H)	D302(H)	ハトル勝利
	16R(変異15R) V通過予定大当たり	特図1_大当たり図柄3	13H	4.8	D103(H)	D2*(H)	D303(H)	ハトル復活
	16R(変異13R) V通過予定大当たり	特図1_大当たり図柄4	14H	9.3	D104(H)	D2*(H)	D304(H)	ハトル敗北
特図 2	16R(変異13R) V非通過予定大当たり	特図1_大当たり図柄5	15H	46.9	D105(H)	D2*(H)	D305(H)	ハトル敗北
	16R V通過予定大当たり	特図2_大当たり図柄1	21H	100	D106(H)	D2*(H)	D306(H)	金図柄

備考: ラウンド指定コマンドの「*」にはラウンド数を示す値が入る

【図 10】

変動パターン判定テーブルT6(非時短状態)

始動口	状態	判定結果	保留球数	変動パターン乱数値	変動パターン	変動時間(ms)	最終演出パターン
第1始動口	大当たり	V通過予定	—	0～10	P1	40000	SP1
		V通過予定	—	11～63	P2	45000	SP2
		V通過予定	—	64～127	P3	50000	SP3
		V通過予定	—	0～10	P4	40000	SP1
		V通過予定	—	11～63	P5	45000	SP2
	非時短状態	ハズレ	—	64～127	P6	50000	SP3
		ハズレ	—	0～60	P7	15000	ノーマルリーチ
		ハズレ	1～2	61～80	P8	40000	SP1
		ハズレ	—	81～92	P9	45000	SP2
		ハズレ	—	93～127	P10	50000	SP3
第2始動口	大当たり	V通過予定	—	0～10	P11	12000	ノーマルリーチ
		V通過予定	—	11～63	P12	40000	SP1
		V通過予定	—	64～127	P13	45000	SP2
		V通過予定	—	0～10	P14	50000	SP3
		V通過予定	—	11～63	P15	10000	リーチ無しハズレ
	非時短状態	ハズレ	—	0～127	P16	5000	リーチ無しハズレ
		ハズレ	—	0～10	P21	40000	SP1
		ハズレ	—	11～63	P22	45000	SP2
		ハズレ	—	64～127	P23	50000	SP3
		ハズレ	—	0～60	P24	12000	ノーマルリーチ
第3始動口	大当たり	V通過予定	—	61～80	P25	40000	SP1(疑似無し)
		V通過予定	—	81～92	P26	45000	SP1(疑似有り)
		V通過予定	—	93～127	P27	50000	SP2
		V通過予定	—	0～90	P28	9000	ノーマルリーチ
		V通過予定	—	91～107	P29	40000	SP1
	非時短状態	ハズレ	—	108～114	P30	45000	SP2
		ハズレ	—	115～127	P31	50000	SP3
		ハズレ	—	0～127	P32	8000	リーチ無しハズレ
		ハズレ	—	0～127	P33	4000	リーチ無しハズレ
		ハズレ	—	0～127	P33	4000	リーチ無しハズレ

30

40

50

【図 1 1】

変動パターン判定テーブルT6(時短状態)	状態	判定結果	保留数	変動パターン出現確率	変動パターン	変動時間(ms)	基幹演出パターン
第1始動口	大当たり	V通過予定	—	P41	0～10	4000	SP1
			—	P42	11～63	4500	SP2
			—	P43	64～127	5000	SP3
			—	P44	0～10	4000	SP1
	時短状態	V非通過予定	—	P45	11～63	4500	SP2
			—	P46	64～127	5000	SP3
			—	P47	0～80	15000	ノーマルリーチ
			1～2	P48	61～80	4000	SP1
	ハズレ	リーチ有り	—	P49	81～92	4500	SP2
			—	P50	93～127	5000	SP3
			—	P51	0～85	12000	ノーマルリーチ
			3～4	P52	86～100	4000	SP1
第2始動口	大当たり	V通過予定	—	P61	0～10	4000	SP1
			—	P62	11～63	4500	SP2
			—	P63	64～127	5000	SP3
			—	P64	0～80	10000	ノーマルリーチ
	時短状態	リーチ無し	1～2	P65	61～80	4000	SP1(疑似無し)
			3～4	P66	81～92	4500	SP1(疑似有り)
			—	P67	93～127	5000	SP2
			—	P68	0～90	5000	ノーマルリーチ
	ハズレ	リーチ有り	3～4	P69	91～107	4000	SP1
			—	P70	108～114	4500	SP2
			—	P71	115～127	5000	SP3
			1～2	P72	0～127	4000	リーチ無しハズレ

【図 1 2】

(A)電チュー開放パターン判定テーブルT7

状態	普通図柄の種類	電チュー開放パターン
非時短状態	普通当たり図柄	開放パターン11
時短状態		開放パターン12

(B)電チュー開放パターン

電チュー開放パターン	開放回数(回)	開放時間(秒)／回	インターバル時間(秒)
開放パターン11	1	0.2	—
開放パターン12	3	2.0	1.0

10

20

【図 1 3】

(A)大入賞口開放パターン判定テーブルT8

特図停止図柄データ	大入賞口開放パターン
11H,12H,21H	開放パターン21
14H,15H	開放パターン22
13H	開放パターン23

(B)大入賞口開放パターン

大入賞口開放パターン	ラウンド数(R)	開放する大入賞口	開放回数(回)／R	開放時間(秒)／回	*備考
開放パターン21	16	1～13R目	第1大入賞口	1	29.5
		14及び16R目	第2大入賞口	1	29.5
		15R目	第1大入賞口	1	29.5
開放パターン22	16(実質13)	1～13R目	第1大入賞口	1	29.5
		14及び16R目	第2大入賞口	1	0.1
		15R目	第1大入賞口	1	0.1
開放パターン23	16(実質15)	1～13R目	第1大入賞口	1	29.5
		14R目	第2大入賞口	1	0.1
		15R目	第1大入賞口	1	29.5
		16R目	第2大入賞口	1	29.5

【図 1 4】

(A)V開閉部材開放パターン判定テーブルT9

特図停止図柄データ	V開閉部材開放パターン
11H,12H,21H	開放パターン31
13H	開放パターン32
14H	開放パターン33
15H	開放パターン34

(B)V開閉部材開放パターン

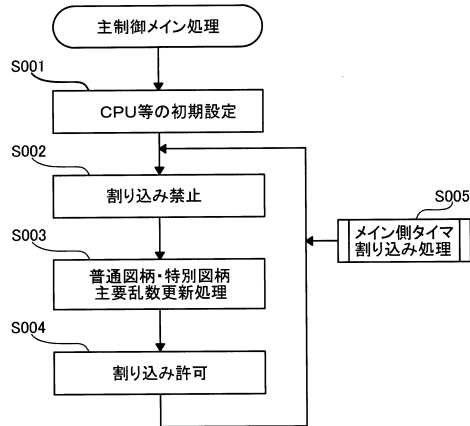
V開閉部材開放パターン	ラウンド数(R)	開放パターン構成	1回目入賞時開放時間(秒)	2回目入賞時開放時間(秒)
開放パターン31	16	2, 4, 6, 8R目	ショート開放	0.1
		10, 12R目	ロング開放	0.1
開放パターン32	16(実質15)	2, 4, 6, 12R目	ショート開放	0.1
		8, 10R目	ロング開放	0.1
開放パターン33	16(実質13)	2, 6R目	ロング開放	0.1
		4, 8, 10, 12R目	ショート開放	0.1
開放パターン34	16(実質13)	2, 4, 6, 8, 10, 12R目	ショート開放	0.1

30

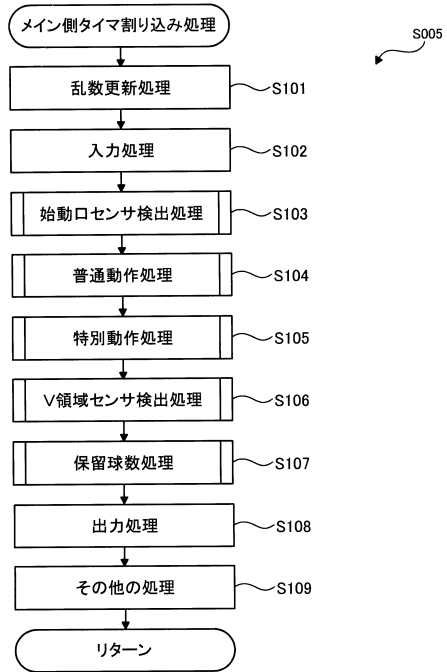
40

50

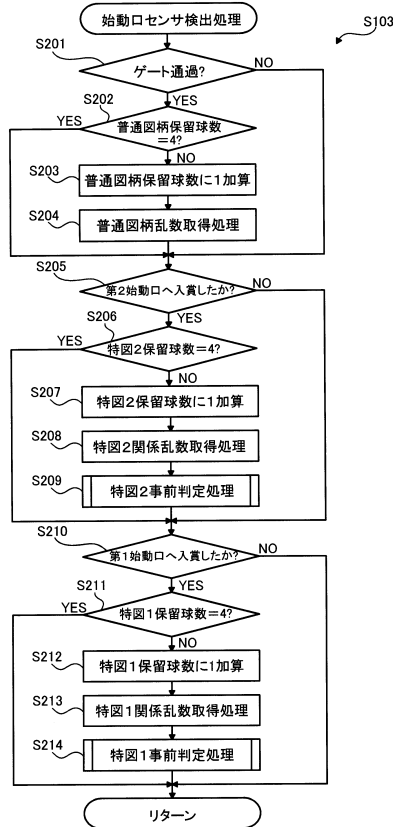
【図 15】



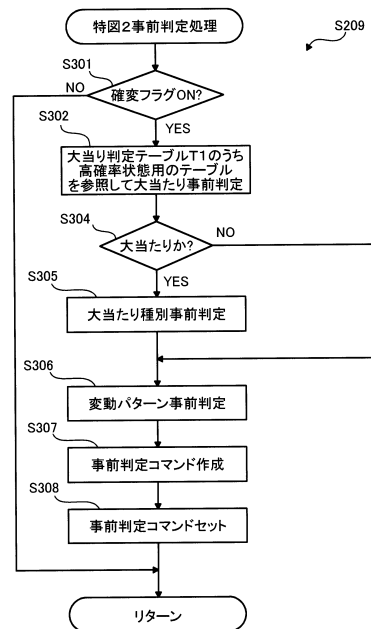
【図 16】



【図 17】



【図 18】



10

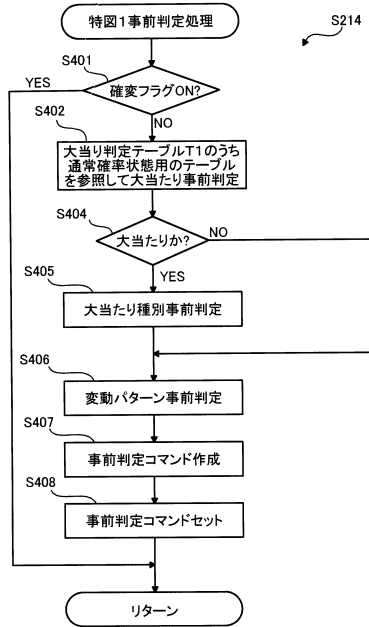
20

30

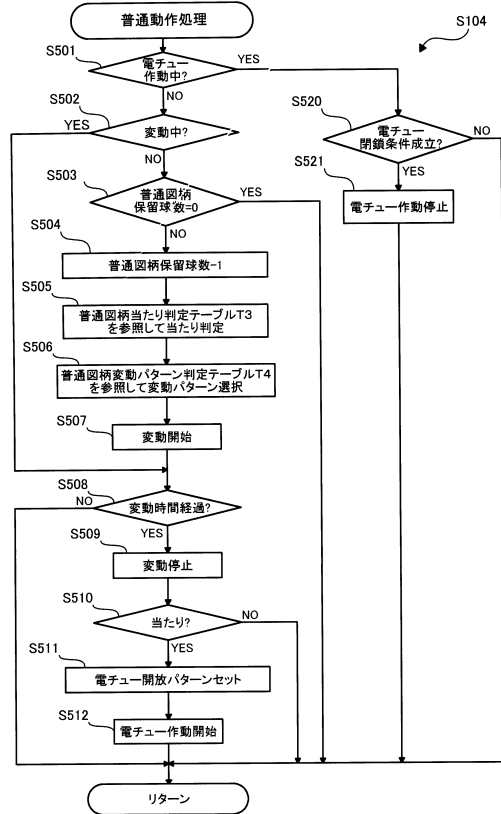
40

50

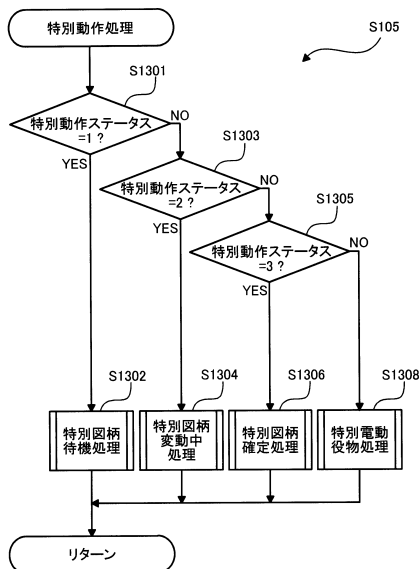
【図 19】



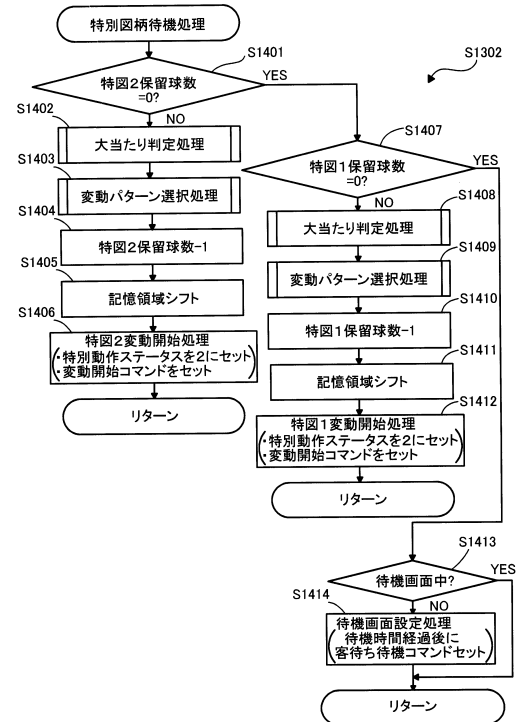
【図 20】



【図 21】



【図 22】



10

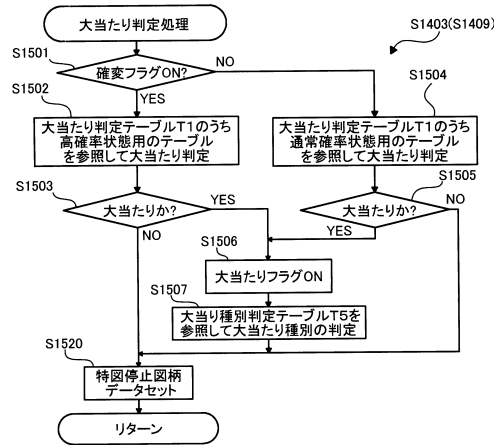
20

30

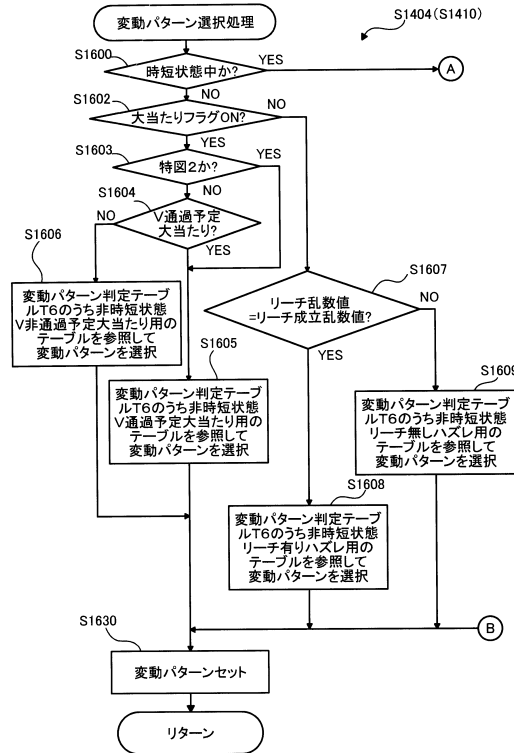
40

50

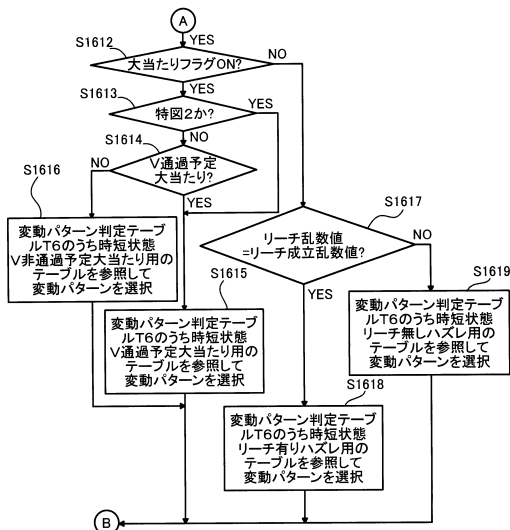
【図 2 3】



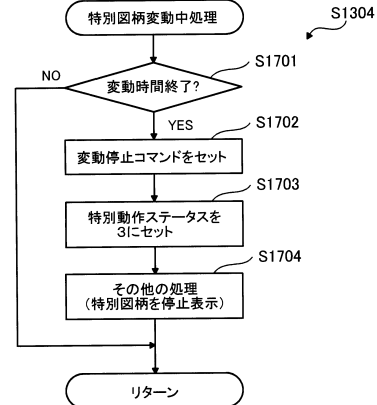
【図 2 4】



【図 2 5】



【図 2 6】



10

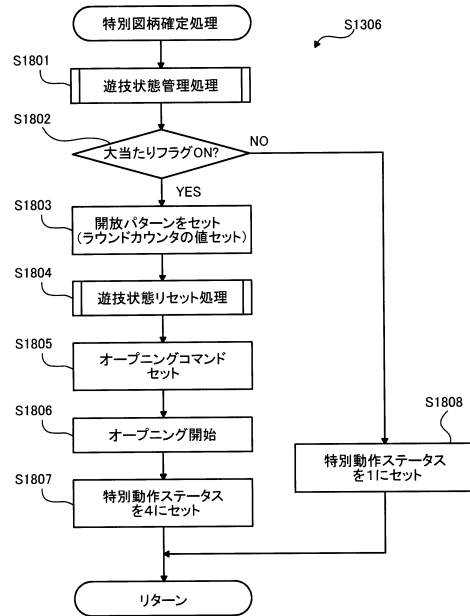
20

30

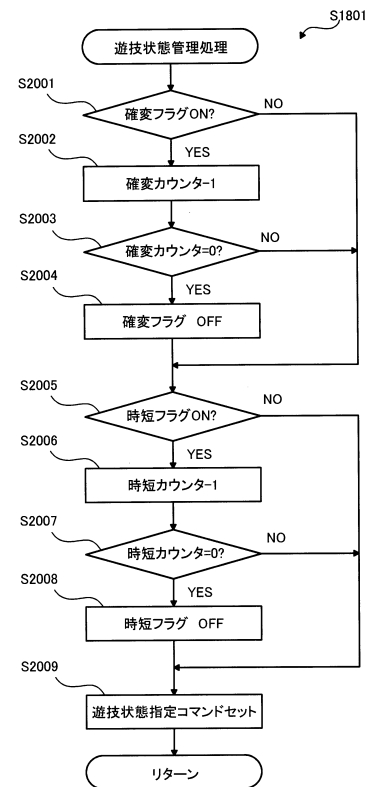
40

50

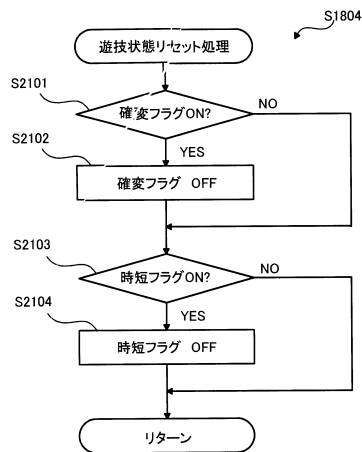
【図 27】



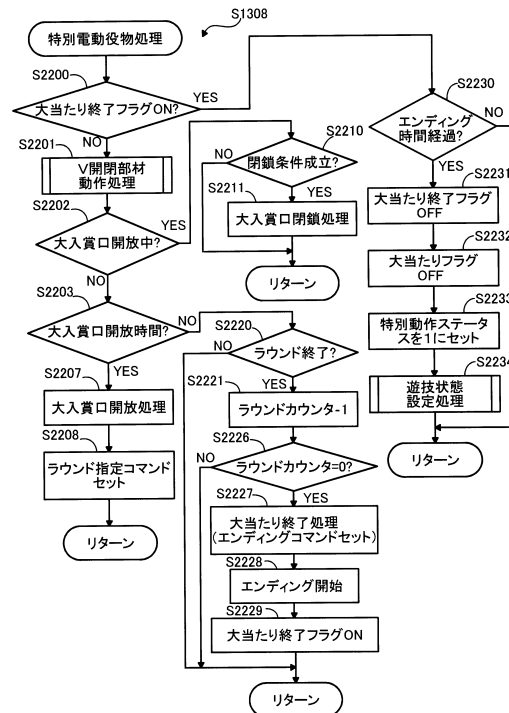
【図 28】



【図 29】



【図 30】



10

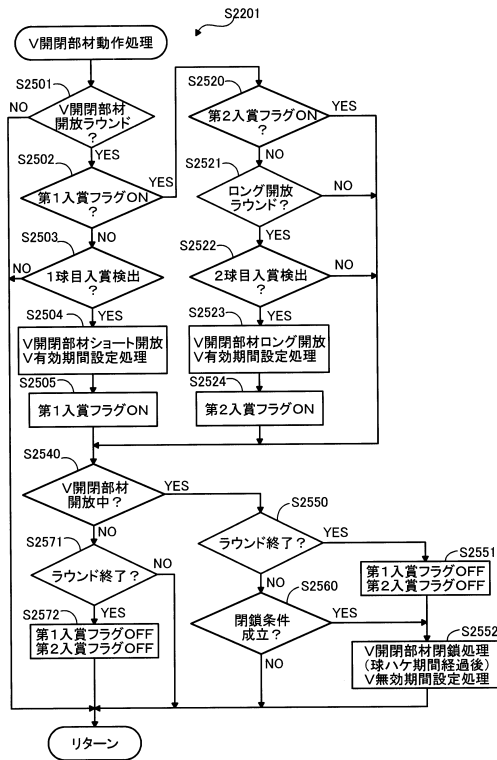
20

30

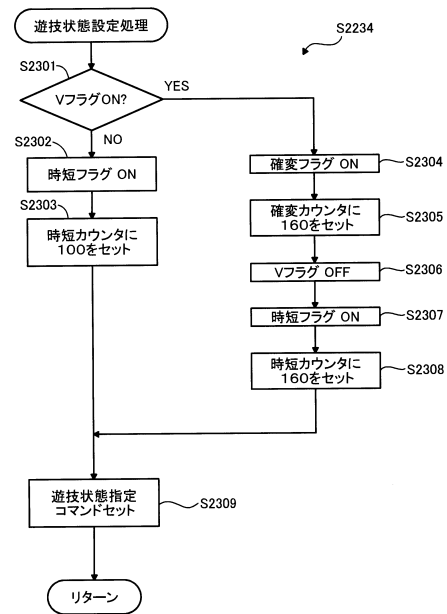
40

50

【図 3 1】



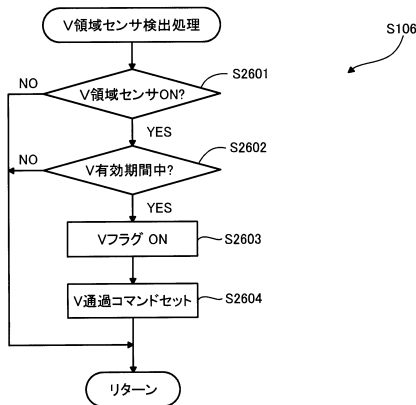
【図 3 2】



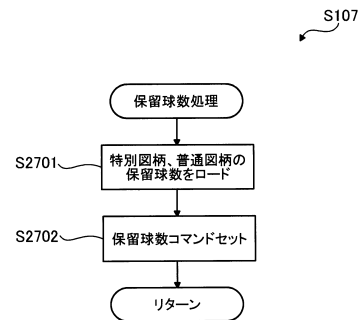
10

20

【図 3 3】



【図 3 4】

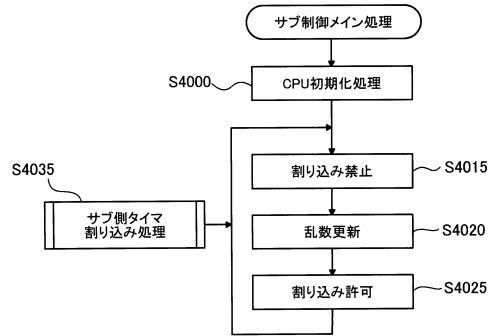


30

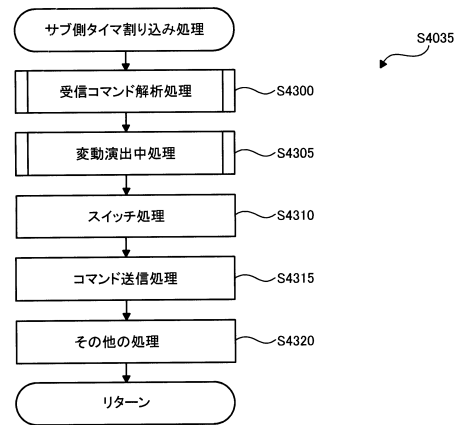
40

50

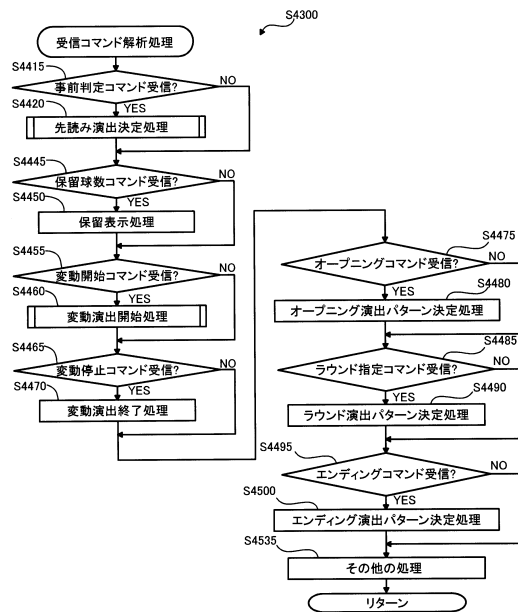
【図 3 5】



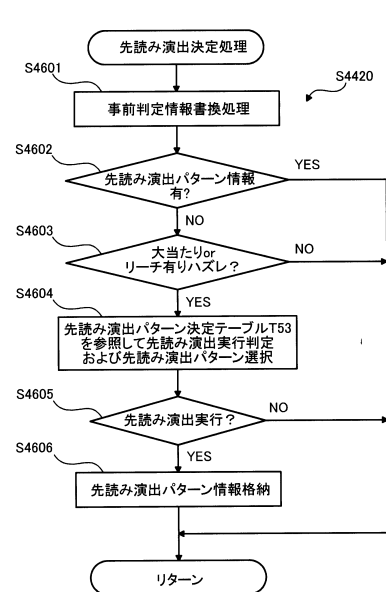
【図 3 6】



【図 3 7】



【図 3 8】



10

20

30

40

50

【図 3 9】

(A)

事前判定情報記憶領域									
特別図柄	当該領域	特図1				特図2			
		第1格納領域	第2格納領域	第3格納領域	第4格納領域	第1格納領域	第2格納領域	第3格納領域	第4格納領域
大当たり判定情報	ハズレ	—	—	—	—	ハズレ	ハズレ	ハズレ	—
大当たり種別情報	—	—	—	—	—	—	—	—	—
変動パターン情報	P72,P73	—	—	—	—	P72,P73	P72,P73	P72,P73	—
先読み演出パターン情報	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(B)

事前判定情報記憶領域									
特別図柄	当該領域	特図1				特図2			
		第1格納領域	第2格納領域	第3格納領域	第4格納領域	第1格納領域	第2格納領域	第3格納領域	第4格納領域
大当たり判定情報	ハズレ	—	—	—	—	ハズレ	ハズレ	ハズレ	大当たり
大当たり種別情報	—	—	—	—	—	—	—	—	21H
変動パターン情報	P72,P73	—	—	—	—	P72,P73	P72,P73	P72,P73	P61
先読み演出パターン情報	パターンA	—	—	—	—	パターンA	パターンA	パターンA	パターンA

(C)

事前判定情報記憶領域									
特別図柄	当該領域	特図1				特図2			
		第1格納領域	第2格納領域	第3格納領域	第4格納領域	第1格納領域	第2格納領域	第3格納領域	第4格納領域
大当たり判定情報	ハズレ	—	—	—	—	ハズレ	ハズレ	大当たり	—
大当たり種別情報	—	—	—	—	—	—	—	21H	—
変動パターン情報	P72,P73	—	—	—	—	P72,P73	P72,P73	P61	—
先読み演出パターン情報	パターンA	—	—	—	—	パターンA	パターンA	パターンA	—

【図 4 0】

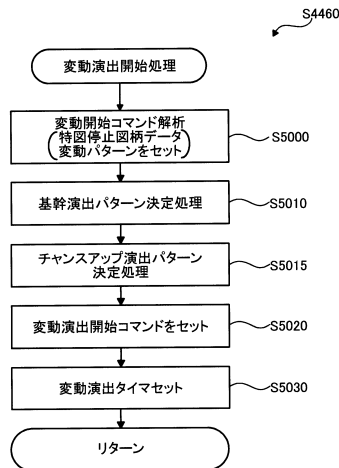
先読み演出パターン決定テーブルT51

事前判定結果	先読み演出乱数値	先読み演出種別
大当たり	0~55	先読み演出なし
	56~67	先読み演出パターンA
	68~127	先読み演出パターンB
リーチ有りハズレ	0~107	先読み演出なし
	108~114	先読み演出パターンA
	115~127	先読み演出パターンB

10

20

【図 4 1】



【図 4 2】

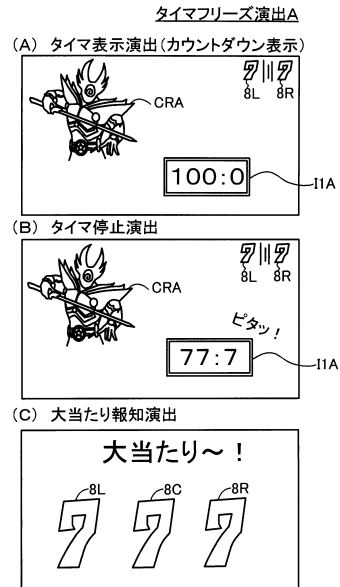
基幹演出パターン決定テーブルT52				
変動パターン	変動時間(ms)	基幹演出パターン	備考	
P1	40000	SP1	特図1	大当たり
P2	45000	SP2		
P3	50000	SP3		
P4	40000	SP1		リーチ有りハズレ
P5	45000	SP2		
P6	50000	SP3		
P7	15000	ノーマルリーチ		
P8	40000	SP1		保留球数1～2
P9	45000	SP2		
P10	50000	SP3		保留球数3～4
P11	12000	ノーマルリーチ		
P12	40000	SP1	リーチ無しハズレ	1～2
P13	45000	SP2		3～4
P14	50000	SP3	特図2	大当たり
P15	10000	リーチ無しハズレ		
P16	5000	リーチ無しハズレ		
P21	40000	SP1		リーチ有りハズレ
P22	45000	SP2		
P23	50000	SP3		
P24	12000	ノーマルリーチ		
P25	40000	SP1		保留球数1～2
P26	45000	SP2		
P27	50000	SP3		保留球数3～4
P28	9000	ノーマルリーチ		
P29	40000	SP1	リーチ無しハズレ	
P30	45000	SP2		
P31	50000	SP3	特図1	大当たり
P32	8000	リーチ無しハズレ		
P33	4000	リーチ無しハズレ		
P41	40000	SP1		リーチ有りハズレ
P42	45000	SP2		
P43	50000	SP3		
P44	40000	SP1		
P45	45000	SP2		保留球数1～2
P46	50000	SP3		
P47	15000	ノーマルリーチ		保留球数3～4
P48	40000	SP1		
P49	45000	SP2	特図2	大当たり
P50	50000	SP3		
P51	12000	ノーマルリーチ		
P52	40000	SP1		リーチ有りハズレ
P53	45000	SP2		
P54	50000	SP3		
P55	10000	リーチ無しハズレ		
P56	5000	リーチ無しハズレ	1～2	
P61	40000	SP1	3～4	
P62	45000	SP2	特図2	大当たり
P63	50000	SP3		
P64	10000	ノーマルリーチ		
P65	40000	SP1		リーチ有りハズレ
P66	45000	SP2		
P67	50000	SP3		
P68	5000	ノーマルリーチ		
P69	40000	SP1		保留球数1～2
P70	45000	SP2		
P71	50000	SP3		保留球数3～4
P72	4000	リーチ無しハズレ		
P73	3000	リーチ無しハズレ	1～2	
			3～4	

30

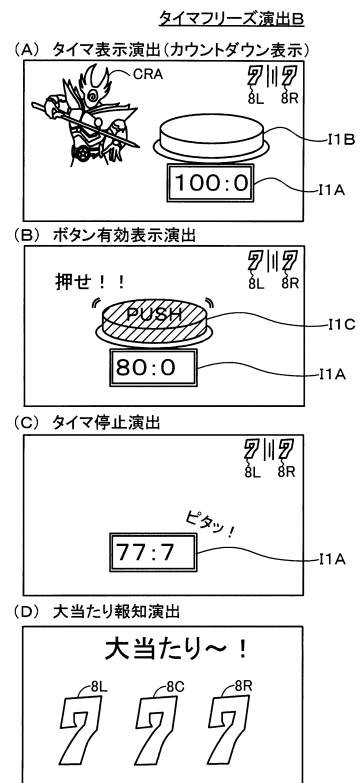
40

50

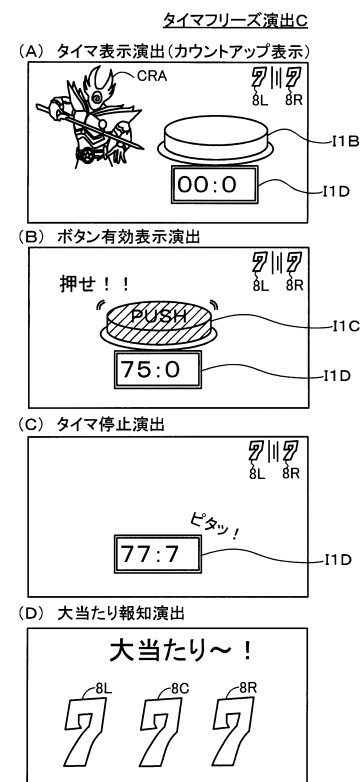
【図 47】



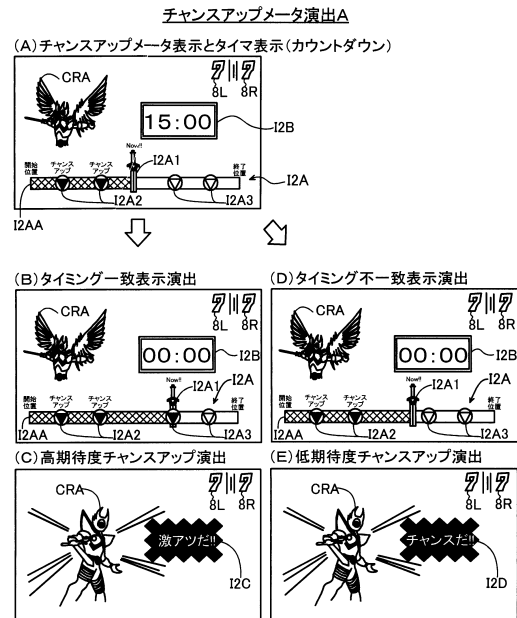
【圖 48】



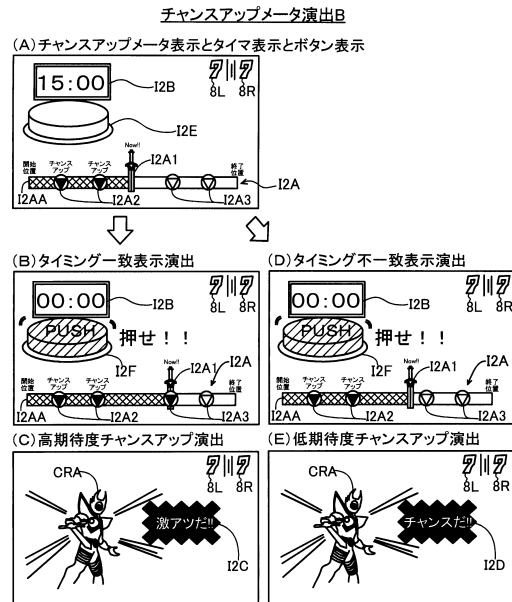
【図 49】



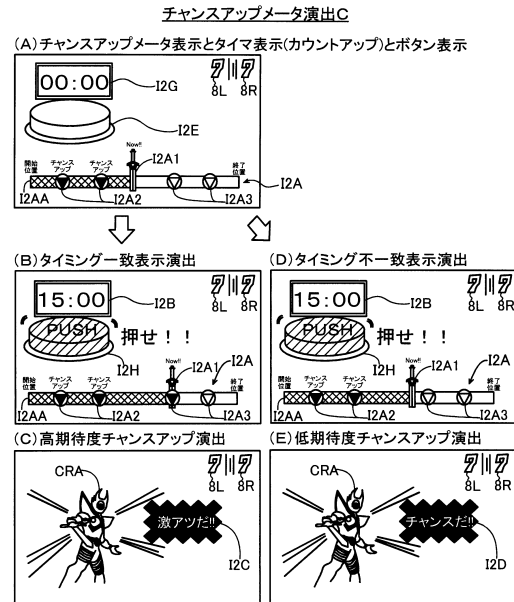
【圖 50】



【図 5 1】



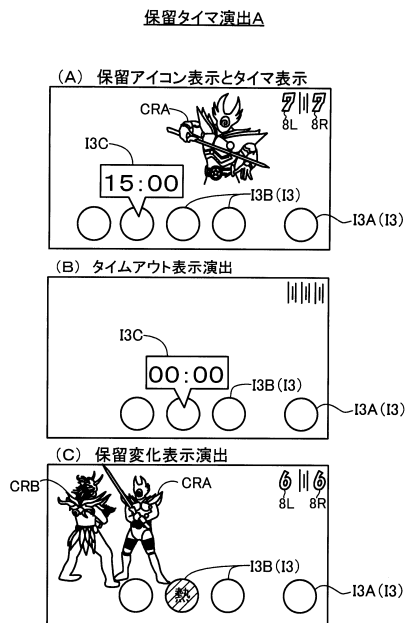
【図 5 2】



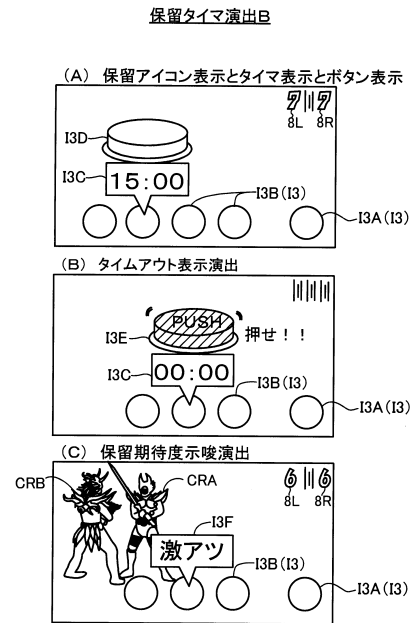
10

20

【図 5 3】



【図 5 4】



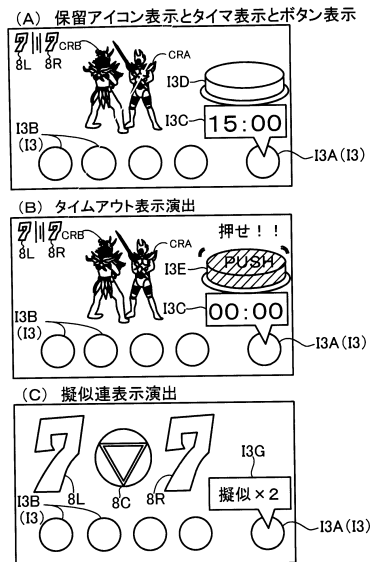
30

40

50

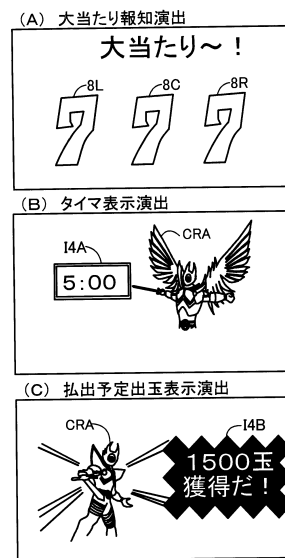
【図 5 5】

保留タイム演出C



【図 5 6】

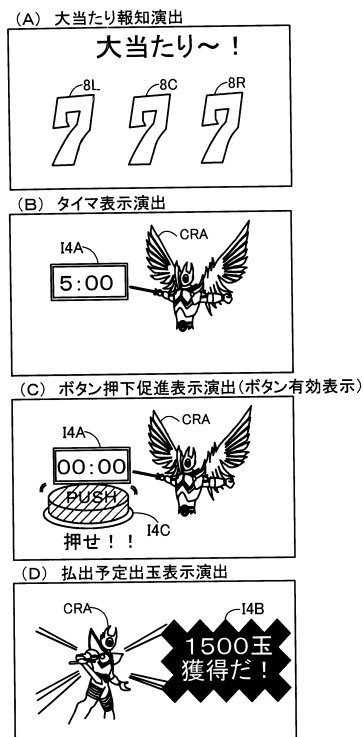
タイム出玉獲得演出A



10

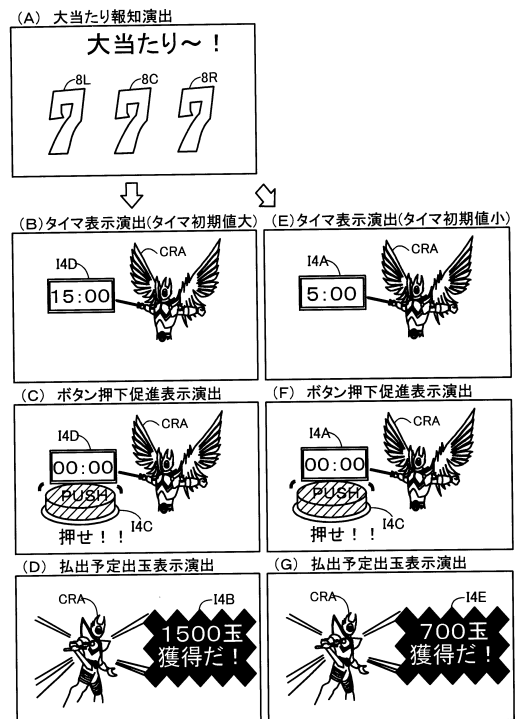
【図 5 7】

タイム出玉獲得演出B



【図 5 8】

タイム出玉獲得演出C

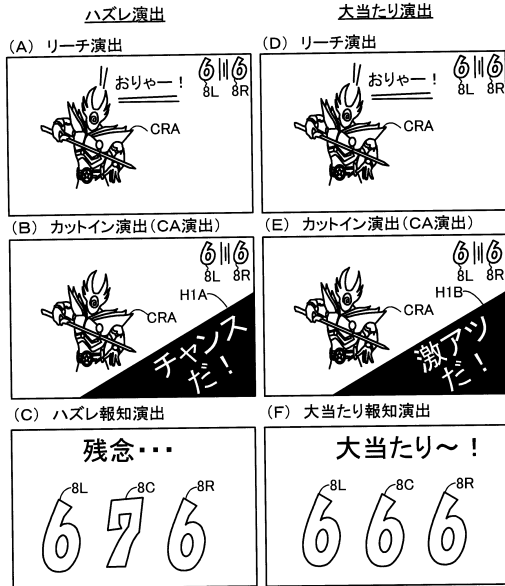


30

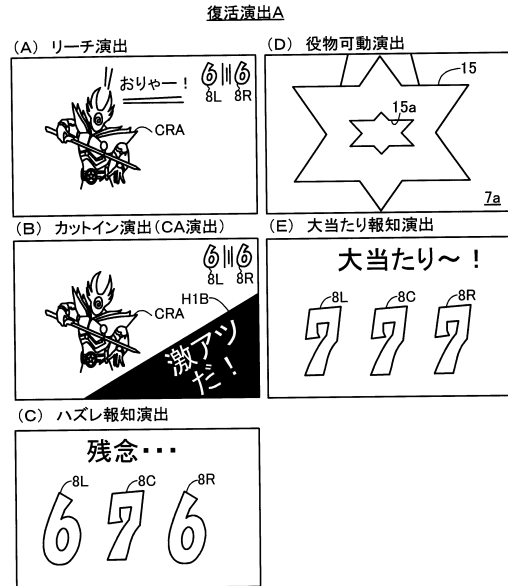
40

50

【図 59】

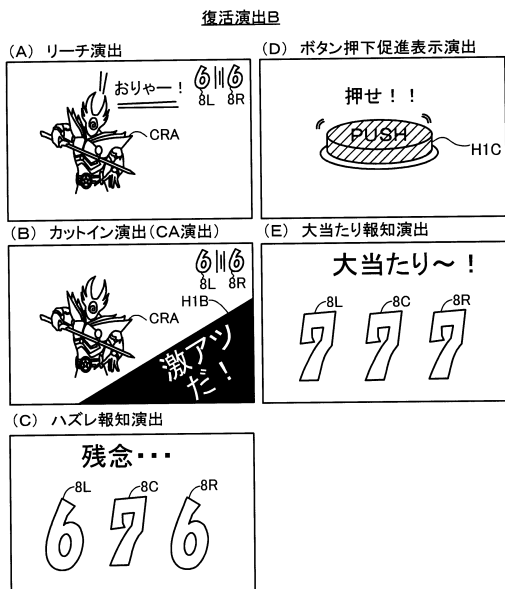


【図 60】

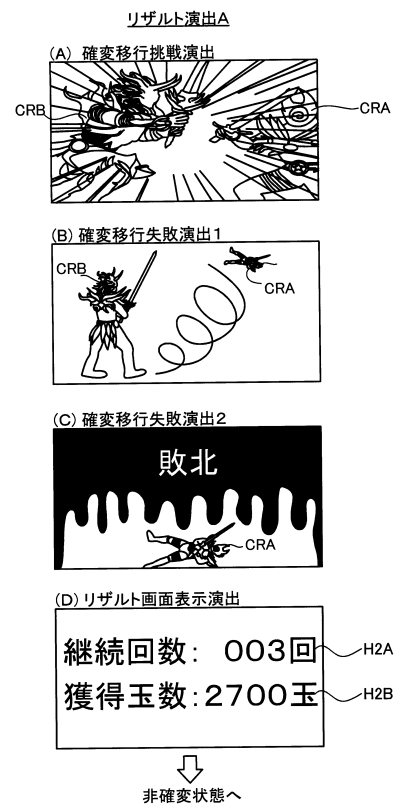


10

【図 61】



【図 62】



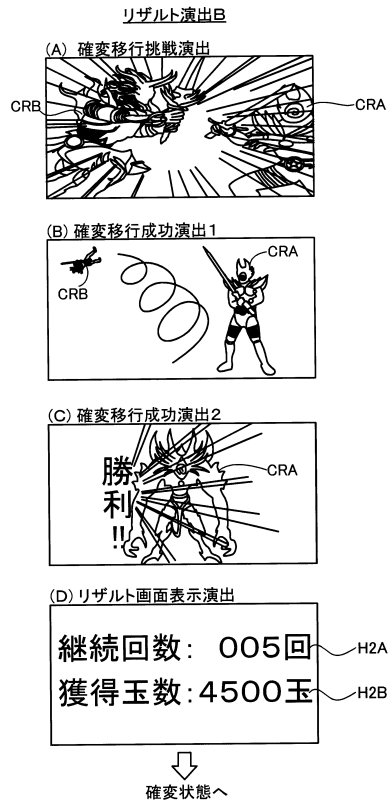
20

30

40

50

【図 6 3】



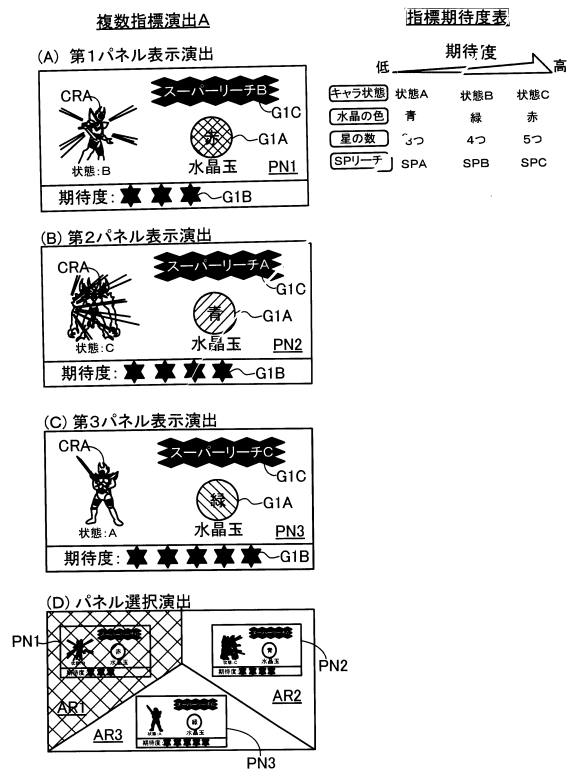
【図 6 4】



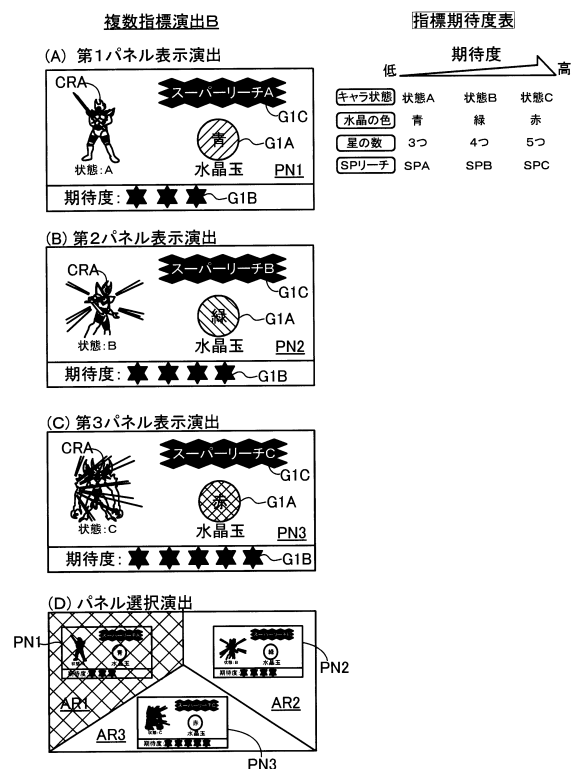
10

20

【図 6 5】



【図 6 6】

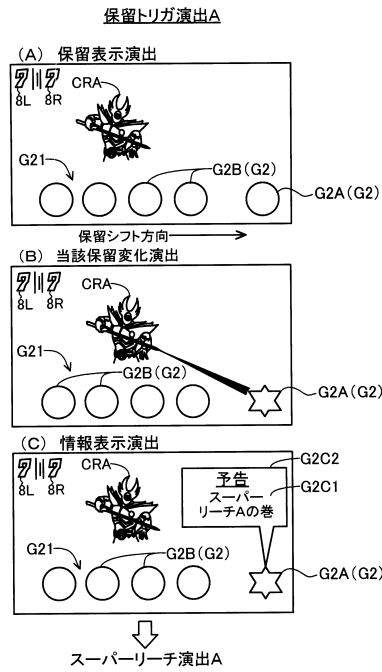


30

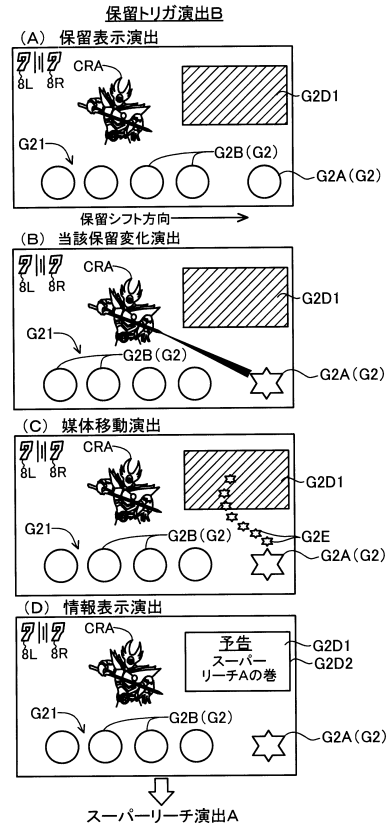
40

50

【図 67】



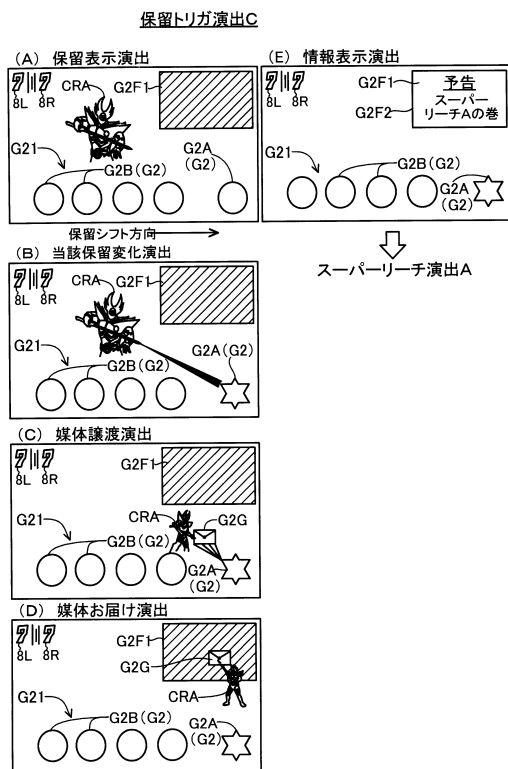
【図 68】



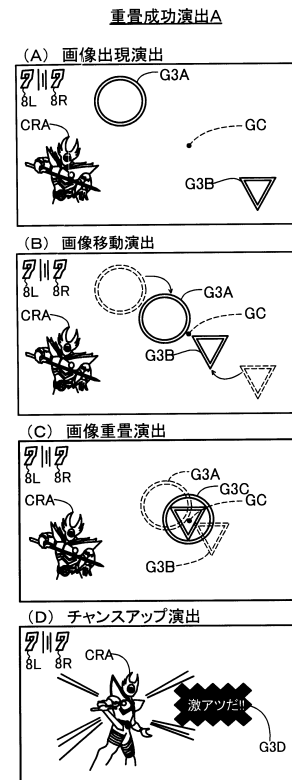
10

20

【図 69】



【図 70】



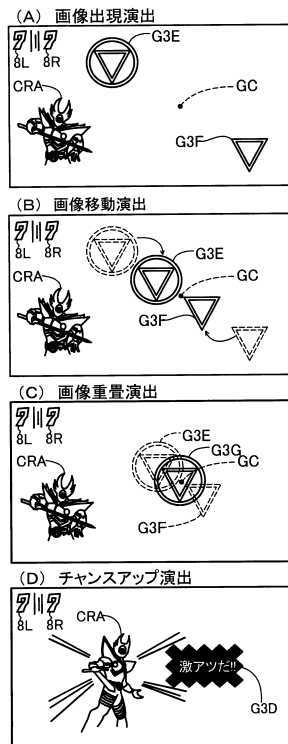
30

40

50

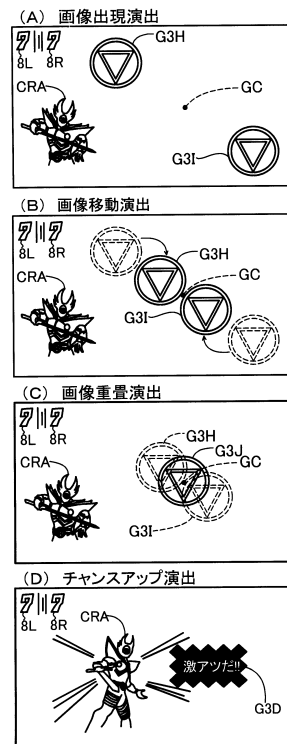
【図 7 1】

重畳成功演出B



【図 7 2】

重畳成功演出C

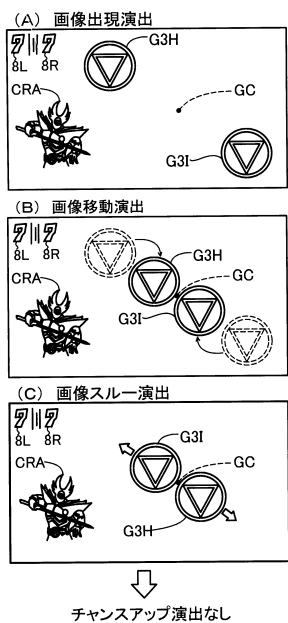


10

20

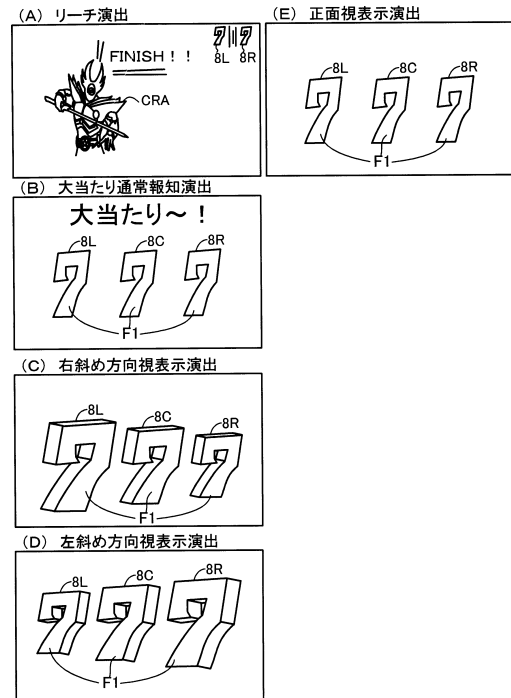
【図 7 3】

重畳失敗演出



【図 7 4】

大当たり図柄表示演出A



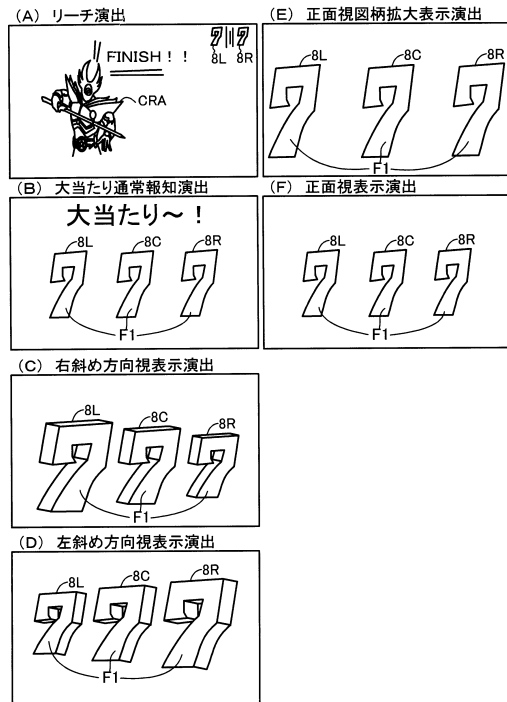
30

40

50

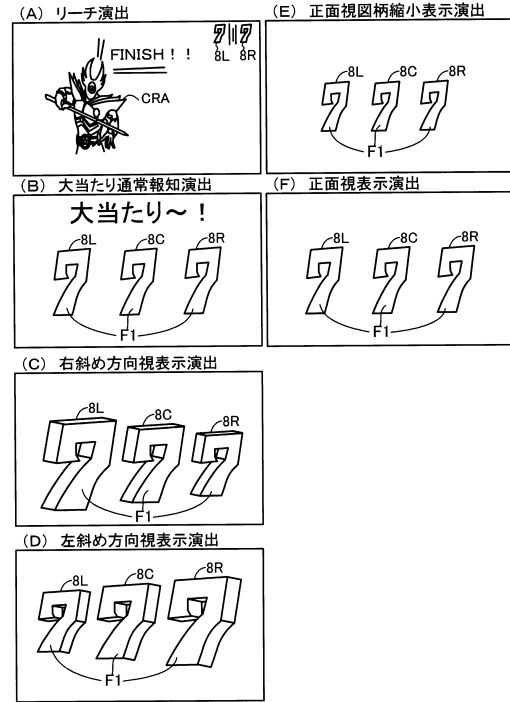
【図 7 5】

大当たり図柄表示演出B



【図 7 6】

大当たり図柄表示演出C

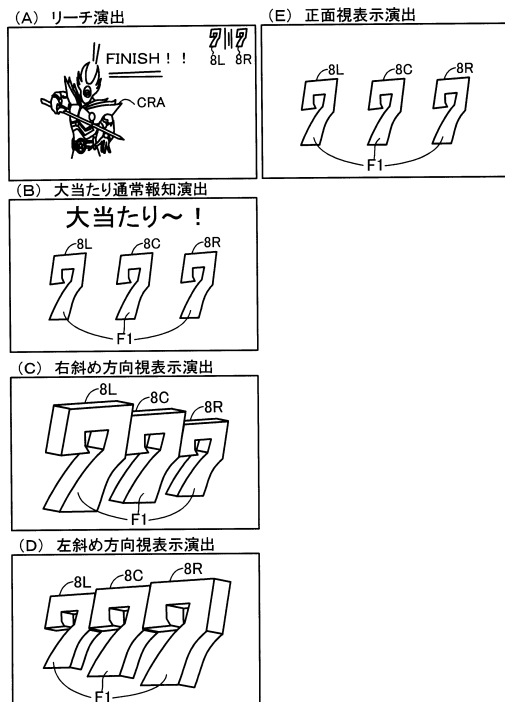


10

20

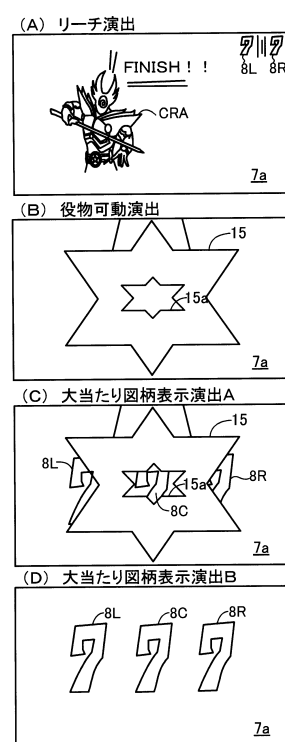
【図 7 7】

大当たり図柄表示演出D



【図 7 8】

役物図柄表示演出A



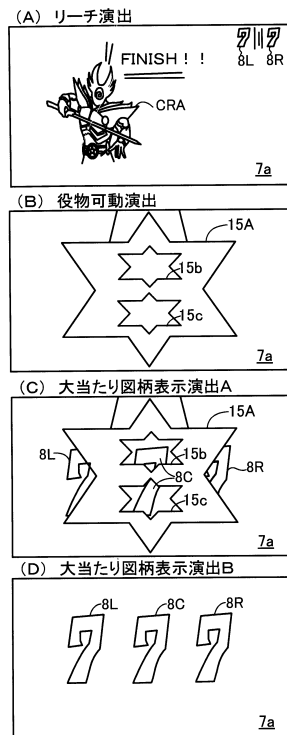
30

40

50

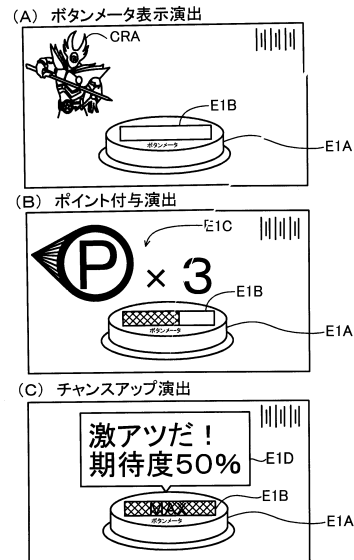
【図 79】

役物図柄表示演出B



【図 80】

ボタン画像内メータ演出A

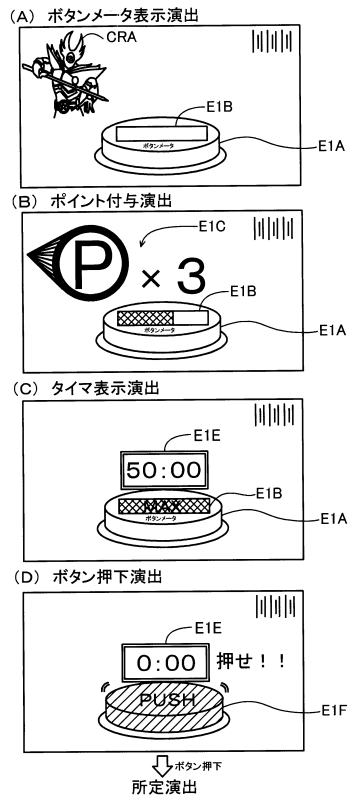


10

20

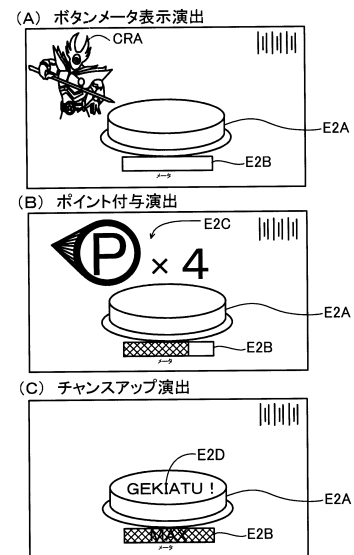
【図 81】

ボタン画像内メータ演出B



【図 82】

ボタン画像内表示演出A

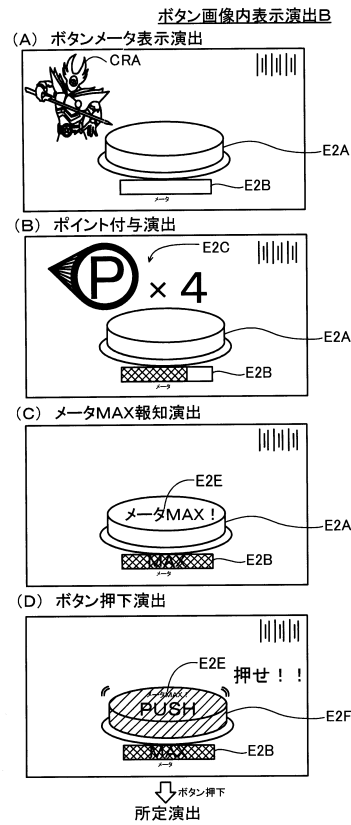


30

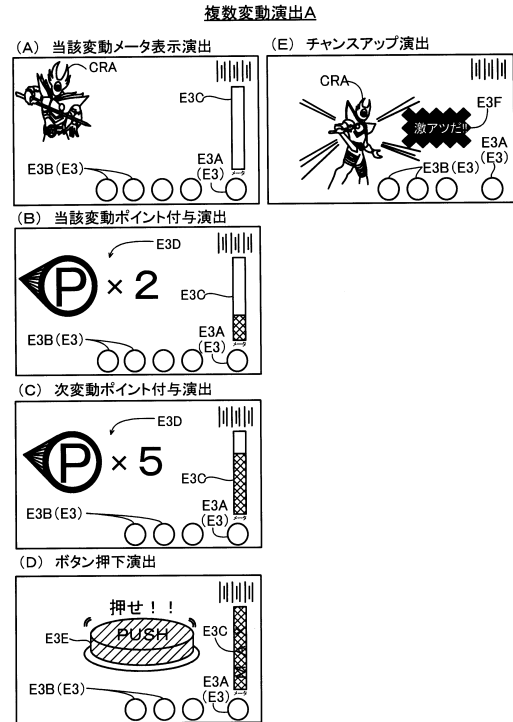
40

50

【図 8 3】



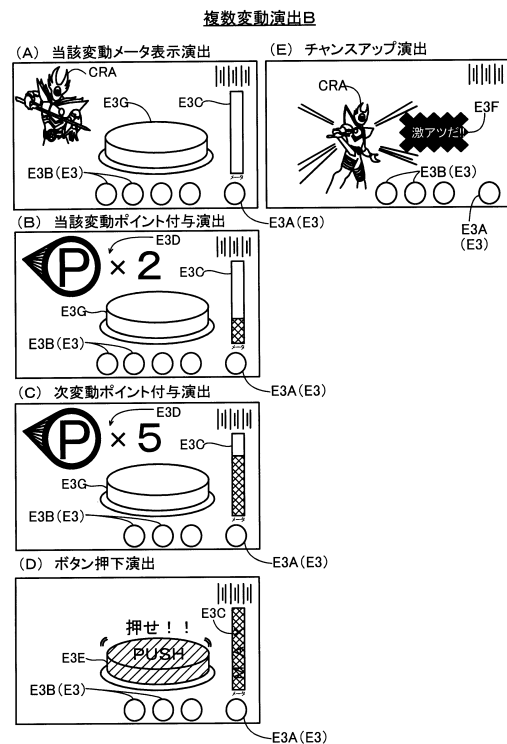
【図 8 4】



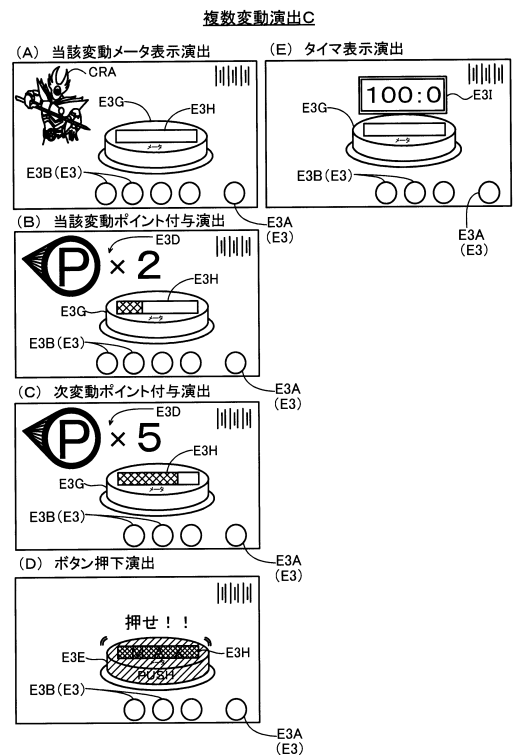
10

20

【図 8 5】



【図 8 6】

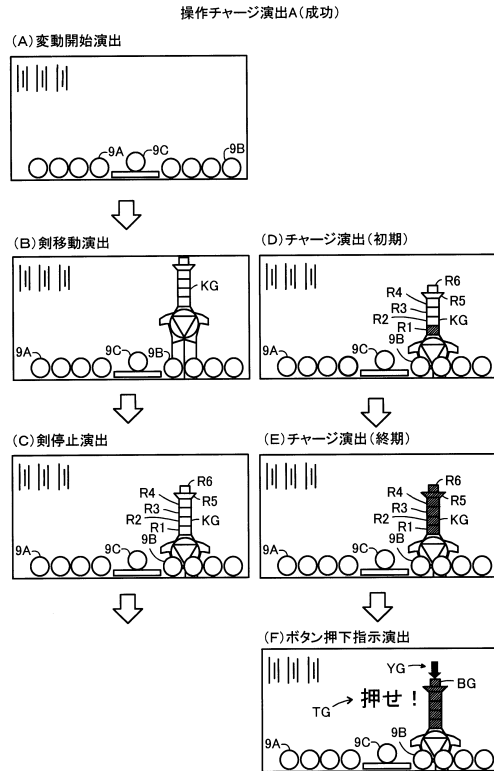


30

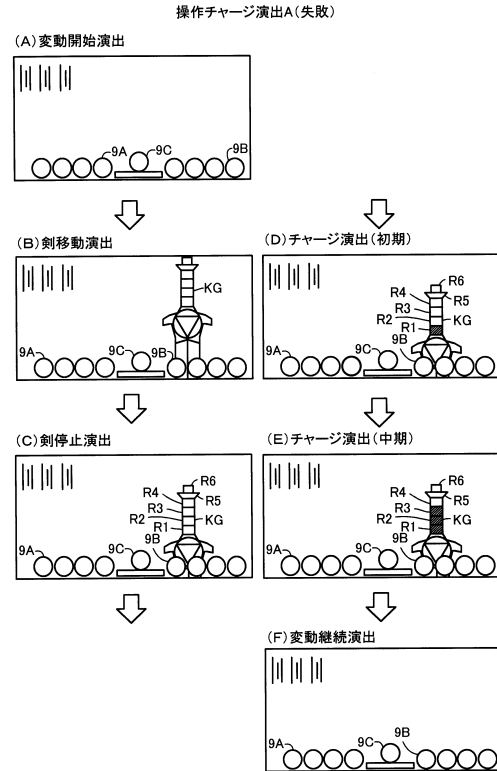
40

50

【図 87】



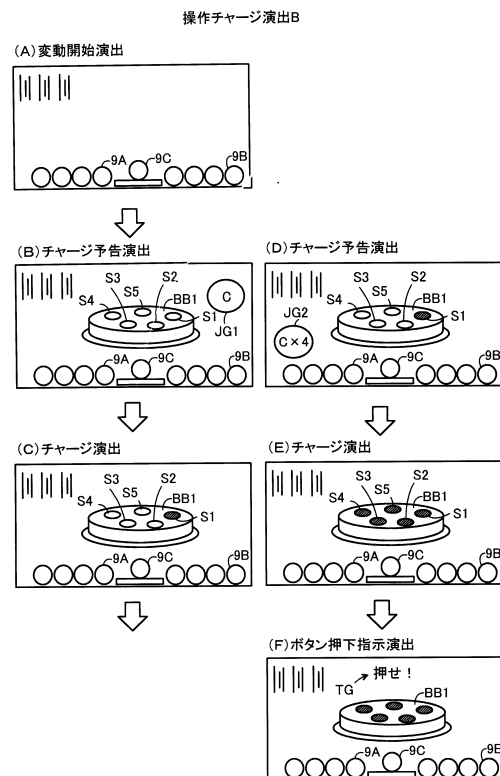
【図 88】



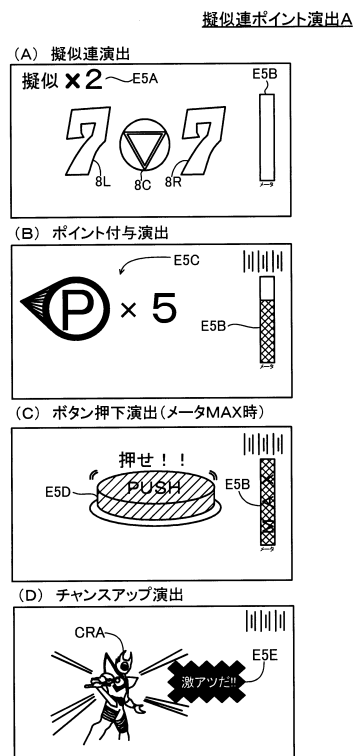
10

20

【図 89】



【図 90】



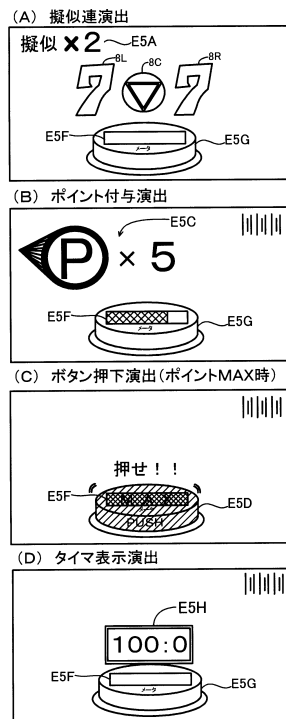
30

40

50

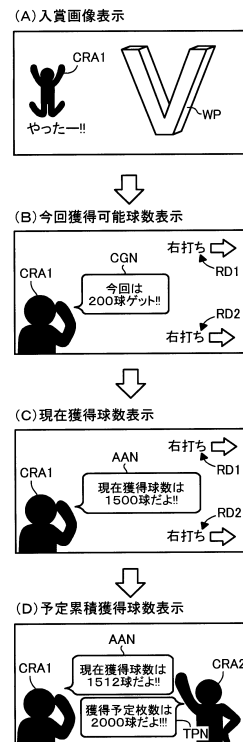
【図 9 1】

疑似連ポイント演出B



【図 9 2】

獲得球数表示演出

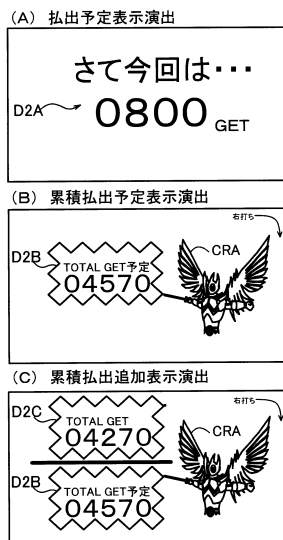


10

20

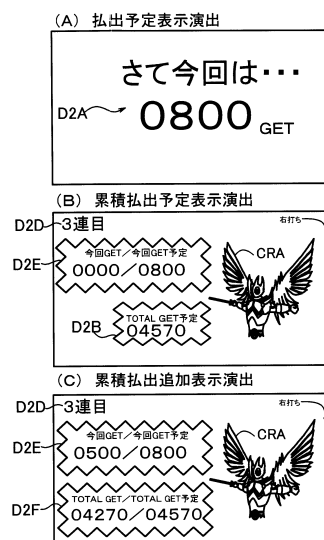
【図 9 3】

払出表示演出A



【図 9 4】

払出表示演出B



30

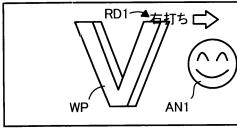
40

50

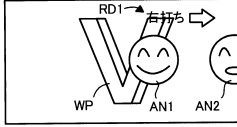
【図 9 5】

入賞画像・キャラクタ画像重畳演出A

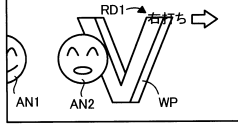
(A) 入賞画像表示



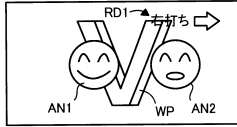
(B) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



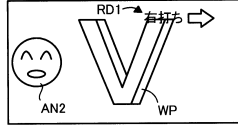
(D) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



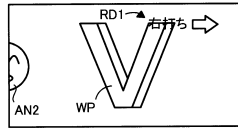
(C) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



(E) 入賞画像・キャラクタ画像非重畳



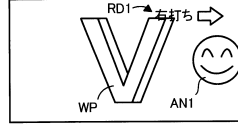
(F) キャラクタ画像フレームアウト演出



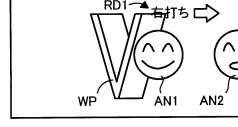
【図 9 6】

入賞画像・キャラクタ画像重畳演出B

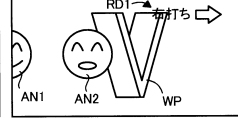
(A) 入賞画像表示



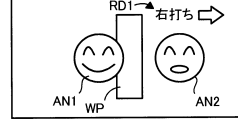
(B) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



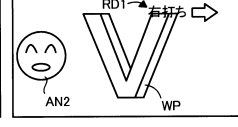
(D) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



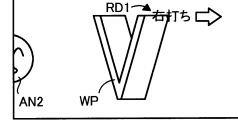
(C) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



(E) 入賞画像・キャラクタ画像非重畳



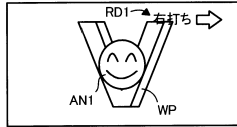
(F) キャラクタ画像フレームアウト演出



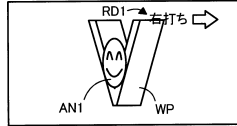
【図 9 7】

入賞画像・キャラクタ画像重畳演出C

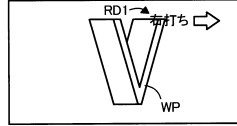
(A) 入賞画像表示



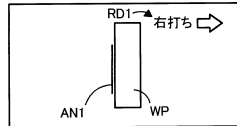
(B) 入賞画像・キャラクタ画像重畳表示



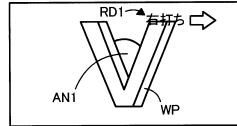
(D) 入賞画像・キャラクタ画像非重畳



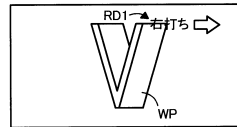
(C) 入賞画像・キャラクタ画像非重畳



(E) 入賞画像・キャラクタ画像非重畳



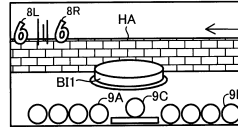
(F) 入賞画像・キャラクタ画像非重畳



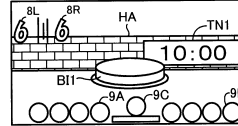
【図 9 8】

タイマ画像移動演出A

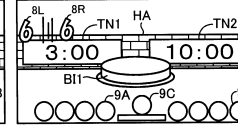
(A) ボタン画像表示



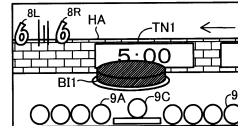
(B) 第1タイマ画像表示



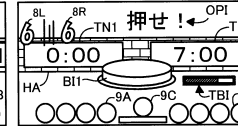
(D) 第2タイマ画像表示演出



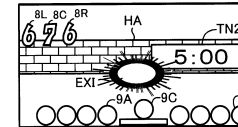
(C) タイマ画像移動演出



(E) ボタン操作促進演出



(F) ボタン画像爆発演出



10

20

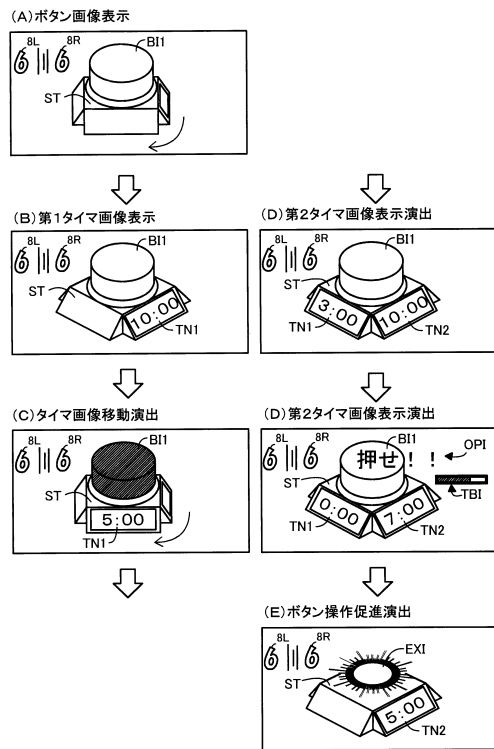
30

40

50

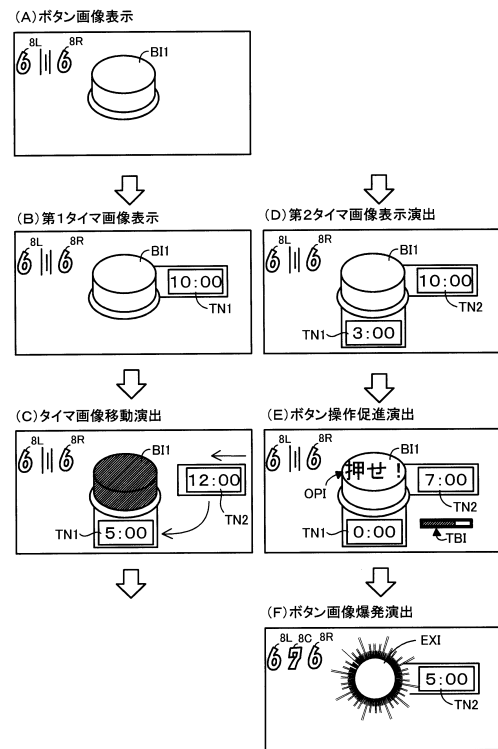
【図 99】

タイマ画像移動演出B



【図 100】

タイマ画像移動演出C

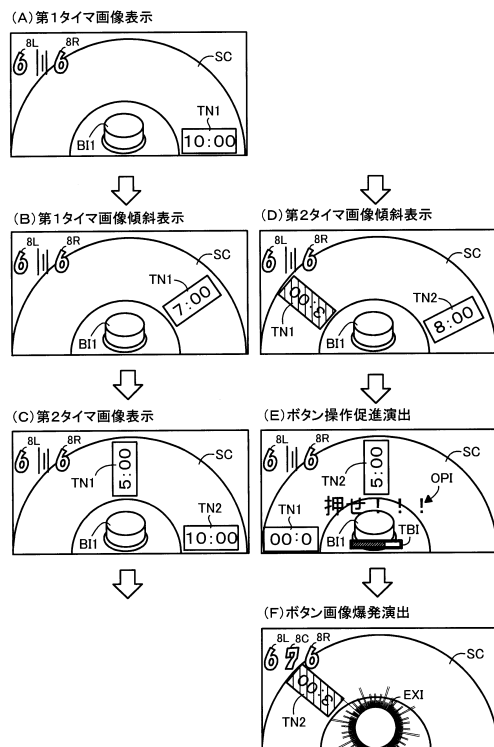


10

20

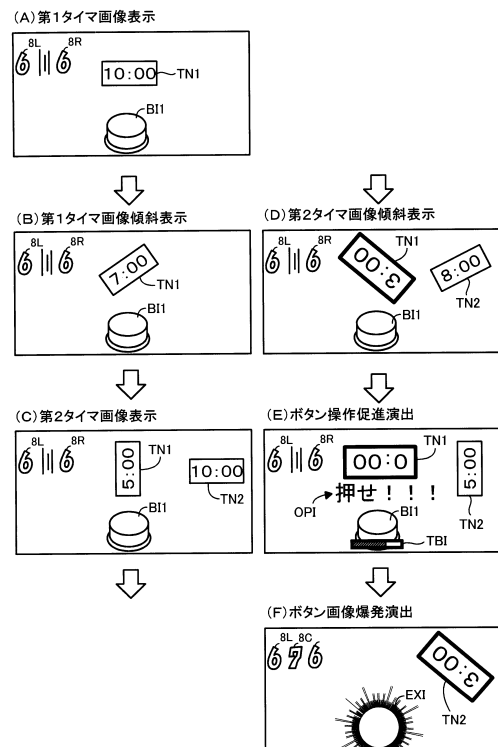
【図 101】

タイマ画像傾斜表示演出A



【図 102】

タイマ画像傾斜表示演出B



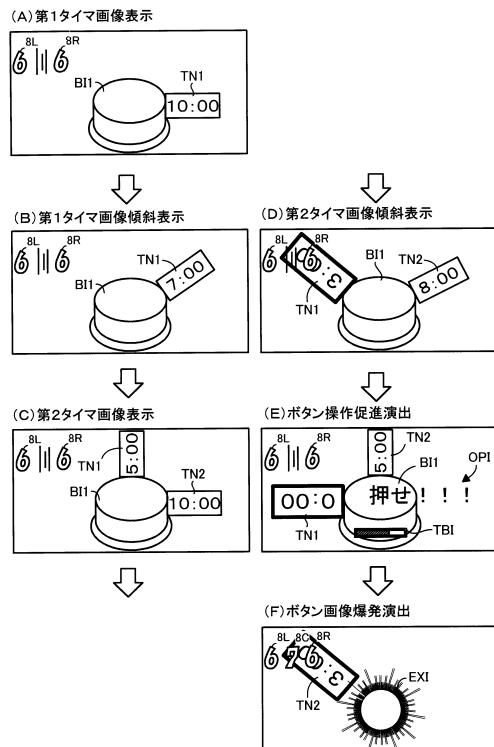
30

40

50

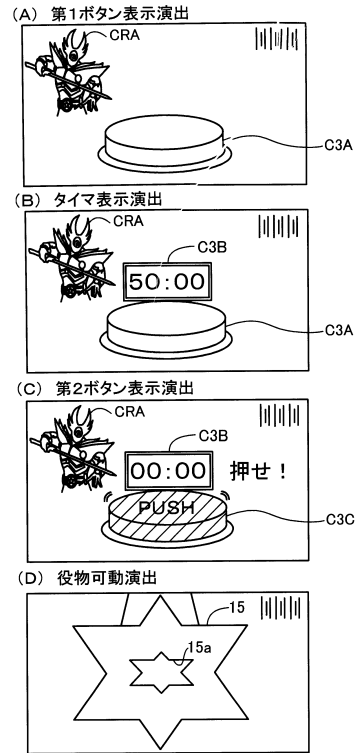
【図 103】

タイマ画像傾斜表示演出C



【図 104】

タイマボタン演出A

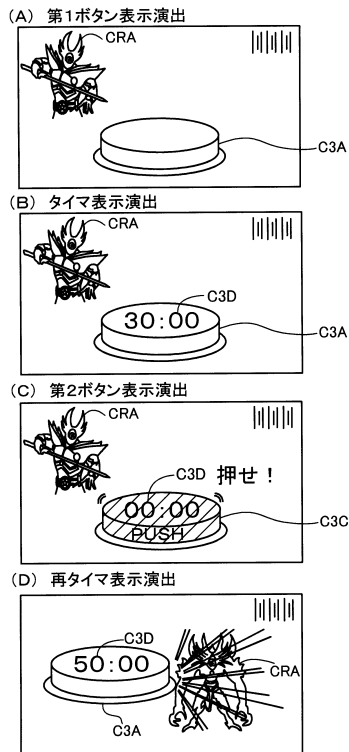


10

20

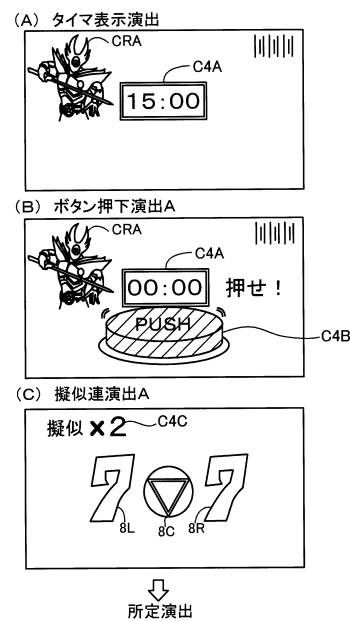
【図 105】

タイマボタン演出B



【図 106】

タイマ擬似連演出A

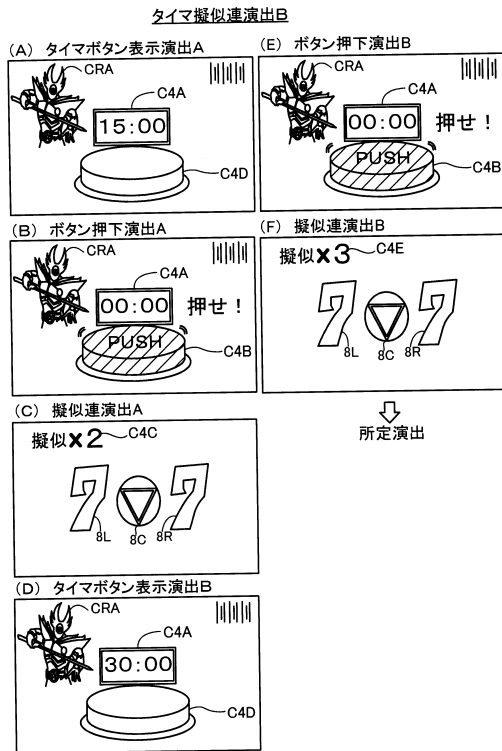


30

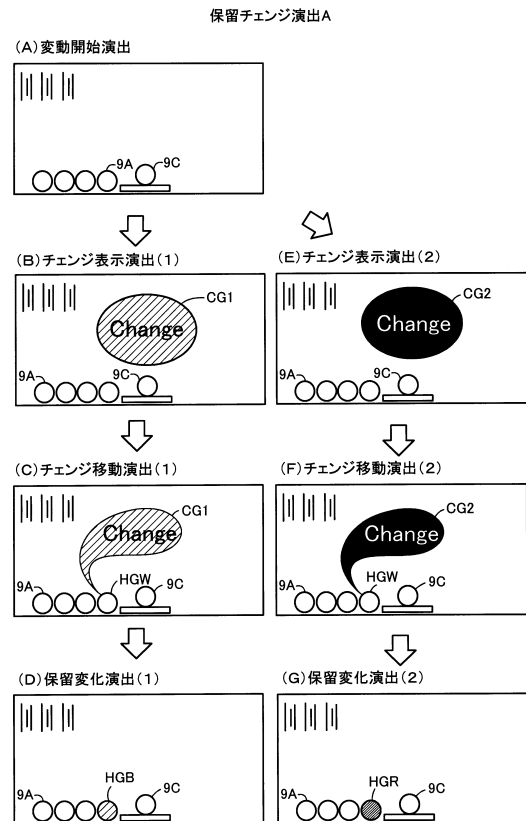
40

50

【図 107】



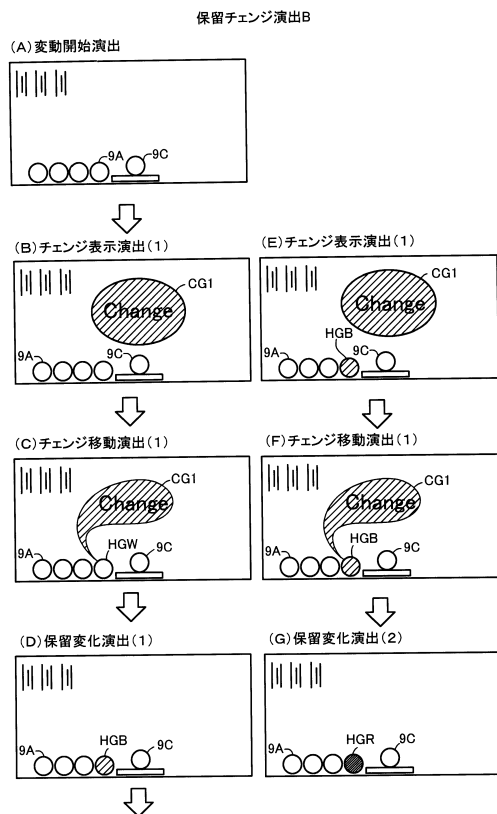
【図 108】



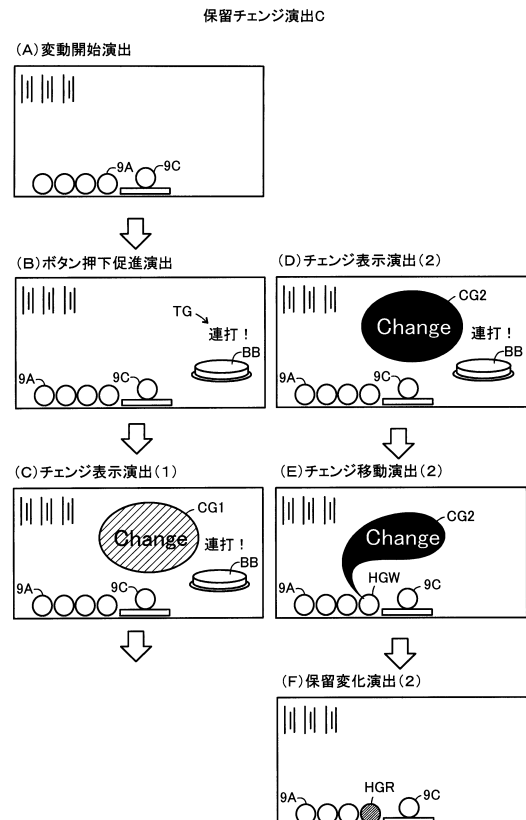
10

20

【図 109】



【図 110】



30

40

50

フロントページの続き

- 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
(72)発明者 牧 智宣
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
(72)発明者 柏木 浩志
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
(72)発明者 梶野 浩司
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
審査官 後藤 孝平
(56)参考文献 特開 2 0 1 0 - 0 2 2 5 4 4 (J P , A)
特開 2 0 0 9 - 0 3 4 3 4 0 (J P , A)
特開 2 0 1 6 - 0 6 3 9 7 2 (J P , A)
特開 2 0 1 3 - 1 5 8 5 5 0 (J P , A)
特開 2 0 1 4 - 1 9 8 2 1 9 (J P , A)
(58)調査した分野 (Int.Cl., D B 名)
A 6 3 F 7 / 0 2